

# *ES/1 NEO*

*MFシリーズ*

SHELL 言語 文法解説書



株式会社 アイ・アイ・エム

第39版 2025年2月

©版権所有者 株式会社 アイ・アイ・エム 2025年

© COPYRIGHT IIM CORPORATION, 2025.

ALL RIGHT RESERVED. NO PART OF THIS PUBLICATION MAY  
REPRODUCED OR TRANSMITTED IN ANY FORM BY ANY MEANS,  
ELECTRONIC OR MECHANICAL, INCLUDING PHOTOCOPY RECORDING,  
OR ANY INFORMATION STORAGE AND RETRIEVAL SYSTEM WITHOUT  
PERMISSION IN WRITING FROM THE PUBLISHER.

“RESTRICTED MATERIAL OF IIM “LICENSED MATERIALS – PROPERTY OF IIM

# 目次

---

第1章 SHELL 言語 文法解説書 .....	1
1.1 CPESHELL 言語文法規約 .....	1
1.1.1. CPESHELL のプログラム構造 .....	2
1.1.2. プログラムのコーディング法 .....	2
注釈文 .....	2
コンパイラ文 .....	2
実行文 .....	2
1.1.3. プログラムの構造 .....	3
1.1.4. データと記述法 .....	3
1.1.5. 式と記述法 .....	5
数値式 .....	5
文字列式 .....	5
関係式 .....	6
論理式 .....	7
1.2 関数 .....	8
1.3 CPESHELL の基本文 .....	14
APART文 .....	15
CASE文 .....	15
CHAIN文 .....	16
COMPUTE文 .....	16
CONT(INUE)文 .....	17
DIM(ENSION)文 .....	17
DO文 .....	18
ELSE文 .....	19
END文 .....	19
ENDIF文 .....	20
ENDSEL文 .....	20
ENTRY文 .....	21
ERROR文 .....	22
FOR文 .....	23
GOSUB文(CALL文) .....	24
GOTO文 .....	26
GROUPSET文 .....	26
IF文 .....	27
KANJI文 .....	28
LABELPOL文 .....	29
LET文 .....	29
LOOKUP文 .....	30

MEANS文	31
NEXT文	32
NOP文	32
ON GOSUB文	33
ON GOTO文	34
REG文	35
RETURN文	36
SEARCH文	37
SELECT文	38
SORT文	39
STOP文	40
SWAP文	40
SYMLINK文	41
TEXTPOOL文	42
THEN文	43
VALUESET文	44
WEND文	45
WEXIT文	45
WHILE文	46
1.4 プリントファイルに関する文	47
ADJAXIS文	48
CLEAR文	49
&CR関数	50
&DBCS関数	52
ERASE文	53
HARDCPY文	53
HEADER文	54
&HEADER関数	55
&LINE関数	55
&NEWLINE関数	56
PLOT文	58
PRINT文	59
&FORM関数	60
PRINT LOCATE文	61
PRINT USING文	62
SCREEN文	64
&STRING関数	65
&SWITCH関数	66
TITLE文	67
&TITLE関数	68
1.5 拡張入出力文	69
ALLOC文	70

CARDGET文	71
CLOSE文	73
GETN文	74
MAGIC文	75
MASK文	76
MPUT文	78
OPEN文	79
PUT文	81
PUT USING文	82
RMF文	83
1.6 コンパイラ文	84
LIST文	85
NOLIST文	85
SKIP文	86
第2章 シンボル・リファレンス	87
2.1 添付資料シンボル・リファレンス	87
2.2 稼働実績データ	88
レコードタイプ4(ジョブステップ終了)	90
レコードタイプ5(ジョブ終了)	91
レコードタイプ13(データセット情報)	92
レコードタイプ14(データセット情報)	93
レコードタイプ15(データセット情報)	94
レコードタイプ30(ジョブ統計情報)	95
レコードタイプ34(TSO/TSS終了)	97
レコードタイプ35(TSO/TSS終了)	98
レコードタイプ41(VLF統計情報)	99
レコードタイプ50-1(ネットワーク情報)	100
レコードタイプ50-2(ネットワーク情報)	101
レコードタイプ64(VSAMデータセット情報)	102
レコードタイプ94(VTS情報)	104
レコードタイプ118-20、21(TN3270サーバ情報の開始／終了)	107
レコードタイプ118-74(FTP情報)	108
レコードタイプ119-6(TCP/IP情報)	109
レコードタイプ123(終了時課金付加レコード)	110
レコードタイプ194(TS7700情報)	111
レコードタイプ任意(VSM情報)	115
2.3 富士通FSP/XSPシステムの稼働実績データ	119
XSPDUMP文	119
レコードタイプ50(ジョブステップ終了)	121
レコードタイプ51(ジョブ終了)	122
レコードタイプ52(ファイル情報)	123
レコードタイプ120(AIF終了)	125

2.4 パフォーマンス・データ .....	126
イベント・ドリブン技法 .....	126
タイマ・ドリブン技法 .....	126
レコードタイプ70-1(プロセッサ情報) .....	129
レコードタイプ70-2(暗号ハードウェア情報) .....	134
レコードタイプ71(ページング情報) .....	135
レコードタイプ72-1(業務情報) .....	141
レコードタイプ72-3(ゴールモードの業務情報) .....	143
レコードタイプ73-1(チャネル使用状況) .....	149
レコードタイプ73-2(チャネル・パス構成情報) .....	150
レコードタイプ74-1(入出力装置の使用状況) .....	151
レコードタイプ74-2(XCFの使用状況) .....	154
レコードタイプ74-4(結合機構の使用状況) .....	156
レコードタイプ74-5(キャッシュ情報) .....	159
レコードタイプ74-6(HFS情報) .....	160
レコードタイプ74-8(ESS統計情報レコード) .....	161
レコードタイプ75(ページング・データセット状況) .....	163
レコードタイプ78-1(チャネル・パス構成情報) .....	164
レコードタイプ78-2(仮想記憶の使用状況) .....	165
レコードタイプ78-3(チャネル・パス構成情報) .....	167
レコードタイプ78-53(HyperPAV/SuperPAV 情報) .....	168
2.5 富士通システム固有情報 .....	169
レコードタイプ198-1(AIMメッセージ処理状況) .....	171
レコードタイプ198-2(AIMエクステント排他状況) .....	172
レコードタイプ198-3(AIM DTPF状況) .....	173
レコードタイプ198-4(AIM DTPF詳細状況) .....	174
レコードタイプ198-5(AIM DTPFメッセージ送信処理状況) .....	175
レコードタイプ198-6(DCMSバッファごとの使用状況) .....	176
レコードタイプ198-7(HLFバッファの個別情報) .....	177
レコードタイプ198-10(DASDキャッシュ状況) .....	178
レコードタイプ198-11(キャッシュ性能情報) .....	179
レコードタイプ198-12(RANK性能情報) .....	180
レコードタイプ198-13(DM性能情報) .....	181
レコードタイプ198-20(AVM状況1) .....	182
レコードタイプ198-21(AVM状況2) .....	183
レコードタイプ198-22(AVM状況3) .....	184
レコードタイプ198-23(AVM状況(物理チャネル情報)) .....	185
レコードタイプ198-24(AVM状況(論理チャネル情報)) .....	186
レコードタイプ198-30(SSU情報) .....	187
レコードタイプ198-40(仮想記憶域の最大容量) .....	188
レコードタイプ198-41(仮想記憶最大割当量情報) .....	189
レコードタイプ198-50(VTAM-Gバッファ情報) .....	190

レコードタイプ198-60(拡張物理チャネル情報) .....	191
レコードタイプ198-70(仮想記憶情報) .....	192
レコードタイプ198-71(外部記憶情報) .....	193
レコードタイプ198-72(AIM DCMSバッファ毎の詳細情報) .....	194
レコードタイプ198-73(VTAM-Gバッファ利用状況) .....	195
レコードタイプ198-80(JES バッファ情報) .....	196
レコードタイプ198-81(JQE/JOE 情報) .....	197
レコードタイプ198-82(スプール情報) .....	198
レコードタイプ199(AIMシステム稼働状況) .....	199
<b>2.6 日本電気ACOS-4 .....</b>	<b>200</b>
SMFレコードの共通部 .....	200
アカウンティング情報 .....	201
レコードタイプ196-12(ジョブ実行情報) .....	202
レコードタイプ196-13(ジョブステップ実行情報) .....	203
レコードタイプ196-30(ATSSセッション課金情報) .....	204
レコードタイプ196-140(ファイル使用状況) .....	206
レコードタイプ196-143(VSASファイル使用状況) .....	207
モニタリング情報 .....	208
日付と時刻の特殊処理 .....	209
レコードタイプ196-51(VISジョブ情報) .....	210
レコードタイプ196-52(VIS業務情報) .....	211
レコードタイプ196-59(VISデータ通信情報) .....	212
レコードタイプ196-110(CPU使用状況) .....	213
レコードタイプ196-111(ディスク使用状況) .....	214
レコードタイプ196-121(ジョブスケジューリング状況) .....	215
レコードタイプ196-122／123(VMM使用状況) .....	216
レコードタイプ196-171(DRM概要状況) .....	217
レコードタイプ196-172(DRMスワッピング情報) .....	218
レコードタイプ196-173(DRM応答時間管理情報) .....	219
レコードタイプ196-174(DRMスループット管理情報) .....	220
レコードタイプ196-186(NPS情報) .....	221
<b>2.7 日立SAR／D .....</b>	<b>222</b>
レコードタイプ197-1(プロセッサ情報) .....	223
レコードタイプ197-2(プロセッサ情報) .....	224
レコードタイプ197-3(主記憶情報) .....	225
レコードタイプ197-4(ページング情報) .....	226
レコードタイプ197-5(ページング情報) .....	227
レコードタイプ197-6(仮想記憶域情報) .....	228
レコードタイプ197-7(ドメイン情報) .....	229
レコードタイプ197-8(チャネル情報) .....	230
レコードタイプ197-9(入出力装置情報) .....	231
レコードタイプ197-10(サマリーデータ) .....	232

レコードタイプ197-13(TPROXおよびLPROC情報) .....	234
レコードタイプ197-14(TPROCおよびLPROC情報) .....	235
レコードタイプ197-18(CPM情報) .....	236
レコードタイプ197-19(記憶プール情報) .....	237
レコードタイプ197-20(外部記憶情報) .....	238
レコードタイプ197-21(スワップ情報) .....	239

# 第1章 SHELL 言語 文法解説書

## 1.1 CPESHELL 言語文法規約

ES/1 NEOで提供されるCPESHELLプログラムは、ES/1 NEOプロセジヤ群が使用するパフォーマンス評価のためのSHELLプラットフォーム(言語環境)を提供しています。このSHELLプラットフォームでは、FORTRANやBASICに似た言語環境を使用することができます。しかし、その処理速度を向上させるため、パフォーマンス評価に不必要と考えられる機能はサポートされておりません。また、パフォーマンス評価が容易に行えるように、SORT文やソフトウェアモニタの出力データを効果的に読み込むための特殊な文(命令)が追加されています。

ここではSHELLプラットフォームにおける言語規約などについて説明します。

### 1.1.1. CPESHELL のプログラム構造

CPESHELLは、インターパリタです。このため、ソース・プログラムをCPESHELLに入力すると、1ジョブステップでコンパイルとプログラムの実行を行います。但し、会話形の言語プロセッサではないため、プログラムの実行を中断／再開する機能は持っていません。

ソース・プログラムのコンパイル段階では、各ソース・ステートメントの編集を行い、文法上のエラーが検出されなければ、内部テキストの形式に変換します。この際に実施される文法チェックは一般的なものであり、その全てをチェックしてはおりません。プログラム実行段階の制御を簡単にするため、内部テキスト作成時に実行文のオプティマイズ(最適化)なども行います。また、プログラムのデバッブを容易にするための、各種クロス・リファレンス・リストも出力します。

コンパイルが正常に終了しますと、内部テキストを基にプログラムの実行を開始します。この実行段階では、内部テキストに対応した実行ルーチンに制御が渡されます。この際の、1つの内部テキストがソース・プログラムの一つの実行文に対応しているとは限りません。

プログラムが使用する変数の作業域は、プログラムが最初にその変数を使用した時に割り当てられます。このため、プログラムに記述されても実行中に使用されなかった変数の作業域は確保されません。

### 1.1.2. プログラムのコーディング法

CPESHELLのソース・プログラムには、注釈文とコンパイラ文および実行文の3種類のステートメントをコーディングすることができます。これらのステートメントにおける継続行は許されていませんのでご注意下さい。

#### 注釈文

注釈文はプログラムの解読を容易にするためのコメントを付加するためのステートメントであり、ソース・プログラム・リストに出力されるだけで、内部テキストには変換されません。この注釈文は、第1カラムに\*(星印:アスタリスク)が記述されていなければなりません。ソース・ステートメントの残りカラム(79カラム)は、全て自由な形式で記述できます。

#### コンパイラ文

コンパイラ文は、CPESHELLのコンパイル機能に特殊な指示を与える指令文です。その指令内容は、オペレーションとして定義されております。コンパイラ文を記述する際には、第2カラム以降にコンパイラ指令語(オペレーション)をコーディングして下さい。但し、コンパイラ指令語の前に、スペース以外の文字はコーディングできません。

#### 実行文

実行文はCPESHELLのプログラム指令です。このステートメントはラベルとオペレーションおよびオペランドにより構成されます。ラベルは、プログラム内における分岐処理を行う際の分岐先を指示するためのシンボルです。(ラベル指定を乱用しますと実行時の処理速度が遅くなります。)オペレーションは、使用するCPESHELLの機能を指示します。また、オペランドはオペレーションで指示された機能に、その動作の詳細を指示します。

実行文の記述では、ラベル、オペレーション、オペランドの順にコーディングします。ラベルとオペレーションやオペレーションとオペランドの間には、1つもしくは1つ以上のスペースで区別されるようにコーディングされなければなりません。もし、ラベルを省略する場合には、第2カラム以降にオペレーションをコーディングしてください。また、ラベルとオペレーションを省略する場合には、オペランドを第2カラム以降にコーディングしてください。尚、オペレーションが省略された場合、LET文(四則演算処理)が指定されたものと見なします。

ラベルを指定する場合、1から8桁の英数字で指定して下さい。ラベルの定義で、特殊文字を使用することはできません。オペレーションを指定する場合は、SHELLプラットフォームの実行文として認められたオペレーションを記述して下さい。規定された実行文以外のオペレーションを記述することはできません。

### 1.1.3. プログラムの構造

CPESHELLでは、SHELLプラットフォーム言語を利用してコーディングされた巨大プログラムをサポートするために、CHAIN文が用意されています。このCHAIN文は一つのプログラムを分割し、複数のプログラムとして取り扱うことを可能にしています。

CPESHELLがソース・プログラムのコンパイルを行う際、CHAIN文を検出すると、そこまでを一つのプログラムとしてコンパイルします。そのコンパイルが終了すると、CHAIN文の次からコンパイルを継続します。この処理をEND文が現れるまで繰り返し行います。

プログラムを実行する際には、コンパイルを行った単位にプログラム(内部テキスト)を主記憶に読み込み、実行を開始します。読み込まれたプログラムがCHAIN文を実行すると、そのプログラムの実行が完了したものと見なし、次のプログラム(内部テキスト)を読み込みます。但し、この際、前のプログラムが使用していた変数の作業域はそのままの状態で、次のプログラムの実行が開始されます。つまり、全ての変数の値は次のプログラムに引き渡されます。

このCHAIN文によるプログラム分割機能を利用することにより、巨大プログラムの内部テキストを主記憶に読み込むための領域を節約することができます。このため、より多くの仮想記憶域を変数の作業域として使用することができます。又、プログラムを分割することが可能になることにより、ラベルの定義なども非常に容易になります。

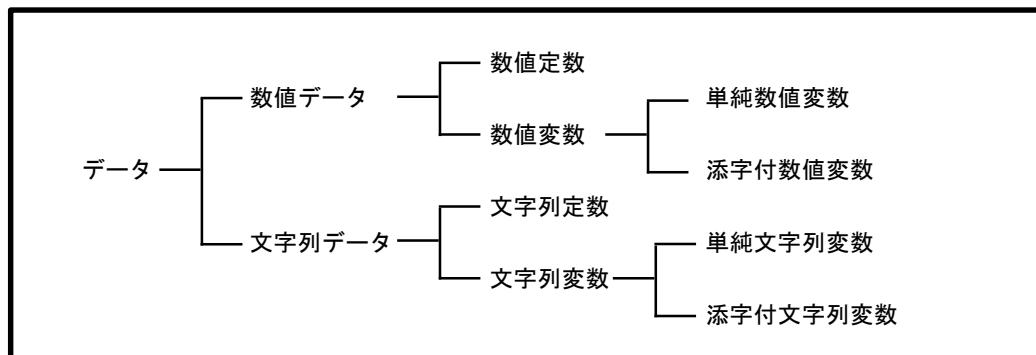
### 1.1.4. データと記述法

データとは、プログラムでの処理の対象となる数値や文字列のことです。CPESHELLが取り扱うデータは定数と変数に大別されます。定数は記述された文字列がそのままデータの値を示し、プログラム実行中にその値が変わることはありません。一方、変数は固有な変数名をもち、プログラム内で任意の値がセットされます。

変数には、単純変数と添字付変数の2種類があります。単純変数は、変数名1つに対して1つの作業域が割り当てられます。一方、添字付変数には複数の作業域が割り当てられます。CPESHELLでは、添字付変数に割り当てられる作業域のことを配列と呼びます。また、配列を構成する個々のデータを配列要素と呼びます。CPESHELLでは、一次元の配列のみをサポートします。

変数を指定する場合、その名前は1から8桁の文字で指定します。また、最初の文字は英字でなければなりません。2桁目以降の文字は英数字と特殊文字(パーセント「%」)を利用することができます。また、読み専用の変数を指定する場合に限り、下線「\_」を利用することができます。

図1 データの種類



変数の作業域は、その変数が最初に使用されたときに確保されます。また、変数の作業域は、その変数にデータが何も記憶されていない状態に初期化されます。最初に変数で使用する際、データをセットするのであれば、変数作業域の初期値はプログラムの実行に何ら関係を持ちません。しかし、最初にデータをセットせずに変数を使用すると、変数作業域の初期値をプログラムで使用することになります。

CPESHELLでは、変数が何のデータも記憶していない状態(変数作業域の初期値)を「変数が欠損値を記憶している」と呼びます。この欠損値は数値でも文字でもありません。このため、四則演算などで欠損値を記憶した変数を取り扱う際には充分注意して下さい。

最初に変数を使用するときにデータをセットするのであれば、以降その変数が欠損値を返すことはありません。しかし、プログラムのロジック上どうしても変数の初期化(欠損値の記憶)を行いたい場合のために、読み専用シンボル「\_NULL\_」が用意されています。この「\_NULL\_」は、欠損値を記憶したシンボルです。

表2 定数や変数の記述法

	記述法
数値定数	数値定数の表現方法は、± 整数部. 小数部です。“+”符号や整数部および小数部は省略できます。記述可能な最大文字数（符号や小数点を含む）は、16 文字です。 〔例〕 4 2 4 2. 1 9 5 - 4 2. 1 9 5
文字列定数	文字列定数は、引用符（クオーテーション）で区切られた、最大 15 文字までの文字列で表現します。文字列定数の中にスペースコードを検出した場合、その文字以降の指定が無視されますので注意してください。 〔例〕 ' T E S T - D A T A ' ' A '
単純変数	8 文字までの文字列で変数名を指定します。指定された変数が数値変数か文字列変数かの判定は、C P E S H E L L が自動的に行います。また、& T Y P E 関数で変数が記憶するデータの種類を調べることもできます。 〔例〕 I T E S T
添字付変数	8 文字までの文字列で配列を定義した定数名と、配列要素位置を示す添字式を指定します。指定された配列要素が、数値変数か文字列変数かの判定は、C P E S H E L L が自動的に行います。また、& T Y P E 関数で変数が記憶するデータの種類を調べることもできます。 〔例〕 D A T A (1 0) D I M (I * 1 0 - 4) T E S T ((I - 1) * 4 + J)

### 1.1.5. 式と記述法

式とは、定数や変数および関数を演算子や括弧などで接続したものです。CPESHELLで取り扱う式には、数値式、文字列式や関係式および論理式の4種類があります。

## 数值式

数値式とは、数値データや数値組み込み関数および数値定義関数そのものか、それらを算術演算子や括弧で結んだ式です。算術演算子は“+”が加算、“-”が減算、“\*”が乗算、また“/”が除算、“^”がべき乗を指示します。また、数値式の演算優先順位は次のようにになっています。

- ①関数の値の計算
  - ②括弧の中の計算
  - ③べき乗の計算
  - ④乗除算の計算
  - ⑤加減算の計算

もし、優先順位が同じ演算がある場合には、左から計算します。尚、演算中に数値データの範囲を超えた場合には、オーバフローもしくはアンダーフローした部分の値が無視されます。

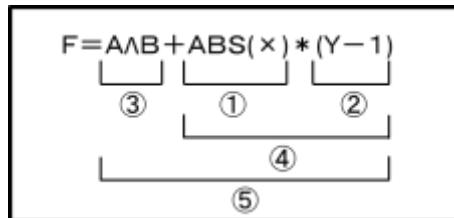


図 3 数値式の計算順序

欠損値を記憶した変数が四則演算中に現れた場合、その四則演算は次のように処理されます。

- ①べき乗の計算  
  いずれの変数に欠損値が現れても、結果は欠損値となります。
  - ②乗算の計算  
  いずれの変数に欠損値が現れても、結果は欠損値となります。
  - ③除算の計算  
  被除数が欠損値であれば、結果は欠損値となります。  
  除数がゼロもしくは欠損値であれば、結果はゼロとなります。
  - ④加算の計算  
  両方の変数が欠損値であれば、結果は欠損値となります。  
  いずれかの変数が欠損値であれば、その変数をゼロとして加算します。
  - ⑤減算の計算  
  両方の変数が欠損値であれば、結果は欠損値となります。  
  いずれかの変数が欠損値であれば、その変数をゼロとして減算します。

## 文字列式

文字列式とは、文字列データや文字列組み込み関数および文字列定義関数そのものか、それらを算術演算子や括弧で結んだ式です。算術演算子は“+”が加算を指示します。文字列式では加算以外の算術演算子は許されておりませんのでご注意ください。文字列の加算が指示された場合、二つの文字列データを結合します。結合された文字列が15文字を越える場合、16桁目以降の右端の文字群は切り捨てられます。また文字列の加算で欠損値が検出されると、その変数には文字列が記憶されていないものとして処理します。

文字列式においても、括弧で演算優先順位を指定することができます。このような場合、括弧内の演算を優先して実行します。

## 関係式

関係式とは、2つの数値式や2つの文字列定数や文字列変数を関係演算子で接続したものです。関係式は、演算結果として、真または偽の値を持ちます。式中で使用できる関係演算子には、次のものがあります。

>	より大きい
<	より小さい
=	等しい
=>, >=, ≠<, <≠	より大きいか等しい
=<, <=, ≠>, >≠	より小さいか等しい
<>, ><, ≠=, =≠	等しくない

数値式の場合の大小判断は、数学的な意味での大小判定に従います。文字列の大小判定は、文字列の左から順に一文字ずつ比較を行い、異なる文字が現れたとき、その大小関係を文字列の大小関係とします。文字の大小関係はEBCDICコードの大小と同じです。(但し、比較は15文字の範囲で行います。) 文字列の比較を行う場合、一方のデータにスペースコードがあれば、そのスペースコードとそれ以降の文字列が無いものとして比較されます。

関係式の中で比較制御文字を持つ変数を使用すると、特定の桁の比較を阻止することができます。この比較制御文字の作成は&MASK関数で行います。&MASK関数で比較制御文字を作成する場合には、次の点に留意して下さい。

- 文字“?”を指定すると、その桁は比較しません。
- 文字“\*”を指定すると、その桁以降は比較しません。
- 文字“+”を指定すると、その桁が数字(0～9)であるかを検査します。
- 文字“／”を指定すると、その桁が文字(A～Z)であるかを検査します。
- 他の文字を指定すると、その桁の比較を行います。但し、文字“\*”以降に指定された文字群は全て無視します。

関係式のなかで、欠損値が検出された場合、比較対象の変数の特性によって取扱いが異なります。例えば、数値との比較であれば、欠損値はいかにもゼロであるかのように取り扱われます。一方、文字列との比較であれば、文字数がゼロの文字列であるかのように取り扱われます。

1 0 + 5 > - 5	真
1 0 - 5 < 5	偽
' X Y Z' = ' X Y X'	偽
' X Y Z' = ' X Y Z'	偽
' X Y Z' > ' X Y A'	真
' X Y Z' = ' X X Y Z'	真

図 4 数値式と文字列式の関係式

## 論理式

論理式とは、関係式そのものか、関係式を論理演算子や括弧で連結したものです。

論理演算子には、論理積(AND)と論理和(OR)の2種類があり、演算結果は真と偽の値となります。論理積と論理和は、次の方法で求められます。

論理積	論理和																				
<table border="1" style="border-collapse: collapse; width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="padding: 2px;">条件</th> <th style="padding: 2px;">結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="padding: 2px;">真 AND 真</td> <td style="padding: 2px;">真</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">真 AND 偽</td> <td style="padding: 2px;">偽</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">偽 AND 真</td> <td style="padding: 2px;">偽</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">偽 AND 偽</td> <td style="padding: 2px;">偽</td> </tr> </tbody> </table>	条件	結果	真 AND 真	真	真 AND 偽	偽	偽 AND 真	偽	偽 AND 偽	偽	<table border="1" style="border-collapse: collapse; width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="padding: 2px;">条件</th> <th style="padding: 2px;">結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="padding: 2px;">真 OR 真</td> <td style="padding: 2px;">真</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">真 OR 偽</td> <td style="padding: 2px;">真</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">偽 OR 真</td> <td style="padding: 2px;">真</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">偽 OR 偽</td> <td style="padding: 2px;">偽</td> </tr> </tbody> </table>	条件	結果	真 OR 真	真	真 OR 偽	真	偽 OR 真	真	偽 OR 偽	偽
条件	結果																				
真 AND 真	真																				
真 AND 偽	偽																				
偽 AND 真	偽																				
偽 AND 偽	偽																				
条件	結果																				
真 OR 真	真																				
真 OR 偽	真																				
偽 OR 真	真																				
偽 OR 偽	偽																				

論理式の値を評価する時の優先順位は、次のようになっています。

- ①括弧内の評価
- ②AND条件の評価
- ③OR条件の評価

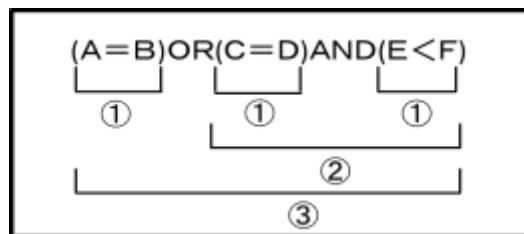


図 5 論理式の計算順序

## 1. 2 関数

---

CPESHELLには、表6に示すような関数が用意されています。また、算術関数ではありませんが、PRINT文の制御のための特殊な関数が準備されています。これらも表6に一覧します。

表6組み込み関数

関数の形式	説明／使用例
&A B S	xの絶対値(ABSolute)を求める。 a=&A B S (-1) aは1となる。 実行前に制御スイッチ\$NULLCVFに1がセットされている場合を除き、欠損値を入力にした場合の戻り値は0になる。
&B A S E※	S Y M L I N K文と関連して使用する。 詳細は、S Y M L I N K文の説明を参照のこと。
&B I T n (x)	数値(x)をB I N A R Yデータとみなし、数値(x)の最後の1バイトのビット位置nの値を求める。 a=&B I T 6 (3330) aは1となる。(3330=B'0000 1101 0000 0010') 注) nは0から7までの値を指定する。 欠損値を入力にした場合の戻り値は0になる。
&C E N T U R Y (x)	日付(cyyddd)より、1900年1月1日よりの日数を求める。 a=&C E N T U R Y (87142) aは31918となる。 欠損値を入力にした場合の戻り値は0になる。
&C L K (x)※	一日の通算秒数を(hhmmss)へ変換する。 a=&C L K (172799) aは475959となる。 欠損値を入力にした場合の戻り値は0になる。
&C L O C K (x)	一日の通算秒数を時刻形式(dhmmss)の数値に変換する。 a=&C L O C K (172799) aは1235959となる。(1日23時59分59秒) 欠損値を入力にした場合の戻り値は0になる。
&C R	P R I N T文の制御に使用しており、関数ではない。 詳細は、P R I N T文の説明を参照のこと。
&C O S (x)※	弧度法のラジアン値(x)の余弦値(COSine)を求める。 a=&C O S (PI) aは-1となる。 注) 度数法で余弦値を求めるには、次のようにして下さい。 a=&C O S (45*PI/180) aは45度の余弦値となる。 欠損値を入力にした場合の戻り値は1になる。
&D A Y (x)	日付(cyyddd)より、日を求める。 a=&D A Y (87142) aは22となる。(87142は5月22日です。) 欠損値を入力にした場合の戻り値は0になる。
&D B C S※	P R I N T文の制御に使用しており、関数ではない。 詳細は、P R I N T文の説明を参照のこと。
&D E C (x)	16進の文字列変数を数値変数(10進)に変換する。 a=&D E C ('A') aは10となる。
&D M Y (x)	日付(cyyddd)を文字形式の日付(cddmmmyy)へ変換する。 a=&D M Y (87142) aは'22MAY87'となる。 mmm部は、JAN, FEB, ?, DECとなる。
&E X P (x)	xの指数関数(EXPonential)を求める。 a=&E X P (1) aは2.7182……となる。 欠損値を入力にした場合の戻り値は1になる。
&F A C T (x)	xの階乗計算を行う。xには0~16までの整数が指定可能。 a=&F A C T (5) aは120となる。 欠損値を入力にした場合の戻り値は1になる。
&F O R M※	P R I N T文の制御に使用しており、関数ではない。 詳細は、P R I N T文の説明を参照のこと。
&F R A C (x)	xの小数部(FRACTION)を求める。 a=&F R A C (1.23) aは0.23となる。 実行前に制御スイッチ\$NULLCVFに1がセットされている場合を除き、欠損値を入力にした場合の戻り値は0になる
&H E A D E R	P R I N T文の制御に使用しており、関数ではない。 詳細は、P R I N T文の説明を参照のこと。
&G R E G O R I A N(X)	日付(cyyddd)を日付(cyyymmdd)へ変換する。 a=&G R E G O R I A N (87142) aは870522となる。 欠損値を入力にした場合の戻り値は100になる。
&H E X . n (x)	数値を文字形式の16進数へ変換する。nで16進数の桁数を指定する。(nは1から8までを指定する) a=&H E X . 2 (100) aは'64'となる。 欠損値を入力にした場合の戻り値は0になる。

関数の形式	説明／使用例
&HHMM (x) &HM (x)	時刻 (ssss) を文字形式の時刻 (hh:mm) へ変換する。 a=&HHMM (62065) aは'17:14'となる。
&HHMMS S (x) &HMS (x)	時刻 (ssss) を文字形式の時刻 (hh:mm:ss) へ変換する。 a=&HHMMS S (62065) aは'17:14:25'となる。 99時間以上の場合は、HHHH : MM 形式となる。
&HHMMS T T (x) &HMST (x)	時刻 (ssss) を文字形式の時刻 (hh:mm:ss:tt) へ変換する。 a=&HHMMS T T (62065.5) aは'17:14:25.50'となる。 99時間以上の場合は、HHHH : MM : SS 形式となる。
&HIM (x) ※	この関数の仕様は公開しません。
&HMST 4 (x) ※	時刻 (ssss.t...) を文字形式の時刻 (hh:mm:ss:ttt) へ変換する。
&HMST 5 (x) ※	時刻 (ssss.t...) を文字形式の時刻 (hh:mm:ss:tttt) へ変換する。
&HOUR (x)	時刻 (ssss) を文字形式の時刻 (hh) へ変換する。 a=&HOUR (62065.5) aは'17'となる。
&INT (x)	xの整数部 (INTEGER) を求める。 a=&INT (1.23) aは1となる。 実行前に制御スイッチ\$NULLCVFに1がセットされている場合を除き、欠損値を入力にした場合の戻り値は0になる
&JULIAN (x)	日付 (cyyymmdd) を日付 (cyyddd) へ変換する。 a=&JULIAN (870522) aは87142となる。
&LEFT. n (x)	文字列変数が持つ値を左端（先頭）からn桁分取り出す。 X='ABCDEFG' Y=&LEFT. 2 (x) Yは'AB'となる。 注) nは1~15の値を指定する。
&LEN (x)	文字列変数内に格納されている有効な文字列長（0~15）を返す。 X='ABCDEFG' Y=&LEN (x) Yは'7'となる。
&LINE (x) ※	PRINT文の制御に使用しており、関数ではない。 詳細は、PRINT文の説明を参照のこと。
&LOG (x)	xの自然対数 (LOG) を求める。 a=&LOG (10) aは2.302...となる。 注) xは1以上の値を指定する。
&LOG10 (x)	xの常用対数 (LOG10) を求める。 a=&LOG (100) aは2となる。 注) xは1以上の値を指定する。
&MASK (x)	文字定数を持つ変数の形式を、比較制御形式に変換する。 a=&MASK (x) aには文字変数xの値を比較制御形式に変換した文字列がセットされる。 注) この関数で得た値を利用して関係式（比較）を実行する際には、次の点に注意すること。 xの文字列に[?]があると、その桁は比較しない。 xの文字列に[*]があると、その桁以降は比較しない。 xの文字列に[+]があると、その桁が数字（0~9）であるかを検査する。 xの文字列に[-]があると、その桁が数字（A~Z）であるかを検査する。
&MDY (x)	日付 (cyyddd) を文字形式の日付 (mm-dd-yyyy) へ変換する。 a=&MDY (87142) aは'05-22-1987'となる。 (87142は1987年5月22日です。)
&MONTH (x)	日付 (cyyddd) より月を求める。 a=&MONTH (87142) aは5となる。 (87142は1987年5月22日です。) 欠損値を入力にした場合の戻り値は1になる。
&NEWLINE (x)	PRINT文の制御に使用しており、関数ではない。 詳細は、PRINT文の説明を参照のこと

関数の形式	説明／使用例
&SECOND (x)	時刻形式 (hhmmss) を一日の通算秒数に変換する。 a =&SECOND (171425) a は 62065 となる。 欠損値を入力にした場合の戻り値は0になる。
&SIN (x) ※	弧度法のラジアン値 (x) の正弦値 (SINe) を求める。 a =&SIN (PI) a は0となる。 注) 度数法で正弦値を求めるには、次のようにして下さい。 a =&SIN (45 * PI / 180) a は45度の正弦値となる。 欠損値を入力にした場合の戻り値は0になる。
&SQR (x)	xの平方根 (SQuaRe root) を求める。 a =&SQR (2) a は1.414···となる。 欠損値を入力にした場合の戻り値は0になる。
&STR (x)	数値 (x) を文字形式の10進数へ変換する。 a =&STR (100) a は'100'となる。 欠損値を入力にした場合の戻り値は'0'になる。
&STR. n (x)	数値 (x) を文字形式の10進数へ変換する。 n で10進数の桁数を指定する。(nは4もしくは8を指定する) a =&STR. 4 (100) a は'0100'となる。 欠損値を入力にした場合の戻り値は'0000'か'00000000'になる。
&STRING	PRINT文の制御に使用しており、関数ではない。 詳細は、PRINT文の説明を参照のこと。
&SWITCH※	PRINT文の制御に使用しており、関数ではない。 詳細は、PRINT文の説明を参照のこと。
&TAN (x) ※	弧度法のラジアン値 (x) の正接値 (TANgent) を求める。 a =&TAN (PI / 4) a は1となる。 注) 度数法で正接値を求めるには、次のようにして下さい。 a =&TAN (45 * PI / 180) a は45度の正接値となる。 欠損値を入力にした場合の戻り値は0になる。
&TIMEOD (x) ※	TOD時刻から時刻 (sssss) を求める。欠損値を入力にした場合の戻り値は0になる。
&TITLE	PRINT文の制御に使用しており、関数ではない。 詳細は、PRINT文の説明を参照のこと。
&TODATE (x) ※	TOD時刻から時刻 (cyyddd) を求める。欠損値を入力にした場合の戻り値は0になる。
&TYPE (x)	変数に記憶されたデータの種類を求める。 a =&TYPE (x) x が数値列(印刷可能) : a=0 x が文字列(印刷可能) : a=1 x が欠損値(印刷可能) : a=2 x が文字列(印刷不可) : a=3 (ACOS-4システムで動作するCPESHELLでは a=1)
&VAL (x)	文字列変数を数値変数に変換する。 a =&VAL ('1.2') a は'1.2'となる。
&WEEK (x)	日付 (cyyddd) より、文字形式の曜日を求める。 a =&WEEK (87142) a は'FRY'となる。 欠損値を入力にした場合の戻り値は'SUN'になる。
&WEEKPOS (x)	日付 (cyyddd) より、数字形式の曜日を求める。 a =&WEEKPOS (87142) a は5となる。(0:日曜、1:月曜~6:土曜) 欠損値を入力にした場合の戻り値は0になる。
&YEAR (x)	日付 (cyyddd) より、年を求める。 a =&YEAR (87142) a は1987となる。 欠損値を入力にした場合の戻り値は1900になる。
&YMD (x)	日付 (cyyddd) を文字形式の日付 (yy/mm/dd) へ変換する。 a =&YMD (87142) a は'87/05/22'となる。
&YYMD (x) ※	日付 (cyyddd) を文字形式の日付 (yy/mm/dd) へ変換する。 a =&YYMD (87142) a は'1987/05/22'となる。
&YYMMDD (x)	日付 (cyyddd) を文字形式の日付 (yy/mm/dd) へ変換する。 a =&YMD (87142) a は'87/05/22'となる。
&YYDDD (x)	1900年1月1日よりの通算日数から、日付 (cyyddd) を求める。 a =&YYDDD (31918) a は'87142'となる。



※印の関数は、ACOS-4システムで動作するCPESHELLでは使用できません。

日立システムにおいて、装置記号名の変換用に特殊な変数／関数を用意しています。

表7 装置記号名変換用変数／関数

変数の名前	説明／使用例
¥HITDEVTP	下記の関数を使用する際の変換形式を指定する。 ¥HITDEVTP=' DEC' 10進数 ¥HITDEVTP=' HEX' 16進数 ¥HITDEVTP=' B36' 36進数

以下の関数を使用する際には ¥HITDEVTP 変数を指定して下さい。

変数の名前	説明／使用例
&VALNM (x)	文字列3桁の装置記号名を数値に変換する。 ¥HITDEVTP=' HEX' BASE='23F' a=&VALNM(BASE) aは575となる。
&STRNM (x)	文字列3桁の装置記号名を数値に変換する。 ¥HITDVTP=' HEX' BASE=575 a=&STRNM(BASE) aは'23F'となる。

このような関数以外に、CPESHELLは次のような特殊な変数名を用意しています。これらの変数は読み出専用であり、データをセットすることはできません。

表8 読出専用変数

変数の名前	説明／使用例
_MAX_	CPESHELLが取り扱える最大値を返す。 a=_MAX_ aは最大値となる。
_MIN_	CPESHELLが取り扱える最小値を返す。 a=_MIN_ aは最小値となる。
_NULL_	CPESHELLの欠損値を返す。 a=_NULL_ aは欠損値となる。

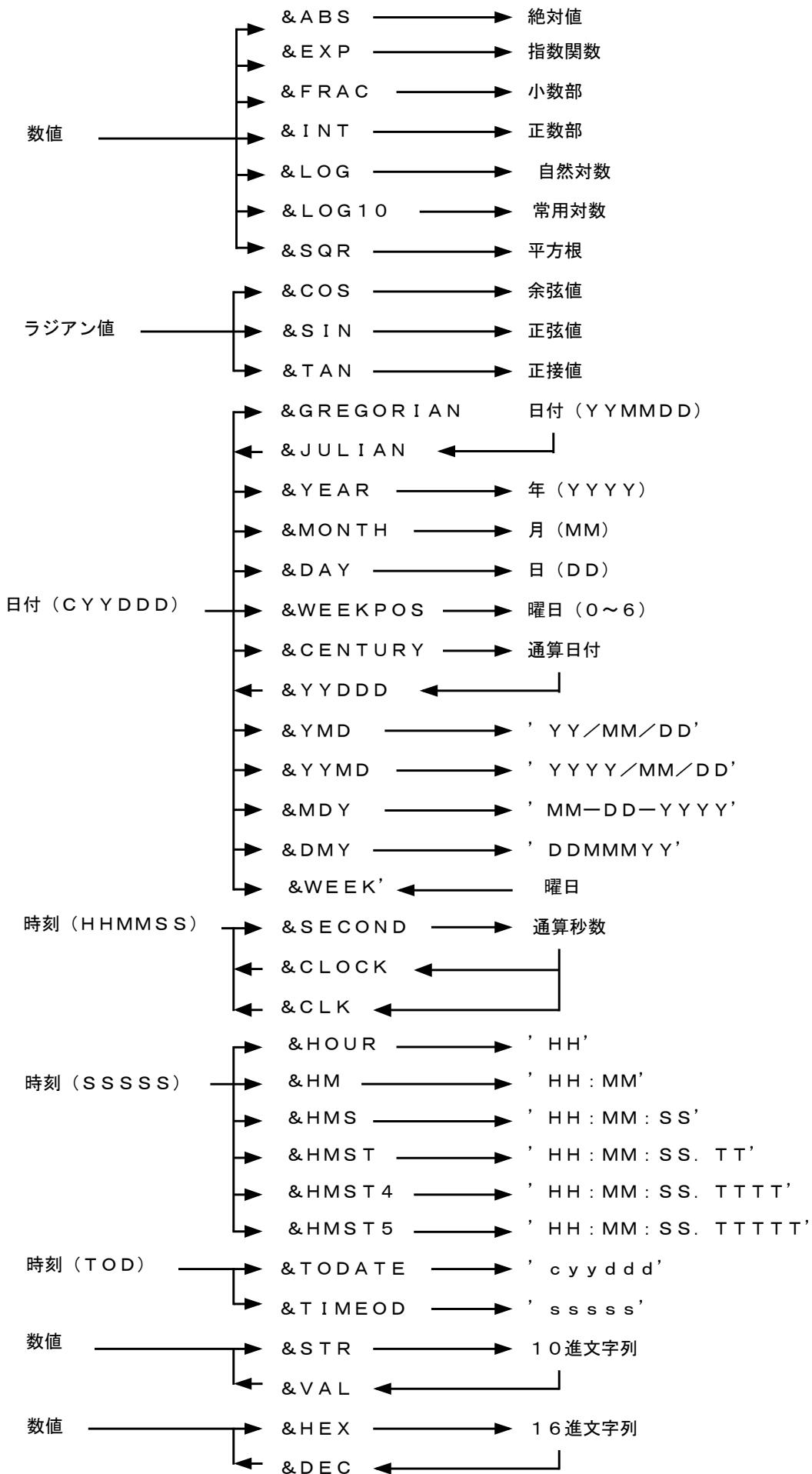
関数や読み出専用変数以外に、CPESHELLはプログラムの実行前に次のような変数に特別な値をセットして、プログラム実行時の定数として使用できるようにしています。

尚、これらの変数は何ら特別なものではなく、通常の変数にプログラム実行前に、特殊な値がセットされているだけです。

表9 定数を記憶した変数

変数の名前	説明／使用例
DAY	実行時の日付を求める。 a=DAY aはyyddd形式の日付となる。
PI	円周率(π)を求める。 a=PI aは3.141...となる。
TIME	実行時の時刻を求める。 a=TIME aはhhmmss形式。
VERSION	CPESHELLの版数を求める。 a=VERSION aはv  形式のコードとなる。

図9 関数関連図



## 1.3 CPESHELL の基本文

SHELLプラットフォームでのプログラム作成を容易にするため、CPESHELLは多くの文(命令)を用意しています。ここでは、それらの文のうち、四則演算などを行う基本文について説明します。



(注)  
※印の文の機能  
は公開しません。

A P A R T	L E T
C A S E	L O O K U P
C H A I N	M A G I C
C O M P U T E	M E A N S
C O N T ( I N U E )	N E X T
D I M ( E N S I O N )	N O P
D I V I D E※	O N   G O S U B
D O	O N   G O T O
E L S E	R E G
E N D	R E T U R N
E N D I F	S E A R C H
E N D S E L	S E L E C T
E N T R Y	S O R T
E R R O R	S T O P
E X P E R T※	S W A P
F O R	S Y M L I N K
G O S U B ( C A L L )	T E X T P O O L
G O T O	T H E N
G R O U P S E T	V A L U E S E T
I F	W E N D
K A N J I F	W E X I T
L A B E L P O L	W H I L E

## A P A R T文

### 【機能】

データセット名などを取り扱う際、第1プレフィクスや第2プレフィクスなど、特殊記号で区切られた文字列を抽出する機能です。

### 【形式】

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	A P A R T	変数1、変数2 [変数3、・・・]

### 【説明】

- 変数2以降に指定された変数の文字列を、1つの文字列として結合し、プレフィクス分解を行います。
- 変数1は特殊な使い方がされます。先ず、変数1の名を持つ単純変数には、得られたプレフィクス(文字列)情報の数がセットされます。
- 得られたプレフィクス情報は、変数1の名をもつ配列変数にセットされます。
- 最初のプレフィクスが配列要素位置1に、次のプレフィクス情報が配列要素位置2にセットされます。
- この配列変数をSHELL言語で扱う際には、DIM文で要素数を指定しておく必要があります。
- APART文を使用するには、¥APART変数に区切り文字(1文字)を文字列形式で指定しておく必要があります。

### 【記述例】

```
DIM A(1000)
¥APART=' '
D='12345.67890.ABC'
E='DE.FGHIJ.KLMNO'
APART A, D, E
PRINT A, A(1), A(2), A(3), A(4), A(5)
      5 12345 67890 ABCDE FGHIJ KLMNO
      (プリントファイル)
```

### 【注意】

- この機能はACOS-4システムで動作するCPESHELLでは使用できません。

## C A S E文

### 【機能】

CASE文は、SELECT文とペアで使用される文です。このCASE文は、SELECT文とENDSEL文との間に記述し、条件が成立した一つのCASE文で指定した実行文ブロックのみが実行されます。

### 【形式】

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	C A S E	条件式 又は ELSE

### 【説明】

- 複数のCASE文で条件が成立する場合は、先に条件が成立したものが実行されます。
- 最後のCASE文のみ、条件式として「ELSE」を指定することができます。

### 【注意】

- この機能はACOS-4システムで動作するCPESHELLでは使用できません。

**CHAIN文****【機能】**

CHAIN文は、巨大なプログラムを作成する場合に、そのプログラムの分割点の指定と処理の終了を通知します。

**【形式】**

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	CHAIN	

**【説明】**

- CPESHELLのコンパイラがCHAIN文を検出すると、それまでのソース・プログラムを一つのプログラムとしてコンパイルします。このため、CHAIN文で区切られたプログラム内で、全てのラベルの参照条件が満足されていなければなりません。
- プログラムの実行時にCHAIN文が実行されると、コンパイルの単位となったプログラムの実行が完了したと見なします。CPESHELLはCHAIN文で処理の完了が通知されると、後続のプログラムを主記憶に読み込み処理を続行させます。
- 続のプログラムが無い状態でCHAIN文が実行されると、処理を継続できないため、エラーとなります。また、後続のプログラムがあるにも係わらず、プログラムの実行を停止させる場合には、STOP文を使用してください。

**COMPUTE文****【機能】**

COMPUTE文は、数値式や文字列式の値を変数に代入します。

**【形式】**

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	[COMPUTE]	数値変数=数値式 又は 文字変数=文字列式

**【説明】**

- COMPUTE文は、右辺の式の値を左辺の変数に代入します。
- オペレーションのCOMPUTEは、省略できます。
- 数値式の演算中に、オーバフローが発生しても、あふれた部分を無視して処理を続行します。
- 文字列式のなかで文字列定数が指定されている場合、最大15文字まで有効です。15文字を越える場合、16桁目以降は無視されます。また文字列のなかにスペースがあれば、それ以降の文字群は無視されます。
- 割り算の除数がゼロもしくは欠損値の場合、結果はゼロとなります。
- 右辺の記述がない場合、左辺の変数にはゼロが代入されます。

**【記述例】**

```
A = 1
B = A + C - D * E / F + (G - H * (J + K))
X = ' I I M'
Y = ' E S / 1'
Z = X + Y
```

**CONT (INUE) 文****【機能】**

CONT文は、DO文とペアで使用される文です。このCONT文では、DO文で始まるループ処理の終了を指定します。DO文によるループ処理の詳細は、DO文の項を参照してください。

**【形式】**

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	CONT	

**【説明】**

- CONT文が実行されると、直前に実行されたDO文のループ条件を検査します。その際、DO文で指定された制御変数へ増分を加算し、限界値と比較します。
- DO文で指定されたループをさらに繰り返すのであれば、直前に実行されたDO文の次の文へ分岐します。ループを終了するのであれば、CONT文の次の文の処理を行います。
- CONT文を実行する前にDO文が実行されていなければ、ループ条件の判定や分岐処理が行えないため、エラーとなります。

**DIM (ENSION) 文****【機能】**

DIM文は、変数の配列の大きさを宣言し、その上限を決定します。このDIM文が実行されても、変数の作業域が割り当てられることは有りません。

**【形式】**

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	DIM	配列名 (上限), -----

**【説明】**

- DIM文は、配列の上限を決定します。この上限とは、配列要素を示す添字式が取りえる最大値です。上限値は2から65535までの値で指定しなければなりません。
- CPESHELLの配列の下限は1であり、配列要素数は上限値と同じです。
- 添字付変数(配列)を使用する前に、DIM文が実行されていなければなりません。
- 定義された配列要素数が使用できるか否かは、実際に使用できる仮想空間の大きさにより決定されます。

**【記述例】**

```
A=10
DIM X(A), Y(10)
{
X(I)=Y(I)*100
```

**DO文****【機能】**

DO文は、ループ処理の始まりを示し、開始と終了の条件を指定します。このDO文で開始されるループ処理の終了はCONT文で指定します。

**【形式】**

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	DO	制御変数=初期値 TO 限界値 [STEP 増分]

**【説明】**

- DO文から対応するCONT文までの一連の文をDOループと呼びます。
- 複数のDOループが存在する場合、最初のCONT文が最後の実行されたDO文に対応します。
- DOループは、次の手順で実行されます。
  - ①制御変数に初期値を設定します。
  - ②DOループ内の文を実行します。
  - ③制御変数に増分を加えます。増分が省略された場合、増分として1を制御変数に加えます。
  - ④制御変数の値と限界値を比較します。この時、もし、制御変数が限界値より大きければ、CONT文の次の文へ分岐します。それ以外の場合は、②へ戻ります。
- 増分として、マイナスの値やゼロを指定すると無限ループとなります。
- DOループ内で、制御変数を他の変数と同じように使用することができます。しかし、制御変数の値を更新すると、所定の繰り返し回数が期待できないことがあります。
- DOループ内で、限界値や増分の値を更新すると、所定の繰り返し回数が期待できないことがあります。
- DOループの実行は、必ずDO文で開始してください。GOTO文やGOSUB文などでDOループ内に分岐した場合、実行結果は保証できません。
- DOループの実行は、必ずCONT文で終了してください。DOループ内から、GOTO文などでDOループ外に分岐した場合、実行結果は保証できません。
- DOループ内で異なったDOループを実行させることができます。この多重DOループのレベルはCPESHE LLのリリースにより、許されている数が異なります。

**【記述例】**

```

    {
DO I=1 TO 10
    {
DO J=1 TO 10
        M= (I-1) * 10 + J
    }
    CONT
}
CONT
    
```

DO ループ

## ELSE文

### 【機能】

ELSE文は、IF文とペアで使用される文です。このELSE文では、IF文の論理式が偽のときに実行する文のブロックの開始、若しくは分岐先のラベルを指定します。

### 【形式】

ラベル	オペレーション	オペランド
	ELSE	; 又は ラベル

### 【説明】

- ELSE文には、ラベルを記述することができません。
- ELSE文に「;」が指定された場合、IF文で指定された論理式が偽のとき、ENDIF文までの文を実行します。
- ELSE文でラベルを指定する場合、IF文で指定した論理式が偽のとき、指定されたラベルへ分岐します。

### 【記述例】

```
(その1)    I F   A>B+C  T H E N  ;
            {
            E L S E  ;
            }
            E N D I F

(その2)    I F   A>B+C  T H E N  ;
            {
            E L S E  E R R O R
            }
            E N D I F
```

## END文

### 【機能】

END文は、プログラムの実行を終了させます。

### 【形式】

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	END	[S T A T U S]

### 【説明】

- SHELLプラットフォーム言語で記述されたプログラムの実行を終了します。
- オペランドでSTATUSを指定すると、プログラムで使用した文(命令)の実行回数のサマリー・レポートを出力します。

**ENDIF文****【機能】**

ENDIF文は、IF文とペアで使用される文です。このENDIF文では、IF文の論理式が真や偽のときに実行する文のブロックの終了を指定します。

**【形式】**

ラベル	オペレーション	オペランド
	ENDIF	

**【説明】**

- ENDIF文には、ラベルを記述することができません。
- プログラム内で、ブロック指定のIF文(IF文の形式2)の数とENDIF文の数が一致していなければ、コンパイル・エラーとなります。

**【記述例】**

```
(その1)    I F   A>B+C  T H E N  ;
            {
            E L S E  ;
            }
            E N D I F

(その2)    I F   A>B+C  T H E N  ;
            {
            E L S E  E R R O R
            }
            E N D I F
```

**ENDSEL文****【機能】**

ENDSEL文は、SELECT文とペアで使用される文です。このENDSEL文は、CASE文の条件式が真や偽のときに実行するブロックの終了を指定します。

**【形式】**

ラベル	オペレーション	オペランド
	ENDSEL	

**【説明】**

- ENDSEL文には、ラベルを記述することができません。
- 1つのCASE節が実行されると処理はENDSEL文にジャンプします
- プログラム内で、ブロック指定のSELECT文の数とENDSEL文の数が一致していなければ、コンパイル・エラーとなります。

**【注意】**

- この機能はACOS-4システムで動作するCPESHELLでは使用できません。

## ENTRY文

### 【機能】

ENTRY文はGOSUB文とペアで使用し、サブルーチン・コールの際にパラメータを渡す作業を簡素化します。

### 【形式】

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	ENTRY	変数1 [, 变数2 --, 变数n ]

### 【説明】

- ENTRY文では、指定された変数にGOSUB文で指定されたパラメータの値を取り込みます。
- ENTRY文は、GOSUB文で呼び出されるサブルーチンの先頭になければなりません。それ以外の場所でENTRY文が検出されると、エラーとなります。又、ENTRY文で指定されたラベルへGOSUB文以外の方法で分岐すると、同様にエラーとなります。
- ENTRY文で指定された変数に対応するパラメータがGOSUB文で指定されていない場合、その変数には欠損値がセットされます。
- ENTRY文で指定された変数以上にGOSUB文にパラメータが指定されていれば、エラーとなります。

### 【記述例】

```

    {
GOSUB  SUB, 1234, 5678
}
SUB  ENTRY  PARM1, PARM2
      PRINT  PARM1, PARM2
      {
RETURN

```

1234 5678  
 (プリントファイル)

**ERROR文****【機能】**

ERROR文は、CPESHELLがSHELLプラットフォーム言語で作成されたプログラムの実行中にエラーを検出した際のエラー処理を定義します。

**【形式】**

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	ERROR	ラベル または RESET

**【説明】**

- ERROR文では、実行中のエラー処理ルーチンを登録します。複数のERROR文が実行された場合、最後のERROR文が有効となります。
- ERROR文で指定したラベルは、そのプログラム単位の中に存在しなければなりません。
- 一度、エラー処理ルーチンへエラー分岐すると、ERROR文の実行状態はリセットされ、再度エラーを検出するとプログラムの実行は終了します。
- オペランドにRESETを記述することにより、エラー処理の定義を解除します。

**【記述例】**

```

    {
  ERROR  ERROR
    }
ERROR      PRINT 'DETECTED ERROR'
          GO TO RETRY
    }
```

## FOR文

### 【機能】

FOR文は、ループ処理の始まりを示し、開始と終了の条件を指定します。このFOR文で開始されるループ処理の終了はNEXT文で指定します。

### 【形式】

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	FOR	制御変数=初期値 TO 限界値 [STEP 増分]

### 【説明】

- FOR文から対応するNEXT文までの一連の文をFORループと呼びます。
- 複数のFORループが存在する場合、最初のNEXT文が最後の実行されたFOR文に対応します。
- FORループは、次の手順で実行されます。
  - ①制御変数に初期値を設定します。
  - ②FORループ内の文を実行します。
  - ③制御変数に増分を加えます。増分が省略された場合、増分として1を制御変数に加えます。
  - ④制御変数の値と限界値を比較します。この時、もし、制御変数が限界値より大きければ、NEXT文の次の文へ分岐します。それ以外の場合は、②へ戻ります。
- 増分として、マイナスの値やゼロを指定すると無限ループとなります。
- FORループ内で、制御変数を他の変数と同じように使用することができます。しかし、制御変数の値を更新すると、所定の繰り返し回数が期待できないことがあります。
- FORループ内で、限界値や増分の値を更新すると、所定の繰り返し回数が期待できないことがあります。
- FORループの実行は、必ずFOR文で開始してください。GOTO文やGOSUB文などでFORループ内に分岐した場合、実行結果は保証できません。
- FORループの実行は、必ずNEXT文で終了してください。FORループ内から、GOTO文などでFORループ外に分岐した場合、実行結果は保証できません。
- FORループ内で異なるFORループを実行させることができます。この多重FORループのレベルはCPE SHELLのリースにより、許されている数が異なります。

### 【記述例】

```

}
FOR I=1 TO 10
  FOR J=1 TO J
    M=((I-1)*10+J=I*j)
    NEXT
  NEXT
}
  
```

FOR ループ

**GOSUB文 (CALL文)****【機能1】**

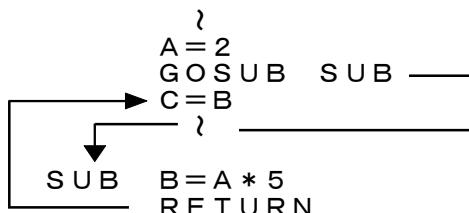
GOSUB文は、指定したラベルから始まるサブルーチンを呼び出します。そのサブルーチン実行後はGOSUB文の直後の文へ戻り、実行を継続します。

**【形式1】**

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	GOSUB	ラベル または @変数

**【説明1】**

- GOSUB文で指定されたラベルからサブルーチンが開始され、RETURN文で終了します。また、変数にサブルーチンのラベルを文字列で設定し、@を付加し(@変数)実行することにより、変数で指定されたラベルのサブルーチンから開始されます。
- GOSUB文によりサブルーチンを実行し、その後、次の文へ制御が戻ってきます。
- サブルーチンが更に他のサブルーチンを呼んでもよいが、呼ばれたサブルーチンは順序正しく戻らなければなりません。
- GOSUB文で指定されたラベルは、そのプログラム単位の中に存在しなければなりません。

**【記述例 1】****【機能2】**

GOSUB文は、指定したラベルから始まるサブルーチンを呼び出します。その際、サブルーチンの先頭の文がENTRY文であれば、指定されたパラメータの値をENTRY文で指定された変数へセットします。サブルーチン実行後はGOSUB文の直後の文へ戻り、実行を継続します。

**【形式2】**

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	GOSUB	ラベル または @変数, パラメータ1, パラメータ2----

**【説明2】**

- GOSUB文で指定されたラベルからサブルーチンが開始され、RETURN文で終了します。また、変数にサブルーチンのラベルを文字列で設定し、@を付加し(@変数)実行することにより、変数で指定されたラベルのサブルーチンから開始されます。
- サブルーチンの実行を開始する前に、ENTRY文で指定された変数へ、GOSUB文で指定されたパラメータの値をセットします。
- GOSUB文で指定するパラメータは、数値式や文字列式で指定します。
- 数値式の演算中に、オーバフローが発生しても、溢れた部分を無視して処理を続行します。
- 文字列式のなかで文字列定数が指定されている場合、最大15文字まで有効です。15文字を越える場合、16桁目以降は無視されます。また文字列のなかにスペースがあれば、それ以降の文字群は無視されます。

- 割算の除数がゼロもしくは欠損値の場合、GOSUB文はエラーとなります。
- ENTRY文で指定された変数名に対応するパラメータがGOSUB文で指定されていない場合、その変数には欠損値がセットされます。
- ENTRY文で指定された変数名以上にGOSUB文にパラメータが指定されていれば、エラーとなります。
- GOSUB文によりサブルーチンを実行し、その後、次の文へ制御が戻ってきます。
- サブルーチンが更に他のサブルーチンを呼んでもよいが、呼ばれたサブルーチンは順序正しく戻らなければなりません。
- GOSUB文で指定されたラベルは、そのプログラム単位の中に存在しなければなりません。

#### 【記述例 2】

```
{  
GOSUB SUB, 1234, 5678  
}  
SUB ENTRY PARM1, PARM2  
PRINT PARM1, PARM2  
}  
RETURN
```

1234 5678  
(プリントファイル)

#### 【備考】

CALL文はGOSUB文と同等の機能です。

**GOTO文****【機能】**

GOTO文は、指定したラベルへ分岐します。

**【形式】**

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	GOTO	ラベル

**【説明】**

- GOTO文で指定されたラベルは、そのプログラム単位の中に存在しなければなりません。
- GOTO文の乱用は、プログラムが難解になるため、避けるようにしてください。

**【記述例】**

```

I F   A>B+C   T H E N   ;
P R I N T   ' A= ', A
G O T O   N E X T   _____
E N D I F
P R I N T   ' B= ', B
N E X T   X=A+B   ←
               }
```

分歧

**GROUPSET文****【機能】**

GROUPSET文は、指定された数値式や文字列式の値を複数の変数へセットします。

**【形式】**

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	GROUPSET	数値式 もしくは 文字列式, 変数1 [, 変数2, -- -, 変数n ]

**【説明】**

- GROUPSET文は、第一オペランドで指定された数値式や文字列式の値を、第二オペランド以降で指定された変数群にセットします。
- 数値式の演算中に、オーバフローが発生しても、あふれた部分を無視して処理を続行します。
- 文字列式のなかで文字列定数が指定されている場合、最大15文字まで有効です。15文字を越える場合、16桁目以降は無視されます。また文字列のなかにスペースがあれば、それ以降の文字群は無視されます。
- 割り算の除数がゼロもしくは欠損値の場合、GROUPSET文はエラーとなります。

**【記述例】**

```
GROUPSET (A (B) - C) * D, E, F, G, H
```

**IF文****【機能】**

IF文は、論理式の値を評価し、その真偽により実行順序を決定します。

**【形式1】**

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	IF	論理式 [THEN ラベル] 又は 論理式 [ELSE ラベル]

**【説明1】**

- 論理式が真の時、ラベルへ分岐します。また、論理式が偽の時、ラベルへ分岐します。
- 論理式の真偽に対応するラベルが指定されていない場合、分岐はせずに、このIF文の次のステートメントに実行を移します。
- THENとELSEの両方を省略することはできません。

**【記述例 1】**

```
IF A>B+C THEN NEXT
      }
NEXT NOP
      }
```

**【形式2】**

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	IF ブロック1 ELSE ; 又は ラベル [ブロック2] ENDIF	論理式 THEN ラベル ;
[ラベル名]	IF ブロック2 ELSE ; 又は ラベル [ブロック1] ENDIF	論理式 ELSE ;

**【説明2】**

- 論理式が真のときブロック1の中のステートメントを実行し、その後、ENDIF文の次のステートメントに実行を移します。
- 論理式が偽のときブロック2の中のステートメントを実行し、その後、ENDIF文の次のステートメントに実行を移します。
- 論理式の真偽に対応するブロックが指定されていない場合、ENDIF文の次のステートメントに実行を移します。
- THENもしくはELSEでラベルを指定する場合、論理式の真偽に対応したラベルへの分岐が行われます。
- THENやELSEもしくはENDIFのステートメントにはラベル名を指定することができます。

## 【記述例2】

```
(その1)
  I F  A>B+C  T H E N  ;
  {
    E L S E ;
    {
      E N D I F
    }

(その2)
  I F  A>B+C  E L S E  ;
  {
    T H E N  L O O P
  E N D I F
  }
```

## KANJIF文

## 【機能】

KANJIF文は、富士通データに含まれる富士通漢字コードをIBM漢字コードに変換します。

## 【形式】

ラベル	オペレーション	オペランド
〔ラベル名〕	KANJIF	変数1 [, 変数2, 変数3 . . . , 変数n]

## 【説明】

- 指定された変数に格納されている文字列に含まれる富士通漢字コードをIBM漢字コードに変換します。
- 変換された文字列の内容は、元の変数にセットされます。
- この実行文では、指定された文字列に含まれるシフトインとシフトアウトコードを検索し、変換すべき漢字コードを探します。このため、指定された文字列内にこれらのコードが含まれていない場合は実行結果は保証されません。

## 【記述例】

```
KANJIF  A, B, C
```

## 【注意】

- この機能はACOS-4システムで動作するCPESHELLでは使用できません。

## LABELPOL文

### 【機能】

LABELPOL文はラベル領域の大きさを指定します。

### 【形式】

ラベル	オペレーション	オペランド
〔ラベル名〕	L A B E L P O L	数値

### 【説明】

- LABELPOL文ではオペランドにラベル領域の大きさを直接数値で定義します。通常は2000エントリ一分のラベル領域を用意していますが、この実行文で2000以上の値を指定した場合は指定された数のエントリーを格納出来るようラベル領域を拡張します(省略値2000)。
- この実行文はプロセジャをコンパイルしている時に検出し、ラベル領域を拡張します。このため、この実行文は出来るだけソースコードの先頭に記述されることをお勧めします。

## LET文

### 【機能】

LET文は、数値式や文字列式の値を変数に代入します。

### 【形式】

ラベル	オペレーション	オペランド
〔ラベル名〕	〔L E T〕	数値変数=数値式 又は 文字変数=文字列式

### 【説明】

- LET文は、右辺の式の値を左辺の変数に代入します。
- オペレーションのLETは、省略できます。
- 数値式の演算中に、オーバフローが発生しても、あふれた部分を無視して処理を続行します。
- 文字列式のなかで文字列定数が指定されている場合、最大15文字まで有効です。15文字を越える場合、16桁目以降は無視されます。また文字列のなかにスペースがあれば、それ以降の文字群は無視されます。
- 割り算の除数がゼロもしくは欠損値の場合、結果はゼロとなります。
- 右辺の記述がない場合、左辺の変数にはゼロが代入されます。

### 【記述例】

```
A = 1
B = A + C - D * E / F + (G - H * (J + K))
X = ' I I M'
Y = ' E S / 1 '
Z = X + Y
```

**LOOKUP文****【機能】**

LOOKUP文は、添字付数値変数の内容(数値データ)を検査し、指示された値と同じ値を持つ配列要素位置を求めます。

**【形式】**

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	LOOKUP	添字付変数 ( $\alpha$ , $\beta$ ), 検査値

**【説明】**

- 検査対象の配列要素群は、指定された変数名の配列位置  $\alpha$  から  $\beta$  です。
- 検査開始配列要素位置 ( $\alpha$ ) は数値定数ではなく、変数を利用して指定しなければなりません。
- 添字付変数の内容を検査し、検査値で指示された値と同じ値を持つ配列要素位置を、検査開始配列要素位置指定 ( $\alpha$ ) に使用した変数にセットします。最初に配列位置の  $\alpha$  から  $\beta$  が、その後1から  $\beta$  の配列要素が検査されます。2度の検査の結果、検査値と同じ値を持つ配列要素がない場合には変数 ( $\alpha$ ) にはゼロがセットされます。
- 指定された添字付変数の配列要素に欠損値が検出された場合、その配列位置のデータは比較されません。
- 検査値が数値で指定された場合、添字付変数の配列要素に文字列が記憶されていれば、LOOKUP文はエラーとなります。また、逆の場合も同様にエラーとなります。
- 検査開始配列要素位置指定 ( $\alpha$ ) がゼロ以下の場合、もしくは  $\alpha$  が  $\beta$  より大きい場合には検査対象は1から  $\beta$  になります。もし、検査開始配列要素位置指定 ( $\alpha$ ) がゼロであれば配列要素と検査値の比較は行われず、変数 ( $\alpha$ ) はゼロのままとなります。
- 検査終了配列要素位置指定 ( $\beta$ ) がゼロの場合、配列要素と検査値の比較は行われず、変数 ( $\alpha$ ) はゼロとなります。

**【記述例】**

```

{
DIM X (10)
X (5) = 6
I = 1
LOOKUP, X (I, 10), 6
PRINT , I =
}

```

I = 5  
 (プリントファイル)

**【注意】**

- この機能はACOS-4システムで動作するCPESHELLでは使用できません。

## MEANS文

### 【機能】

MEANS文は、添字付数値変数の内容(数値データ)を検査し、平均値や標準偏差値などを求めます。

### 【形式】

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	MEANS	添字付数値変数 ( $\alpha, \beta$ ) ,[変数1], [変数2], [変数3], [変数4] ,[変数5], [変数6], [変数7]

### 【説明】

- MEANS文は、添字付数値変数の配列要素群を検査し、その平均値や標準偏差値などを求めます。
- 検査対象の配列要素群は、指定された変数名の配列位置  $\alpha$  から  $\beta$  です。
- 検査対象の配列要素に欠損値がある場合、その配列要素を無視します。
- 検査対象の配列要素群の最小値は $\$MIN$ 、最大値は $\$MAX$ および平均値は $\$MEAN$ のシンボルにセットされます。
- 検査対象の配列要素群の標準偏差値は次式で算出され、 $\$STD$ のシンボルにセットされます。

$$S = \sqrt{\frac{\sum (X_i - \bar{X})^2}{n}}$$

- 検査対象の配列要素群の合計値は $\$TOTAL$ にセットされます。
- 変数1から変数7までのいずれかの変数が指定されている場合、次の値が対応する変数へセットされます。変数6/変数7には、検査対象の配列要素群が持つ値から突出したもの除外してグラフ表示に適した最小値と最大値をセットします(それぞれ変数2/変数3と一致することもあります)。

変数名	セットされる値	対応するシンボル
変数1	配列要素群の平均値	$\$MEAN$
変数2	配列要素群の最小値	$\$MIN$
変数3	配列要素群の最大値	$\$MAX$
変数4	配列要素群の標準偏差値	$\$STD$
変数5	配列要素群の合計値	$\$TOTAL$
変数6	グラフ表示に適した最小値	_____
変数7	グラフ表示に適した最大値	_____

### 【記述例】

```

{
DIM X (3)
X (1) = 1
X (2) = 2
X (3) = 6
MEANS X (1, 3)
PRINT $MIN, $MAX
PRINT $MEAN
PRINT $STD
}

```

1	6
3	
2.	1 6 0 2 4 6 8 9 9 0 0 0 0 0
(プリントファイル)	

## NEXT文

### 【機能】

NEXT文は、FOR文とペアで使用される文です。このNEXT文では、FOR文で始まるループ処理の終了を指定します。FOR文によるループ処理の詳細は、FOR文の項を参照してください。

### 【形式】

ラベル	オペレーション	オペランド
【ラベル名】	NEXT	

### 【説明】

- NEXT文が実行されると、直前に実行されたFOR文のループ条件を検査します。その際、FOR文で指定された制御変数へ増分を加算し、限界値と比較します。
- FOR文で指定されたループをさらに繰り返すのであれば、直前に実行されたFOR文の次の文へ分岐します。ループを終了するのであれば、NEXT文の次の文の処理を行います。
- NEXT文を実行する前にFOR文が実行されていなければ、ループ条件の判定や分岐処理が行えないとエラーとなります。

## NOP文

### 【機能】

NOP文は、分岐先のラベル定義を行うための文です。NOP文自身は、何も行いません。

### 【形式】

ラベル	オペレーション	オペランド
【ラベル名】	NOP	

### 【説明】

- NOP文は、機能的には何の処理も行いません。ただ単に、分岐先のラベルを定義するだけです。
- NOP文を乱用すると、無駄な仮想記憶域が増大します。このため、このNOP文の使用は、必要最低限に抑えてください。

**ON GOSUB文****【機能】**

ON GOSUB文は、制御数値式の値に応じたラベルから始まるサブルーチンを呼び出します。そのサブルーチン実行後は、ON GOSUB文の次の文へ戻り、実行を継続します。

**【形式】**

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	ON	制御数値式 GOSUB ラベル [, ラベル, -- -, ラベル]

**【説明】**

- ON GOSUB文では、制御数値式の値を求め、その値に対応したラベルから始まるサブルーチンを呼び出します。制御数値式の値とラベル指定の対応は1対1であり、制御数値式の値が1で最初のラベル、2で2番目のラベル、3で---と対応付けられています。
- 制御数値式の値に小数部がある場合、その小数部は切り捨てられます。
- 制御数値式の値が負やゼロもしくは欠損値の場合、もしくは対応するラベルが記述されていない場合、サブルーチンの呼び出しが行われません。
- ON GOSUB文で指定されたサブルーチンの実行はRETURN文で終了します。
- ON GOSUB文によりサブルーチンを実行し、その後、次の文へ制御が戻ってきます。
- サブルーチンが更にサブルーチンを呼んでもよいが、呼ばれたサブルーチンは順序正しく戻らなければなりません。
- ON GOSUB文で指定したラベルは、そのプログラム単位の中に存在しなければなりません。

**【記述例】**

```
ON { OPT GOSUB SUB1, SUB2, SUB3, SUB4 }
```

**ON GOTO文****【機能】**

ON GOTO文は、制御数値式の値に応じたラベルへ分岐します。

**【形式】**

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	ON	制御数値式 GOTO ラベル [, ラベル, -- -, ラベル]

**【説明】**

- ON GOTO文では、制御数値式の値を求め、その値に対応したラベルへ分岐します。制御数値式の値とラベル指定の対応は1対1であり、制御数値式の値が1で最初のラベル、2で2番目のラベル、3で---と対応付けられています。
- 制御数値式の値に小数部がある場合、その小数部は切り捨てられます。
- 制御数値式の値が負やゼロもしくは欠損値の場合、もしくは対応するラベルが記述されていない場合、分岐動作は実行されません。
- ON GOTO文で指定したラベルは、そのプログラム単位の中に存在しなければなりません。
- ON GOTO文の乱用は、プログラムが難解になるため、避けるようにしてください。

**【記述例】**

```
ON { OPT+1 GOTO OPT0, OPT1, OPT2 }
```

## REG文

### 【機能】

REG文は、指定された配列要素の値を基に、回帰分析を行います。

### 【形式】

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	REG	添字付数値変数1 ( $\alpha, \beta$ ) , 添字付数値変数2 (*) , TYPE1 [, RESUME]

### 【説明】

- REG文は、指定された2つの配列要素群を使用して、回帰分析を行います。
- 対象の配列要素群は、指定された変数名の配列位置  $\alpha$  から  $\beta$  です。
- 指定された添字付数値変数の配列要素に欠損値を検出した場合、その配列位置のデータを無視して回帰分析を行ないます。
- TYPE1が指定されると、最小2乗法による直線回帰分析を行うと同時に、相関係数を算出します。
- TYPE1の直線回帰でRESUMEオペランドを指定した場合、直前に実行したREG文で指定した配列要素群の回帰分析データと、そのREG文で指定された配列要素群の回帰分析データを結合して直線回帰分析を行います。このRESUME機能を使用することにより、連続していない配列要素群のデータや違った名前の配列要素群のデータを使用した直線回帰分析が行えます。
- TYPE1の直線回帰の結果と相関係数は、次の変数へセットされます。

変数名	意味
¥A	直線回帰の切片値
¥B	直線回帰の傾き
¥R	相関係数
¥N	有効な解析データ数

- TYPE1の直線回帰で得られた直線は、次の式で表されます。

$$y = ¥B \times x + ¥A$$

- TYPE1の直線回帰で得られた相関係数は、次のようなガイドラインで判定してください。

¥Rの値	意味
-1から-0.7	相関が認められる。
-0.7から-0.3	相関を判断できない。
-0.3から+0.3	相関はない。
+0.3から+0.7	相関を判断できない。
+0.7から+1	相関が認められる。

## 【記述例】

```

~ DIM X (10), Y (10)
~ DO I=1 TO 10
    GROUPSET I, X (I), Y (I)
CONTINUE
REG X (1, 10), Y (*), TYPE 1
PRINT $A, $B, $R, $N
~

```

0 1 1 10

(プリントファイル)

## RETURN文

## 【機能】

RETURN文はサブルーチンの終了を示し、呼び出したGOSUB文もしくはON GOSUB文の次の文へ分岐します。

## 【形式】

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	RETURN	

## 【説明】

- RETURN文では、直前に実行されたGOSUB文もしくはON GOSUB文の位置を求め、その文の次の文へ分岐します。
- GOSUB文やON GOSUB文を実行せずにRETURN文を実行すると、帰り先の文の位置が不明であるために、エラーとなります。また、実行されたGOSUB文やON GOSUB文の回数以上にRETURN文を実行しても、同様の理由でエラーとなります。

**SEARCH文****【機能】**

SEARCH文は、添字付変数の内容を検査し、指示された値と同じ値を持つ配列要素位置を求めます。

**【形式】**

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	SEARCH	添字付変数 ( $\alpha, \beta$ ), 検査値

**【説明】**

- 検査対象の配列要素群は、指定された変数名の配列位置  $\alpha$  から  $\beta$  です。
- 検査開始配列要素位置 ( $\alpha$ ) は数値定数ではなく、変数を利用して指定しなければなりません。
- 添字付変数の内容を検査し、検査値で指示された値と同じ値を持つ配列要素位置を、検査開始配列要素位置指定 ( $\alpha$ ) に使用した変数にセットします。検査値と同じ値を持つ配列要素が無い場合、変数 ( $\alpha$ ) にはゼロがセットされます。
- 指定された添字付変数の配列要素に欠損値が検出された場合、その配列位置のデータは比較されません。
- 検査値が数値で指定された場合、添字付変数の配列要素に文字列が記憶されていれば、SEARCH文はエラーとなります。また、逆の場合も同様にエラーとなります。
- 検査開始配列要素位置指定 ( $\alpha$ ) がゼロの場合、配列要素と検査値の比較は行われず、変数 ( $\alpha$ ) はゼロのままとなります。

**【記述例】**

```

{
DIM X (10)
X (5) = 6
I = 1
SEARCH, X (I, 10), 6
PRINT, I =
}

```

I = 5  
(プリントファイル)

**S E L E C T 文****【機能】**

SELECT文は、ENDSEL文との間に記述されたCASE文の内、条件が成立した一つのCASE文の実行文ブロックのみを実行します。

**【形式】**

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	S E L E C T	C A S E 条件式 又は C A S E E L S E

**【説明】**

- 複数のCASE文で条件が成立する場合は、先に条件が成立したものを行います。
- 最後のCASE文のみ、条件式として「ELSE」を指定することができます。
- ELSEの指定がなく条件が成立するCASE文がない場合には、なにも実行しません。

**【記述例】**

(その1)

```

A=300
S E L E C T
  C A S E A = 3 0 0
    P R I N T 3 0 0
  C A S E A = 1 5 0
    P R I N T 1 5 0
  C A S E A = 1
    P R I N T 1
E N D S E L
  }
```

3 0 0  
(プリントファイル)

(その2)

```

A=200
S E L E C T
  C A S E A = 3 0 0
    P R I N T 3 0 0
  C A S E A = 1 5 0
    P R I N T 1 5 0
  C A S E E L S E
    P R I N T 1
E N D S E L
  }
```

1  
(プリントファイル)

**【注意】**

- この機能はACOS-4システムで動作するCPESHELLでは使用できません。

## SORT文

### 【機能】

SORT文は、添字付変数の内容を検査し、指示された順序にインデックス変数の内容を並べ替えます。

### 【形式】

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	SORT	インデックス変数 ( $\alpha$ , $\beta$ ), 検査変数, [, HEXDECIMAL] [, ASCENDING   DESCENDING] [, KEEP]

### 【説明】

- 検査変数として指定された添字付変数の内容を検査し、指定された順序にインデックス変数(添字付変数)の内容を並べ替えます。検査開始と終了の配列要素位置指定により指示された範囲のインデックス変数の配列要素が持つ内容により、検査対象となる検査変数の配列要素が選択されます。
- 並べ替えが行われるのは、検査変数でなく、インデックス変数であることに注意して下さい。
- インデックス変数の配列位置  $\alpha$  から  $\beta$  が示す、検査変数の配列要素群の比較が行われます。この際、比較する検査変数の配列要素群は連続していなくても処理できます。
- 指定された検査変数の配列要素に欠損値が検出された場合、そのデータを数値のゼロとして取り扱います。
- 指定された検査変数の配列要素に数値と文字列のデータが混在している場合、比較操作が行えないため、SORT文はエラーとなります。
- ASCENDINGは昇順、DESCENDINGは降順の並べ替えを指示します。いずれも指示されない場合は、昇順の並べ替えが行われます。
- 文字列の並べ替えを行う場合、文字列の大小比較はEBCDICコードの大小に準じた順序とします。
- 検査変数に文字列の16進数がセットされているのであれば、HEXDECIMAL指定を行うことにより、16進数としての並べ替えが行えます。
- KEEPは、検査変数内に複数個の同じ値が存在した場合、並べ替える前の順番を保証します。KEEPの指示がなく、複数個の同じ値が存在した場合は、順番は保証しません。

### 【記述例】

```

{
DIM A(3), B(3)
FOR I=1 TO 3
A(I)=I
NEXT
B(1)=9
B(2)=1
B(3)=4
SORT A(1,3), B
PRINT A(1), A(2), A(3)
PRINT B(1), B(2), B(3)
}
{
SORT A(1,3), B, DESCENDING
PRINT A(1), A(2), A(3)
PRINT B(1), B(2), B(3)
}

```

2	3	1
9	1	4
1	3	2
9	1	4

(プリントファイル)

**S T O P文****【機能】**

STOP文は、プログラムの実行を終了させます。

**【形式】**

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	S T O P	[S T A T U S]

**【説明】**

- SHELLプラットフォーム言語で記述されたプログラムの実行を終了します。
- オペランドでSTATUSを指定すると、プログラムで使用した文(命令)の実行回数のサマリー・レポートを出力します。

**S W A P文****【機能】**

SWAP文は、指定された2つの変数が持つ値を入れ替えます。

**【形式】**

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	S W A P	変数, 変数

**【説明】**

- オペランドで指定された2つの変数の値を入れ替えます。この際、それぞれのデータの属性(数字や文字列)も入れ替えられます。

**【記述例】**

```

{
A=1
B='XYZ'
SWAP A, B
PRINT 'A=', A
PRINT 'B=', B
}

```

A = X Y Z
B = 1

## SYMLINK文

### 【機能】

SYMLINK文は、DIM文で用意される配列変数を擬似的に多次元配列として扱う機能(配列ベース機能)を実現します。

### 【形式】

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	SYMLINK	基本配列変数名, 配列変数名1 [, 配列変数名2 . . . ]

### 【説明】

- DIM文で定義される配列(最大要素数65535)の要素数を更に65535倍します。
- あらかじめSYMLINK文に、基本配列変数名と配列ベース機能の対象とする配列変数名を定義します。
- 基本配列変数の配列ベースを切り替えることにより、対象となる配列変数のベースがすべて切り替わります。
- 基本配列変数の配列ベースを切り替えるには、以下のようにベース値をセットします。

基本配列変数名(&BASE)=ベース値

ベース値として指定できるのは1~65535です。

- 同時に複数の配列ベースを使用することはできません。

&BASE →					
配列要素	(&BASE=1)	(&BASE=2)	(&BASE=3)	...	(&BASE=65535)
	1	1	1	...	1
	2	2	2	...	2
	3	3	3	...	3
	:	:	:		:
	:	:	:		:
↓	6 5 5 3 4	6 5 5 3 4	6 5 5 3 4	...	6 5 5 3 4
	6 5 5 3 5	6 5 5 3 5	6 5 5 3 5	...	6 5 5 3 5

### 【記述例】

```

DIM A (3), B (3)
SYMLINK A, B
DO I=1 TO 3
  A (&BASE) = I
  DO J=1 TO 3
    B (J) = I * J
  CONTINUE
CONTINUE
PRINT 'BASE B (X)'
DO I=1 TO 3
  A (&BASE) = I
  DO J=1 TO 3
    PRINT USING (4.0), I,
    PRINT USING (4.0), B (J)
  CONTINUE
CONTINUE

```

BASE	B (X)
1	1
1	2
1	3
2	2
2	4
2	6
3	3
3	6
3	9

(プリントファイル)

**【注意】**

- この機能はACOS-4システムで動作するCPESHELLでは使用できません。

**TEXTPOOL文****【機能】**

TEXTPOOL文は内部テキスト領域の大きさを指定します。

**【形式】**

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	TEXTPOOL	数値

**【説明】**

- TEXTPOOL文ではオペランドに内部テキスト領域の大きさを直接数値で定義します。通常は4000ステートメント分の内部テキスト領域を用意していますが、この実行文で4000以上の値を指定した場合は指定された数のステートメントを格納出来るよう内部テキスト領域を拡張します(省略値4000)。
- この実行文はプロセジャをコンパイルしている時に検出し、内部テキスト領域を拡張します。このため、この実行文は出来るだけソースコードの先頭に記述されることをお勧めします。
- 実行文の中には複数の内部テキストに展開されるものがあります。このため、実際に必要となる内部テキスト領域の大きさはプロセジャのソースステップ数より大きくなりますのでご注意ください。

## THEN文

### 【機能】

THEN文は、IF文とペアで使用される文です。このTHEN文では、IF文の論理式が真のときに実行する文のブロックの開始、若しくは分岐先のラベルを指定します。

### 【形式】

ラベル	オペレーション	オペランド
	THEN	; 又は ラベル

### 【説明】

- THEN文には、ラベルを記述することができます。
- THEN文に「;」が指定された場合、IF文で指定された論理式が真のとき、ENDIF文までの文を実行します。
- THEN文でラベルを指定する場合、IF文で指定した論理式が真のとき、指定されたラベルへ分岐します。

### 【記述例】

(その1)  
 IF A>B+C ELSE ;  
 {  
 THEN ;  
 }  
 ENDIF

(その2)  
 IF A>B+C ELSE ;  
 {  
 THEN ERROR  
 ENDIF

**VALUESET文****【機能】**

VALUESET文は、複数の数値式の値を検査し、指定された条件に従った値を目的変数へセットします。

**【形式】**

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	VALUESET	条件指定 TO 目的変数 FROM 数値式1 [, 数値式2, ---- 数値式n]

**【説明】**

- VALUESET文は、一度に複数の数値式の演算を行い、それらの結果を監査し、指定された条件にあった値を目的変数へセットします。
- 条件指定のオペランドでは、MINもしくはMAXを指定することができます。MINは最小値を、MAXは最大値を目的変数へセットすることを指示します。
- 数値式の演算中に、オーバフローが発生しても、溢れた部分を無視して処理を続行します。
- 割り算の除数がゼロもしくは欠損値の場合、VALUESET文はエラーとなります。
- VALUESET文を実行するには、ES／1 NEO MF-MAGICのライセンスが必要となります。

**【記述例】**

```

CPUBUSY=10
VALUESET MIN TO CPUBZ FROM CPUBUSY, 50, 100
PRINT CPUBZ
      10
      (プリントファイル)
  
```

## WEND文

### 【機能】

WEND文は、WHILE文とペアで使用される文です。このWEND文は、WHILE文のオペランドで記述された条件が成立して実行する文のブロックの終了を指定します。

### 【形式】

ラベル	オペレーション	オペランド
	WEND	

### 【説明】

- WEND文には、ラベルを記述することは出来ません。

### 【記述例】

```

    CNT = 10
    WHILE CNT > 0
        IF CNT < 7 THEN:
            WEXIT
        ENDIF
        PRINT CNT
        CNT = CNT - 1
    WEND
    
```

10
9
8
7

(プリントファイル)

### 【注意】

- この機能はACOS-4システムで動作するCPESHELLでは使用できません。

## WEXIT文

### 【機能】

WEXIT文は、WHILE文とペアで使用される文です。このWEXIT文では、WHILE 文で始まるループ処理の終了を指定します。WHILE文によるループ処理の詳細は、WHILE文 の項を参照してください。

### 【形式】

ラベル	オペレーション	オペランド
	WEXIT	

### 【説明】

- WEXIT文が実行されると、WHILE文のループを強制的に終了します。

## 【記述例】

```

    {
      CNT = 10
      WHILE CNT > 0
        IF CNT < 7 THEN;
        WEXIT
        ENDIF
        PRINT CNT
        CNT = CNT - 1
      WEND
    }
  
```

10  
9  
8  
7

(プリントファイル)

## 【注意】

- この機能はACOS-4システムで動作するCPESHELLでは使用できません。

## WHILE文

## 【機能】

WHILE文は、ループ処理の始まりを示し、オペランドで記述した条件が成立する限り、WEND文までの実行文を繰り返し実行します。強制的に繰り返しループを終了する場合はWEXIT文で指定します。

## 【形式】

ラベル	オペレーション	オペランド
	WHILE	条件式

## 【説明】

- WHILE文から対応するWEND文までの一連の文をWHILEループと呼びます。
- WHILEループの実行は、必ずWEND文で終了してください。
- WHILE文で指定する条件式には「AND」や「OR」を指定することは出来ません。

## 【記述例】

```

    {
      CNT = 10
      WHILE CNT > 0
        IF CNT < 7 THEN;
        WEXIT
        ENDIF
        PRINT CNT
        CNT = CNT - 1
      WEND
    }
  
```

10  
9  
8  
7

(プリントファイル)

## 【注意】

- この機能はACOS-4システムで動作するCPESHELLでは使用できません。

## 1.4 プリントファイルに関する文

SHELLプラットフォームで作成されたプログラムのリスト作成を容易にするために、CPESHELLでは多くの文と多くの関数を用意しています。ここでは、それらのプリントファイル関連の文と関数について説明します。

SHELLプラットフォームで使用可能なプリントファイル文には、次のようなものがあります。

ADJAXIS	PRINT
CLEAR	PRINT LOCATE
ERASE	PRINT USING
HARDCPY	SCREEN
HEADER	TITLE
PLOT	

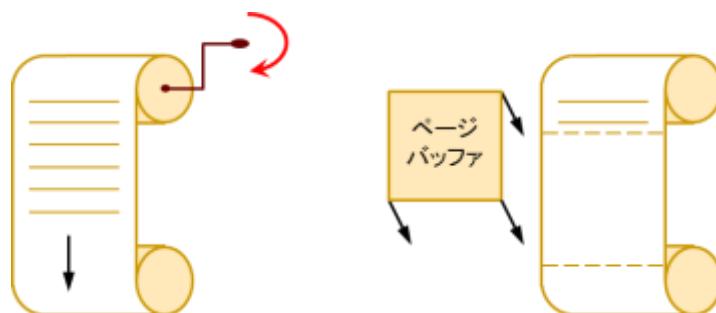
また、プリントファイルに関連した関数には、次のものがあります。

&CR	&NEWLINE
&DBCS	&STRING
&HEADER	&SWITCH
&FORM	&TITLE
&LINE	

SHELLプラットフォームで作成されたプログラムでは、CPESHELLがコンパイル・リストをプリントするファイルを、プリントファイルとして使用することができます。このプリントファイルを使用する方法には、ラインモードとページモードの2種類があります。また、このプリントファイルにデータを出力する実行文には、PRINT文などがあります。ラインモードに関連した実行文にはHEADER、PRINT、PRINT USING、TITLEの3つがあります。ページモードでは、CLEAR以外の全てのプリントファイル文が実行できます。但し、ページモードの場合、PRINT文の代わりにPRINT LOCATE文を使用します。

ラインモードにおいては、PRINT文で指示されたプリント・データは、ラインバッファ(130文字)に入れます。このラインバッファが満杯となるか、PRINT文でラインバッファのプリント指示があると、ラインバッファの内容がプリントファイルに出力されます。出力するプリントファイルの行位置は、順次移動します。プリントファイルの改ページ制御などは、全てCPESHELLが自動的に行います。この際、1ページはタイトル行とヘッダ行および53行×130文字のユーザ域として制御されます。また、各ページのページ番号は、コンパイル・リストからの通番となります。

ページモードにおいては、ページ・サイズ(53行×130文字)のバッファを使用することにより、帳表作成やグラフ出力等を容易にします。このモードでPRINT LOCATE文を実行しても、そのデータはページバッファに移されるだけでプリントされません。ページバッファをプリントするためには、HARDCPY文を実行する必要があります。HARDCOPY文が実行されると、プリントファイルが改ページされ、新たなページ一面にページバッファ内のデータがプリントされます。



**ADJAXIS文****【機能】**

ADJAXIS文は、グラフ作成する際のスケール値を自動的に算出します。SCREEN文と組み合わせて使用すると効果的なスケール作成が行えます。

**【形式】**

ラベル	オペレーション	オペランド
〔ラベル名〕	ADJAXIS	最小値, 最大値 [, 開始値 [, 増分]]

**【説明】**

- ADJAXIS文で指定される4つのオペランドは、全て変数名で指定されなければなりません。又、それらの変数は、全て単純変数でなければなりません。
- 指定された最小値と最大値を基に、グラフ作成した際に矛盾のない最小値と最大値を求めます。求められた調整済の最小値と最大値は元の変数に格納されます。
- 最小値と最大値の調整を行うのと同時に、グラフのスケール表示に適したスケールの開始値とその増分を算出します。これらの値は、開始値と増分のオペランドに指定された変数に格納されます。
- 指定された最大値が最小値よりも大きくなれば、ADJAXIS文は指定されたいずれの変数も変更すること無く、その処理を終了します。
- スケールの開始値と増分の計算がうまく行えなければ、ADJAXIS文は調整された最小値を開始値に、また最大値と最小値の差の4分の1を増分として格納します。

**【記述例】**

```
LOW=1
HIGH=100
ADJAXIS LOW, HIGH, START, PICH
PRINT LOW, HIGH, START, PICH
```



0 100 0 20 (プリントファイル)
--------------------------

**CLEAR文****【機能】**

CLEAR文は、プリントファイルを改ページします。

**【形式】**

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	CLEAR	

**【説明】**

- プリントファイルの現ページにおける残りの行を無視し、新たなプリントページへ改ページします。このCLEAR文は、ラインモードの場合に意味を持ちます。
- 現ページに何もプリントしていない場合、この改ページ要求は無視されます。
- 次にラインモードのPRINT文が実行されると、新しいページのユーザ域の第一行目にデータが出力されます。
- ラインバッファ内にプリントするべきデータが存在していても、それらのデータには何ら影響を与えません。

**【記述例】**

```
CLEAR
PRINT DATA
HARDCPY
```

## &CR関数

### 【機能】

PRINT LOCATE文でページモードの制御を行う場合に、いかにもラインモードのようなプリント制御を可能にします。

### 【形式】

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	PRINT	LOCATE (&CR) 又は LOCATE (-), [出力項目--], &CR

### 【説明】

- &CR関数を使用すると、ページモードでのプリント制御をラインモードのようにして行うことができます。
- LOCATE句に&CR関数を記述した際には、後ろに出力項目をコーディングしても無視されます。また、同様に、&CR関数を単独で記述した場合も、後続の出力項目は無視されます。
- &CR関数を使用するには、事前に¥SYMBOLと¥LABELに制御変数名と分岐ラベルを文字列で設定する必要があります。制御変数はページバッファ内の現在の行位置を記憶する変数名を、また分岐ラベルは改ページ時のヘッダー処理のサブルーチンを指定します。
- &CR関数を検出する度に、¥SYMBOLで指定された制御変数の値をプラス1します。&CR関数が検出された時、制御変数の値がゼロもしくは51以上である場合、¥LABELで指定された分岐ラベルへ分岐します。
- 分岐ラベルで指定された場所から、プリント制御のサブルーチンがコーディングされていなければなりません。また、このサブルーチンの最後はRETURN文でなければなりません。
- &CR関数で制御変数がプラス1された結果、制御変数の値が51を超えている場合、分岐ラベルで指定されたサブルーチンへ分岐される前にHARDCPY文が実行されます。但し、&CR関数が検出されたとき、制御変数がゼロであった場合は、このHARDCPY文は実行されずにサブルーチンへ分岐します。サブルーチンへ分岐した時、ページバッファはイレーズされた状態になっています。
- 分岐ラベルで指定されたサブルーチンでは、制御変数の値を初期化すると同時に、サブヘッダー・フッターの設定を行うことができます。サブヘッダーとはページバッファの上部の特定行に表示する、ページ制御のためのラベルです。また、フッターとは、ページバッファの53行目に表示する任意の文字列のことです。
- 分岐ラベルで指定されたサブルーチン内でページバッファへデータを転送しても、ページバッファは初期値のままであると判断されます。このため、このサブルーチン以外の場所でPRINT LOCATE文が実行されていなければ、HARDCPY文でページバッファの内容をプリントすることはできません。

## 【記述例】

```
{  
$SYMBOL='PRTLINE'  
$LABEL='SUB' PRTLINE=0  
DO I=1 TO LIMIT  
    PRINT LOCATE(&CR)  
    PRINT LOCATE(*), 'LINE POSITION =', I  
}  
CONTINUE  
}  
SUB PRINT LOCATE(1,1), 'MESSAGE ON HEADER LINE'  
PRINT LOCATE(53,1), 'FOOT MESSAGE'  
PRTLINE=2  
PRINT LOCATE(PRTLINE, 1)  
RETURN
```



(注1)ユーザ域の1行目  
(注2)ユーザ域の53行目

(C) I I M CORP. 1987-1992  
ES/1 NEO MF SERIES  
MESSAGE ON HEADER LINE 注1  
LINE POSITION 1  
LINE POSITION 2  
~ (プリントファイル)  
FOOT MESSAGE 注2

## &DBCS関数

### 【機能】

PRINT文もしくはPRINT LOCATE文で出力される2バイト・コード(漢字コード)をプリンターへ出力できるコード体系への変換を指示します。

### 【形式】

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	PRINT	&DBCS (制御値)

### 【説明】

- PRINT文では、日本語を出力するためにJISの漢字コードを文字列として指定(コーディング)することができます。但し、SHELLプラットフォームではIBMの漢字コードだけをサポート(コーディングすることを許す)しています。
- 富士通や日立、NECが規定するの漢字コードは、一部の特殊文字のコードが独自に規定されたものであり、互換性がありません。また、シフトコードは各メーカーで独自のコードが割り当てられています。
- &DBCS関数では、SHELLプラットフォームで実行されるプログラムが出力するIBMの漢字コードをプリンターへ出力するために、コード変換するテーブルを制御値により指定します。
  - 制御値 = “1” : IBMの漢字コードがそのまま出力されます。
  - “2” : 富士通の漢字コードへ変換された後、出力されます。
  - “3” : 日立の漢字コードへ変換された後、出力されます。
  - “4” : NECの漢字コードへ変換された後、出力されます。
- また、制御値の指定がない場合は、IBMの漢字コードとなります。
- 変換されるのは、シフトコードと第一水準および第二水準の漢字コードです。
- この&DBCS関数で変換テーブルを指定する場合、プリンターが受け付ける漢字コードの変換テーブルを指定して下さい。決して、オペレーティング・システムの種類を指定するのではありません。例えば、IBMシステムに富士通のプリンターが接続され、その富士通プリンターへ漢字コードを出力する際には、&DBCS関数を2に指定して下さい。

### 【記述例】

```

{
IF IBM=1 THEN ;
PRINT &DBCS(1)
IF FUJITSU=1 OR HITACHI=1 OR NEC=1 THEN ;
  PRINT 'ERROR'
ENDIF
ELSE ;
  IF FUJITSU=1 THEN ;
    PRINT &DBCS(2)
  IF HITACHI=1 OR NEC=1 THEN ;
    PRINT 'ERROR'
  ENDIF
  ELSE ;
    IF HITACHI=1 THEN ;
      PRINT &DBCS(3)
      IF NEC=1 THEN;
        PRINT 'ERROR'
      ENDIF
      ELSE ;
        IF NEC=1 THEN ;
          PRINT &DBCS(4)
        ENDIF
      ENDIF
    ENDIF
}

```

## ERASE文

### 【機能】

ERASE文は、ページバッファを初期化します。

### 【形式】

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	ERASE	

### 【説明】

- ページバッファ内のデータを、全てスペースにします。
- プログラムの開始時には、ページバッファはイレーズされた状態になっています。
- ページバッファがイレーズされた状態で、HARDCPY文を実行しても、プリントファイルの出力は行われません。

### 【記述例】

```
CLEAR
PRINT ERROR, DATA
ERASE
PRINT DATA
HARDCPY
```

## HARDCPY文

### 【機能】

HARDCPY文は、ページバッファの内容をプリントファイルへ出力します。

### 【形式】

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	HARDCPY	

### 【説明】

- ページバッファ内にプリントすべきデータがある場合、それらのデータをプリントファイルへ出力します。
- ページバッファの出力で一つのページを専有します。また、そのページのタイトルやヘッダのデータは、TITLE文やHEADER文、若しくは&TITLE関数や&HEADER関数で指定されたデータが使用されます。
- HARDCPY文を実行することにより、ページバッファはイレーズされます。

### 【記述例】

```
CLEAR
PRINT DATA
HARDCPY
```

**HEADER文****【機能】**

HEADER文は、プリントファイルのタイトル行とユーザ域の間の見出し(サブタイトル)を指定します。

**【形式】**

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	HEADER	' 文字列'

**【説明】**

- プリントファイルの各ページにある、タイトル行とユーザ域の間にあるヘッダーデータを指定します。
- HEADER文の後にPRINT文が実行されると、改ページ動作を行ったあと、プリント動作が行われます。
- オペランドで指定された文字列がヘッダーデータ領域の長さに足らない場合、残りの領域にはスペースコードが追加されます。

**【記述例】**

```
{  
HEADER 'CAPACITY MANAGEMENT REPORT (PART 1)'  
}
```

(C) I I M CORP. 1987-1992 ES/1 NEO MF SERIES	EXPERT SYSTEM / ONE ***** CAPACITY MANAGEMENT REPORT (PART (プリントファイル)
---	---

## &HEADER関数

### 【機能】

PRINT文で&HEADER関数を指定することにより、プリントファイルのタイトル行とユーザ域の間の見出し(サブタイトル)を指定します。

### 【形式】

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	PRINT	[出力項目, ---, ] &HEADER

### 【説明】

- 現在のラインバッファの内容を、プリントファイルの各ページにあるタイトル行とユーザ域の間のヘッダーデータとして使用します。
- HEADER文では、ヘッダーデータとして変数を指定することはできません。このため、変数をヘッダーデータに使用する場合には、この&HEADER関数を使用して下さい。
- &HEADER関数を使用してヘッダーデータを指定しても、改ページ動作などは行われません。次に改ページが行われた以降、もしくは次にHARDCPY文が実行された時、指定されたヘッダーデータがプリントされます。

### 【記述例】

```

PRINT 'CAPACITY MANAGEMENT REPORT', PRINT '(PART 1)', &HEADER
    }
```

(C) IBM CORP. 1987-1992 ES/1 NEO MF SERIES	EXPERT SYSTEM / ONE ***** CAPACITY MANAGEMENT REPORT (PART (プリントファイル)
---	---

## &LINE関数

### 【機能】

PRINT文で制御するプリントファイルの1ページの行数を制御します。

### 【形式】

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	PRINT	&LINE ( <u>53</u>   61)

### 【説明】

- プリントファイルの1ページに収納可能な行数を変更します。省略値は53行です。

**&NEWLINE関数****【機能】**

PRINT LOCATE文でページモードの制御を行う場合に、いかにもラインモードのようなプリント制御を可能にします。

**【形式】**

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	PRINT	LOCATE (&NEWLINE (制御変数), 分岐ラベル)

**【説明】**

- &NEWLINE関数を使用すると、ページモードでのプリント制御をラインモードのようにして行うことができます。
- &NEWLINE関数では、制御変数名と分岐ラベルを文字列で指定します。制御変数はページバッファ内の現在の行位置を記憶する変数名を、また分岐ラベルは改ページ時のヘッダー処理のサブルーチンを指定します。
- &NEWLINE関数を検出する度に、制御変数の値をプラス1します。&NEWLINE関数が検出された時、制御変数の値がゼロもしくは51以上である場合、指定された分岐ラベルへ分岐します。
- 分岐ラベルで指定された場所から、プリント制御のサブルーチンがコーディングされていなければなりません。また、このサブルーチンの最後はRETURN文でなければなりません。
- &NEWLINE関数で制御変数がプラス1された結果、制御変数の値が51を超えている場合、分岐ラベルで指定されたサブルーチンへ分岐される前にHARDCPY文が実行されます。但し、&NEWLINE関数が検出されたとき、制御変数がゼロであった場合は、このHARDCPY文は実行されずにサブルーチンへ分岐します。サブルーチンへ分岐した時、ページバッファはイレーズされた状態になっています。
- 分岐ラベルで指定されたサブルーチンでは、制御変数の値を初期化すると同時に、サブヘッダーやフッターの設定を行うことができます。サブヘッダーとはページバッファの上部の特定行に表示する、ページ制御のためのラベルです。また、フッターとは、ページバッファの53行目に表示する任意の文字列のことです。
- &NEWLINE関数を使用する替わりに、制御変数名を\$SYMBOLへ、また分岐ラベルを\$LABELへ設定し、&CR関数を使用することにより、同じ機能を使用することができます。
- 分岐ラベルで指定されたサブルーチン内でページバッファへデータを転送しても、ページバッファは初期値のままであると判断されます。このため、このサブルーチン以外の場所でPRINT LOCATE文が実行されていなければ、HARDCPY文でページバッファの内容をプリントすることはできません。

## 【記述例】

```
{  
PRTLINE=0  
DO I=1 TO LIMIT  
    PRINT LOCATE(&NEWLINE(PRTLINE), SUB)  
    PRINT LOCATE(*), 'LINE POSITION =', I  
}  
CONTINUE  
{  
SUB PRINT LOCATE(1, 1), 'MESSAGE ON HEADER LINE'  
PRINT LOCATE(53, 1), 'FOOT MESSAGE'  
PRTLINE=2  
PRINT LOCATE(PRTLINE, 1)  
RETURN
```



(注1)ユーザ域の1行目  
(注2)ユーザ域の53行目

(C) I I M CORP. 1987-1992  
ES/1 NEO MF SERIES  
MESSAGE ON HEADER LINE 注1  
LINE POSITION 1  
LINE POSITION 2  
FOOT MESSAGE 注2

(プリントファイル)

## PLOT文

### 【機能】

PLOT文は、プリントファイルのページバッファに、指定された配列要素の値を用いてXYプロット・グラフを作成します。この際、XYプロット・グラフのスケール軸の作成には、SCREEN文を使用してください。又、作成されたプロット・グラフをプリントファイルにプリントする場合には、HARDCPY文を使用してください。

### 【形式】

ラベル	オペレーション	オペランド
〔ラベル名〕	PLOT	添字付数値変数1 ( $\alpha$ , $\beta$ ) , 添字付数値変数2 (*) , マーク文字 [, REF=リファレンス値] [, STOP]

### 【説明】

- PLOT文は、指定された二つの配列要素群を使用して、XYプロット・グラフを作成します。
- PLOT文で作成されるプロット・グラフのスケールを描くために、SCREEN文が用意されています。その詳細については、SCREEN文のPLOT機能の説明を参照してください。
- PLOT文を実行する前に、X軸の最小値と最大値を $\$XMIN$ と $\$XMAX$ に、またY軸の最小値と最大値を $\$YMIN$ と $\$YMAX$ にセットしておく必要があります。
- XYプロット・グラフの座標位置を計算するために、X軸の値を添字付数値変数1 から、またY軸の値を添字付変数2 から求めます。
- 対象の配列要素群は、指定された変数名の配列位置  $\alpha$  から  $\beta$  です。
- 指定された添字付数値変数の配列要素に欠損値を検出すると、その配列位置のデータを無視してプロット・グラフを作成します。
- マーク文字では、グラフ作成で使用する表示記号を字列定数や文字列変数で指定します。指定された文字列の先頭の1文字を表示記号として使用します。
- REFオペランドでリファレンス値が指定されていれば、対応するY座標位置にリファレンスライン(破線の横棒)を引きます。但し、リファレンス値が $\$YMIN$ と $\$YMAX$ の範囲外であれば、リファレンスラインは引かれません。
- STOPオペランドが指定されていれば、配列要素の値がそれぞれの最小値( $\$XMIN$ または $\$YMIN$ )以下であったり、最大値( $\$XMAX$ または $\$YMAX$ )以上であればエラーとなります。
- ページバッファに作成されたXYプロット・グラフをプリントファイルへ出力するには、HARDCPY文を使用してください。

### 【記述例】

```
{
DIM X (3), Y (3)
}
START=1
END=3
GROUPSET 0, $XMIN, $YMIN
GROUPSET 100, $XMAX, $YMAX
SCREEN PLOT
{
PLOT X (START, END), Y (*), | * |
}
HARDCPY
}
```

**PRINT文****【機能】**

PRINT文は、ラインモードでデータをプリントファイルへ出力します。

**【形式】**

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	PRINT	出力項目 [, 一一一出力項目] [出力区切り]

**【説明】**

- この形式では、全ての出力項目をラインバッファへ転送します。
- 出力項目と出力項目の間には、1つのスペースコードが挿入されます。
- 出力区切りはカンマ(,)であり、PRINT文のオペランドの最後にカンマが記述されるとラインバッファの内容はプリントされません。
- ラインバッファにデータが格納されているときにPRINT文が実行されると、前のデータの後に新たなデータが転送されます。
- ラインバッファが満杯になるか、出力区切りのないPRINT文が実行されると、ラインバッファの内容がプリントファイルへ出力されます。

**【記述例】**

```

A=100
PRINT 'A =' , A,
PRINT 'ZZZ'
      }
```

A = 100 ZZZ  
 (プリントファイル)

## & FORM関数

### 【機能】

&FORM関数は、出力項目の編集方式を指定します。

### 【形式】

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	PRINT	[出力項目, ---] & FORM ( $\alpha$ , $\beta$ , $\gamma$ ), 出力項目 [, ---出力項目] , & CR

### 【説明】

- &FORM関数では、数値の出力項目の整数部や小数部の桁数などを指定します。文字列の出力項目では、表示桁数などを指定します。また、出力項目のデータ表示の位置指定なども指定できます。
- &FORM句で編集形式を指定しますが、その定義は&FORM句の後続の全ての出力項目に対して有効となります。また、&FORM句はPRINT文やPRINT LOCATE文もしくはPRINT USING文のどこにでも記述できます。
- &FORM句の後続の出力項目が数値表示である場合、&FORM句では整数部と小数部の桁数を指定します。整数部の桁数を&FORM句の第一オペランド( $\alpha$ )で、また小数部の桁数を第二オペランド( $\beta$ )で指定します。実際のプリントに要する文字数は整数部と小数部の合計の桁数に一文字(小数点)を加えたものです。但し、小数部の桁数がゼロである場合は、プリントに要する文字数は整数部の桁数に等しくなります。
- 数値表示を行う場合、第三オペランド( $\gamma$ )でNOもしくはREVERSEを指定することができます。NOが指定された場合、整数部のゼロ印刷抑制(ゼロサプレス)を行いません。また、REVERSEが指定された場合、数値を左づめで表示します。
- 数値表示を行う場合で、&FORM句で指定された桁数以上の表示域がなく数値が表せない場合、千の桁を「K」で、また百万の桁を「M」などで表します。それでも値の表示が行えなければ、表示桁数一杯に「?」を表示します。
- &FORM句の後続の出力項目が文字表示である場合、&FORM句では、プリントするべき文字列の桁数を指定します。この際の文字列長の計算は、&FORM句の第一オペランド( $\alpha$ )と第二オペランド( $\beta$ )で指定された値の合計に1を足した値となります。但し、第二オペランドの値がゼロの場合、第一オペランドで指定された値がプリントする文字長となります。
- 文字列表示を行う場合、第三オペランド( $\gamma$ )でREVERSEを指定することができます。REVERSEが指定された場合、文字列を右づめで表示します。また、数値表示の際に有効なNOを指定することもできますが、文字列表示ではNOの指定は無視されます。
- &FORM句の指定を解除したいときには、&FORM(0, 0)を指定します。

### 【記述例】

Aは形式指定なし、B、C、E、Fは3桁で、Dは4桁で表示される。

```
A=10
B=100
C=1000
D=10000
E=1000000
F=10000000
```

```
PRINT A, &FORM(3, 0), B, C, USING(4, 0), D, E, F
```

10 100 1K 10K 1M 10M

(プリントファイル)

**PRINT LOCATE文****【機能】**

PRINT LOCATE文は、ページモードでデータをプリントファイルへ出力します。

**【形式】**

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	PRINT	LOCATE ( $\alpha$ . $\beta$ ), 出力項目 [, ——出力項目], [出力区切り] , &CR



$\alpha$ : ページ・バッファの行位置  
 $\beta$ : ページ・バッファの桁位置

**【説明】**

- この形式では、全ての出力項目をページバッファの任意の位置へ転送します。
- LOCATE句では、出力項目を転送すべきページバッファの位置を指定します。行位置は1から53、桁位置は1から130の範囲で指定します。
- LOCATE句以降の出力項目は、総てページバッファへ転送されます。この際、出力項目と出力項目の間に1つのスペースコードが挿入されます。
- 以前に実行したPRINT文のLOCATE情報を引き継ぎ使用する場合は、LOCATE(\*)と記述して下さい。また、LOCATE(\*+n)や、LOCATE(\*-n)で、現在のLOCATE情報を基にした偏差を指定することもできます。
- LOCATE句がPRINT文の最初のオペランドとして指定されていない場合、LOCATE句の前に記述された出力項目のデータは、ラインバッファへ転送されます。
- LOCATE句ではページバッファの位置情報以外に&CRをコーディングすることができます。また、出力項目として&CRをコーディングする事も可能です。しかし、&CRをコーディングすると、特別な動作が実行されます。その詳細については、&CR関数の項を参照してください。

**【記述例】**

```

A=100
B='XYZ'
PRINT LOCATE(1,1), 'TOP LINE OF PAGE BUFFER'
PRINT LOCATE(2,1), 'SYMBOL A CONTAINS', A
PRINT LOCATE(*-1), ''
PRINT LOCATE(3,1), 'SYMBOL B CONTAINS', B
PRINT LOCATE(*+10), 'SKIP 10 COLUMNS'
}

```

(C) I I M CORP. 1987-1992 ES/1 NEO MF SERIES TOP LINE OF PAGE BUFFER SYMBOL A CONTAINS 100. SYMBOL B CONTAINS XYZ	TITLE FIELD HEADER FIELD SKIP 10 COLUMNS (プリントファイル)
---	--

## PRINT USING文

## 【機能】

PRINT USING文は、出力項目の編集方式を指定します。

## 【形式】

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	PRINT	[出力項目, ---] USING ( $\alpha$ , $\beta$ , $\gamma$ ), 出力項目 [, ---出力項目] , & C R

## 【説明】

- PRINT USING文では、数値の出力項目の整数部や小数部の桁数などを指定します。文字列の出力項目では、表示桁数などを指定します。又、出力項目のデータ表示の位置指定なども指定できます。
- USING句で編集形式を指定しますが、その定義はUSING句の直後に現れる出力項目に対してのみ有効となります。また、USING句はPRINT文やPRINT LOCATE文のどこにでも記述できます。
- USING句の直後の出力項目が数値表示である場合、USING句では整数部と小数部の桁数を指定します。整数部の桁数をUSING句の第一オペランド( $\alpha$ )で、また小数部の桁数を第二オペランド( $\beta$ )で指定します。実際のプリントに要する文字数は、整数部と小数部の合計の桁数に一文字(小数点)を加えたものです。但し、小数部の桁数がゼロである場合は、プリントに要する文字数は整数部の桁数に等しくなります。
- 数値表示を行う場合、第三オペランド( $\gamma$ )で以下の指定をすることができます。

	数値	文字
Y E S	ゼロ印刷抑制を行う	ゼロ印刷抑制を行う
N O	ゼロ印刷抑制を行わない	ゼロ印刷抑制を行う
R E V E R S E	左づめで表示	右づめで表示
L E F T	左づめで表示	右づめで表示
R I G H T	右づめで表示	左づめで表示

- 数値表示を行う場合で、USING句で指定された桁数以上の表示域がなく数値が表せない場合、千の桁を「K」で、また百万の桁を「M」などで表します。それでも値の表示が行えなければ、表示桁数一杯に「?」を表示します。
- USING句の直後の出力項目が文字表示である場合、USING句では、プリントすべき文字列の桁数を指定します。この際の文字列長の計算は、USING句の第一オペランド( $\alpha$ )と第二オペランド( $\beta$ )で指定された値の合計に1を足した値となります。但し、第二オペランドの値がゼロの場合、第一オペランドで指定された値がプリントする文字長となります。
- 文字列表示を行う場合、第三オペランド( $\gamma$ )でREVERSEを指定することができます。REVERSEが指定された場合、文字列を右づめで表示します。また、数値表示の際に有効なNOを指定することもできますが、文字列表示ではNOの指定は無視されます。

## 【記述例】

```
{  
A=100  
B='XYZ'  
PRINT USING(5,2), A  
PRINT USING(5,2, NO), A  
PRINT USING(5,2, REVERSE), A  
PRINT USING(6,0), B  
PRINT USING(6,0, REVERSE), B  
}
```

```
100.00  
00100.00  
100.00  
XYZ  
XYZ
```

(プリントファイル)

**SCREEN文****【機能】**

SCREEN文は、プリント・バッファを初期化すると同時に、グラフ出力のためのスケール軸を設定します。

**【形式】**

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	SCREEN	BAR [, 開始桁, グラフ長] または PLOT

**【説明】**

- SCREEN文では、各種のグラフ作成を容易にするために、ページバッファを初期化すると同時にスケール軸を設定します。
- BARが指定されると、横棒グラフを作成するためのスケール軸を作成します。
- BAR指定を行うときには、スケールの位置を指定することができます。開始桁で、各行の何桁目からスケールを開始するかを指定します。また、グラフ長で、各行で表示する横棒グラフの最大長を桁数で指定します。省略値は、開始桁が10、グラフ長が101です。
- BAR指定で作成されるスケールでは、プリント・バッファの3行目から51行目までを横棒グラフの領域とします。
- BAR指定でスケールを作成する際、そのスケールの最小値と最大値を、事前に¥XMINと¥XMAXにセットしておく必要があります。
- PLOTが指定されると、PLOT文で作成するXYプロット・グラフのスケール軸を作成します。
- PLOT指定で作成される、スケールの位置を変更することはできません。
- PLOT指定でスケールを作成する際、そのスケールの最小値や最大値を事前に定められた変数へセットしておく必要があります。この目的で使用される変数には、次のものがあります。

¥XMIN と ¥XMAX . . . X 軸の最小値と最大値

¥YMIN と ¥YMAX . . . Y 軸の最小値と最大値

¥ZMIN と ¥ZMAX . . . Z 軸の最小値と最大値

X軸とは横軸を、Y軸とは左側の縦軸を、またZ軸とは右側の縦軸を意味します。

もし、¥ZMINと¥ZMAXが同じ値であれば、Z軸のスケールは作成されません。

- PLOT指定で作成されたスケールを利用して、XYプロット・グラフを作成するためにPLOT文が用意されています。詳しくは、PLOT文の説明を参照して下さい。

**【記述例】**

(その1)

```

  {
SCREEN BAR
  }
```

(その2)

```

  {
GROUPSET 0, ¥XMIN, ¥YMIN
GROUPSET 100, ¥XMAX, ¥YMAX
  }
SCREEN PLOT
  }
```

## &STRING関数

### 【機能】

PRINT文やPRINT LOCATE文で&STRING関数を使用することにより、同一文字を反復させる出力項目の指定が容易になります。

### 【形式】

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	PRINT	[出力項目,] &STRING ( $\alpha$ , $\beta$ ) [出力項目, -----]

### 【説明】

- &STRING関数では、指定された1文字を指定された回数だけ反復させた出力項目の作成などを行います。
- 反復させる文字を&STRING関数の第一オペランド( $\alpha$ )で、また反復回数を第二オペランド( $\beta$ )で指定します。作成される出力項目の長さは&STRING関数の第二オペランドで指定された値と同じになります。
- 反復させる文字を文字列定数で直接指定する場合は、引用符(クォーテーション)で文字を囲んで下さい。この場合、一文字以上の文字列定数が指定されても、最初の一文字が反復対象となります。
- 反復される文字が変数名で指定された場合、その変数に記憶された文字列の先頭位置の文字が反復の対象となります。尚、指定された変数に文字列以外が記憶されている場合、&STRING関数はエラーとなります。
- 指定された文字の反復回数は、&STRING関数の第二オペランドで指定します。この反復回数は0から250までの値でなければなりません。250以上の値が指定されても、文字の反復は250回以上行われません。
- &STRING関数の第一オペランド( $\alpha$ )でCONTROLと指定された場合、以降の&STRING関数で作成される文字列の作成方法を制御します。
- CONTROL指定の&STRING関数の第二オペランド( $\beta$ )がFULLであれば、以降の&STRING関数では指定された反復文字を指定された反復回数だけ反復します。もし、第二オペランドにLASTが指定されると、以降の&STRING関数では反復回数-1の回数だけスペースコードを反復した後に反復文字を一文字分だけ挿入します。
- CONTROL指定の&STRING関数で指定された反復文字の作成方法は、つぎのCONTROL指定の&STRING関数が実行されるまで有効です。尚、プログラムの実行開始時には、CONTROLでFULL指定がなされた状態となっています。

### 【記述例】

```

    }
    PRINT &STRING(CONTROL, FULL)
    DO I=1 TO 5
        PRINT &STRING('*', I)
    CONTINUE
    {

```

```

*
**
***
****
*****

```

(プリントファイル)

**&SWITCH関数****【機能】**

PRINT文で&SWITH関数を指定することにより、プリントファイルの各ページの見出し行に指定された文字列を出力します。

**【形式】**

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	PRINT	出力項目, &SWITCH

**【説明】**

- 現在のラインバッファの内容を、プリントファイルの各ページの見出し行に出力します。
- 出力できる文字列は最大34文字です。それ以上指定した場合、先頭から34文字分が出力されます。
- この指定は、&HEADER関数でサブタイトルを指定した時にはじめて有効となります。

**【記述例】**

```

{ PRINT 'PSW=SW01', &SWITCH
  }
```

(C) I I M CORP. 1987-2000  
PSW=SW01

(プリントファイル)

(C) I I M CORP. 1987-2000  
ES/1 NEO MF SERIES

&SWITCH関数の指定がない場合

**TITLE文****【機能】**

TITLE文は、プリントファイルの各ページの先頭行にある見出しを指定します。

**【形式】**

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	TITLE	' 文字列'

**【説明】**

- プリントファイルの各ページにある、タイトルデータを指定します。
- TITLE文の後にPRINT文が実行されると、改ページ動作を行ったあと、プリント動作が行われます。
- オペランドで指定された文字列がタイトルデータ領域の長さに足らない場合、残りの領域にはスペースコードが追加されます。

**【記述例】**

```
{  
TITLE 'SYSTEM ACTIVITY REPORT'  
}
```

(C) I I M CORP. 1987-1992 ES/1 NEO MF SERIES	SYSTEM ACTIVITY REPORT CAPACITY MANAGEMENT REPORT (PART (プリントファイル)
---	--

## &TITLE関数

### 【機能】

PRINT文で&TITLE関数を指定することにより、プリントファイルの各ページの先頭行の見出しを指定します。

### 【形式】

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	PRINT	[出力項目, 一一一, ] &TITLE

### 【説明】

- 現在のラインバッファの内容を、プリントファイルの各ページのタイトルデータとして使用します。
- TITLE文では、タイトルデータとして変数を指定することはできません。このため、変数をタイトルデータに使用する場合には、この&TITLE関数を使用して下さい。
- &TITLE関数を使用してタイトルデータを指定しても、改ページ動作などは行われません。次に改ページが行われた以降、もしくは次のHARDCPY文が実行された時、指定されたタイトルデータがプリントされます。

### 【記述例】

```

{
PRINT 'SYSTEM ACTIVITY REPORT',
PRINT '(',&YMD(TODAY),')',&TITLE
}

```

(C) I I M CORP. 1987-1992 ES/1 NEO MF SERIES	SYSTEM ACTIVITY REPORT ( 94/11/1 CAPACITY MANAGEMENT REPORT (PART (プリントファイル)
---	--

## 1.5 拡張入出力文

拡張入出力文では、OSのシステム管理情報が格納されたSMFもしくはSMSファイルの参照や、PC(パソコン・コンピュータ)へのデータ転送ファイル作成などを行います。拡張入出力ではプリントファイル文と異なり、ファイルという独立した単位で入出力動作が管理されています。ファイルに対する入出力では、次のような点に注意してください。

- ファイルのOPENとCLOSE
- ファイル名
- レコード

拡張入出力文では、ファイルに対する入出力をを行う前にOPEN文によりファイルの使用宣言を行います。この使用宣言を行わなければ、そのファイルをアクセスすることはできません。また、使用が終了したファイルに対してはCLOSE文により使用宣言を解いて下さい。ファイルの使用宣言が解除された以降、そのファイルをアクセスすることはできません。

拡張入出力文でアクセスを行うファイルには、ファイル名という固有の名称を与えて識別します。このファイル名には#RMFや#UT1などがあります。ファイル名は、予め定められた以外のものを使用することはできません。SHELLプラットフォーム言語で記述されたプログラムの実行を制御するCPESHELLプログラムは、このファイル名で対応するDD名や処理内容を決定します。

ファイルの入出力はレコード単位で行います。SMFやSMSファイルをアクセスする場合にはシステム管理レコードを一つずつ処理します。また、PCへ転送するためのデータ作成も1レコードずつ行われます。

SHELLプラットフォームで使用可能な拡張入出力文には、次のようなものがあります。

ALLOC	OPEN
CARDGET	PUT
CLOSE	PUT USING
GETN	RMF
MAGIC	
MASK	

## ALLOC文

### 【機能】

ALLOC文は、拡張入出力文で使用するファイルとOSデータセットの関連付けを行います。

### 【形式】

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	ALLOC	#ファイル名, OSデータセット名, 排他制御

### 【説明】

- ALLOC文では、拡張入出力文で使用するOSデータセットをダイナミック・アロケーション機能により、指定ファイルのDD名で割り当てます。ALLOC文が実行される前に該当ファイルにOSデータセットが割り当てられていれば、そのOSデータセットは開放(デアロケーション)されます。
- このALLOC文で指定できるファイル名は#RMFと#UT1です。#RMFは入力用であり、#UT1は出力用です。ALLOC文では、新規のOSデータセットを割り当てるとはできません。このため、指定されたOSデータセットは既に存在していなければなりません。
- OSデータセット名は文字列定数や文字列変数で記述します。OSデータセット名を文字列定数で記述する場合には、最大44文字までのデータセット名を指定できます。また、文字列変数を使用する場合、データセット名の最大有効文字数は15文字です。
- 排他制御のオプションでは、OLDとSHRの2つが指定できます。OLDはSHELLプラットフォームで作成されたプログラムが指定したOSデータセットを独占的に使用することを宣言します。SHRは、他のプログラムとOSデータセットを共用できることを宣言します。
- ALLOC文により実行されたダイナミック・アロケーションが失敗した場合、プログラムは異常終了します。このため、OSデータセットが実在するか否かが定かでない場合、ERROR文を使用してエラー処理などを行われることをお勧めします。

### 【記述例】

```

DATASET =' SYS1.SMF.SAVE '
ALLOC #RMF, DATASET, SHR
{
  ALLOC #RMF, ' SYS1.SMF.SAVE.LASTWEEK' , SHR
}

```

**CARDGET文****【機能】**

CARDGET文では、CARDIN DD名で指定されたファイルから80バイトのカードイメージのデータを読み込み、そのカードに記述された数値または文字列を対応する変数へセットします。

**【形式】**

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	CARDGET	変数1 [ , 変数2 , . . . , 変数n ]

**【説明】**

- #CARDファイルから1枚のカードを読み込み、そのカードで指定された数値または文字列を対応する変数へセットします。
- # CARDファイルから読み込む値は、数値または文字列でなりません。また、値と値の間は1つ以上のブランク(‘ ’)を挿入しなければなりません。
- 文字列を指定する場合は、必ず文字列を引用符(クォーテーション)で囲む必要があります。また、文字列にブランクを含めることはできません。
- カードで指定された値はカラム1から検索され、最初の値が変数1へ、次の値が変数2へセットされます。CARDGET文に指定された変数の数以上の値がカードに記述されていると、セットする変数がないため、それらの値を無視します。また、カードに記述された値の数がCARDGET文で指定された変数の数よりも少ないと、セットする値がない変数には欠損値がセットされます。
- このCARDGET文を実行する前に、#CARDファイルをOPENする必要があります。また、#CARDファイルの使用が完了した時には、CLOSEする必要があります。

**【記述例】**

(例 1)

```
//CARDIN DD *
0900 0.4 10.0
1000 10.2 11.5
1100 34.9 22.2

LOOP OPEN #CARD, INPUT, EODAD=EOR
    CARDGET A, B, C
    PRINT USING(4.0, NO), A,
    PRINT USING(3.1), B,
    PRINT USING(2.1), C
    GOTO LOOP
*
EOR CLOSE, #CARD
END
```

0900	0.4 10.0
1000	10.2 11.5
1100	34.9 22.2

```
(例 2) //CARDIN DD *
' IIM CORPORATION' 'TEL' 123 456 789

LOOP OPEN #CARD, INPUT, EODAD=EOR
CARDGET A, B, C, D, E
PRINT LOCATE(1, 1), A,
PRINT LOCATE(*), B,
PRINT LOCATE(*-1), ..
PRINT LOCATE(*-1), USING(2.0, NO), C,
PRINT LOCATE(*-1), '_',
PRINT LOCATE(*-1), D,
PRINT LOCATE(*-1), '_',
PRINT LOCATE(*-1), E
GOTO LOOP
*
EOR HARDCPY
CLOSE #CARD
END
```



(注)  
ページモードでプリント  
します。

```
IIM CORPORATION TEL:123-456-789
```

## CLOSE文

### 【機能】

CLOSE文は、ファイルの使用宣言を解きます。

### 【形式】

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	CLOSE	#ファイル名

### 【説明】

- ファイル名はファイルを識別するための名前です。SHELLプラットフォームでは、次のファイル名を指定することができます。
  - #RMF -- SMFやSMSなどのシステム管理情報ファイル
  - #UT1 -- PCへのデータ転送用の出力ファイル
  - #CARD -- 80バイトのCARDイメージデータ
- CLOSE文を実行する前には、そのファイルを指定したOPEN文が正常に実行されていなければなりません。また、ファイルの使用を完了したときには、必ずCLOSE文を実行しなければなりません。
- CLOSE文を実行せずにプログラムを終了した場合、出力用のファイルに関しては、その出力レコードの内容は保証できません。

### 【記述例】

```

    }
LOOP  OPEN #RMF, INPUT, EODAD=END
      RMF
    }
      GOTO LOOP
END   CLOSE #RMF
    }
  
```

**GETN文****【機能】**

GETN文は、読み込んだレコードから任意のフィールドの値を取り出し、指定された変数へセットします。

**【形式】**

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	GETN	オフセット, 長さ, 形式, 変数名 [, オフセット, . . . , 変数名]

**【説明】**

- 扱えるレコードは、SMF/SMSもしくはES/1 NEO共通形式のレコードです。
  - オフセットには、読み込まれたレコードのフィールド位置を指定します。
  - 長さには、処理すべきフィールドのバイト数を指定します。
  - 形式には、処理するフィールドのデータ形式を指定します。
- 指定できる形式には以下のものがあります。

B	... バイナリ
B P	... バイナリ (サインなし)
D	... 十進
C	... 文字
C S	... 文字 (空白を含む)
F	... 浮動小数点
P	... パック十進数
P N S	... パック十進数 (サインなし)
T O D 1 6	... TOD形式の時刻値
U C A S E	... 文字 (全てを大文字に変換)

○B、BPはフィールドに格納された値をバイナリとして、D、Fはフィールドに格納された値を浮動小数点として、またP、PNSはフィールドに格納された値を10進数として取り扱います。

○変数に読み込まれた値の形式は、全て浮動小数点形式となります。

○TOD16はTOD値を処理する特殊な形式です。読み込まれた値は通算マイクロ秒です。この値からCYYD DDを求めるには&TODATE、一日の通算秒数を求めるには&TIMEODを使用してください。

- 変数名には、取り出したデータを格納する変数名を指定します。
- オフセット～変数名を1セットとして、一行に連続して指定することができます。

**【記述例】**

```

RMF
{ GETN 42, 1, B, SMF4STN
}

```

**【注意】**

- この機能はACOS-4システムで動作するCPESHELLでは使用できません。

**MAGIC文****【機能】**

MAGIC文では、RMF文で読み込むべきシステム管理レコードの選択条件を設定します。

**【形式】**

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	MAGIC	[DATE (開始日, 終了日)] [, TIME (開始時刻, 終了時刻)] [, SYSTEM (システム識別記号)] [, EXCLUSIVE (排他制御条件)]

**【説明】**

- MAGIC文では、RMF文で処理する#RMFファイルのシステム管理レコードの選択条件を指定します。
- DATE句では、読み込むべきシステム管理情報が作成された日付の検査条件を指定します。開始日と終了日はジュリアン暦(YYDDD)で指定します。グレゴリアン暦(YYMMDD)で指定する場合には、&JULIAN関数を使用してください。省略値は、1900年1月1日から2999年12月31日です。
- TIME句では、読み込むべきシステム管理情報が作成された時刻の検査条件を指定します。開始時刻と終了時刻は時分(HHMM)で指定します。省略値は、0時から24時です。
- SYSTEM句では、読み込むべきシステム管理情報が作成されたシステムのシステム識別記号を指定します。システム識別記号の検査を行いたくない場合、システム識別記号として「\*ALL」を指定してください。省略値は、「\*ALL」です。
- EXCLUSIVE句では、DATE句で指定された一連の読み込み対象日の内、特定の日を除外したい場合に、その排他制御条件を指定します。この排他制御条件では、曜日(SUN, MON, TUE, WED, THU, FRI, SAT)と日付(1から31)を指定します。
- MAGIC文を実行するには、ES/1 NEO MF-MAGICのライセンスが必要となります。

**【記述例】**

```

{
  MAGIC DATE (&JULIAN(900101), &JULIAN(900131))
}
MAGIC TIME (0900, 1700)
{
  MAGIC SYSTEM (IIMO)
}
MAGIC EXCLUSIVE (SUN, SAT, 1, 5, 10-19)
}

```

**MASK文****【機能】**

MASK文は、#RMFファイルに記録されているシステム管理レコードの内、RMF文で読み込むべきレコード番号などを指定します。

**【形式】**

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	MASK	[ENABLE (レコード番号, ……)] [, DISABLE (レコード番号, ……)] [, OPTION (オプション)] ※ [, SYSID (システム識別記号)] ※ [, ACCEPT (システム識別記号, ……)] ※ [, JOBNAME (ジョブ名)] ※ [, LOCK (レコード番号, サブレコード番号, ……)] [, UNLOCK (レコード番号, サブレコード番号, ……)]

**【説明】**

- MASK文では、RMF文で処理する#RMFファイルのシステム管理レコードのレコード番号などを指定します。ENABLE句では処理するレコード番号を、またDISABLE句では処理しないレコード番号を指定します。MASK文に複数のENABLEやDISABLE句が指定されている場合、左側に記述されたオペランドの指定が先行します。
- MASK文のENABLE句やDISABLE句で指定できるレコード番号は、添付資料『シンボル・リファレンス』で記述されているものです。また、システム管理レコードの中には、サブレコード番号を持つものがあります。その場合には、“レコード番号. サブレコード番号”と指定することにより、特定のサブレコードの処理のみを行うこともできます。
- 全てのレコード番号を指定する場合、レコード番号の代わりに“ALL”と指定して下さい。プログラム開始時には、全てのレコードが処理対象になっていますので、一旦「DISABLE(ALL)」を記述したあとに、ENABLE句で処理するべきレコード番号を指定して下さい。
- サブレコード番号を持つレコードには、LOCKモードとUNLOCKモードの制御があります。UNLOCKモードは、ENABLE(ALL)やDISABLE(ALL)もしくはレコード番号のみを指定したENABLE、DISABLEで、そのサブレコードの読み込み許可ならびに不許可を制御することができます。また、サブレコード番号を指定したENABLE、DISABLEも有効です。しかし、LOCKモードでは、DISABLE処理は同じですが、ENABLE処理が異なります。LOCKモードのサブレコードでは、サブレコード番号を指定したENABLE、DISABLEの状態を記憶しています。ENABLE(ALL)やレコード番号だけを指定したENABLEが実行されても、該当するサブレコードのENABLE、DISABLEの状態は変化しません。省略値でLOCKモードになっているのは、SMF72の2、3、4とSMF74の2、3、4のサブレコード群です。しかし、その設定を変更する際には、MASK文のLOCK句やUNLOCK句を使用します。また、このLOCK、UNLOCKでは、他のレコードのモードを変更することもできます。
- OPTION句では、RMF文でES／1共通レコード形式データの処理を行う際の条件を設定します。このOPTION句で指定可能なオプションには、次のようなものがあります。尚、プログラムの実行開始時には、「NO CONFIG」と「IOALL」と「AUTOEXPAND」が指定された状態となっています。
 

<b>CONFIG</b>	入出力回数がゼロの装置もSHELLプラットフォームのプログラムに通知する。
<b>NOCONFIG</b>	入出力回数がゼロの装置は無視する。
<b>IOALL</b>	全ての入出力装置の情報をSHELLプラットフォームのプログラムへ通知する。

I O S U M	同じタイプの入出力装置の入出力回数の総数だけをSHELLプラットフォームのプログラムに通知する。
I B M	IBMの情報だけをSHELLプラットフォームのプログラムへ通知する。
M S P	MSPの情報だけをSHELLプラットフォームのプログラムへ通知する。
X S P	XSP／FSPの情報だけをSHELLプラットフォームのプログラムへ通知する。
V O S 3	VOS3の情報だけをSHELLプラットフォームのプログラムへ通知する。
A U T O E X P A N D	入力データ形式をSHELLプラットフォームのプログラムが自動判別する。
N O E X P A N D	入力データが非圧縮形式であることをSHELLプラットフォームのプログラムに通知する。
H Y P E R - P A V	IBMのタイプ78-3を処理した際にHYPER-PAV情報の処理を行う。

- SYSID句では、処理対象をするべきシステム管理レコードが作成されたシステムのシステム識別記号を指定します。ブランクを指定すると、全てのシステム管理レコードが処理対象となります。
- ACCEPT句では、複数のシステム識別記号を指定できます。このACCEPT句で指定されていないシステムのレコードは、無視されます。SYSID句で指定されていなくても、ES／1 NEOが契約されていないシステムのレコードを検出すると、プログラムは異常終了します。この様な場合、処理したい契約されているシステムのシステム識別記号のみをACCEPT句で指定してください。
- JOBNAME句では、特定ジョブに関連したシステム管理レコードを処理したい場合に指定します。このJOBNAME句で文字列変数を使用する場合、その変数に比較制御文字が記憶されれば、その条件に従ったジョブ選択が行われます。

JOBNAME句では、以下の比較制御文字を使用することができます。

?	該当桁の比較を行わない
*	該当桁以降の比較を行わない
+	該当桁が数字（0～9）であるか比較を行う
/	該当桁が文字（A～Z）であるか比較を行う

#### 【記述例】

```

{
MASK DISABLE (ALL), ENABLE (70)
}
MASK ENABLE (70. 2)
{
MASK DISABLE (RMFRECID, RMFSUBID)
}
MASK LOCK (72. 1), UNLOCK (72. 3, 72. 4)

```

#### 【注意】

- ※の指定はACOS-4システムで動作するCPESHELLでは行えません。

**M P U T文****【機能】**

MPUT文は、システムログおよびシステムコンソールへデータを出力します。

**【形式】**

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	MPUT	出力項目 [, 一一一出力項目] [出力区切り] [, DESC=11] [, MCSFLAG=HRDCPY]

**【説明】**

- 出力項目に指定された変数や'で指定された文字列を、システムログおよびシステムコンソールへメッセージとして出力します。
- 変数に文字列を格納する場合、最大文字数は15文字です。  
なお、文字列に空白が含まれていると空白以降は無視されます。
- 出力項目に2バイト文字は使用できません。
- 出力項目に指定された変数が欠損値の場合、'.'で出力します。
- 「DESC=11」を指定すると、重要メッセージとして出力します。(警告色になります)
- 「MCSFLAG=HRDCPY」を指定すると、システムログにのみ出力し、システムコンソールには出力しません。
- USING関数が使用できます。
- 行末に出力区切り(カンマ)が指定されている場合は、継続行ありとみなします。

**【記述例】**

```

MPUT 'ES/1 TEST'
MPUT 'ES/1 TEST1:', 'TEST2'
A= 'ES/1_TEST:'
B=100/3
MPUT A, USING(2,2), B
MPUT 'ES/1 TEST', DESC=11
MPUT 'ES/1 TEST', MCSFLAG=HRDCPY
MPUT 'ES/1 TEST', DESC=11, MCSFLAG=HRDCPY

```

**出力**

ES/1 TEST	
ES/1 TEST1:TEST2	
ES/1_TEST:33.33	
<b>ES/1 TEST</b>	警告メッセージで出力
<b>ES/1 TEST</b>	システムログにのみ出力
<b>ES/1 TEST</b>	警告メッセージで出力、システムログにのみ出力

## OPEN文

### 【機能】

OPEN文は、ファイルの使用宣言を行います。

### 【形式】

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	OPEN	#ファイル名 , オプション [, #UT1オプション] [, EODAD=分岐ラベル]

### 【説明】

- ファイル名はファイルを識別するための名前です。SHELLプラットフォームでは、次のファイル名を指定することができます。
  - #RMF -- SMFやSMSなどのシステム管理情報ファイル
  - #UT1 -- PCへのデータ転送用の出力ファイル
  - #CARD -- 80バイトのCARDイメージデータ
- 同一のファイルを複数回使用する場合、必ずCLOSE文を実行したあとにOPEN文を実行してください。CLOSE文を実行せずに同一ファイルへOPEN文を実行するとエラーとなります。
- オプションには、ファイル名に対応したキーワードなどを指定します。このオプションとファイル名の対応は、次のようになっています。
  - #RMF -- INPUTもしくはREALTIMEを指定する。
  - #UT1 -- OUTPUTを指定する。
  - #CARD -- INPUTを指定する。
- #RMFのOPEN文のオプションでREALTIMEを指定した場合、現在CPESHELLが実行されているシステムがシステム管理レコードを書き込みつつあるVSAMデータセットを直接アクセスできるようにします。この機能は、IBMと富士通の特定のOSで使用することができます。詳細については、別途確認の必要がありますので注意してください。
- OPEN文では、指定されたファイル名を指定されたオプションで処理できるように環境を整えます。この際の、OSデータセット(DD文の名前)とファイル名の対応は、次のようになっています。
  - #RMF -- INPUT
  - #UT1 -- BASICUT1
  - #CARD -- CARDIN
- #RMFのファイルをOPEN文で指定する際には、それらのファイルの最終レコードを処理したあとに分岐すべきルーチンのラベルをEODAD句で指定します。
- EODAD句で指定された分岐ラベルはプログラム内に定義されていなければなりません。又、そのラベルで開始されるルーチンでは、対応するファイルのCLOSE文が実行される必要があります。
- #UT1のOUTPUTを指定する際、#UT1オプションで以下の指定が可能です。(この指定はACOS-4で動作するCPESHELLでは使用できません)
 

NULLKMG -	#UT1デバイスへのPUT文を処理する際、USING句で許されたフィールド長に格納できない値を検出した場合、その旨を伝えるメッセージをSYS PRINTファイルに出力し、そのデータ処理を行わない。
80BYTES -	BASICUT1で作成されるファイルはLRECLが80、BLKSIZEが3280のFB形式となる。以降、#UT1ファイルへのPUT文で出力されたデータは、このカードイメージのファイルへ出力される。この機能とCARDIN機能を利用すれば、ES/1NEOプロセッサで作成したデータを次のステップのES/1NEOプロセッサで取り扱うことができる。

【記述例】

```
    }  
LOOP  OPEN  #RMF, INPUT, EODAD=END  
      RMF  
    }  
    GOTO  LOOP  
END   CLOSE  #RMF  
    }
```

## PUT文

### 【機能】

PUT文は、#UT1ファイルへデータを出力します。

### 【形式】

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	PUT	#UT1, 出力項目 [, 一一一出力項目] [出力区切り]

### 【説明】

- この形式では、全ての出力項目を指定されたファイル(#UT1ファイル)のバッファへ転送します。
- PRINT文と違い、出力項目と出力項目の間にはスペースコードは挿入されません。
- 出力区切りは、カンマ(,)であり、最後にカンマが記述されているとバッファの内容は#UT1ファイルへ出力されません。
- バッファにデータが格納されているときにPUT文が実行されると、前のデータの後に新たなデータが転送されます。
- バッファが満杯になるか、出力区切りのないPUT文が実行されると、バッファの内容が#UT1ファイルへ出力されます。
- OPEN文の#UT1オプションで80BYTESを指定し、PUT文で出力されるデータの有効長が80バイトを越える場合は、エラーとなります。もし、PUT文で出力されるデータの有効長が80バイト以下の場合は、後ろにスペースコードを追加し、80バイトのレコードとして出力されます。
- PUT文で出力する項目の値が欠損であった場合、その項目は0(ゼロ)で出力されます。また、実行前に制御スイッチ\$NULLCNVに1がセットされている場合には、-1で出力されます。

### 【記述例】

```

A=100
{
  PUT #UT1, 'A =' , A
  PUT #UT1, 'ZZZ'
}

```

## PUT USING文

## 【機能】

PUTUSING文は、#UT1ファイルへの出力項目の編集方式を指定します。

## 【形式】

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	PUT	#UT1, [出力項目, ---] USING ( $\alpha$ , $\beta$ , $\gamma$ ), 出力項目 [, ---出力項目]

## 【説明】

- PUT USING文では、数値の出力項目の整数部や小数部の桁数などを指定します。文字列の出力項目では、データ出力の桁数などを指定します。又、出力項目のデータ位置の指定なども指定できます。
- USING句で編集形式を指定しますが、その定義はUSING句の直後に現れる出力項目に対してのみ有効となります。また、USING句はPUT文のどこにでも記述できます。
- USING句の直後の出力項目が数値のデータ出力である場合、USING句では整数部と小数部の桁数を指定します。整数部の桁数をUSING句の第一オペランド( $\alpha$ )で、また小数部の桁数を第二オペランド( $\beta$ )で指定します。実際のデータ出力に要する文字数は、整数部と小数部の合計の桁数に一字(小数点)を加えたものです。但し、小数部の桁数がゼロである場合は、データ出力に要する文字数は整数部の桁数に等しくなります。
- 数値表示を行う場合、第三オペランド( $\gamma$ )でYESもしくはREVERSEを指定することができます。YESが指定された場合、整数部のゼロ印刷抑制(ゼロサプレス)を行います。また、REVERSEが指定された場合、数値を左づめでデータの桁揃えを行います。
- 数値のデータ出力を行う場合で、USING句で指定された桁数以上の桁数がなく数値が表せない場合、千の桁を「K」で、また百万の桁を「M」などで表します。それでも値の表示が行えなければ、データ出力桁数一杯に「?」を出力します。
- USING句の直後の出力項目が文字列のデータ出力である場合、USING句では、データ出力するべき文字列の桁数を指定します。この際の文字列長の計算は、USING句の第一オペランド( $\alpha$ )と第二オペランド( $\beta$ )で指定された値の合計に1を足した値となります。但し、第二オペランドの値がゼロの場合、第一オペランドで指定された値がデータ出力する文字長となります。
- 文字列のデータ出力を行う場合、第三オペランド( $\gamma$ )でREVERSEを指定することができます。REVERSEが指定された場合、文字列を右づめで桁揃えが行われます。また、数値のデータ出力の際に有効なYESを指定することもできますが、文字列のデータ出力ではYESの指定は無視されます。
- PUT文で出力する項目の値が欠損であった場合、その項目は0(ゼロ)で出力されます。このときの出力桁数はUSING句の指定に従います。また、実行前に制御スイッチ\$NULLCNVに1がセットされている場合には、-1で出力されます。このときUSING句の指定は無視されます。

## 【記述例】

```

A=100
B='XYZ'
PUT USING(5.2), A
PUT USING(5.2, NO), A
PUT USING(5.2, REVERSE), A
PUT USING(6.0), B
PUT USIBNG(6.0, REVERSE), B
}

```

## RMF文

### 【機能】

OSが出力するシステム管理情報が格納されたSMFやSMSファイルのレコードを読み込みます。

### 【形式】

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	RMF	

### 【説明】

- #RMFファイルから、OSが作成したシステム管理レコード読み込み、SHELLプラットフォーム言語で作成されたプログラムが処理できるようにします。このRMF文で読み込むシステム管理レコードを限定する場合、MASK文を使用してそのレコード番号を指定してください。
- SHELLプラットフォームで作成されたプログラムは、システム管理レコードの形式を意識する必要はありません。但し、どのレコードにどの様な情報が記録されているかは理解しておく必要があります。
- RMF文では、システム管理レコードを読み込むたびに、記録されている情報群を変数へセットします。どの変数へ有効な情報がセットされているかを判定するために、RMFRECIDの変数にシステム管理レコードのレコード番号が数値でセットされます。
- システム管理レコードの有効なレコード番号と、そのレコードを読み込んだ時にセットされる変数群とその内容については、添付資料『シンボル・リファレンス』を参照してください。
- このRMF文を実行する前には、#RMFに対するOPEN文が正しく実行されていなければなりません。また、#RMFに対するCLOSE文が実行された後は、RMF文を実行することはできません。
- RMF文を実行したとき、読み込むべきシステム管理レコードがなければ、OPEN文のEODAD句で指定された分岐ラベルへ制御が渡されます。この分岐ラベルのルーチンでは、#RMFファイルをCLOSEする必要があります。

### 【記述例】

```

    }
LOOP  OPEN  #RMF, INPUT, EODAD=END
      RMF
      IF  RMFRECID=70  THEN ;
      }

      タイプ70レコードの処理

      ENDIF
      }
END  GOTO LOOP
CLOSE #RMF
      }
```

## 1.6 コンパイラ文

SHELLプラットフォーム言語で作成されたプログラムをCPESHELLでコンパイルする際に、コンパイラに特殊な指示を与えるためにコンパイラ文が準備されています。このコンパイラ文では、オペレーションのみが記述でき、ラベルやオペランドをコーディングしても無視されます。

CPESHELLコンパイラが認識するコンパイラ文には、次のものがあります。

L I S T  
N O L I S T  
S K I P

## LIST文

### 【機能】

LIST文は、CPESHELLがコンパイル中に出力するソース・プログラム・リストのプリントの再開を指示します。

### 【形式】

ラベル	オペレーション	オペランド
	L I S T	

### 【説明】

- LIST文は、ソース・プログラム・リストのプリント再開を指示します。
- CPESHELLの実行が開始された時、ソース・プログラム・リストがプリントされる状態となっています。
- LIST文は、ソース・プログラム・リストにはプリントされません。

## NOLIST文

### 【機能】

NOLIST文は、CPESHELLがコンパイル中に出力するソース・プログラム・リストのプリントの中止を指示します。

### 【形式】

ラベル	オペレーション	オペランド
	N O L I S T	

### 【説明】

- NOLIST文は、ソース・プログラム・リストのプリント中止を指示します。
- CPESHELLの実行が開始された時、ソース・プログラム・リストがプリントされる状態となっています。
- NOLIST文以降にLIST文が無ければ、クロス・リファレンス・リストなども出力されません。但し、コンパイル・エラーが検出された際のエラー・メッセージなどは、プリントされます。
- NOLIST文は、ソース・プログラム・リストにはプリントされません。

## SKIP文

### 【機能】

SKIP文は、CPESHELLがコンパイル中に出力するソース・プログラム・リストを改ページします。

### 【形式】

ラベル	オペレーション	オペランド
	SKIP	

### 【説明】

- ソース・プログラム・リストの改ページを行います。
- このステートメントは、ソース・プログラム・リストにプリントされません。

## 第2章 シンボル・リファレンス

### 2.1 添付資料シンボル・リファレンス

SHELLプラットフォームで動作するプログラムがSMFやSMSなどのシステム管理レコードを処理する場合、拡張入出力文RMF文を利用すればそのレコードの形式などを意識することなくプログラムを作成できます。

このRMF文では、入力ファイルから処理すべき1レコードを読み込み、そのレコード形式を示す値をあらかじめ定められた変数へセットし、その文の実行を終了します。RMF文では、RMFRECIDにレコード識別番号がセットされます。

SHELLプラットフォームで動作するプログラムは、これらの変数を検査し、どのレコードが読み込まれたかを判断する必要があります。また、これらの変数にレコード識別番号がセットされると同時に、CPESHELLプログラムで読み込まれたレコードに応じ、必要な情報を変数群にセットします。このため、SHELLプラットフォームで動作するプログラムは、読み込まれたレコードの識別番号とその時にセットされる変数群の名前と内容を理解しておけば、読み込まれたレコードの形式は全く理解する必要はありません。

ここでは、RMF文で処理されるレコード群を次のように分類し、各レコードを読み込んだ際にセットされる変数群を共通項目とレコード固有項目に分けて説明しています。

- 稼働実績データ
- 富士通FSP/XSPシステムの稼働実績データ
- パフォーマンス・データ
- IBMシステムRMFモニタⅡ
- 日本電気ACOS-4システム
  - ・アカウンティング情報
  - ・モニタリング情報
- 日立システムSAR/D
- 富士通システム固有データ

尚、ACOS-4環境下のCPESHELLプログラムでは、ACOS-4のデータ群のみが処理対象となります。

## 2.2 稼働実績データ

この稼働実績データは、SMFやSMSファイルに出力されており、ES/1 NEOでは、次のレコードタイプ毎にシンボルを用意しています。

レコードタイプ RMFRECID	内容	IBM	富士通	日立
4	ジョブステップ終了	○	○	○
5	ジョブ終了	○	○	○
1 3	データセット情報			○
1 4	データセット情報	○	○	○
1 5	データセット情報	○	○	○
3 0	ジョブ／ジョブステップ終了	○	○	
3 4	T S O ／ T S S ステップ終了	○	○	○
3 5	T S O ／ T S S ジョブ終了	○	○	○
4 1	V L F 統計情報	○		
5 0 - 1	ネットワーク統計情報	○	○ * 1	
5 0 - 2	ネットワーク (C T C)	○	○	
6 4	V S A M データセット情報	○	○	○
9 4	V T S 情報	○		
1 1 8 - 2 0 、 2 1	T N 3 2 7 0 サーバ情報	○		
1 1 8 - 7 4	F T P 情報			
1 1 9	T C P ／ I P 情報	○		
1 2 3	拡張記憶情報			○
1 9 4	T S 7 7 0 0 情報	○		
任意 * 2	V S M 情報	○	○	

\*1 富士通システムの場合は、PDLで情報を収集し、共通レコードに変換した場合に有効となる。

\*2 SYS1. PARMLIBメンバーのSMFPRMxxやSLSSYSxxに記述したレコード番号(省略値255)

稼働実績データ群の記述形式は次のようになっています。

<ヘッダー部>

データ・ソース	レコードを作成したOSのコンポーネント名。
内容	レコードの作成タイミングや内容の概要説明。

<変数部>

変数部は、次の形式で説明されています。

名前	説明	形式	メーカ		
			I	F	H
RMFRECID	レコード番号	数値	○	○	○

名前 : 変数名。

説明 : 変数にセットされる内容の説明。

形式 : 変数にセットされる値の形式。

メーカ : 3文字が表示されます。IはIBM MVSシステム、Fは富士通MSPシステム、Hは日立VOS3システムに対応します。

その際、「○」の場合は有効を示し、「×」の場合は欠損値を示します。

<共通項目>

名前	説明	形式	メーカ		
			I	F	H
MVSXAFLG	システム識別フラグ (XA モード) 0 - NON-XA モード 1 - XA モード	数値	○	○	○
RMFRECID	レコード番号	数値	○	○	○
STARTDAY	事象発生日付 (YYDDD)	数値	○	○	○
STARTTIME	事象発生時刻 (HHMM.SS)	数値	○	○	○
SYSTEM	システム識別コード	文字	○	○	○

## レコードタイプ4（ジョブステップ終了）

データ・ソース	SMF または SMS
内容	バッチや STC ジョブのジョブステップ終了時に、そのジョブステップ全体で稼働状況を示す情報が出力される。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メーク		
			I	F	H
ACTIVETM	アクティブ時間（秒）	数値	○	○	○
CPUTIME	T C B モードでプロセッサを使用した時間（秒）	数値	○	○	○
CPUUNITS	C P U サービスユニット量	数値	○	○	×
INITDATE	ジョブステップ開始日付（YYDDD）	数値	○	○	○
INITKEYT	ジョブステップ開始時刻（1／100秒単位）	数値	○	○	○
INITTIME	ジョブステップ開始時刻（HHMM）	数値	○	○	○
JOBCLASS	ジョブクラス ‘?’ 固定。	文字	○	○	○
JOBCL SCH	ジョブクラス ‘JOB’ 固定。	文字	○	○	○
JOBNAME	ジョブ名	文字	○	○	○
PGMNAME	プログラム名	文字	○	○	○
RDERDATE	ジョブ入力日付（YYDDD）	数値	○	○	○
RDERKEYT	ジョブ入力時刻（1／100秒単位）	数値	○	○	○
RDERTIME	ジョブ入力時刻（HHMM）	数値	○	○	○
RESIDTM	常駐時間（秒）	数値	○	○	×
STEPNAME	ジョブステップ名	文字	○	○	○
T434EXCP	総入出力回数	数値	○	○	○
T434DASD	ディスク装置への入出力回数	数値	○	○	○
T434TAPE	テープ装置への入出力回数	数値	○	○	○
TCBCMP	ジョブステップ終了種別 ABEND - 異常終了 NORMAL - 正常終了 PASS - 未実行	文字	○	○	○
TCBCMPC	ジョブステップ完了コード（16進）	文字	○	○	○
TERMDATE	ジョブステップ終了日付（YYDDD）	数値	○	○	○
TERMKEYT	ジョブステップ終了時刻（1／100秒単位）	数値	○	○	○
TERMTIME	ジョブステップ終了時刻（HHMM）	数値	○	○	○
TRANSACT	処理トランザクション数	数値	○	○	○
VSMPVTH	私有域の高アドレスから使用した仮想記憶域の大きさ（単位はページ数）	数値	○	○	○
VSMPVTL	私有域の低アドレスから使用した仮想記憶域の大きさ（単位はページ数）	数値	○	○	○

## レコードタイプ5（ジョブ終了）

データ・ソース	SMFまたはSMS
内容	バッチやS T Cジョブのジョブステップ終了時に、そのジョブステップの稼働状況を示す情報が出力される。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メーク		
			I	F	H
ACTIVETM	アクティブ時間（秒）	数値	○	○	○
CPUTIME	T C Bモードでプロセッサを使用した時間（秒）	数値	○	○	○
CPUUNITS	C P Uサービスユニット量	数値	○	○	×
INITDATE	ジョブステップ開始日付（YYDDD）	数値	○	○	○
INITKEYT	ジョブステップ開始時刻（1／100秒単位）	数値	○	○	○
INITTIME	ジョブステップ開始時刻（HHMM）	数値	○	○	○
JOBCLASS	ジョブクラス	文字	○	○	○
JOBCLSC	ジョブクラス ‘x’ : ジョブクラス（1桁） ‘S T C’ : スターテッドタスク	文字	○	○	○
JOBNAME	ジョブ名	文字	○	○	○
RDERDATE	ジョブ入力日付（YYDDD）	数値	○	○	○
RDERKEYT	ジョブ入力時刻（1／100秒単位）	数値	○	○	○
RDERTIME	ジョブ入力時刻（HHMM）	数値	○	○	○
RESIDTM	常駐時間（秒）	数値	○	○	×
TCBCMP	ジョブ終了種別 ABEND -異常終了 NORMAL -正常終了 PASS -未実行	文字	○	○	○
TCBCMPC	ジョブ完了コード（16進）	文字	○	○	○
TERMDATE	ジョブ終了日付（YYDDD）	数値	○	○	○
TERMKEYT	ジョブ終了時刻（1／100秒単位）	数値	○	○	○
TERMTIME	ジョブ終了時刻（HHMM）	数値	○	○	○
TRANSACT	処理トランザクション数 ゼロ固定。	数値	○	○	○

## レコードタイプ13（データセット情報）

データ・ソース	SMS
内容	光ディスク・ボリューム上のデータセットをアクセスした際の状況を示す情報が出力される。このレコードは日立システムでのみ有効である。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メーカ		
			I	F	H
DEVADR	データセットが存在する装置のアドレス	文字	×	×	○
DSNAME1	データセット名（1）	文字	×	×	○
DSNAME2	データセット名（2）	文字	×	×	○
DSNAME3	データセット名（3）	文字	×	×	○
EXCPCNT	入出力回数	数値	×	×	○
JOBNAME	ジョブ名またはTSSユーザID	文字	×	×	○
RDERDATE	ジョブ入力日付（YYDDD）	数値	×	×	○
RDERKEYT	ジョブ入力時刻（1／100秒単位）	数値	×	×	○
RDERTIME	ジョブ入力時刻（HHMM.SS）	数値	×	×	○
TEMPDSSW	一時データセットの識別 1：一時データセットを示す。	数値	×	×	○
UCBTYPE	装置属性フラグ	文字	×	×	○
UNITSUB	入出力装置の種別 DASD : ディスク装置 TAPE : テープ装置 VIO : 仮想入出力 XXXX : その他の装置で装置クラスコードを16進文字列で返す	文字	×	×	○
VOLSER	データセットが存在するディスク装置のボリューム通番	文字	×	×	○

## レコードタイプ14（データセット情報）

データ・ソース	S MFまたはS MS
内容	非V SAMデータセットのディスク・ボリュームやテープのデータセットの使用状況を示す。これらは、DD文で定義されているものや動的割り当てで使用されたもので‘INPUT’や‘RDBACK’モードでオープンされたものが対象となり、そのデータセットがクローズされた時点での出力される。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メーク		
			I	F	H
DEVADR	データセットが存在する装置のアドレス	文字	○	○	○
DSNAME1	データセット名（1）	文字	○	○	○
DSNAME2	データセット名（2）	文字	○	○	○
DSNAME3	データセット名（3）	文字	○	○	○
EXCPCNT	入出力回数	数値	○	○	○
JOBNAME	ジョブ名またはTSO/TSSユーザID	文字	○	○	○
RDERDATE	ジョブ入力日付（YYDDD）	数値	○	○	○
RDERKEYT	ジョブ入力時刻（1／100秒単位）	数値	○	○	○
RDERTIME	ジョブ入力時刻（HHMM.SS）	数値	○	○	○
TEMPDSSW	一時データセットの識別 1：一時データセットを示す。	数値	○	○	○
UCBTYPE	装置属性フラグ	文字	○	○	○
UNITSUB	入出力装置の種別 DASD : ディスク装置 TAPE : テープ装置 VIO : 仮想入出力 XXXX : その他の装置で装置クラスコードを16進文字列で返す	文字	○	○	○
VOLSER	データセットが存在するディスク装置のボリューム通番	文字	○	○	○

## レコードタイプ15（データセット情報）

データ・ソース	S MFまたはSMS
内容	非V SAMデータセットのディスク・ボリュームやテープのデータセットの使用状況を示す。これらは、DD文で定義されているものや動的割り当てで使用されたもので‘OUTPUT’、‘UPDATE’や‘OUTIN’モードでオープンされたものが対象となり、そのデータセットがクローズされた時点で出力される。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メー カ		
			I	F	H
DEVADR	データセットが存在する装置のアドレス	文字	○	○	○
DSNAME1	データセット名（1）	文字	○	○	○
DSNAME2	データセット名（2）	文字	○	○	○
DSNAME3	データセット名（3）	文字	○	○	○
EXPCNT	入出力回数	数値	○	○	○
JOBNAME	ジョブ名またはTSO/TSSユーザーID	文字	○	○	○
RDERDATE	ジョブ入力日付（YYDDD）	数値	○	○	○
RDERKEYT	ジョブ入力時刻（1／100秒単位）	数値	○	○	○
RDERTIME	ジョブ入力時刻（HHMM.SS）	数値	○	○	○
TEMPDSSW	一時データセットの識別 1：一時データセットを示す。	数値	○	○	○
UCBTYPE	装置属性フラグ	文字	○	○	○
UNITSUB	入出力装置の種別 DASD : ディスク装置 TAPE : テープ装置 VIO : 仮想入出力 XXXX : その他の装置で装置クラスコードを16進文字列で返す	文字	○	○	○
VOLSER	データセットが存在するディスク装置のボリューム通番	文字	○	○	○

## レコードタイプ30（ジョブ統計情報）

データ・ソース	SMF															
内容	<p>このレコードは、IBMと富士通システムで次のタイミングで出力される。</p> <p>1) バッチジョブやジョブステップ、STCやTSO/TSSセッションの終了時      2) SMF PRMxxにINTERVALパラメータが定義されている場合、その時間間隔毎      3) ジョブ開始時</p> <p>これらの出力のタイミングを識別するために、サブタイプが用意されており、次の変数で判断できる。</p> <table> <thead> <tr> <th>SMFSUBID</th> <th>SUBRECID</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>4</td> <td>ステップ終了</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>5</td> <td>ジョブ終了</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>2/3/4/5</td> <td>分割レコード</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>2/3</td> <td>インターバルレコード</td> </tr> </tbody> </table>	SMFSUBID	SUBRECID	内 容	1	4	ステップ終了	2	5	ジョブ終了	3	2/3/4/5	分割レコード	4	2/3	インターバルレコード
SMFSUBID	SUBRECID	内 容														
1	4	ステップ終了														
2	5	ジョブ終了														
3	2/3/4/5	分割レコード														
4	2/3	インターバルレコード														

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メー カ		
			I	F	H
ACTIVETM	アクティブ時間（秒）	数値	○	○	×
CPUTIME	TCBモードでプロセッサを使用した時間（秒）	数値	○	○	×
CPUUNITS	CPUサービスユニット量	数値	○	○	×
INITDATE	ジョブ開始日付（YYDDD）	数値	○	○	×
INITKEYT	ジョブ開始時刻（1/100秒単位）	数値	○	○	×
INITTIME	ジョブ開始時刻（HHMM）	数値	○	○	×
JOBCLASS	ジョブクラス	文字	○	○	×
JOBCLSch	ジョブクラス 'x' : ジョブクラス（1桁） 'STC' : スターテッドタスク 'TSU' : TSO/TSS 'A x x' : IBMシステムのASCH	文字	○	○	×
JOBIDT30	JESジョブ識別名（ジョブ番号） 空白部は「0」ゼロに置換される	文字	○	○	×
JOBNAME	ジョブ名またはTSO/TSSユーザID	文字	○	○	×
PGMNAME	プログラム名	文字	○	○	×
RACFGRNM	RACFグループ名	文字	○	○	×
RACFIDNM	RACF利用者識別名	文字	○	○	×
RDERDATE	ジョブ入力日付（YYDDD）	数値	○	○	×
RDERKEYT	ジョブ入力時刻（1/100秒単位）	数値	○	○	×
RDERTIME	ジョブ入力時刻（HHMM）	数値	○	○	×
RESIDTM	常駐時間（秒）	数値	○	○	×
SMFSUBID	サブタイプの識別	数値	○	○	×
STEPNAME	ジョブステップ名	文字	○	○	×
SUBRECID	サブタイプの識別	数値	○	○	×
TCBCMP	ジョブ終了種別 ABEND -異常終了 NORMAL -正常終了 PASS -未実行 ???? -不明（データがない）	文字	○	○	×
TCBCMPC	ジョブ完了コード（16進）	文字	○	○	×
TERMDATE	ジョブ終了日付（YYDDD）	数値	○	○	×
TERMKEYT	ジョブ終了時刻（1/100秒単位）	数値	○	○	×
TERMTIME	ジョブ終了時刻（HHMM）	数値	○	○	×
TOTALIO	総入出力回数	数値	○	○	×
TRANSACT	処理トランザクション数	数値	○	○	×
VPAFFTM	VECTOR機構アフィニティ時間（秒）	数値	○	○	×
VPUSETM	VECTOR機構使用時間（秒）	数値	○	○	×
VSMPVTH	私有域の高アドレスから使用した仮想記憶域の大きさ（単位はページ数）	数値	○	○	×
VSMPVTL	私有域の低アドレスから使用した仮想記憶域の大きさ（単位はページ数）	数値	○	○	×
VSM16MH	拡張私有域（16MB以上）の高アドレスから使用した仮想記憶域の大きさ（単位はページ数）	数値	○	×	×
VSM16ML	拡張私有域（16MB以上）の低アドレスから使用した仮想記憶域の大きさ（単位はページ数）	数値	○	○	×

【注意】分割レコードの取扱い

ジョブステップやジョブで多くのDD文を使用している場合、全てのDD文情報が1つのレコードに入らないことがあります。このような際には、レコードを分割して出力し、2番目以降は情報が制限されます。この2番目以降のレコードを分割レコードと呼びSMFSUBID=3で識別できます。この際、ジョブかまたはジョブステップかの識別はSUBREC IDの値で判断できます。

SUBRECID=2 インターバルレコード(直前のインターバルが終了した以後)

SUBRECID=3 インターバルレコード(ステップが終了する間の最後のインターバル)

SUBRECID=4 ジョブステップ

SUBRECID=5 ジョブ

## レコードタイプ3 4 (TSO/TSS終了)

データ・ソース	SMFまたはSMS
内容	TSO/TSSセッション終了時にジョブステップ終了としての情報が示される。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メーカ		
			I	F	H
ACTIVETM	アクティブ時間(秒)	数値	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
CPUTIME	TCBモードでプロセッサを使用した時間(秒)	数値	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
CPUUNITS	CPUサービスユニット量	数値	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
INITDATE	ジョブステップ開始日付(YYYYDDD)	数値	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
INITKEYT	ジョブステップ開始時刻(1/100秒単位)	数値	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
INITTIME	ジョブステップ開始時刻(HHMM)	数値	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
JOBCLASS	ジョブクラス '?' 固定。	文字	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
JOBCLSch	ジョブクラス 'TSU' 固定。	文字	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
JOBNAME	TSO/TSSユーザID	文字	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
PGMNAME	プログラム名	文字	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
RDERDATE	ジョブ入力日付(YYYYDDD)	数値	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
RDERKEYT	ジョブ入力時刻(1/100秒単位)	数値	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
RDERTIME	ジョブ入力時刻(HHMM)	数値	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
RESIDTM	常駐時間(秒)	数値	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>
STEPNAME	ジョブステップ名	文字	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
T434EXCP	総入出力回数	数値	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
T434DASD	ディスク装置への入出力回数	数値	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
T434TAPE	テープ装置への入出力回数	数値	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
TCBCMP	ジョブステップ終了種別 ABEND -異常終了 NORMAL -正常終了 PASS -未実行	文字	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
TCBCMPC	ジョブステップ完了コード(16進)	文字	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
TERMDATE	ジョブステップ終了日付(YYYYDDD)	数値	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
TERMKEYT	ジョブステップ終了時刻(1/100秒単位)	数値	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
TERMTIME	ジョブステップ終了時刻(HHMM)	数値	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
TRANSACT	処理トランザクション数 ゼロ固定。	数値	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
VSMPVTH	私有域の高アドレスから使用した仮想記憶域の大きさ(単位はページ数)	数値	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
VSMPVTL	私有域の低アドレスから使用した仮想記憶域の大きさ(単位はページ数)	数値	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

## レコードタイプ35 (TSO/TSS終了)

データ・ソース	S MFまたはSMS
内容	TSO/TSSセッションのLOGOFF処理が完了した時点での情報を示す。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メーク		
			I	F	H
ACTIVETM	アクティブ時間（秒）	数値	○	○	○
CPUTIME	T CBモードでプロセッサを使用した時間（秒）	数値	○	○	○
CPUUNITS	C PUサービスユニット量	数値	○	○	×
INITDATE	ジョブ開始日付（YYDDD）	数値	○	○	○
INITKEYT	ジョブ開始時刻（1／100秒単位）	数値	○	○	○
INITTIME	ジョブ開始時刻（HHMM）	数値	○	○	○
JOBCLASS	ジョブクラス '?' 固定。	文字	○	○	○
JOBCL SCH	ジョブクラス 'TSU' 固定。	文字	○	○	○
JOBNAME	TSO/TSSユーザID	文字	○	○	○
RDERDATE	ジョブ入力日付（YYDDD）	数値	○	○	○
RDERKEYT	ジョブ入力時刻（1／100秒単位）	数値	○	○	○
RDERTIME	ジョブ入力時刻（HHMM）	数値	○	○	○
RESIDTM	常駐時間（秒）	数値	○	○	×
TCBCMP	ジョブ終了種別	文字	○	○	○
TCBCMPC	ジョブ完了コード（16進）	文字	○	○	○
TERMDATE	ジョブ終了日付（YYDDD）	数値	○	○	○
TERMKEYT	ジョブ終了時刻（1／100秒単位）	数値	○	○	○
TERMTIME	ジョブ終了時刻（HHMM）	数値	○	○	○
TRANSACT	処理トランザクション数	数値	○	○	○

## レコードタイプ41 (VLF統計情報)

データ・ソース	S M F
内容	仮想索引機能 (VLF) 統計を各 VLF クラスごとに収集します。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メータ		
			I	F	H
VLFCLASS	VLF クラス名	数値	○	×	×
MAXVIRT	最大空間使用量 (ページ単位)	数値	○	×	×
CURVIRT	空間使用量 (ページ単位)	数値	○	×	×
CACHESRC	キャッシュ検索回数	数値	○	×	×
OBJCTFND	オブジェクト検出回数	数値	○	×	×
OBJCTADD	オブジェクト追加回数	数値	○	×	×
OBJCTDLT	オブジェクト削除回数	数値	○	×	×
OBJCTRIM	オブジェクト域削減回数	数値	○	×	×
LARGEOBJ	オブジェクトの最大長 (ページ単位)	数値	○	×	×

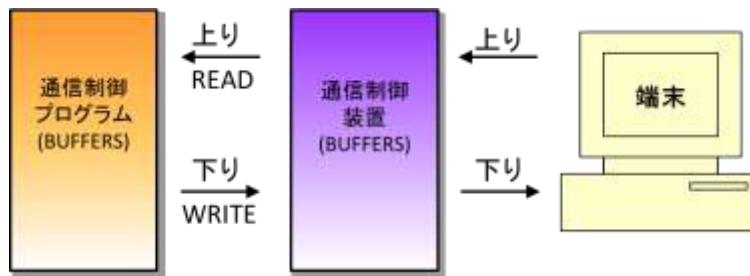
## レコードタイプ 50-1 (ネットワーク情報)

データ・ソース	S MF または P DL
内容	<p>チャネル接続 S NA 制御装置のネットワークの統計情報      この情報は、通信制御プログラムが出力する統計データであり、統計インターバル毎に通信制御装置単位の情報である。この統計データは、その通信制御装置によって次の 2 種類に分類され、SUBRECID で識別する。</p> <p>SUBRECID = 1 : チャネル接続 S NA 制御装置      SUBRECID = 2 : チャネル間結合装置 (CTC)</p> <p>尚、この統計データは IBM と富士通システムで有効であり、富士通システムの場合は、P DL により収集されるため、共通レコード変換プログラムで変換する必要がある。</p>

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メーク		
			I	F	H
ISTATTN	通信制御装置からアテンション割り込みを受けた回数	数値	○	○	×
ISTCHRD	通信制御プログラムがリードを実行した回数	数値	○	○	×
ISTCHWR	通信制御プログラムがライトを実行した回数	数値	○	○	×
ISTIPIU	処理された上りの PIU の数	数値	○	○	×
ISTNAME	名前	文字	○	○	×
ISTOPIU	処理された下りの PIU の数	数値	○	○	×
ISTRDATN	通信制御プログラムがリードを実行したが、1 回のリードで通信制御装置が保持する全ての上り PIU が処理できなかった回数	数値	○	○	×
ISTRDBUF	リード処理で使用した総入出力バッファ数	数値	○	○	×
ISTSLODN	通信制御装置のバッファ不足などの理由でスローダウン・モードになった回数	数値	○	○	×
NCPFLAG	フラグ	数値	○	○	×
SUBRECID	レコードのサブタイプ番号 (= 1)	数値	○	○	×

## 【解説】



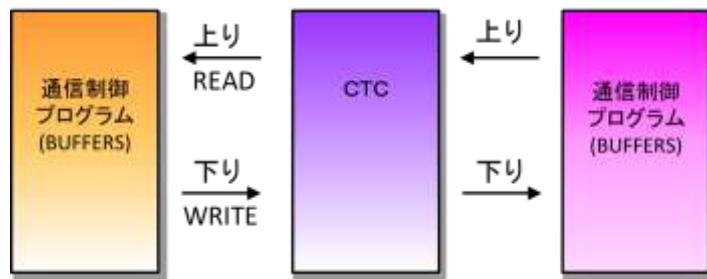
## レコードタイプ50-2（ネットワーク情報）

データ・ソース	SMF
内容	<p>チャネル間結合装置（CTC）のネットワークの統計情報            この情報は、通信制御プログラムが output する統計データであり、統計インターバル毎に通信制御装置単位の情報を示す。この統計データは、その通信制御装置によって次の2種類に分類され、SUBRECIDで識別する。</p> <p>SUBRECID = 1 : チャネル接続SNA制御装置            SUBRECID = 2 : チャネル間結合装置（CTC）</p> <p>このチャネル間結合装置（CTC）の情報はIBMシステムのみ有効である。</p>

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メータ		
			I	F	H
ISTATTN	チャネル間結合装置からアテンション割り込みを受けチャネル・プログラムを実行した回数	数値	○	×	×
ISTBFCAP	他方のホストが用意したリードバッファを満杯にするだけの送信メッセージが溜ったことによるチャネル・プログラムの実行回数	数値	○	×	×
ISTCHMAX	他方のホストに送信すべきメッセージがMAXBFRU以上になったことによるチャネル・プログラムの実行回数	数値	○	×	×
ISTCHNRM	他方のホストに送信すべきメッセージ送出のためのチャネル・プログラムの実行回数	数値	○	×	×
ISTCTCA	名前	文字	○	×	×
ISTCTCAT	接続タイプ	数値	○	×	×
ISTCTCAV	バージョン	数値	○	×	×
ISTIMERS	LINER定義のDELAYパラメータで指定された時間以上に送信待ちとなっていたメッセージ送出のためによるチャネル・プログラムの実行回数	数値	○	×	×
ISTIPIU	処理された上りのPDU数	数値	○	×	×
ISTOPIU	処理された下りのPDU数	数値	○	×	×
ISTPRI	高優先順位のメッセージの送信要求が出されたことによるチャネル・プログラムの実行回数	数値	○	×	×
ISTQDPTH	送信待ちのメッセージ数が規定値以上になったことによるチャネル・プログラムの実行回数	数値	○	×	×
ISTRDBUF	入力バイト使用合計数	数値	○	×	×
SUBRECID	レコードのサブタイプ番号 (=2)	数値	○	×	×

## 【解説】



## レコードタイプ6 4 (VSAMデータセット情報)

データ・ソース	S MFまたはSMS
内容	VSAMデータセットの使用状況を示す。 この情報は次のタイミングで出力される。 1) クローズ 2) ポリュームをスイッチ 3) スペース不足

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メー カ		
			I	F	H
CASPLIT	データセット作成時からのCA分割の累積値	数値	○	○	○
CATLG1	データセットを管理しているカタログ名(1)	数値	○	○	○
CATLG2	データセットを管理しているカタログ名(2)	数値	○	○	○
CATLG3	データセットを管理しているカタログ名(3)	数値	○	○	○
CISPLIT	データセット作成時からのCI分割の累積値	数値	○	○	○
DEVADR	データセットが存在する装置のアドレスエクステント情報がない場合は'0000'をセット。	文字	○	○	○
DSNAME1	データセット名(1)	文字	○	○	○
DSNAME2	データセット名(2)	文字	○	○	○
DSNAME3	データセット名(3)	文字	○	○	○
EXCPCNT	総入出力回数	数値	○	○	○
EXTNUM	エクステント数エクステント情報がない場合は0をセット。	数値	○	○	○
JOBNAME	ジョブ名またはTSO/TSSユーザID	文字	○	○	○
RDERDATE	ジョブ入力日付(YYDDD)	数値	○	○	○
RDERKEYT	ジョブ入力時刻(1/100秒単位)	数値	○	○	○
RDERTIME	ジョブ入力時刻(HHMM, SS)	数値	○	○	○
VOLSER	データセットが存在するディスク装置のポリューム通番エクステント情報がない場合は'_CTLG_'をセット。	文字	○	○	○
VSAMREAD	リードアクセス回数	数値	○	○	○
VSAMWRIT	ライトアクセス回数	数値	○	○	○

## 【注意】

タイプ64では、複数のエクステント情報が1レコード内に記録されている場合があります。そのため、全てのエクステント情報を効率よく処理する目的で変数”EXTNUM”にエクステント数が セットされます。

## —プログラム例—

LOOP RMF

日付、時刻によるデータ選択

```
IF RMFREC ID=64 THEN ;
  GOSUB TYPE64
  IF EXTNUM > 1 THEN ;
    LOOPCNT=EXTNUM-1
    DO I=1 TO LOOPCNT
      RMF
      GOSUB TYPE64
    CONTINUE
  ENDIF
ENDIF
```

他のレコードの処理

TYPE64 NOP

タイプ64（ファイル）の処理

RETURN

## レコードタイプ9 4 (VTS情報)

データ・ソース	RMF
内容	システム管理テープ・ライブラリ情報と VTS 情報を示す。尚、VTS 情報は VTS 参照番号以降であり、それ以前は VTS を経由しない要求を含む。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メカ		
			I	F	H
<b>テープ・ライブラリ情報</b>					
ENHLIBFG	拡張ライブラリ状態フラグ	数値	○	×	×
DRVTYPE	テープ・ライブラリのタイプ番号	文字	○	×	×
DRVMODEL	テープ・ライブラリの型式番号	文字	○	×	×
LIBSQMBR	ライブラリ・シーケンス番号	文字	○	×	×
DRVINSTL	システム管理テープ・ライブラリーに取り付けられているドライブ数	数値	○	×	×
CURMTDRV	マウントされているドライブ数	数値	○	×	×
AVGMDRV	マウントされていた平均ドライブ数	数値	○	×	×
MAXDRVTM	最大マウント時間 (秒)	数値	○	×	×
MINDRVTM	最小マウント時間 (秒)	数値	○	×	×
ALLDRVTM	平均マウント時間 (秒)	数値	○	×	×
MAXMTPEN	保留状態であったマウント要求の最大数	数値	○	×	×
AVGMTPEN	保留状態であったマウント要求の平均数	数値	○	×	×
OUNTREQ	総マウント要求数	数値	○	×	×
MAXMTIME	最大マウント待ち時間 (秒)	数値	○	×	×
MINMTIME	最小マウント待ち時間 (秒)	数値	○	×	×
AVGMTIME	平均マウント待ち時間 (秒)	数値	○	×	×
EJECTREQ	デマウント合計数	数値	○	×	×
MAXEJCTM	最大デマウント時間 (秒)	数値	○	×	×
MINEJCTM	最小デマウント時間 (秒)	数値	○	×	×
AVGEJCTM	平均デマウント時間 (秒)	数値	○	×	×
INSRTREQ	挿入合計数	数値	○	×	×
<b>VTS 情報</b>					
VTSREFNM	VTS 参照番号	数値	○	×	×
LIBSEGMT	ライブラリ・セグメント番号	数値	○	×	×
PHYDRIVE	VTS インストールされているドライブ数	数値	○	×	×
ACTDRIVE	使用可能な物理ドライブ数	数値	○	×	×
AVGVTDVR	物理ドライブの平均使用数	数値	○	×	×
MAXVMTIM	物理ドライブの最大マウント待ち時間 (秒)	数値	○	×	×
MINVMTIM	物理ドライブの最小マウント待ち時間 (秒)	数値	○	×	×
AVGVMTIM	物理ドライブの平均マウント待ち時間 (秒)	数値	○	×	×
RECALL	リコール・マウント数	数値	○	×	×
COPYREQ	コピー・マウント数	数値	○	×	×
RECLAIM	リクレーム・マウント数	数値	○	×	×
CONFDRV	仮想ドライブ構成ドライブ数	数値	○	×	×
MAXVTAPE	仮想ドライブの最大使用数	数値	○	×	×
MINVTAPE	仮想ドライブの最小使用数	数値	○	×	×
AVGVTAPE	仮想ドライブの平均使用数	数値	○	×	×
MAXVPTM	仮想ドライブの最大マウント時間 (秒)	数値	○	×	×
MINVPTM	仮想ドライブの最小マウント時間 (秒)	数値	○	×	×

名前	説明	形式	メータ		
			I	F	H
VTAPETIM	仮想ドライブの平均マウント時間(秒)	数値	○	×	×
MAXVTIME	仮想ドライブの最大マウント待ち時間(秒)	数値	○	×	×
MINVTIME	仮想ドライブの最小マウント待ち時間(秒)	数値	○	×	×
AVGVTIME	仮想ドライブの平均マウント待ち時間(秒)	数値	○	×	×
FASTREDY	高速レディ・マウント数	数値	○	×	×
MOUNTHIT	仮想マウント要求のキャッシュ・ヒット数	数値	○	×	×
MOUNTMIS	仮想マウント要求のキャッシュ・ミス数	数値	○	×	×
PREMIGR	プレマイグレーション数	数値	○	×	×
TAPEWRIT	仮想ドライブへの書き込みバイト数(KB)	数値	○	×	×
TAPEREAD	仮想ドライブからの読み込みバイト数(KB)	数値	○	×	×
DRVWRITE	物理ドライブへの書き込みバイト数(KB)	数値	○	×	×
DRVREAD	物理ドライブからの読み込みバイト数(KB)	数値	○	×	×
AVGTAPTM	TVCにおける仮想ボリュームの平均時間(分)	数値	○	×	×
AVGMEGAB	TVCからコピーされた論理ボリュームの平均サイズ(MB)	数値	○	×	×
VTCVLNUM	TVC上にある平均仮想ボリューム数	数値	○	×	×
USEDCAP	総活動データ量(MB)	数値	○	×	×
ACTLOGVL	総活動論理ボリューム数	数値	○	×	×
TOTALCAP	3590GMT換算で求められた想定空き容量(MB)	数値	○	×	×
IMPDRIVE	インポート操作中に処理された物理ボリュームの数	数値	○	×	×
EXPDRIVE	エクスポートされた論理ボリュームが入っている物理ボリュームの数	数値	○	×	×
IMPTAPE	インポートされた論理ボリューム数	数値	○	×	×
EXPTAPE	エクスポートされた論理ボリューム数	数値	○	×	×
IMPORTMB	インポートされたデータ量(MB)	数値	○	×	×
EXPORTMB	エクスポートされたデータ量(MB)	数値	○	×	×
ACCESSRA	アクセス機構Aのマウント数	数値	○	×	×
ACCESSRB	アクセス機構Bのマウント数	数値	○	×	×
TVCSIZE	テープ・ボリューム・キャッシングサイズ(MB)	数値	○	×	×
ESCONNUM	ESCONチャネル数	数値	○	×	×
SCSINUM	SCSIチャネル数	数値	○	×	×
MAXFRTIM	高速レディの最大マウント待ち時間(秒)	数値	○	×	×
MINFRTIM	高速レディの最小マウント待ち時間(秒)	数値	○	×	×
AVGFRTIM	高速レディの平均マウント待ち時間(秒)	数値	○	×	×
MAXCHTIM	キャッシング・ヒット時の最大マウント待ち時間(秒)	数値	○	×	×
MINCHTIM	キャッシング・ヒット時の最小マウント待ち時間(秒)	数値	○	×	×
AVGCHTIM	キャッシング・ヒット時の平均マウント待ち時間(秒)	数値	○	×	×
MAXRMTIM	リコール時の最大マウント待ち時間(秒)	数値	○	×	×
MINRMTIM	リコール時の最小マウント待ち時間(秒)	数値	○	×	×
AVGRMTIM	リコール時の平均マウント待ち時間(秒)	数値	○	×	×
SCRCTVOL	スクラッチ・ボリューム数	数値	○	×	×
PRICTVOL	専用スタック・ボリューム数	数値	○	×	×
MAXTVCPS	TVCの最大通過バス数	数値	○	×	×

次の変数はIBMシステムにてF/C 4001が導入されているVTS環境のみで出力される変数である。

共通情報						
					数値	○ × ×
SMF94VDC	構成される仮想ドライブ数				数値	○ × ×
SMF94MVM	マウント状態にある最大仮想ドライブ数				数値	○ × ×
SMF94NVM	マウント状態にある最小仮想ドライブ数				数値	○ × ×
SMF94AVM	マウント状態にある平均仮想ドライブ数				数値	○ × ×
IARTFRMT	高速レディの平均マウント時間 (秒)				数値	○ × ×
IARTFRMS	高速レディ・マウント回数				数値	○ × ×
IARTCHMT	キャッシュヒット時の平均マウント待ち時間 (秒)				数値	○ × ×
IARTCHMS	仮想マウント要求のキャッシュヒット数				数値	○ × ×
IARTCMMT	キャッシュミス時の平均マウント待ち時間 (秒)				数値	○ × ×
IARTCMMS	仮想マウント要求のキャッシュミス数				数値	○ × ×

デバイスクラス情報（2つの配列変数にセットされる）

OPMDCID(n)	デバイスクラス ID	数値	○ × ×
OPMPDRV(n)	インストールされているテープ装置数	数値	○ × ×
OPMCASFU(n)	使用可能なテープ装置数	数値	○ × ×
OPMAVGCM(n)	VTSに取り付けられた平均物理テープ装置数	数値	○ × ×
OPMMAXTM(n)	物理ドライブの最大マウント待ち時間 (秒)	数値	○ × ×
OPMMINTM(n)	物理ドライブの最小マウント待ち時間 (秒)	数値	○ × ×
OPMAVGTM(n)	物理ドライブの平均マウント待ち時間 (秒)	数値	○ × ×
OPMSTGMS(n)	ステージ・マウント数	数値	○ × ×
OPMMIGMS(n)	マイグレート・マウント数	数値	○ × ×
OPMRECMS(n)	リクレーム・マウント数	数値	○ × ×
PRIWRITE(n)	一次ブールへの書き込み量 (MB)	数値	○ × ×
SECWRITE(n)	二次ブールへの書き込み量 (MB)	数値	○ × ×



レコードタイプ94での用語の意味は以下の通りです。

マウント待ち時間 : マウント要求からマウント完了まで  
 マウント時間 : マウント完了からデマウント要求まで  
 デマウント時間 : デマウント要求からデマウント完了まで

## レコードタイプ118-20、21 (TN3270サーバ情報の開始／終了)

データ・ソース	SMF
内容	TN3270サーバの状況を示す。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メーク		
			I	F	H
SMFTNTAP	アプリケーション名	文字	○	×	×
SMFTNTCM	イベント・タイプ LOGN : セッション開始 LOGF : セッション終了	文字	○	×	×
SMFTNTHN	TCP/IP ホスト名	文字	○	×	×
SMFTNTIA	内部論理装置アドレス	数値	○	×	×
SMFTNTIN	インバウンド・バイト数	数値	○	×	×
SMFTNTL1	ローカル IP アドレス 第1オクテット	数値	○	×	×
SMFTNTL2	ローカル IP アドレス 第2オクテット	数値	○	×	×
SMFTNTL3	ローカル IP アドレス 第3オクテット	数値	○	×	×
SMFTNTL4	ローカル IP アドレス 第4オクテット	数値	○	×	×
SMFTNTLF	100分の1秒単位で指定される時間 (サブタイプ21のみ)	数値	○	×	×
SMFTNTLP	ローカル・ポート番号	数値	○	×	×
SMFTNTLU	LU名	文字	○	×	×
SMFTNTOU	アウトバウンド・バイト数	数値	○	×	×
SMFTNTPD	ユリウス日付 (CYYDDD形式)	文字	○	×	×
SMFTNTR1	リモートIPアドレス 第1オクテット	数値	○	×	×
SMFTNTR2	リモートIPアドレス 第2オクテット	数値	○	×	×
SMFTNTR3	リモートIPアドレス 第3オクテット	数値	○	×	×
SMFTNTR4	リモートIPアドレス 第4オクテット	数値	○	×	×
SMFTNTRP	リモート・ポート番号	数値	○	×	×
SMFTNTST	開始タスク修飾子名 (例: TCP/IPなど)	文字	○	×	×

## レコードタイプ 118-74 (FTP情報)

データ・ソース	S M F
内容	FTPの使用状況を示す。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メーク		
			I	F	H
SMFFTDS1	ユーザ IP / データ・セット名 (1 - 15 文字)	文字	○	×	×
SMFFTDS2	ユーザ IP / データ・セット名 (16 - 30 文字)	文字	○	×	×
SMFFTDS3	ユーザ IP / データ・セット名 (31 - 44 文字)	文字	○	×	×
SMFFTHST	T C P / I P ホスト名	文字	○	×	×
SMFFTMEM	P D S のメンバー名	文字	○	×	×
SMFFTPDT	データ・セット・タイプ	文字	○	×	×
SMFFTPFM	データ・フォーマット	文字	○	×	×
SMFFTPMO	モード	文字	○	×	×
SMFFTPS1	リモート (クライアント) I P アドレス 第1オクテット	数値	○	×	×
SMFFTPS2	リモート (クライアント) I P アドレス 第2オクテット	数値	○	×	×
SMFFTPS3	リモート (クライアント) I P アドレス 第3オクテット	数値	○	×	×
SMFFTPS4	リモート (クライアント) I P アドレス 第4オクテット	数値	○	×	×
SMFFTPS5	ローカル (サーバー) I P アドレス 第1オクテット	数値	○	×	×
SMFFTPS6	ローカル (サーバー) I P アドレス 第2オクテット	数値	○	×	×
SMFFTPS7	ローカル (サーバー) I P アドレス 第3オクテット	数値	○	×	×
SMFFTPS8	ローカル (サーバー) I P アドレス 第4オクテット	数値	○	×	×
SMFFTPST	構造	文字	○	×	×
SMFFTPSU	ローカル・ユーザ I D	文字	○	×	×
SMFFTPTY	F T P ファイル・タイプ (S E Q、J E S、S Q L)	文字	○	×	×
SMFFTPXD	F T P I D	文字	○	×	×
SMFFTSLP	ローカル (サーバー) ポート番号	数値	○	×	×
SMFFTSLR	F T P サーバーからクライアントに最後に送信された応答	文字	○	×	×
SMFFTSRP	リモート (クライアント) ポート番号	数値	○	×	×
SMFFTSTC	開始タスク修飾子	文字	○	×	×
SMFFTTBC	伝送バイト・カウント	数値	○	×	×
SMFFTTRE	伝送終了時刻 (1 / 100 秒単位)	数値	○	×	×
SMFFTTRS	伝送の開始時刻	数値	○	×	×

## レコードタイプ119-6 (TCP/IP情報)

データ・ソース	SMF
内容	TCP/IPの使用状況を示す。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メーク		
			I	F	H
TCPSYSNM	システム名	文字	○	×	×
TCPSYSPX	システム名	文字	○	×	×
TCPSTACK	TCP/IPスタック名	文字	○	×	×
TCPLSTID	TCP/IPリリースID	文字	○	×	×
TCPCOMPO	TCP/IPサブコンポーネント	文字	○	×	×
TCPASNAME	アドレス・スペース名	文字	○	×	×
TCPUSRID	セキュリティー・コンテキストのユーザID	文字	○	×	×
TCPASID	アドレス・スペースのASID	数値	○	×	×
TCPRESON	このSMFレコードを書く理由 X'08': イベント・レコード X'CO': インターバル統計レコード、さらにレコードが続く X'80': インターバル統計レコード、セットの最後のレコード X'60': 統計の終わりレコード、さらにレコードが続く X'20': 統計の終わりレコード、セットの最後のレコード X'50': シャットダウン開始レコード、さらにレコードが続く X'10': シャットダウン開始レコード、セットの最後のレコード	数値	○	×	×
IFSTKNUM	インターフェースの数	数値	○	×	×

次の変数は、配列変数である。有効なインターフェースの数だけ「シンボル名(配列要素数)」でセットされる。

IFDURATM(n)	記録間隔の時間（マイクロ秒）でビット51は1マイクロ秒に等しい（TOD形式）	数値	○	×	×
IFLNKHOM(n)	インターフェースHOMEアドレス（下位4バイト）	数値	○	×	×
IFNAME1(n)	リンクまたはインターフェース名（1-15文字目）	文字	○	×	×
IFNAME2(n)	リンクまたはインターフェース名（16文字目）	文字	○	×	×
IFDEVNM1(n)	装置名（1-15文字目）	文字	○	×	×
IFDEVNM2(n)	装置名（16文字目）	文字	○	×	×
IFDESC1(n)	インターフェースの説明（1-15文字目）	文字	○	×	×
IFDESC2(n)	インターフェースの説明（16-18文字目）	文字	○	×	×
IFACTMTU(n)	MTUサイズ	数値	○	×	×
IFSPEED(n)	速度	数値	○	×	×
IFHSPEED(n)	H Speed	数値	○	×	×
IFINBYTE(n)	インバウンド・バイト数	数値	○	×	×
IFINUNIC(n)	インバウンド・ユニキャスト・パケットの数	数値	○	×	×
IFINBROD(n)	インバウンド・ブロードキャスト・パケットの数	数値	○	×	×
IFINMLTI(n)	インバウンド・マルチキャスト・パケットの数	数値	○	×	×
IFINDISC(n)	インバウンド廃棄パケットの数	数値	○	×	×
IFINERR(n)	エラーのあるインバウンド・パケットの数	数値	○	×	×
IFNUPRT(n)	不明プロトコルのあるインバウンド・パケットの数	数値	○	×	×
IFOTBYTE(n)	アウトバウンド・バイトの数	数値	○	×	×
IFOTUNIC(n)	アウトバウンド・ユニキャスト・パケットの数	数値	○	×	×
IFOTBROD(n)	アウトバウンド・ブロードキャスト・パケットの数	数値	○	×	×
IFOTMLTI(n)	アウトバウンド・マルチキャスト・パケットの数	数値	○	×	×
IFOTDISC(n)	アウトバウンド廃棄パケットの数	数値	○	×	×
IFOTERR(n)	エラーのあるアウトバウンド・パケットの数	数値	○	×	×
IFOQL(n)	現行の出力キューの長さ	数値	○	×	×

## レコードタイプ 1 2 3 (終了時課金付加レコード)

データ・ソース	SMS
内容	終了時課金付加レコード。 ジョブステップ終了時にジョブステップ終了情報が示される。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メーク		
			I	F	H
SMFSUBID	レコードバージョン番号	数値	×	×	○
JOBNAME	ジョブ名	文字	×	×	○
PGMNAME	プログラム名	文字	×	×	○
STEPNAME	ステップ名	文字	×	×	○
RDERTIME	ジョブ読み込み開始時刻 (HHMM)	数値	×	×	○
RDERDATE	ジョブ読み込み開始日 (YYDDD)	数値	×	×	○
RDERKEYT	ジョブ読み込み開始時刻 (秒:SSSS. TT)	数値	×	×	○
TERMTIME	ジョブステップ終了時刻 (HHMM)	数値	×	×	○
TERMDATE	ジョブステップ終了日 (YYDDD)	数値	×	×	○
TERMKEYT	ジョブステップ終了時刻 (秒:SSSS. TT)	数値	×	×	○

## レコードタイプ194 (TS7700情報)

データ・ソース	SMF														
内容	<p>この情報は、TS7700使用状況を示すデータ項目であり、次の6個に分類される。</p> <table> <tr> <td>DATATYPE</td> <td>内 容</td> </tr> <tr> <td>32(X'20)</td> <td>vNode仮想デバイス履歴情報</td> </tr> <tr> <td>33(X'21)</td> <td>vNodeアダプタ履歴情報</td> </tr> <tr> <td>48(X'30)</td> <td>hNodeHSM履歴情報</td> </tr> <tr> <td>49(X'31)</td> <td>hNodeインポート／エクスポート履歴情報</td> </tr> <tr> <td>50(X'32)</td> <td>hNodeライブラリ履歴情報 (TS7740のみ)</td> </tr> <tr> <td>51(X'33)</td> <td>hNodeグリッド履歴情報</td> </tr> </table>	DATATYPE	内 容	32(X'20)	vNode仮想デバイス履歴情報	33(X'21)	vNodeアダプタ履歴情報	48(X'30)	hNodeHSM履歴情報	49(X'31)	hNodeインポート／エクスポート履歴情報	50(X'32)	hNodeライブラリ履歴情報 (TS7740のみ)	51(X'33)	hNodeグリッド履歴情報
DATATYPE	内 容														
32(X'20)	vNode仮想デバイス履歴情報														
33(X'21)	vNodeアダプタ履歴情報														
48(X'30)	hNodeHSM履歴情報														
49(X'31)	hNodeインポート／エクスポート履歴情報														
50(X'32)	hNodeライブラリ履歴情報 (TS7740のみ)														
51(X'33)	hNodeグリッド履歴情報														

&lt;レコード固有項目：共通&gt;

名前	説明	形式	メーク		
			I	F	H
CLSTRID	クラスターID	数値	x	x	○
DATATYPE	SMF194データ種別	数値	x	x	○
DSTSEQID	ディストリビューション・ライブラリ番号	文字	x	x	○
DURATM	インターバル間隔(秒)	数値	x	x	○
GRSEQNBR	グリッドライブラリ・シーケンス番号	文字	x	x	○
MACHMDEL	マシンモデル	文字	x	x	○
MACHTYPE	マシンタイプ	文字	x	x	○
NODEID	ノードID	数値	x	x	○
SERIAL	マシンシリアル番号	文字	x	x	○
VECODE1	VEバージョン	数値	x	x	○
VECODE2	VEリリース	数値	x	x	○
VECODE3	VE Modification	数値	x	x	○
VECODE4	VE Fix	数値	x	x	○
VERSION	レコードバージョン	数値	x	x	○

&lt;レコード固有項目：DATATYPE=32&gt;

名前	説明	形式	メーク		
			I	F	H
AVGNTDRV	マウントされていた平均仮想ドライブ数	数値	x	x	○
AVGNTIME	マウント待ちの平均時間(ミリ秒)	数値	x	x	○
CBW02MBL	仮想ドライブに書き込まれたチャネルブロックの数(1~2048バイト)	数値	x	x	○
CBW04MB	仮想ドライブに書き込まれたチャネルブロックの数(2049~4096バイト)	数値	x	x	○
CBW08MB	仮想ドライブに書き込まれたチャネルブロックの数(4097~8192バイト)	数値	x	x	○
CBW16MB	仮想ドライブに書き込まれたチャネルブロックの数(8193~16384バイト)	数値	x	x	○
CBW32MB	仮想ドライブに書き込まれたチャネルブロックの数(16385~32768バイト)	数値	x	x	○
CBW64MB	仮想ドライブに書き込まれたチャネルブロックの数(32769~65536バイト)	数値	x	x	○
CBW64MBH	仮想ドライブに書き込まれたチャネルブロックの数(65537バイト以上)	数値	x	x	○
CNFMXTHR	現在の最大スループット量(MB/秒)	数値	x	x	○
DELAYPER	マウント待ちの割合(%)	数値	x	x	○
DRVMODEL	仮想ドライブのモデル名(例: L10)	文字	x	x	○
DRVTYPE	仮想ドライブの装置名(例: 3490)	文字	x	x	○
INSTDRV	インストールされている仮想ドライブ数	数値	x	x	○
MAXMTDRV	マウントされていた最大仮想ドライブ数	数値	x	x	○
MAXMTIME	マウント待ちの最大時間(ミリ秒)	数値	x	x	○
MINMTDRV	マウントされていた最小仮想ドライブ数	数値	x	x	○

&lt;レコード固有項目 : DATA TYPE=33&gt;

次の変数は、配列変数である。有効なアダプターの数だけ「シンボル名(配列要素数)」でセットされる。配列数の(n)はアダプター情報で4つの配列にセットされる。

名前	説明	形式	メーク		
			I	F	H
ADPTRCNT(n)	アダプター数	数値	○	×	×
ADPTRSTA(n)	アダプターの状態 x 00 : インストールされていない x 01 : オンライン x 02 : オフライン x 03 : 動作していない x 04 : リロード中 x 05 : Check 1 状態	数値	○	×	×
ADPTRTYP(n)	アダプターのタイプ x 00 : インストールされていない x 09 : FICON - 1 Port (Arctic Circle) x 0A : FICON - 2 Port (Yukon)	数値	○	×	×

次の変数は、配列変数である。配列数の(m)はアダプターポート情報で2つの配列にセットされる。

ACTDATRT(m)	FICONポートのデータ転送速度(ギガビット/秒)	数値	○	×	×
BRCHA(m)	HBAからホストへの転送量(4KB)	数値	○	×	×
BRHBA(m)	仮想ドライブからHBAへの転送量(4KB)	数値	○	×	×
BWCHA(m)	ホストからHBAへの転送量(4KB)	数値	○	×	×
BWHBA(m)	HBAから仮想ドライブへの転送量(4KB)	数値	○	×	×

&lt;レコード固有項目 : DATA TYPE=48&gt;

名前	説明	形式	メーク		
			I	F	H
AVGDSK%	ディスク毎の最大使用率の平均値(%) (注1)	数値	○	×	×
BASECPTL	据え置きコピースロットルのしきい値(ミリ秒)	数値	○	×	×
COPYTL	コピースロットルの平均時間(ミリ秒)	数値	○	×	×
COPYTL%	コピースロットルの割合(%)	数値	○	×	×
CPUTVC%	CPU使用率がTVC使用率、何れか大きい方の使用率(%) (注1)	数値	○	×	×
DFCPYTH	据え置きコピースロットルの平均時間(ミリ秒)	数値	○	×	×
DFCPYTH%	据え置きコピースロットルの割合(%)	数値	○	×	×
MAXCPU%	最大CPU使用率(%) (注1)	数値	○	×	×
MAXDSK%	最大ディスク使用率(%) (注1)	数値	○	×	×
OVALTL	すべてのスロットルの平均時間(ミリ秒)	数値	○	×	×
PREMGTHL	ブレマイグレーションのスロットルしきい値	数値	○	×	×
PESNCOPY	コピースロットルの要因(注1)	数値	○	×	×
PESNHOST	ホスト書き込みスロットルの要因(注1)	数値	○	×	×
PESONDFR	据え置きコピースロットルの要因(注1)	数値	○	×	×
TVCSIZE	テープボリュームキャッシュサイズ(MB)	数値	○	×	×
VOLSER	災害復旧ボリューム	文字	○	×	×
WOVRTL	ホスト書き込みスロットル数	数値	○	×	×
WOVRTL%	ホスト書き込みスロットルの割合(%)	数値	○	×	×

次の変数は、配列変数である。配列数の(n)はキャッシングパーティション情報で8つの配列にセットされる。

AVGCHTIM(n)	キャッシングヒット時の平均マウント時間(ミリ秒)	数値	○	×	×
AVGFRTIM(n)	高速レディの平均マウント時間(ミリ秒)	数値	○	×	×
FASTREDY(n)	高速レディ・マウント回数	数値	○	×	×
MISMNNTTM(n)	キャッシングミス時の平均マウント時間(ミリ秒)	数値	○	×	×
MOUNTHIT(n)	仮想マウント要求のキャッシングヒット数	数値	○	×	×
MOUNTMIS(n)	仮想マウント要求のキャッシングミス数	数値	○	×	×
PARTSIZE(n)	(合計)パーティションサイズ(GB)	数値	○	×	×
SYNCMNT(n)	プライマリクラスターとセカンダリクラスター間での同期レベルマウント要求(注1)	数値	○	×	×
SYNCTIM(n)	同期レベルマウントを完了するために要した時間(ミリ秒)(注1)	数値	○	×	×

次の変数は、配列変数である。配列数の(m)はキャッシングパーティションPG情報で2つの配列にセットされる。

AWREPAVL(m)	利用可能なクラスターへのレプリケーション待ち状態のデータ量(MB)	数値	○	×	×
DTRESCHA(m)	キャッシング内に常駐しているデータ量(MB)	数値	○	×	×
UNMIGDAT(m)	マイグレートされていないデータ量(MB)	数値	○	×	×
VTCVLNUM(m)	TVC上にある平均仮想ボリューム数	数値	○	×	×

&lt;レコード固有項目 : DATA TYPE = 49 &gt;

名前	説明	形式	メーカ		
			I	F	H
EXPDRIVE	エクスポートされた論理ボリューム数	数値	○	×	×
EXPORTMB	エクスポートされたデータ量 (MB)	数値	○	×	×
EXPTAPE	エクスポートされた物理ボリューム数	数値	○	×	×
IMPDRIVE	インポートされた論理ボリューム数	数値	○	×	×
IMPORTMB	インポートされたデータ量 (MB)	数値	○	×	×
IMPTAPE	インポートされた物理ボリューム数	数値	○	×	×

&lt;レコード固有項目 : DATA TYPE = 50 &gt;

名前	説明	形式	メーカ		
			I	F	H
LIBTYPE	ライブラリ装置名 (例 : 3494、3584など)	文字	○	×	×
LIBMODEL	ライブラリモデル名 (例 : L10、L22など)	文字	○	×	×
LIBSQNBR	ライブラリ・セグメント番号	文字	○	×	×

次の変数は、配列変数である。配列数の(n)はドライブ稼働情報で4つの配列にセットされる。

ACTDRIVE(n)	使用可能な物理ドライブ数	数値	○	×	×
AVGVTIM(n)	物理ドライブ数の平均マウント時間 (秒)	数値	○	×	×
AVGVTDRL(n)	マウントされていた平均物理ドライブ数	数値	○	×	×
DRVCLSID(n)	装置クラス ID x00 : インストールされていない x11 : 3590モデル B1A x13 : 3590モデル E1A x14 : 3590モデル H1A x20 : 3592モデル J1A (3592-J1Aをエミュートしている3592-E05含む) x22 : 3592モデル E05 x23 : 3592モデル E05 (暗号化) x24 : 3592モデル E06 x25 : 3592モデル E07 x26 : 3592モデル E08 x27 : 3592モデル 60F	数値	○	×	×
ERASEMNT(n)	セキュリティデータを消去するためのマウント要求回数	数値	○	×	×
MAXVMTIM(n)	物理ドライブの最大マウント時間 (秒)	数値	○	×	×
MAXVTDRL(n)	マウントされていた最大物理ドライブ数	数値	○	×	×
MINVMTIM(n)	物理ドライブの最小マウント時間 (秒)	数値	○	×	×
MINVTDRL(n)	マウントされていた最小物理ドライブ数	数値	○	×	×
PHYDRIVE(n)	インストールされている物理ドライブ数	数値	○	×	×
PREMIGR(n)	プレマイグレーション回数	数値	○	×	×
RECALL(n)	リコール・マウント数	数値	○	×	×
RECLAIM(n)	リクレーム・マウント数	数値	○	×	×

次の変数は、配列変数である。配列数の(m)はCSPメディア情報で8つの配列にセットされる。

PHYMEDTY(m)	物理メディアタイプ x00 : メディアタイプがない x10 : 3590 J メディア x11 : 3590 K メディア x20 : 3592 JA メディア x21 : 3592 JW メディア (予約) x22 : 3592 JJ メディア x23 : 3592 JR メディア (予約) x24 : 3592 JB メディア x25 : 3592 JX メディア (予約) x26 : 3592 JC メディア x27 : 3592 JY メディア (予約) x28 : 3592 JK メディア x29 : 3592 JD メディア x2A : 3592 JZ メディア (予約) x2B : 3592 JL メディア x2C : 3592 JE メディア x2D : 3592 JV メディア (予約) x2E : 3592 JM メディア	数値	○	×	×
-------------	---	----	---	---	---

## SHELL 言語 文法解説書

次の変数は、配列変数である。配列数の(1)はGUP情報で32の配列にセットされる。

ACTDATA(I)	ボリュームプールで管理された論理ボリュームのイメージデータ量 (MB)	数値	○	×	×
ACTLOGVL(I)	総活動論理ボリューム数	数値	○	×	×

次の変数は、配列変数である。配列数の(o)はGUPメディア情報で8つの配列にセットされる。

PHYMEDID(o)	GUPボリューム数に関連付けられたメディアタイプ情報	数値	○	×	×
PRICTVOL(o)	専用スタッキボリューム数	数値	○	×	×
SCRCTVOL(o)	スクラッチボリューム数	数値	○	×	×

<レコード固有項目 : DATA TYPE = 51 >

名前	説明	形式	メーク		
			I	F	H
AVRDQA	クラスターコピーの際、論理ボリュームが据え置きコピーキー内にあった時間 (秒)	数値	○	×	×
AVRIQA	クラスターコピーの際、論理ボリュームが即時コピーキー内にあった時間 (秒)	数値	○	×	×
CLSTRCNT	グリッド内のクラスター数	数値	○	×	×
LVOLCNT	クラスターのコピー用にスケジュールされた論理ボリューム数	数値	○	×	×

次の変数は、配列変数である。配列数の(n)は1から8であり、有効な範囲はクラスター数を示すCLSTRCNT変数で示される。

DFCPYCMP(n)	他のクラスタから据え置きコピーでキャッシュへの転送が完了した回数 (注1)	数値	○	×	×
DFECPY(n)	他のクラスタから据え置きコピーでキャッシュに転送されたバイト数 (MB) (注1)	数値	○	×	×
GRIDCPIN(n)	他のクラスタからのコピー操作としてキャッシュに転送されたバイト数 (MB)	数値	○	×	×
GRIDCPOT(n)	他のクラスタからのコピー操作としてキャッシュのデータを転送したバイト数 (MB)	数値	○	×	×
IMDCPCMP(n)	他のクラスタから即時コピーでキャッシュへの転送が完了した回数 (注1)	数値	○	×	×
IMDCPY(n)	他のクラスタから即時コピーでキャッシュに転送されたバイト数 (MB) (注1)	数値	○	×	×
LOGMNT(n)	他のクラスタへの論理マウント回数	数値	○	×	×
REMOTERD(n)	他のクラスタへのリモート読み取り動作としてキャッシュのデータを転送したバイト数 (MB)	数値	○	×	×
REMOTEWR(n)	他のクラスタへのリモート書き込み動作としてキャッシュに転送されたバイト数 (MB)	数値	○	×	×
SYCCPY(n)	他のクラスタから同期モードコピーでキャッシュに転送されたバイト数 (MB) (注1)	数値	○	×	×
SYCPYMP(n)	他のクラスタから同期モードコピーでキャッシュに転送が完了した回数 (注1)	数値	○	×	×



(注1)

これらのシンボルはVE リリース3.0以上で出力されます。

### レコードタイプ任意（VSM情報）

データを処理するにはMASK文にVTCS句を追加し、VTCSレコードのSMFレコード番号を指定してください。この指定を行うことなく、VTCSレコードを処理することはできません。レコード番号はSYS1. PARMLIBメンバーの\$MFPRMxxやSLSSYSxxに記述したレコード番号になります（省略値255）。

MASK VTCS(255), ENABLE(255)

データ・ソース	SMF
内容	<p>この情報は、VSM使用状況を示すデータ項目であり、次の11個に分類される。</p> <p>SUBRECID 内容</p> <p>10 VTSSサブシステムのパフォーマンス情報      11 VTSSチャネルインターフェースのパフォーマンス情報      13 VTVマウント情報      14 VTVディスマウント情報      15 VTVデリート情報      16 RTDマウント情報      17 RTDディスマウント情報      18 VTVマイグレーション情報      19 VTVリコール情報      20 RTDパフォーマンス情報      26 VTV移動情報</p>

<レコード固有項目：SUBRECID=10>

名前	説明	形式	メーク		
			I	F	H
VTSSID	VTSS識別子	文字	○	○	×
CACHEBAS	基本キャッシュサイズ (MB)	数値	○	○	×
CACHECUS	顧客キャッシュサイズ (MB)	数値	○	○	×
CACHEOFF	オフラインキャッシュサイズ (MB)	数値	○	○	×
CACHEPIN	固定キャッシュサイズ (MB)	数値	○	○	×
NVSSIZE	NVSサイズ (MB)	数値	○	○	×
BACKCAPT	合計バックエンド容量 (バイト)	数値	○	○	×
BACKCAPC	収集された空きバックエンド容量 (バイト)	数値	○	○	×

<レコード固有項目：SUBRECID=11>

名前	説明	形式	メーク		
			I	F	H
VTSSID	VTSS識別子	文字	○	○	×
INTERFNM	チャネルインターフェース名	文字	○	○	×
INTERFIN	チャネルインターフェース導入済み フラグ1：導入済み	数値	○	○	×
INTERFEN	チャネルインターフェース使用可能 フラグ1：使用可能	数値	○	○	×
CUBUSYTM	制御装置ビジー時間 (秒)	数値	○	○	×
INTERFTL	チャネルインターフェースのリンクタイプ 0：ホスト 1：RTD 2：IP CLINK	数値	○	○	×

## SHELL 言語 文法解説書

---

<レコード固有項目 : S U B R E C I D = 1 3 >

名前	説明	形式	メーカ		
			I	F	H
VTSSID	V T S S識別子	文字	○	○	×
VOLSER	V T Vボリューム通番	文字	○	○	×
VTDID	V T D装置 I D	文字	○	○	×
VMNTTYPE	マウント種別 1 : 既存V T Vのマウント 2 : S LラベルスクラッチV T Vのマウント 3 : N LラベルスクラッチV T Vのマウント 4 : A N S IラベルスクラッチV T Vのマウント	数値	○	○	×
RECALLID	リコール識別子 1 : リコールせずにマウントされた 2 : リコール後にマウントされた 3 : E T T F Bでマウントされた回数 4 : E T T F Bリコールエラーが検出された回数	数値	○	○	×
JOBNAME	ジョブ名	数値	○	○	×
MSTARTM	マウント開始時刻 (T O D形式)	数値	○	○	×
MCOMPTM	マウント完了時刻 (T O D形式)	数値	○	○	×
VTVMGCLS	V T Vマネージメントクラス名	文字	○	○	×

<レコード固有項目 : S U B R E C I D = 1 4 >

名前	説明	形式	メーカ		
			I	F	H
VTSSID	V T S S識別子	文字	○	○	×
VOLSER	仮想ボリューム通番	文字	○	○	×
VTSTAT	V T Vの状態コード 1 : V T Vがマウント済み 2 : V T Vがディスマウント済み 3 : V T Vが存在しない 4 : V T Vがマイグレーション中 5 : V T Vがリコール中 6 : V T V M A I N T Y U - T I R I T Y I E R YによってV T Vが論理的にディスパッチされている	数字	○	○	×
DEVADDR	デバイス番号	文字	○	○	×
VTFSIZE	非圧縮V T Vサイズ (バイト)	数値	○	○	×
PAGSIZE	仮想テーブページ数 (3 2 K B)	数値	○	○	×
JOBNAME	ジョブ名	文字	○	○	×
VTVMGCLS	V T Vマネージメントクラス名	文字	○	○	×

<レコード固有項目 : S U B R E C I D = 1 5 >

名前	説明	形式	メーカ		
			I	F	H
VTSSID	V T S S識別子	文字	○	○	×
VOLSER	仮想ボリューム通番	文字	○	○	×
DELCODE	V T V削除理由コード 1 : マイグレーション後、削除されたV T V 2 : 以前にマイグレーションされたV T V 3 : リクレイムされたV T V 4 : 統合されたV T V 5 : 不正なV T Vバージョンが発見された 6 : スクラッチで削除されたV T V 7 : インポートにより削除されたV T V 8 : D E L E T S C R Y U - T I R I T Y I E R Yにより削除されたV T V 9 : リコール失敗後にV T Vが常駐しないようにする	数字	○	○	×
LASTREF	V T V最終参照時刻 (T O D形式)	値	○	○	×
VTVMGCLS	V T Vマネージメントクラス名	文字	○	○	×

&lt;レコード固有項目 : S U B R E C I D = 1 6 &gt;

名前	説明	形式	メーク		
			I	F	H
VTSSID	V T S S識別子	文字	○	○	×
RTDID	R T D識別子	文字	○	○	×
VOLSER	M V Cボリューム通番	文字	○	○	×
VOLSERAC	V O L 1のボリューム通番	文字	○	○	×
ACMODE	読み取り／書き込み状態 1 : 読み取り専用状態 2 : 読み取り / 書き込み状態	数値			
MOUNTTYPE	V T Vマウント要求タイプ 1 : マイグレーション 2 : リコール 3 : リクライム 4 : ドレイン 5 : オーディット 6 : 統合 7 : エクスポート 8 : I N V E N T O R Yユーティリティー	数値	○	○	×
MSTARTM	マウント開始時刻 (T O D形式)	数値	○	○	×
MCOMPTM	マウント完了時刻 (T O D形式)	数値	○	○	×
MVCSTGCL	M V Cストレージクラス名	文字	○	○	×

&lt;レコード固有項目 : S U B R E C I D = 1 7 &gt;

名前	説明	形式	メーク		
			I	F	H
VTSSID	V T S S識別子	文字	○	○	×
RTDID	R T D識別子	文字	○	○	×
MVCSTGCL	M V Cストレージクラス名	文字	○	○	×
VOLSER	M V Cボリューム通番	文字	○	○	×

&lt;レコード固有項目 : S U B R E C I D = 1 8 &gt;

名前	説明	形式	メーク		
			I	F	H
VTSSID	V T S S識別子	文字	○	○	×
RTDID	R T D識別子	文字	○	○	×
VOLSER	V T Vボリューム通番	文字	○	○	×
VOLSERM	M V Cボリューム通番	文字	○	○	×
MIGSIZE	非圧縮V T Vサイズ (バイト)	数値	○	○	×
MSTARTM	マイグレーション開始時刻 (T O D形式)	数値	○	○	×
MCOMPTM	マイグレーション完了時刻 (T O D形式)	数値	○	○	×
VTVMGCLS	V T Vマネージメントクラス名	文字	○	○	×
MVCSTGCL	M V Cストレージクラス名	文字	○	○	×

&lt;レコード固有項目 : S U B R E C I D = 1 9 &gt;

名前	説明	形式	メーク		
			I	F	H
VTSSID	V T S S識別子	文字	○	○	×
RTDID	R T D識別子	文字	○	○	×
VOLSER	V T Vボリューム通番	文字	○	○	×
VOLSERM	M V Cボリューム通番	文字	○	○	×
RECSIZE	現在リコールされているバイト数	数値	○	○	×
MSTARTM	リコール開始時刻 (T O D形式)	数値	○	○	×
MCOMPTM	リコール完了時刻 (T O D形式)	数値	○	○	×
VTVMGCLS	V T Vマネージメントクラス名	文字	○	○	×
MVCSTGCL	M V Cストレージクラス名	文字	○	○	×

&lt;レコード固有項目 : S U B R E C I D = 2 0 &gt;

名前	説明	形式	メー カ		
			I	F	H
VTSSID	V T S S識別子	文字	○	○	×
RTDNAME	R T D識別子	文字	○	○	×
ACTIVETM	R T DにM V Cがマウントされていた時間(秒)	数値	○	○	×
IOCOUNT	R T Dアクセス回数	数値	○	○	×
READBYTE	R T D読み込みバイト数	数値	○	○	×
WRITBYTE	R T D書き込みバイト数	数値	○	○	×
DEVBSYTM	R T D使用時間(秒)	数値	○	○	×
DEVCNNTM	R T D接続時間(秒)	数値	○	○	×

&lt;レコード固有項目 : S U B R E C I D = 2 6 &gt;

名前	説明	形式	メー カ		
			I	F	H
VTSSID	V T S S識別子	文字	○	○	×
VOLSER	V T Vボリューム通番	文字	○	○	×
VOLSER0	IBMVCボリューム通番	文字	○	○	×
VOLSERN	新MVCボリューム通番	文字	○	○	×
MSTARTM	V T V移動開始時刻(T O D形式)	数値	○	○	×
MCOMPTM	V T V移動完了時刻(T O D形式)	数値	○	○	×
VTVMGCLS	V T Vマネージメントクラス名	文字	○	○	×

## 2.3 富士通FSP／XSPシステムの稼働実績データ

SHELLプラットフォームで動作するプログラムで、富士通のFSPやXSPシステムのSMFレコードを処理する場合、拡張入出力文のOPEN文、MASK文、RMF文、CLOSE文とXSPDUMP文を利用すればそのレコードの形式を意識することなくプログラムを作成できます。次にXSPDUMP文の形式を示します。

### XSPDUMP文

#### 【機能】

XSPDUMP文では、富士通のFSPやXSPシステムのSMFレコードを処理する際に、OS種別を宣言するために使用します。

#### 【形式】

ラベル	オペレーション	オペランド
[ラベル名]	XSPDUMP	JOB, OS, FSP または JOB, OS, XSP

#### 【説明】

- 拡張入出力文のRMF文で富士通のFSPやXSPシステムのSMFレコードを処理する前に、一度だけ入力するSMFレコードのOS種別を宣言します。
- 指定と実際に入力されたレコードとの矛盾がある場合には、その実行結果は保証されません。

#### 【記述例】

```

OPEN #RMF, ...
MASK ...., OPTION(XSP)
XSPDUMP JOB, OS, FSP
GET      RMF

```

#### 【注意】

このOPEN文とCLOSE文では、入力とするSMFファイルの使用宣言の開始と終了、MASK文で処理対象のレコード選択、XSPDUMP文でOS種別、RMF文で実際に処理対象のレコード処理を行います。

このRMF文では、入力ファイルから処理すべき1レコードを読み込み、そのレコードに記録されているデータをあらかじめ定められた変数へセットし、1回の処理を完了します。この際、RMFRECIDにレコード識別番号がセットされます。

SHELLプラットフォームで動作するプログラムは、まず、RMFRECIDにセットされたレコード識別番号を確認して、そのレコードでセットされる変数群を参照することができます。これによりプログラムでは、そのレコードの形式を意識することなく必要な情報を入手することができます。

#### 【プログラムの例】

```

OPEN #RMF, EODAD=EOD
MASK DISABLE(ALL),
      ENABLE(レコード番号),
      OPTION(XSP)
XSPDUMP JOB, OS, FSP|XSP
LOOP   RMF
      IF RMFRECID=50 THEN ;
          タイプ50の処理
      ENDIF
      GOTO LOOP
EOD    CLOSE #RMF

```

ここでは、富士通FSP及びXSPシステムのSMFレコードを読み込んだ際にセットされる変数群について説明します。記述形式は次のようにになっています。

## &lt;ヘッダー部&gt;

データ・ソース	レコードを作成したOSのコンポーネント名。
内容	レコードの作成タイミングや内容の概要説明。

## &lt;変数部&gt;

変数部は、次の形式で説明されています。

名前	説明	形式	OS 種別	
			F	X
RMFRECID	レコード番号	数値	○	○

名前 : 変数名。

説明 : 変数にセットされる内容の説明。

形式 : 変数にセットされる値の形式。

メーカ : 2文字が表示されます。左の文字がFSPシステムに対応し、右の文字がXSPシステムに対応します。

その際、「○」の場合は有効を示し、「×」の場合は欠損値を示します。

## &lt;共通項目&gt;

名前	説明	形式	OS 種別	
			F	X
RMFRECID	レコード番号	数値	○	○
STARTDAY	事象発生日付 (YYDDDD)	数値	○	○
STARTTIME	事象発生時刻 (HHMM.SS)	数値	○	○
SYSTEM	システム識別コード 'X 8' 固定	文字	○	○

## レコードタイプ50（ジョブステップ終了）

データ・ソース	SMF
内容	バッチのジョブステップ終了時に、そのジョブステップでの稼働状況を示す情報が出力される。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	OS 種別	
			F	X
CPUTIME	プロセッサ使用時間（秒）	数値	○	○
INITDATE	ジョブステップ開始日付（YYDDD）	数値	○	○
INITKEYT	ジョブステップ開始時刻（秒：SSSS.TT）	数値	○	○
INITTIME	ジョブステップ開始時刻（HHMM.SS）	数値	○	○
JOBASID	アドレス空間ID（ASID）	数値	○	○
JOBCODE	ジョブコード	文字	○	○
JOBGROUP	ジョブグループ	文字	×	×
JOBNAME	ジョブ名	文字	×	×
PGMNAME	プログラム名	文字	○	○
RDERDATE	ジョブ入力日付（YYDDD）	数値	×	×
RDERKEYT	ジョブ入力時刻（秒：SSSS.TT）	数値	×	×
RDERTIME	ジョブ入力時刻（HHMM.SS）	数値	×	×
STEPNUM	ステップ番号	数値	○	○
TCBCMP	完了状況 ABEND : 異常終了 CANCEL : キャンセル FLUSH : 未実行 NORMAL : 正常終了 RETURN : ユーザ完了コード指定	文字	○	○
TCBCMPC	完了コード	文字	○	○
TERMDATE	ジョブステップ終了日付（YYDDD）	数値	○	○
TERMKEYT	ジョブステップ終了時刻（秒：SSSS.TT）	数値	○	○
TERMTIME	ジョブステップ終了時刻（HHMM.SS）	数値	○	○
VSMPVTH	拡張リージョンの最大使用サイズ（Kバイト）	数値	○	○
VSMPVTL	基本リージョンの最大使用サイズ（Kバイト）	数値	○	○

## レコードタイプ5 1 (ジョブ終了)

データ・ソース	S M F
内容	バッチのジョブ終了時に、そのジョブでの稼働状況を示す情報が出力される。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	OS 種別	
			F	X
CPUTIME	プロセッサ使用時間（秒）	数值	○	○
INITDATE	ジョブ開始日付（YYDDD）	数值	○	○
INITKEYT	ジョブ開始時刻（秒：SSSS, TT）	数值	○	○
INITTIME	ジョブ開始時刻（HHMM, SS）	数值	○	○
JOBASID	アドレス空間ID（ASID）	数值	○	○
JOBCODE	ジョブコード	文字	○	○
JOBGROUP	ジョブグループ	文字	○	○
JOBNAME	ジョブ名	文字	○	○
PGMNAME	プログラム名	文字	×	×
RDERDATE	ジョブ入力日付（YYDDD）	数值	○	○
RDERKEYT	ジョブ入力時刻（秒：SSSS, TT）	数值	○	○
RDERTIME	ジョブ入力時刻（HHMM, SS）	数值	○	○
STEPNUM	このジョブで実際に実行したステップの数	数值	○	○
TCBCMP	完了状況	文字	×	×
TCBCMPC	完了コード	文字	×	×
TERMDATE	ジョブ終了日付（YYDDD）	数值	○	○
TERMKEYT	ジョブ終了時刻（秒：SSSS, TT）	数值	○	○
TERMTIME	ジョブ終了時刻（HHMM, SS）	数值	○	○
VSMPVTH	拡張リージョンの最大使用サイズ（Kバイト）	数值	○	○
VSMPVTL	基本リージョンの最大使用サイズ（Kバイト）	数值	○	○

## レコードタイプ5 2 (ファイル情報)

データ・ソース	SMF
内容	バッチのジョブステップ終了時に、そのジョブステップでの稼働状況を示す情報が output される。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	OS 種別	
			F	X
JOBCODE	ジョブコード	文字	○	○
DEVICE	装置名 D A S D : ディスク・ボリューム T A P E : テープ U N K N O W N : D A S D 、 T A P E 以外の装置	文字	○	○
DSNAME1	データセット名 (1)	文字	○	○
DSNAME2	データセット名 (2)	文字	○	○
EXCPCNT	入出力回数	数値	○	○
FILECNT	ファイル数	数値	○	○
FREETIME	ファイル解放時刻 (秒 : S S S S . T T )	数値	○	○
VOLCNT	ボリューム数	数値	○	○
VOLSER	ボリューム通番	文字	×	×
TEMPDSSW	一時ファイル識別 1 : 一時ファイル	数値	○	○

## 【注意】

タイプ52では、複数のファイル情報が1レコード内に記録されている場合があります。そのため、全てのファイル情報を効率よく処理する目的で変数”FILECNT”にファイル数がセットされます。

—プログラム例—

LOOP RMF

日付、時刻によるデータ選択

```
IF RMFRECID=52 THEN ;
GOSUB TYPE52
IF FILECNT > 1 THEN ;
LOOPCNT=FILECNT-1
DO I=1 TO LOOPCNT
RMF
GOSUB TYPE52
CONTINUE
ENDIF
ENDIF
```

他のレコードの処理

TYPE52 NOP

タイプ52（ファイル）の処理

RETURN

## レコードタイプ120 (AIF終了)

データ・ソース	SMF
内容	AIFセッションの終了時に、そのAIFセッションでの稼働状況を示す情報が outputされる。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	OS種別	
			F	X
CPUTIME	プロセッサ使用時間(秒)	数値	○	○
INITDATE	AIFユーザ開始日付(YYDDD)	数値	○	○
INITKEYT	AIFユーザ開始時刻(秒:SSSS,TT)	数値	○	○
INITTIME	AIFユーザ開始時刻(HHMM,SS)	数値	○	○
JOBASID	アドレス空間ID(ASID)	数値	×	×
JOBCODE	ジョブコード 'AIF'固定	文字	○	○
JOBGROUP	ジョブグループ 'AIF GROUP'固定	文字	○	○
JOBNAME	ユーザID	文字	○	○
PGMNAME	プログラム名 'KEQEFTO1'固定	文字	○	○
RDERDATE	AIFユーザ入力日付(YYDDD)	数値	○	○
RDERKEYT	AIFユーザ入力時刻(秒:SSSS,TT)	数値	○	○
RDERTIME	AIFユーザ入力時刻(HHMM,SS)	数値	○	○
STEPNUM	ステップ番号	数値	○	○
TCBCMP	完了状況 ABEND : 異常終了 CANCEL : キャンセル FLUSH : 未実行 NORMAL : 正常終了 RETURN : ユーザ完了コード指定	文字	○	○
TCBCMPC	完了コード	文字	○	○
TERMDATE	AIFユーザ終了日付(YYDDD)	数値	○	○
TERMKEYT	AIFユーザ終了時刻(秒:SSSS,TT)	数値	○	○
TERMTIME	AIFユーザ終了時刻(HHMM,SS)	数値	○	○
VSMPVTH	拡張リージョンの最大使用サイズ(Kバイト)	数値	○	○
VSMPVTL	基本リージョンの最大使用サイズ(Kバイト)	数値	○	○

## 2.4 パフォーマンス・データ

パフォーマンス・データは、パフォーマンス計測ツールによってデータ収集され指定された時間間隔で出力されます。これらのパフォーマンス・データは、各資源や業務単位に出力されます。

パフォーマンス計測ツールでは、基礎データ項目の測定のために、割り込みを使用します。この割り込みは一定のルールに従って発生し、その都度、データ収集プログラムが起動され目的データを記録します。このデータ収集プログラムを起動するタイミングである割り込みを発生させる技法に、イベント・ドリブンとタイマ・ドリブンの2種類があります。

### イベント・ドリブン技法

イベント・ドリブンのデータ収集では、監視対象のソフトウェア事象(イベント)が発生した時点でデータ収集のためにプログラムが起動されます。

イベント・ドリブン技法を使用したデータ収集では、アプリケーション・プログラムの実行過程に同期したデータ収集が行われます。トランザクション処理に関する測定項目のデータ収集には、このイベント・ドリブン技法が有効です。

### タイマ・ドリブン技法

タイマ・ドリブンのデータ収集では、アプリケーション・プログラムの実行過程とは非同期にデータ収集を行うために、タイマで一定間隔ごとにデータ収集プログラムが起動されます。このタイマ・ドリブン技法はサンプリング技法とも呼ばれています。

タイマ・ドリブンのデータ収集プログラムでは、プロセッサや入出力装置などの使用率などを測定することを主目的としています。このため、データ収集プログラムは、測定対象の資源の使用状況(ビージーやフリー)に応じたカウント値を更新します。このカウンタ値を更新するデータ収集プログラムをサンプラーと呼び、その実行をサンプリングと呼びます。

各メーカーが提供しているパフォーマンス計測ツールの出力レコードを基に、ES／1 NEOの共通レコード形式に変換した場合、次のように分類できます。

レコードタイプ RMFRECID	サブタイプ RMFSUBID	内 容	IBM MVS	富士通 MSP	富士通 FSP/XSP	日立 VOS3
7 0	1	プロセッサ状況	○	○	○	○
7 0	2	暗号ハードウェア状況	○			
7 1		ページング状況	○	○	○	○
7 2	1	業務状況	○	○	○	○
7 2	3	業務状況 (ゴールモード)	○			
7 3	1	チャネル状況	○	○	○	○
7 3	2	チャネル構成	○	○	○	○
7 4	1	入出力装置状況	○	○	○	○
7 4	2	X C F 状況	○			
7 4	4	統合装置状況	○			
7 4	5	キャッシュ情報	○			
7 4	6	H F S 情報	○			
7 4	8	E S S 統計情報レコード	○			
7 5		外部記憶状況	○	○	○	
7 8	1	チャネル構成	○			
7 8	2	仮想記憶状況	○	○	○	
7 8	3	チャネル構成	○			
7 8	5 3	H y p e r P A V 情報	○			



レコードタイプ71～78を読み込む際は、レコードタイプ70を同時に読み込む必要があります。

パフォーマンス・データ群の記述形式は次のようにになっています。

#### <ヘッダー部>

データ・ソース	レコードを作成したOSのコンポーネント名。
内容	レコードの作成タイミングや内容の概要説明。

#### <変数部>

変数部は、次の形式で説明されています。

名前	説明	形式	メーカー		
			I	F	H
RMFRECID	レコード番号	数値	○	○	○

- 名前 : 変数名。  
 説明 : 変数にセットされる内容の説明。  
 形式 : 変数にセットされる値の形式。  
 メーカ : 3文字が表示されます。IはIBM MVSシステム、Fは富士通MSPシステム、Hは日立VOS3システムに対応します。  
 その際、「○」の場合は有効を示し、「×」の場合は欠損値を示します。

#### <共通項目>

パフォーマンス計測ツールで収集されたデータ項目は、各レコードに出力されるが、そのレコードの共通項目として次の情報が出力される。

名前	説明	形式	メーカー		
			I	F	H
CVTSYSNM	システム名 OSのリリースに依存する。	文字	○	×	×
DURATM	パフォーマンス計測ツールがデータを収集した時間長(秒)(注1)	数値	○	○	○
DURATM_0	SAR レコードに記録されている補正前のインターバル長(秒)(注1)	数値	×	×	○
MSPEXFG	M S P / E X フラグ	数値	○	○	○
MVSESAFG	M V S / E S A フラグ	数値	○	○	○
MVSXAFG	X A モードフラグ	数値	○	○	○
OSTYPE	OS種別 1 2 8 (X '80') : M S P / E X 6 4 (X '40') : F S P 3 2 (X '20') : X S P	数値	○	○	○
RELEASE	OSのソフトウェア・レベル	文字	○	○	○
RMFRECID	レコード番号	数値	○	○	○
RMFSUBID	同一のレコード番号で複数のデータがOutputされる場合に使用するサブタイプ・コード	数値	○	○	○
RMFSAMP	サンプリング技法で収集したデータの総サンプリング回数	数値	○	○	○
RMFVERSN	パフォーマンス計測ツールのバージョン	文字	○	○	○
SSNAME	パフォーマンス計測ツールの名前	文字	○	○	○
STARTDAY	データ収集を開始した日付(YYYYDD)	数値	○	○	○
STARTIME	データ収集を開始した時刻(HHMM)	数値	○	○	○
SUBRECID	サブタイプ識別 パフォーマンス・データの場合は欠損値。	数値	○	×	×
SYSPLEXN	システム名 OSのリリースに依存する。	文字	○	×	×
SYSTEM	対象システムのシステム識別コード 富士通システムの場合は、P D L データを共通レコード形式に変換する際に指定したもの。	文字	○	○	○



(注1)

日立システムでキャパシティリザーブモデルを使用している場合、レコードタイプ70のインターバル長がSAR のINTERVAL オペランドで指定した時間より短くなることがあります。  
CPESHELLプログラムはこれを補正するため、特殊スイッチ\$AP8000の指定によって次のようにDURATM の値を変えます。

\$AP8000=0 または 1 : 補正後のインターバル長(秒)(省略値)

\$AP8000=2 または 3 : SAR レコードに記録されている補正前のインターバル長(秒)

なお、この指定を有効にするためにはV3L20以降のCPECNVRTプログラムでデータを変換する必要があります。また、\$AP8000 の指定に関わらず、DURATM\_0 には補正前のインターバル長が報告されます。

## レコードタイプ70-1（プロセッサ情報）

データ・ソース	RMF、PDL、SAR
内容	プロセッサの使用状況を示す。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メータ		
			I	F	H
ASIDASCH	A P P C の空間数（平均）	数値	○	×	×
ASIDBAT	バッチの空間数（平均）	数値	○	×	×
ASIDIN	スワップインされている空間数（平均）	数値	○	×	×
ASIDIRDY	実行中の空間数（平均）	数値	○	×	×
ASIDLRDY	論理的に実行可能な空間数（平均）	数値	○	×	×
ASIDLWAT	論理的に待ち状態の空間数（平均）	数値	○	×	×
ASIDOMVS	O M V S の空間数（平均）	数値	○	×	×
ASIDORDY	スワップアウトされている空間数（平均）	数値	○	×	×
ASIDSTC	S T C の空間数（平均）	数値	○	×	×
ASIDTSO	T S O の空間数（平均）	数値	○	×	×
ASIDWAIT	待ち状態の空間数（平均）	数値	○	×	×
ASMIASCH	A P P C の空間数（最小）	数値	○	×	×
ASMBAT	バッチの空間数（最小）	数値	○	×	×
ASMIIN	スワップインされている空間数（最小）（注1）	数値	○	×	×
ASMIIRDY	実行中の空間数（最小）	数値	○	×	×
ASMILRDY	論理的に実行可能な空間数（最小）	数値	○	×	×
ASMILWAT	論理的に待ち状態の空間数（最小）	数値	○	×	×
ASMIOMVS	O M V S の空間数（最小）	数値	○	×	×
ASMIORDY	スワップアウトされている空間数（最小）	数値	○	×	×
ASMISTC	S T C の空間数（最小）	数値	○	×	×
ASMITSO	T S O の空間数（最小）	数値	○	×	×
ASMIWAIT	待ち状態の空間数（最小）	数値	○	×	×
ASMXASCH	A P P C の空間数（最大）	数値	○	×	×
ASMXBAT	バッチの空間数（最大）	数値	○	×	×
ASMXIN	スワップインされている空間数（最大）（注1）	数値	○	×	×
ASMXIRDY	実行中の空間数（最大）	数値	○	×	×
ASMXLRDY	論理的に実行可能な空間数（最大）	数値	○	×	×
ASMXLWAT	論理的に待ち状態の空間数（最大）	数値	○	×	×
ASMXOMVS	O M V S の空間数（最大）	数値	○	×	×
ASMXORDY	スワップアウトされている空間数（最大）	数値	○	×	×
ASMXSTC	S T C の空間数（最大）	数値	○	×	×
ASMXTSO	T S O の空間数（最大）	数値	○	×	×
ASMXWAIT	待ち状態の空間数（最大）	数値	○	×	×
CPUBUSY	プロセッサ使用率（%）（注3） この値はプロセッサ数を考慮して計算しており100%が最大値。	数値	○	○	○
CPUNUMAX	区画に割り当てられている総C P U台数（オフラインを含む）	数値	○	×	×
CPNUMBR	オンラインであったプロセッサの数(#CP)（注3）	数値	○	○	○
CPUONLINE	オンライン状態にある平均C P U台数	数値	○	×	×
CPUPARK	C P のパーク時間の割合（%）	数値	○	×	×
CPUPRKT	C P のパーク時間（マイクロ秒）	数値	○	×	×
CPUSER	プロセッサの製造番号	文字	○	○	○
CPUSER1	プロセッサの製造番号（F U L L）	文字	○	○	○
CPUTYPECP	P R / S M配下のC P プロセッサ数	数値	○	×	×

名前	説明	形式	メー カ		
			I	F	H
CPUTYPE	プロセッサの型式コード	文字	○	○	○
CPUTYPIC	P R / S M 配下の I C F プロセッサ数	数値	○	×	×
CPUVERSN	プロセッサのモデル・コード	文字	○	○	×
DIAGSAMP	L P A R 情報のサンプル数	数値	○	×	×
IFABUSY	I F A プロセッサ使用率 (%) この値は I F A プロセッサ数を考慮して計算しており 100 %が最大値。	数値	○	×	×
IFANUMAX	区画に割り当てられている総 I F A 台数 (オフラインを含む)	数値	○	×	×
IFANUMBR	オンラインであった I F A プロセッサの数 (#IFA)	数値	○	×	×
IFAONLNE	オンライン状態にある平均 I F A 台数	数値	○	×	×
IFAPARK	I F A (z A A P) のパーク時間の割合 (%)	数値	○	×	×
IFAPRKT	I F A (z A A P) のパーク時間 (マイクロ秒)	数値	○	×	×
IIPPARK	I I P (z I I P) のパーク時間の割合 (%)	数値	○	×	×
IIPPRKT	I I P (z I I P) のパーク時間 (マイクロ秒)	数値	○	×	×
IIPBUSY	zIIP プロセッサ使用率 (%) この値は zIIP プロセッサ数を考慮して計算しており 100 %が最大値。	数値	○	×	×
IIPNUMAX	区画に割り当てられている総 I I P 台数 (オフラインを含む)	数値	○	×	×
IIPNUMBR	オンラインであった zIIP プロセッサの数 (#IIP)	数値	○	×	×
IIPONLNE	オンライン状態にある平均 I I P 台数	数値	○	×	×
LONGTERM	長期間における平均 C P U サービス量 (1,000,000 サービス量)	数値	○	×	×
LPARCS	区画に割り当てられた主記憶のサイズ (MB)	数値	○	×	×
LPARES	区画に割り当てられた拡張記憶のサイズ (MB)	数値	○	×	×
LPARNUM	定義されている論理区画の数	数値	○	×	×
LPARP1	区画に割り当てられた総 C P U 台数 (オフラインを含む)	数値	○	×	×
LPARP2	区画に割り当てられた総 I C F 台数 (オフラインを含む)	数値	○	×	×
LPARP3	区画に割り当てられた総 I F A 台数 (オフラインを含む)	数値	○	×	×
LPARP4	区画に割り当てられた総 I F L 台数 (オフラインを含む)	数値	○	×	×
LPARP5	区画に割り当てられた総 I I P 台数 (オフラインを含む)	数値	○	×	×
LPARPNM	P R / S M システムに割り当てられているプロセッサ数	数値	○	×	×
LPARQ1	区画に割り当てられた平均 C P U 台数 (オンラインのみ)	数値	○	×	×
LPARQ2	区画に割り当てられた平均 I C F 台数 (オンラインのみ)	数値	○	×	×
LPARQ3	区画に割り当てられた平均 I F A 台数 (オンラインのみ)	数値	○	×	×
LPARQ4	区画に割り当てられた平均 I F L 台数 (オンラインのみ)	数値	○	×	×
LPARQ5	区画に割り当てられた平均 I I P 台数 (オンラインのみ)	数値	○	×	×
MSPCAPT	プロセッサ捕捉率 (M S P / E X システムのみ有効)	数値	○	×	×
PARTMODE	このシステムが稼働している論理区画のモード D E D : 専有区画 Y E S : 共有区画でウェイト完了指定 'Y E S' N O : 共有区画でウェイト完了指定 'N O'	文字	○	○	×
PARTNAME	このシステムが稼働している論理区画の名前	文字	○	×	×
PHYCPUFC	物理 C P U 性能係数	数値	○	×	×
SMF70CAI	キャパシティ調整標識	数値	○	×	×
SMF70CCR	キャパシティ変更理由	数値	○	×	×
SMF70CMM	C P のワークユニットの最大数	数値	○	×	×
SMF70CMN	C P のワークユニットの最小数	数値	○	×	×
SMF70CTT	C P のワークユニットの総数	数値	○	×	×
SMF70DMM	I F A (z A A P) のワークユニットの最大数	数値	○	×	×
SMF70DMN	I F A (z A A P) のワークユニットの最小数	数値	○	×	×
SMF70DTT	I F A (z A A P) のワークユニットの総数	数値	○	×	×
SMF70EMM	I I P (z I I P) のワークユニットの最大数	数値	○	×	×
SMF70EMN	I I P (z I I P) のワークユニットの最小数	数値	○	×	×

名前	説明	形式	メーカ		
			I	F	H
SMF70ETT	IIP (zIIP) のワークユニットの総数	数値	○	×	×
SMF70GAU	グループキャパシティ環境の未使用キャパシティ (MSU/H)	数値	○	×	×
SMF70HHF	ハイパーティスパッチ (Hyperdispatch) 情報	数値	○	×	×
SMF70HWM	CPC物理モデル	文字	○	×	×
SMF70INB	PR/SM標識フラグ	数値	○	×	×
SMF70MCR	CPCモデル (SMF70MDL) のキャパシティ (MSU/H)	数値	○	×	×
SMF70MDL	CPCモデル	数値	○	×	×
SMF70NCR	公称モデルキャパシティ (MSU/H)	数値	○	×	×
SMF70NRM	zIIPの速度調整係数	数値	○	×	×
SMF70PAT	総パーク時間 (マイクロ秒)	数値	○	×	×
SMF70SRM	SRMサンプル数	数値	○	×	×
SMF70PMI	プロモートされる可能性があるブロック化ディスパッチ可能単位の1秒当たりの累積値	数値	○	×	×
SMF70PML	スワップイン時のブロック状態判定の閾値	数値	○	×	×
SMF70PMP	ブロックされていた空間およびエンクレーブの最大数	数値	○	×	×
SMF70PMT	プロモートストライスのCPU能力	数値	○	×	×
SMF70PMU	プロモートされているブロック化ディスパッチ可能単位数	数値	○	×	×
SMF70PMW	ブロックされている空間およびエンクレーブの累積値	数値	○	×	×
SMF70STF	フラグバイト	数値	○	×	×
SSNAME	パフォーマンス計測ツールの名前 PDL : 富士通システム RMF : IBMシステム SAR : 日立システム	文字	○	○	○
SUSECMVS	このシステムイメージの総サービス量	数値	○	×	×
SU_SEC	プロセッサ能力定数 プロセッサ能力定数は、業務が受けたサービス値（サービス・ユニット量）から時間に換算する場合に使用する。	数値	○	×	×
UNDERVM	VMフラグ 1 : VMまたはA VM環境を示す。	数値	○	×	×

次の変数はIBMシステムでマルチスレッド機能(SMT)を使用している際に有効です。

SM70ATD	CPの平均スレッド効率	数値	○	×	×
SM70ATDI	IFAの平均スレッド効率	数値	○	×	×
SM70ATDS	IIPの平均スレッド効率	数値	○	×	×
SM70CF	CPのスレッドキャパシティ値	数値	○	×	×
SM70CFI	IFAのスレッドキャパシティ値	数値	○	×	×
SM70CFS	IIPのスレッドキャパシティ値	数値	○	×	×
SM70MCF	CPのスレッド最大キャパシティ値	数値	○	×	×
SM70MCFI	IFAのスレッド最大キャパシティ値	数値	○	×	×
SM70MCFS	IIPのスレッド最大キャパシティ値	数値	○	×	×

次の変数はIBMシステムのPR/SM環境で動作している場合に、各論理区画単位に出力される配列変数である。配列数の(n)は1から64であり、有効な範囲は区画数を示すLPARNUM変数で示される。

LPARAC(n)	論理区画 (n) の平均重み値 D I A G S A M P と L P A R P N (n) で除算することにより、値が求められる。	数値	○	×	×
LPARBD(n)	論理区画 (n) の平均論理CPU数 D I A G S A M P で除算することにより値が求められる。	数値	○	×	×
LPARCH(n)	論理区画 (n) のフラグ	数値	○	×	×
LPARCN(n)	論理区画 (n) の L P 定義数 (リザーブCPを含む)	数値	○	×	×
LPARCP(n)	論理区画 (n) の従来のキャッシング・フラグ (重み値でキャッシングする)	数値	○	×	×
LPARET(n)	論理区画 (n) が使用したプロセッサ時間	数値	○	×	×
LPARGN	論理区画に割り当てられたグループキャパシティ名 (注4)	文字	○	×	×
LPARGU	論理区画に許されたグループキャパシティの上限値 (注4)	数値	○	×	×
LPARFG(n)	論理区画 (n) の制御フラグ情報	数値	○	×	×
LPARFL(n)	追加区画フラグ	数値	○	×	×
LPARIA(n)	論理区画 (n) の I F A プロセッサ数	数値	○	×	×
LPARIC(n)	論理区画 (n) の I C F プロセッサ数	数値	○	×	×
LPARIL(n)	論理区画 (n) の I F L プロセッサ数	数値	○	×	×
LPARIP(n)	論理区画 (n) の I I P プロセッサ数	数値	○	×	×
LPARMD(n)	論理区画 (n) のモード D E D : 専有区画 Y E S : 共有区画でウェイト完了指定 'Y E S' N O : 共有区画でウェイト完了指定 'N O'	文字	○	×	×
LPARMS(n)	論理区画 (n) の上限キャパシティ (1,000,000 サービス量)	数値	○	×	×
LPARNM(n)	論理区画 (n) の論理区画名 PR/SM全体のオーバヘッドを示す特殊な名前として 'P H Y S I C A L' がある。	文字	○	×	×
LPARNS(n)	論理区画 (n) の W L M キャッシング率 D I A G S A M P と L P A R P N (n) で除算することにより、値が求められる。	数値	○	×	×
LPAROT(n)	論理区画 (n) の合計 CPU オンライン時間 (秒)	数値	○	×	×

## SHELL 言語 文法解説書

LPARPN(n)	論理区画 (n) の論理プロセッサ数	数値	○	×	×
LPARSP(n)	論理区画 (n) のクラスタ名	文字	○	×	×
LPARST(n)	論理区画 (n) のシステム名	文字	○	×	×
LPARTM(n)	論理区画 (n) のディスパッチ時間 L P A R T M (n) と L P A R E T (n) の差は論理区画を制御するためのオーバヘッド時間を意味する。	数値	○	×	×
LPARTP(n)	論理区画 (n) の論理CPのタイプ 0:不明 1:CP 2:ICF 3:IFA 4:IFL 5:ICF 6:IIP	数値	○	×	×
LPARUP	論理区画のユーザパーティション識別番号 (注4)	数値	○	×	×
LPARWG(n)	論理区画 (n) の重み値	数値	○	×	×
LPARWT(n)	論理区画 (n) の合計CPウェイト時間 (秒)	数値	○	×	×
LPHCOP(n)	絶対値H/Wキャッピング値。CPU数の100分の1単位の数で示される。z/OS V2R1以降で有効。	数値	○	×	×
LPHGCP(n)	グループ・絶対値キャッピング値。CPU数の100分の1単位の数で示される z/OS V2R2以降で有効。	数値	○	×	×

次の変数はハイパーティスパッチ(Hiperdispatch)環境で動作している場合に出力される配列変数である。

LPARNC(n)	アクティブキャッピング率DIAGSAMPとLPARN(n)で除算することにより、値が求められる。	数値	○	×	×
LPARPW(n)	ハイパーティスパッチ(Hiperdispatch)環境での重み値	数値	○	×	×
LPCPUH(n)	C P で H i g h と判断された論理プロセッサ数	数値	○	×	×
LPCPUL(n)	C P で L o w と判断された論理プロセッサ数	数値	○	×	×
LPCPUM(n)	C P で M e d i u m と判断された論理プロセッサ数	数値	○	×	×
LPIFAH(n)	I F A (z A A P) で H i g h と判断された論理プロセッサ数	数値	○	×	×
LPIFAL(n)	I F A (z A A P) で L o w と判断された論理プロセッサ数	数値	○	×	×
LPIFAM(n)	I F A (z A A P) で M e d i u m と判断された論理プロセッサ数	数値	○	×	×
LPIIPH(n)	I I P (z I I P) で H i g h と判断された論理プロセッサ数	数値	○	×	×
LPIIPL(n)	I I P (z I I P) で L o w と判断された論理プロセッサ数	数値	○	×	×
LPIIPM(n)	I I P (z I I P) で M e d i u m と判断された論理プロセッサ数	数値	○	×	×

次の変数はIBMシステムでマルチスレッド機能(SMT)を使用している際に有効です。

LPMTID(n)	最大スレッド識別番号(ゼロ以外であればSMT対応のLPAR)	数値	○	×	×
LPMTIT(n)	スレッドアイドル時間(秒)	数値	○	×	×

次の変数は日立システムでアクセラレートプロセッサを搭載している場合に出力される変数である。有効な値を得るには特殊スイッチ#AP8000に1を指定しなければならない。(注3)

ACPBUSY	アクセラレートプロセッサ使用率(%) (注3) この値はアクセラレートプロセッサ数を考慮して計算しており100%が最大値。	数値	×	×	○
ACPNUMBR	オンラインであったアクセラレートプロセッサの数(#AC) (注3)	数値	×	×	○

次の変数は日立システムのPRMF環境で動作している場合に、SARデータを収集した論理区画についてのみ出力される変数である。

PRMFTIME	PRMFがこの区画に配分したプロセッサ能力(注2)(注3) PRMFがこのOSをディスパッチしていた時間を物理プロセッサ能力に換算した値。偶整数に補正した値を持つ。	数値	×	×	○
----------	---	----	---	---	---



(注1)

このシンボルはCPEDBAMS プログラムでのインターバル統合に対応していません。  
インターバル統合すると値はゼロになります。

(注2)

データ収集時にSAR パラメタでEXTEND(CPU1)を指定した場合のみ有効。  
SAR パラメタでNOEXTEND, EXTEND(NOCPU1)を指定したか、または  
EXTEND オペランドを省略した場合は無効。

(注3)

CPESHELL プログラムは特殊スイッチ¥AP8000 の指定によって次のように動作します。  
¥AP8000=0 : CPU 関連のシンボルにACP 情報を合算して報告する。  
この場合、ACP 関連のシンボルは欠損値となる(省略値)。  
¥AP8000=1 : CPU(IP:命令プロセッサ)とACP(アクセラレートプロセッサ)を  
分けて報告する。

シンボル名	¥AP8000=0 (省略値)	¥AP8000=1
ACPBUSY	欠損値	ACP 使用率
ACPNUMBR	欠損値	ACP 台数
CPUBUSY	CPU と ACP の平均使用率	CPU 使用率
CPUNUMBER	CPU と ACP の合計台数	CPU 台数
PRMFTIME	CPU と ACP の平均配分率	CPU 配分率

(注4)

LPARUP, LPARGN, LPARGU が有効でない論理区画では、それらの値は欠損値となります。

## レコードタイプ70-2（暗号ハードウェア情報）

データ・ソース	R M F
内容	暗号ハードウェアの使用状況を示す。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メーク		
			I	F	H
CRYPBUSY	平均暗号コプロセッサ使用率	数値	○	×	×
CRYPEXTM	平均暗号コプロセッサ動作時間（ミリ秒）	数値	○	×	×
CRYPKEYG	合計 RSA キー生成回数	数値	○	×	×
CRYPNUM	暗号コプロセッサ数	数値	○	×	×
CRYPOPER	合計実行操作回数	数値	○	×	×
SUBSUBID	暗号ハードウェア識別 1 : 暗号コプロセッサ	数値	○	×	×

次の変数は、暗号コプロセッサ単位に出力される配列変数である。

配列数の有効な範囲は暗号コプロセッサ数(CRYPNUM変数)で示される。

R7023AX	暗号プロセッサ番号	数値	○	×	×
R7023C0	実行操作回数	数値	○	×	×
R7023C1	RSA キー生成回数	数値	○	×	×
R7023CT	暗号プロセッサの型式	文字	○	×	×
R7023SF	スケール定数	数値	○	×	×
R7023T0	累積稼働時間	数値	○	×	×



このレコードは、MASK文でサブタイプ番号を指定しないと読み込まれません。  
MASK ENABLE(70.2)のように明示的に指定してください。

## レコードタイプ71（ページング情報）

データ・ソース	RMF、PDL、SAR
内容	ページング状況を示す。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メータ		
			I	F	H
ASTGSIZE	LOCALページデータセットの総スロット数	数値	○	×	×
ASTGNV10	LOCALページデータセット非VIOスロット数	数値	○	×	×
ASTGV10	LOCALページデータセットVIOスロット数	数値	○	×	×
BLOCKIN	ロックページイン回数 OSのリリースに依存する。	数値	○	×	×
BLOCKPIN	ロックページでページインされたページ数 OSのリリースに依存する。	数値	○	×	×
CSAPIN	共通域（CSAとLPA）のページイン回数	数値	○	○	×
CSAPOUT	共通域（CSAとLPA）のページアウト回数	数値	○	×	×
ESTGAUXS	外部記憶へマイグレートしたページ数 富士通システムではシステム記憶装置が導入されている場合に有効。	数値	○	○	○
ESTGCSA	拡張記憶のなかでCSAに専有されているフレーム数（平均）	数値	○	×	○
ESTGCSAI	拡張記憶のなかでCSAに専有されているフレーム数（最小）	数値	○	×	×
ESTGCSAX	拡張記憶のなかでCSAに専有されているフレーム数（最大）	数値	○	×	×
ESTGHIP1	拡張記憶のなかでハイパー空間に専有されているフレーム数（最小）	数値	○	×	×
ESTGHIPR	拡張記憶のなかでハイパー空間に専有されているフレーム数（平均）	数値	○	×	×
ESTGHIPX	拡張記憶のなかでハイパー空間に専有されているフレーム数（最大）	数値	○	×	×
ESTGLPA	拡張記憶のなかでLPAに専有されているフレーム数（平均）	数値	○	×	×
ESTGLPAI	拡張記憶のなかでLPAに専有されているフレーム数（最小）	数値	○	×	×
ESTGLPAX	拡張記憶のなかでLPAに専有されているフレーム数（最大）	数値	○	×	×
ESTGLSQA	拡張記憶のなかでLSQAに専有されているフレーム数（平均）	数値	○	×	○
ESTGLSQI	拡張記憶のなかでLSQAに専有されているフレーム数（最小）	数値	○	×	×
ESTGLSQX	拡張記憶のなかでLSQAに専有されているフレーム数（最大）	数値	○	×	×
ESTGMAGE	最大マイグレーション・エイジの平均値富士通システムではシステム記憶装置が導入されている場合に有効。	数値	○	○	×
ESTGMAGI	最大マイグレーション・エイジの最小値	数値	○	×	×
ESTGMAGX	最大マイグレーション・エイジの最大値	数値	○	×	×
ESTGPMOV	主記憶から拡張記憶へ転送したページ数富士通システムではシステム記憶装置が導入されている場合に有効。	数値	○	○	○
ESTGRDPG	拡張記憶から主記憶へ転送したページ数	数値	○	×	○
ESTGRSWA	拡張記憶のなかで私有域に専有されているフレーム数（ESTGLSQAは含まず）（平均）	数値	○	×	○
ESTGRSWI	拡張記憶のなかで私有域に専有されているフレーム数（ESTGLSQIは含まず）（最小）	数値	○	×	×
ESTGRSWX	拡張記憶のなかで私有域に専有されているフレーム数（ESTGLSQXは含まず）（最大）	数値	○	×	×

名前	説明	形式	メー カ		
			I	F	H
ESTGSIZE	導入されている拡張記憶のフレーム数 富士通システムではシステム記憶装置が導入されている場合に有効。	数値	○	○	○
ESTGSOA	拡張記憶のなかで S Q A に専有されているフレーム数 (平均)	数値	○	×	○
ESTGSQAI	拡張記憶のなかで S Q A に専有されているフレーム数 (最小)	数値	○	×	×
ESTGSQAX	拡張記憶のなかで S Q A に専有されているフレーム数 (最大)	数値	○	×	×
ESTGUNUI	拡張記憶のなかで未使用的フレーム数 (最小)	数値	○	×	×
ESTGUNUS	拡張記憶のなかで未使用的フレーム数 (平均) 富士通システムではシステム記憶装置が導入されている場合に有効。	数値	○	○	○
ESTGUNUX	拡張記憶のなかで未使用的フレーム数 (最大)	数値	○	×	×
ESTGV10	拡張記憶のなかで V I O に専有されているフレーム数 (平均)	数値	○	×	○
ESTGV10I	拡張記憶のなかで V I O に専有されているフレーム数 (最小)	数値	○	×	×
ESTGV10X	拡張記憶のなかで V I O に専有されているフレーム数 (最大)	数値	○	×	×
FIXBELOI	主記憶のなかで 1 6 M B ライン以下でページ固定されているフレーム数 (最小)	数値	○	×	×
FIXBELOW	主記憶のなかで 1 6 M B ライン以下でページ固定されているフレーム数 (平均)	数値	○	×	○
FIXBELOX	主記憶のなかで 1 6 M B ライン以下でページ固定されているフレーム数 (最大)	数値	○	×	×
FIXCSA	主記憶のなかで C S A 用にページ固定されているフレーム数 (平均) I B M システムの場合には R U C S A を含む。	数値	○	×	×
FIXCSAI	主記憶のなかで C S A 用にページ固定されているフレーム数 (最小) I B M システムの場合には R U C S A を含む。	数値	○	×	×
FIXCSAX	主記憶のなかで C S A 用にページ固定されているフレーム数 (最大) I B M システムの場合には R U C S A を含む。	数値	○	×	×
FIXLPA	主記憶のなかで L P A 用にページ固定されているフレーム数 (平均)	数値	○	×	×
FIXLPAl	主記憶のなかで L P A 用にページ固定されているフレーム数 (最小)	数値	○	×	×
FIXLPAX	主記憶のなかで L P A 用にページ固定されているフレーム数 (最大)	数値	○	×	×
FIXLSQA	主記憶のなかで L S Q A 用にページ固定されているフレーム数 (平均)	数値	○	×	×
FIXLSQAI	主記憶のなかで L S Q A 用にページ固定されているフレーム数 (最小)	数値	○	×	×
FIXLSQAX	主記憶のなかで L S Q A 用にページ固定されているフレーム数 (最大)	数値	○	×	×
FIXRSWA	主記憶のなかで私有域用にページ固定されているフレーム数 (平均)	数値	○	×	×
FIXRSWAI	主記憶のなかで私有域用にページ固定されているフレーム数 (最小)	数値	○	×	×
FIXRSWAX	主記憶のなかで私有域用にページ固定されているフレーム数 (最大)	数値	○	×	×
FIXSQA	主記憶のなかで S Q A 用にページ固定されているフレーム数 (平均)	数値	○	×	○
FIXSQAI	主記憶のなかで S Q A 用にページ固定されているフレーム数 (最小)	数値	○	×	×
FIXSQAX	主記憶のなかで S Q A 用にページ固定されているフレーム数 (最大)	数値	○	×	×
FIXTTL	主記憶のなかでページ固定されているフレーム数 (平均)	数値	○	○	○
FIXTTLI	主記憶のなかでページ固定されているフレーム数 (最小)	数値	○	×	×
FIXTTLX	主記憶のなかでページ固定されているフレーム数 (最大)	数値	○	×	×

名前	説明	形式	メー カ		
			I	F	H
HIPERIN	ハイパー空間のページイン回数OSのリリースに依存する。	数値	○	×	×
HIPEROUT	ハイパー空間のページアウト回数OSのリリースに依存する。	数値	○	×	×
HITACM64	日立システムで2GB以上の主記憶があることを示す	数値	×	×	○
LPAPIN	LPA領域のページイン回数	数値	○	○	×
M64CTLSW	主記憶フレーム割当情報がセットされたことを示す	数値	×	×	○
PVTCSA	主記憶のなかでCSAに専有されているフレーム数(平均) IBMシステムの場合にはRUCSAを含む。 日立システムの場合にはPLPAとMLPAを含む	数値	○	○	○
PVTCSAI	主記憶のなかでCSAに専有されているフレーム数(最小)	数値	○	×	×
PVTCSDL	主記憶(16MB未満)のなかでCSAに専有されているフレーム数(平均) IBMシステムの場合にはRUCSAを含む。 日立システムの場合にはPLPAとMLPAを含む	数値	×	×	○
PVTCSAU	主記憶(16MB以上2GB未満)のなかでCSAに専有されているフレーム数(平均) IBMシステムの場合にはRUCSAを含む。 日立システムの場合にはPLPAとMLPAを含む	数値	×	×	○
PVTC SAX	主記憶のなかでCSAに専有されているフレーム数(最大)	数値	○	×	×
PVT FIXL	主記憶(16MB未満)のなかでページ固定されているフレーム数(平均)	数値	×	×	○
PVT FIXU	主記憶(16MB以上2GB未満)のなかでページ固定されているフレーム数(平均)	数値	×	×	○
PVT FP FN	ニュークリアスに専有されているフレーム数	数値	○	○	×
PVT LPA	主記憶のなかでLPAに専有されているフレーム数(平均)	数値	○	○	×
PVT LP AI	主記憶のなかでLPAに専有されているフレーム数(最小)	数値	○	×	×
PVT LP AX	主記憶のなかでLPAに専有されているフレーム数(最大)	数値	○	×	×
PVT LS QA	主記憶のなかでLSQAに専有されているフレーム数(平均)	数値	○	○	×
PVT LS QAI	主記憶のなかでLSQAに専有されているフレーム数(最小)	数値	○	×	×
PVT LS QAX	主記憶のなかでLSQAに専有されているフレーム数(最大)	数値	○	×	×
PVT NA FQ	主記憶のなかで未使用のフレーム数(平均)	数値	○	○	○
PVT NA FQI	主記憶のなかで未使用のフレーム数(最小)	数値	○	×	×
PVT NA FQL	主記憶(16MB未満)のなかで未使用のフレーム数	数値	×	×	○
PVT NA FQU	主記憶(16MB以上2GB未満)のなかで未使用のフレーム数	数値	×	×	○
PVT NA FQX	主記憶のなかで未使用のフレーム数(最大)	数値	○	×	×
PVT NP IN	ページイン回数	数値	○	○	○
PVT NP OUT	ページアウト回数	数値	○	○	○
PVT NP REC	ページリクレーム回数	数値	○	○	○
PVT NU IC	主記憶フレームの最大非参照時間の平均値 富士通システムではシステム記憶が導入されている場合に有効 IBM64ビットモードの場合には1／10の値	数値	○	○	×
PVT NU IC1	主記憶フレームの最大非参照時間の最小値	数値	○	×	×
PVT NU ICX	主記憶フレームの最大非参照時間の最大値	数値	○	×	×
PVT POOL	主記憶の総フレーム数(ニューカリアスは含まず)	数値	○	○	○
PVT R SWA	主記憶のなかで私有域に専有されているフレーム数(平均)	数値	○	○	○
PVT R SWAI	主記憶のなかで私有域に専有されているフレーム数(最小)	数値	○	×	×
PVT R SWAL	主記憶(16MB未満)のなかで私有域に専有されているフレーム数(平均)	数値	×	×	○
PVT R SWAU	主記憶(16MB以上2GB未満)のなかで私有域に専有されているフレーム数(平均)	数値	×	×	○
PVT R SWAX	主記憶のなかで私有域に専有されているフレーム数(最大)	数値	○	×	×
PVT S IZ EU	主記憶(16MB以上2GB未満)のフレーム数	数値	×	×	○
PVT SP IN	スワップインページ数	数値	○	○	○
PVT SP OUT	スワップアウトページ数	数値	○	○	○
PVT S QA	主記憶のなかでSQAに専有されているフレーム数(平均)	数値	○	○	○

名前	説明	形式	メー カ		
			I	F	H
PVTSQAI	主記憶のなかで SQA に専有されているフレーム数（最小）	数値	○	×	×
PVTSQAL	主記憶（16 MB 未満）のなかで SQA に専有されているフレーム数（平均）	数値	×	×	○
PVTSQUA	主記憶（16 MB 以上 2 GB 未満）のなかで SQA に専有されているフレーム数（平均）	数値	×	×	○
PVTSQAX	主記憶のなかで SQA に専有されているフレーム数（最大）	数値	○	×	×
PVTVAMI	VIO 用のページイン回数	数値	○	○	○
PVTVAMO	VIO 用のページアウト回数	数値	○	○	○
PVTCSES	主記憶から拡張記憶へ転送された VIO ページ数	数値	○	×	×
PVTVESCS	拡張記憶から主記憶へ転送された VIO ページ数	数値	○	×	×
PVTVESDA	拡張記憶から外部記憶へ転送された VIO ページ数	数値	○	×	×
RAWUICVL	主記憶フレームの最大非参照時間の平均値	数値	○	×	×
SMF71AGA	外部記憶内の共有ページグループの平均ページ数	数値	○	×	×
SMF71AGB	システム内の 16 MB 以下の共有ページグループの平均固定ページ数	数値	○	×	×
SMF71AGC	主記憶内の共有ページグループの平均ページ数	数値	○	×	×
SMF71AGF	システム内の共有ページグループの平均固定ページ数	数値	○	×	×
SMF71AGT	システム内の共有ページグループの平均ページ数	数値	○	×	×
SMF71ASI	外部記憶からページインした共有ページグループのページ数	数値	○	×	×
SMF71ASO	外部記憶へページアウトした共有ページグループのページ数	数値	○	×	×
SMF71BLG	システム内の巨大仮想メモリの最大サイズ	数値	○	×	×
SMF71CFA	システム内で固定された 64 ビット共通メモリオブジェクトの平均数	数値	○	×	×
SMF71COA	システム内の 64 ビット共通メモリオブジェクトの平均数	数値	○	×	×
SMF71CRA	実メモリ内の 64 ビット共通メモリオブジェクトの平均数	数値	○	×	×
SMF71CSA	外部記憶内の 64 ビット共通メモリオブジェクトの平均数	数値	○	×	×
SMF71GOA	システムに割り振られている固定の 2 GB メモリオブジェクトの平均数	数値	○	×	×
SMF71LOA	システムに割り振られている固定の 1 MB メモリオブジェクトの平均数	数値	○	×	×
SMF71LRA	実メモリ内の 1 MB フレームの平均数	数値	○	×	×
SMF71PAH	外部記憶内の平均共有ページ数	数値	○	×	×
SMF71PCH	主記憶内の平均共有ページ数	数値	○	×	×
SMF71PIH	外部記憶からページインされた共有ページ数	数値	○	×	×
SMF71POH	外部記憶へページアウトされた共有ページ数	数値	○	×	×
SMF71PTH	システム内の平均共有ページ数	数値	○	×	×
SMF71SOA	システム内の共通メモリオブジェクトの平均数	数値	○	×	×
SMF71SRA	実メモリ内の高仮想共有メモリフレームの平均数	数値	○	×	×
SMF71S2A	システムに割り振られている共用の 1 MB メモリオブジェクトの平均数	数値	○	×	×
VIRRSWA	私有域が仮想記憶域で獲得しているフレーム数（注 1）	数値	×	○	×
Z64MODE	64 ビットモード識別 0 : 31 ビットモード 1 : 64 ビットモード	数値	○	×	×

次の項目は、z/OS(64ビットモード)使用時に出力されます。

PVTZV10	実記憶内の VIO ページ数	数値	○	×	×
PVTZV1OW	実記憶へ書き出した VIO ページ数	数値	○	×	×
PVTZV1OR	実記憶から読み出した VIO ページ数	数値	○	×	×
PVTZH1P	実記憶内のハイパーページ数	数値	○	×	×
PVTZH1PW	実記憶へ書き出したハイパーページ数	数値	○	×	×
PVTZH1PR	実記憶から読み出したハイパーページ数	数値	○	×	×
PVTZFIX	16 M から 2 G までの間の固定ページ数	数値	○	×	×
SMF71UAC	最大 UIC の平均値（16 ビット）	数値	○	×	×
SMF71ULC	最大 UIC の最小値（16 ビット）	数値	○	×	×
SMF71UHC	最大 UIC の最大値（16 ビット）	数値	○	×	×

次の項目は、VOS3/LS(M/64モード)使用時に出力されます。

P2GFI	主記憶(2GB以上)のなかでページ固定されているフレーム数	数値	×	×	○
P2GNFQ	主記憶(2GB以上)のなかで未使用的フレーム数	数値	×	×	○
P2GSIZE	主記憶(2GB以上)のフレーム数	数値	×	×	○

【注意】日立システムをM/64モードで使用する場合の「主記憶容量」の取扱い

日立システムのVOS3/LSでは、M/64モードでかつ主記憶容量が2GBを超える場合に、2GB以上の主記憶域を特別な目的で使用します。この2GB以上の領域はデータ空間の常駐ページ領域として定義されており、ページングの対象にはなりません。従ってこの領域では使用している大きさ=固定している大きさとなります。一方、主記憶の2GB未満の領域は従来通りに使用されます。従ってページングの対象となる領域は2GB未満の領域に限定されます。このためES/1のプロセッサでは2GB未満の領域のみを主記憶容量として表示し、2GB以上の領域は別扱いとされています。なお、データ空間の常駐ページ領域を使用する機能には次のものがあります。

- DBバッファ
- XPLバッファ
- PRESTバッファ
- TAM常駐領域(XDMテーブルアクセス機能)
- SORTワーク

次の項目は、XSPシステム使用時に出力されます。

SWAPABLE	実アドレス16MB以下の未使用実ページ(平均)	数値	×	○	×
SWAPAMIN	実アドレス16MB以下の未使用実ページ(最小)	数値	×	○	×

次の項目は、IBM z/OS V1 R12以前、もしくは富士通システム使用時に出力されます。

SWAPCT00	TERMINAL OUTPUT WAIT SWAP COUNT TSO/TSSユーザがPUTマクロで端末にメッセージを送出しようとした際に、TIOCプログラムが準備したバッファが不足したため。	数値	○	○	×
SWAPCT01	TERMINAL INPUT WAIT SWAP COUNT TSO/TSSユーザが処理すべきトランザクションがないため。	数値	○	○	×
SWAPCT02	LONG WAIT SWAP COUNT プログラムが長時間の待ち状態のため。	数値	○	○	×
SWAPCT03	AUXILIARY STORAGE SHORTAGE SWAP COUNT 外部記憶の空きスペースが少なくなったため、大量の仮想記憶域を使用するプログラムをスワップアウトした。	数値	○	○	×
SWAPCT04	PAGABLE STORAGE SHORTAGE SWAP COUNT 主記憶のページ可能フレーム数が少なくなったため、多くのフレームを使用するプログラムをスワップアウトした。	数値	○	○	×
SWAPCT05	DETECTED WAIT SWAP COUNT プログラムが待ち状態のため。	数値	○	○	×
SWAPCT06	REQUESTED SWAP COUNT システムが特定のプログラムをスワップアウトした。	数値	○	○	×
SWAPCT07	ENQUEUE EXCHANGE SWAP COUNT ENQによる競合が発生した際に、対象の資源を確保しているプログラムをスワップインするためにスワップアウトされた。	数値	○	○	×
SWAPCT08	EXCHANGE SWAP COUNT システム全体のスループットを向上させる目的で、プログラム間の処理レベルをバランス化するため。	数値	○	○	×

SWAPCT09	UNILATERAL SWAP COUNT システムが過負荷状態のため、多大に資源を使用するプログラムをスワップアウトさせた。	数値	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
SWAPCT10	TRANSITION TO NONSWAPPABLE SWAP COUNT プログラムがSYSENTマクロでノンスワップ宣言をしたために、その処理過程で一時的にスワップアウトした。	数値	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
SWAPCT11	IMPROVE CENTRAL STORAGE USAGE SWAP COUNTWSMがページング処理に費やすプロセッサ時間が多いと判断した際に、ページ不在割り込みが頻発しているプログラムをスワップアウトした。OSのリリースに依存する。	数値	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
SWAPCT12	IMPROVE SYSTEM PAGING RATE SWAP COUNT OPTメンバーのRCCTRTRTパラメータで指定した最大値以上にページ不在割り込みが発生した場合に、最も多くのページ不在割り込みを起こしているプログラムをスワップアウトした。OSのリリースに依存する。AGEによりスワップアウトされたプログラムをスワッピンするため。OSのリリースに依存する	数値	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
SWAPCT14	APPC WAIT SWAP COUNT APPC/MVSサービスがAPPCジョブを強制的にスワップアウト。OSのリリースに依存する	数値	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
SWAPCT15	OMVS INPUT WAIT OMVS 入力待機	数値	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
SWAPCT16	OMVS OUTPUT WAIT OMVS 出力待機	数値	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
SWAPCT17	IN-REAL SWAP	数値	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
SWCTCSDA	主記憶から外部記憶へのスワップアウト回数	数値	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
SWCTCSES	主記憶から拡張記憶へのスワップアウト回数	数値	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
SWCTESDA	拡張記憶から外部記憶へのスワップアウト回数	数値	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="checkbox"/>



(注1)

このシンボルを出力するには次の条件が必要です。

- ・PDLがOPT1形式であること
- ・MEMORYサンプラーのデータをV3L19以降のCPECNVRT プログラムで変換していること

## レコードタイプ72-1（業務情報）

データ・ソース	RMF、PDL、SAR
内容	業務の状況を示す。 この情報は、パフォーマンス・グループ・ペリオッド単位に作成される。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メータ		
			I	F	H
ACTIVETM	アクティブ時間（秒）	数値	○	○	○
AVGMEMSZ	平均使用フレーム数 日立システムの場合は、VOS3/AS03-00以降でSARパラメータにEXTEND(WKLD1)が指定されている時に有効。	数値	○	○	○
CPUCOEFF	プロセッサ(TCB)サービス定義定数	数値	○	○	×
CPUSRBTM	SRBモードで使用したプロセッサ時間（秒）	数値	○	○	×
CPUTCB%	TCBとSRBモードで使用したプロセッサ使用率（%）	数値	○	○	×
CPUTCBTM	TCBモードで使用したプロセッサ時間（秒） 日立システムの場合は、VOS3/AS03-00以降でSARパラメータにEXTEND(WKLD1)が指定されている時に有効。	数値	○	○	○
CPUTMHST	ハイバースペース使用のCPU時間（秒）	数値	○	×	×
CPUTMIIIT	I/O割り込み処理のCPU時間（秒）	数値	○	×	×
CPUTMRCT	リージョンコントロールタスクのCPU使用時間（秒）	数値	○	×	×
CPUUNITS	総CPUサービスユニット量 日立システムの場合は、VOS3/AS03-00以降でSARパラメータにEXTEND(WKLD1)が指定されている時に有効。	数値	○	○	○
CPUUSE%	インターバル中にプロセッサを使用していた割合（%） OSのリリースに依存する。	数値	○	×	×
DLYTOT%	インターバル中に実行待ちになった割合（%） OSのリリースに依存する。	数値	○	×	×
DOMAIN	ドメイン番号	数値	○	○	×
ELAPSTM	平均処理経過（応答）時間（秒）	数値	×	○	×
ENTRYJOB	平均実行ジョブ数（XSPシステム専用）	数値	×	○	×
FRAMETM	主記憶や拡張記憶を専有していた時間（秒）	数値	○	×	×
HIPERINS	ハイパー空間での秒当たりのページイン回数	数値	○	×	×
HIPERMIS	ハイパー空間での秒当たりのリードミス回数	数値	○	×	×
ICSNAME	ICSメンバーの名前	文字	○	×	×
IOCCOEFF	入出力サービス定義定数	数値	○	○	×
IODLY%	インターバル中にI/Oが遅延した割合（%） OSのリリースに依存する。	数値	○	×	×
IOUNITS	総I/Oサービスユニット量 日立システムの場合は、VOS3/AS03-00以降でSARパラメータにEXTEND(WKLD1)が指定されている時に有効。	数値	○	○	○
IOUSE%	インターバル中にI/Oを行っていた割合（%） OSのリリースに依存する。	数値	○	×	×

IPSNAME	I P S メンバーの名前	文字	○	○	×
MSOCOEFF	ストレージ・サービス定義定数	数値	○	○	×
MSOUNITS	総M S Oサービスユニット量 日立システムの場合は、V O S 3 / A S 0 3 - 0 0以降でS A RパラメータにE X T E N D (W K L D 1) が指定されている時に有効。	数値	○	○	○
OPTNAME	O P T メンバーの名前	文字	○	×	×
PGEXPAND	拡張項目有効フラグ 1 : 次の拡張項目が有効 P G P A G E I N 、 F R A M E T M 、 H I P E R I N S 、 H I P E R M I S C P U U S E % 、 D L Y T O T %	数値	○	×	×
PERFGRP	パフォーマンス・グループ番号	数値	○	○	○
PERFRPGN	レポート・パフォーマンス・グループ番号	数値	○	○	×
PERIOD	パフォーマンス・グループのペリオッド番号	数値	○	○	○
PGPAGEIN	秒当たりのページイン回数	数値	○	×	×
PGPEXCP	実行した入出力 (E X C P) 回数 この値はI / Oサービスユニット量から換算する。このため、I P S メンバーでI O S R V C = T I M E を指定している場合は無効。 日立システムの場合は、V O S 3 / A S 0 3 - 0 0以降でS A RパラメータにE X T E N D (W K L D 1) が指定されている時に有効。	数値	○	○	○
PGPINTM	処理経過 (応答) 時間の中でスワップインされていた時間 (秒) R E S I D T M / A C T I V E T M * E L A P S T M	数値	○	○	○
PGPMPL	プログラム多重度	数値	○	○	○
PGPOUTTM	処理経過 (応答) 時間の中でスワップアウトされていた時間 E L A P S T M - P G P I N T M	数値	○	○	○
PGPWSS	平均ワーキング・セット・サイズ 日立システムの場合は、V O S 3 / A S 0 3 - 0 0以降でS A RパラメータにE X T E N D (W K L D 1) が指定されている時に有効。	数値	○	○	○
PGSSNAME	このパフォーマンス・グループに割り当てられたトランザクション・クラス、トランザクション名	文字	○	×	×
PGUSERID	このパフォーマンス・グループに割り当てられたユーザI D	文字	○	×	×
RESIDTM	常駐時間 (秒)	数値	○	○	○
SRBCOEFF	プロセッサ (S R B) サービス定義定数	数値	○	○	×
SRBUNITS	総S R Bサービスユニット量	数値	○	○	×
SRVCLSNM	サービスクラス名 O S のリリースに依存する。	文字	○	×	×
SU_SEC	プロセッサ能力定数	数値	○	○	×
SWAPSEQ	スワップシーケンスの回数	数値	○	○	×
TRANSACT	処理したトランザクション数	数値	○	○	○
WKLEVEL	ワークロード・レベル	数値	○	○	○
WLMIOPRY	I / Oベロシティ使用フラグ	数値	○	×	×

## レコードタイプ 72-3 (ゴールモードの業務情報)

データ・ソース	RMF
内容	ゴールモードでの業務の状況を示す。 この情報は、サービス/レポート・クラスのペリオッド単位に作成される。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メータ		
			I	F	H
ACTIVETM	アクティブ時間 (秒)	数値	○	×	×
ADRSPACE	アドレス空間の数	数値	○	×	×
AVGMEMSZ	平均使用フレーム数	数値	○	×	×
CPUCOEFF	プロセッサ (TCB) サービス定義定数	数値	○	×	×
CPUIFA%	zAAP プロセッサ使用率 (%)	数値	○	×	×
CPUIFACP	CP での zAAP モード使用率 (%)	数値	○	×	×
CPUIIPTM	zIIP プロセッサ使用時間 (秒)	数値	○	×	×
CPUIIP%	zIIP プロセッサ使用率 (%)	数値	○	×	×
CPUIPCOP	CP での zIIP モード使用率 (%)	数値	○	×	×
CPUSRBTM	SRB モードで使用したプロセッサ時間 (秒)	数値	○	×	×
CPUTCB%	TCB と SRB モードで使用した CP のプロセッサ使用率 (%)	数値	○	×	×
CPUTCBTM	TCB モードで使用した CP のプロセッサ時間 (秒)	数値	○	×	×
CPUUNITS	総 CPU サービスユニット量	数値	○	×	×

次の40項目は、実行・遅延状況を示す。これらの項目は変数ADRSPACEがゼロ以外の場合に有効である。

CAMUSE%	CAM暗号プロセッサを使用していた割合 (%)	数値	○	×	×
CPUUSE%	プロセッサを使用していた割合 (%)	数値	○	×	×
CRPUSE%	CRP暗号プロセッサを使用していた割合 (%)	数値	○	×	×
DASDUSE%	DASD を使用していた割合 (%)	数値	○	×	×
DASDDLY%	DASD による待ちの割合 (%)	数値	○	×	×
DLYCAM%	CAM暗号プロセッサによる待ちの割合 (%)	数値	○	×	×
DLYCAPP%	リソースグループで指定された CPU キャッピングにより待たされた割合 (%)	数値	○	×	×
DLYCOMM%	共通域のページングによる待ちの割合 (%)	数値	○	×	×
DLYCPU%	CPU 待ちの割合 (%)	数値	○	×	×
DLYCRP%	CRP暗号プロセッサによる待ちの割合 (%)	数値	○	×	×
DLYEHSP%	ハイパー空間 (ESO) のページングによる待ちの割合 (%)	数値	○	×	×
DLYFEAT%	機構待ちによる待ちの割合 (%)	数値	○	×	×
DLYIDLE%	アイドル状態の割合 (%)	数値	○	×	×
DLYIIFA%	zAAP プロセッサによる待ちの割合 (%)	数値	○	×	×
DLYIIP%	zIIP プロセッサによる待ちの割合 (%)	数値	○	×	×
DLYIO%	DASD 以外の I/O での待ちの割合 (%)	数値	○	×	×
DLYMPL%	プログラム多重度 (MPN) 調整により待たされた割合 (%)	数値	○	×	×
DLYOTHR%	その他の待ちによる割合 (%)	数値	○	×	×
DLYPRIV%	私有域のページングによる待ちの割合 (%)	数値	○	×	×
DLYQUIE%	QUIESC 状態の割合 (%)	数値	○	×	×
DLYRCAP%	リソース・グループのキャッピングにより待たされた割合	数値	○	×	×
DLYRESM%	競合による待ちの割合 (%)	数値	○	×	×
DLYSHIP%	サーバハイパー空間のページングによる待ちの割合 (%)	数値	○	×	×
DLYSHSP%	ハイパー空間のページングによる待ちの割合 (%)	数値	○	×	×

名前	説明	形式	メーカ		
			I	F	H
DLYSMPL%	サーバプログラム多重度調整により待たされた割合 (%)	数値	○	×	×
DLYSPVT%	サーバ私有域のページングによる待ちの割合 (%)	数値	○	×	×
DLYSQUE%	待ち行列による待ちの割合 (%)	数値	○	×	×
DLYSSWP%	サーバスワップによる待ちの割合 (%)	数値	○	×	×
DLYSV10%	サーバV10域のページングによる待ちの割合 (%)	数値	○	×	×
DLYSWIN%	スワッピン処理による待ちの割合 (%)	数値	○	×	×
DLYTOT%	実行待ちになった合計の割合 (%) この項目は次の 11 項目(変数)の合計値を示す。 D LY C A P P %、D LY C O M M %、D LY C P U %、D LY E H S P %、 D LY M P L %、D LY P R I V %、D LY S H S P %、D LY S W I N %、 D LY V I O %、D LY X M E M %、D A S D D L Y %	数値	○	×	×
DLYTOTQ%	バッチ遅延を含んだ待ちの合計の割合 (%)	数値	○	×	×
DLYV10%	V10ページングによる待ちの割合 (%)	数値	○	×	×
DLYXMEM%	クロス・メモリーのページングによる待ちの割合 (%)	数値	○	×	×
IFAONCP%	C P 上で z A A P 適格作業を実行していた割合 (%)	数値	○	×	×
IFAUSE%	z A A P プロセッサを使用していた割合 (%)	数値	○	×	×
IIPONCP%	C P 上で z I I P 適格作業を実行していた割合 (%)	数値	○	×	×
IIPUSE%	z I I P プロセッサを使用していた割合 (%)	数値	○	×	×
USERESM%	競合により使用していた割合 (%)	数値	○	×	×
USESAMP%	プロセッサと D A S D を使用していた割合 (%)	数値	○	×	×
ELAPSTM	平均処理経過(応答)時間(秒)	数値	○	×	×
EXECUTE	トランザクション数	数値	○	×	×
EXECUTM	平均実行時間(秒)	数値	○	×	×
FRAMETM	主記憶や拡張記憶フレームを専有していた時間(秒)	数値	○	×	×
FRMTMCS	主記憶フレームを専有していた時間(秒)	数値	○	×	×
FRMTMES	拡張記憶フレームを専有していた時間(秒)	数値	○	×	×
HIPERINS	ハイパー空間での秒当たりのページイン回数	数値	○	×	×
HIPERMIS	ハイパー空間での秒当たりのリードミス回数	数値	○	×	×
HIPERSTM	ハイパー空間に費やしたプロセッサ時間(秒)	数値	○	×	×
IOCCOEFF	入出力サービス定義定数	数値	○	×	×
IOUNITS	総 I/O サービスユニット量	数値	○	×	×
MSOCOEFF	ストレージ・サービス定義定数	数値	○	×	×
MSOUNITS	総 M S O サービスユニット量	数値	○	×	×
OPTNAME	O P T メンバーの名前	数値	○	×	×
PERIOD	ペリオッド番号	数値	○	×	×
PGPACTVL	インターバル内で終了したトランザクション平均応答時間 但し、パーセンタイル・レスポンス時間目標の場合は設定されたパーセンタイルのレスポンス時間	数値	○	×	×
PGPAGEIN	秒当たりのページイン回数	数値	○	×	×
PGPBLKAX	外部記憶から秒当たりにページインしたブロック数	数値	○	×	×
PGPBLKES	拡張記憶から秒当たりにページインしたブロック数	数値	○	×	×
PGPBPIAX	外部記憶から秒当たりにページインしたブロックページインの数	数値	○	×	×
PGPBPIES	拡張記憶から秒当たりにページインしたブロックページインの数	数値	○	×	×
PGPDATAF	データフラグ X '80' : 資源使用状況を示す項目が有効。 X '40' : レスポンス時間に関する項目が有効。 X '20' : 実行・遅延状況を示す項目が有効。	数値	○	×	×
PGPDURTM	サービスクラス・ペリオッドのサービスユニット量	数値	○	×	×

名前	説明	形式	メー カ		
			I	F	H
PGPEXCP	実行した入出力回数 この値は I/O サービスユニット量から換算する。このため IPS メンバーで IOSRVC=TRUE を指定している場合は無効。	数値	○	×	×
PGPGOALF	パフォーマンス目標の識別フラグ 128 (X '80') : パーセンタイル応答時間 64 (X '40') : 平均応答時間 32 (X '20') : ベロシティ 16 (X '10') : ディスクリーショナリー 08 (X '08') : システム	数値	○	×	×
PGPGOALP	パーセンタイルの目標値	数値	○	×	×
PGPGOALV	パフォーマンス目標値 (秒または%) パーセンタイル応答時間、平均応答時間とベロシティの場合に有効で、ディスクリーショナリーやシステムの場合はゼロ。	数値	○	×	×
PGPIMPVL	サービスクラス・ペリオッドの重要度 0 : ディスクリーショナリーまたはシステム・ゴール 1 から 5 で 1 が最も重要。	数値	○	×	×
PGPINTM	平均処理経過 (応答) 時間の中でスワップインされていた時間 (秒)	数値	○	×	×
PGPINNTTM	I/O 割り込み処理でのプロセッサ時間 (秒)	数値	○	×	×
PGPMPL	プログラム多重度	数値	○	×	×
PGPOUTTM	平均処理経過 (応答) 時間の中でスワップアウトされていた時間 (秒)	数値	○	×	×
PGPPINES	拡張記憶からの秒当たりのページイン数	数値	○	×	×
PGPRCTTM	RCT でのプロセッサ時間 (秒)	数値	○	×	×
PGPRESPF	応答時間の単位 128 (X '80') : ミリ秒 64 (X '40') : 秒 32 (X '20') : 分 16 (X '10') : 時間	数値	○	×	×

次の2つの項目は、応答時間の分布を14段階に分類して、目標値に対する達成度合いを示す。これらの項目は、パフォーマンス目標がパーセンタイル応答時間と平均応答時間の場合に有効で配列変数として使用する。

PGPRTIME	目標応答時間の n % の値 (秒)	数値	○	×	×
PGPRTRXN	終了したトランザクション数	数値	○	×	×

次の項目は、サブシステム・ワークマネージャ／リソースマネージャでの状況を示す。

サブシステムによってはトランザクションの実行状況をBTE(Begin-to-End)フェーズとEXE(Execution)フェーズに分類し、各々どのような状況で実行したかを示すデータ群が収集される。

R723CWMN	Work/Resource 管理セクションの数(フェーズの数) 下記の3項目の有効な配列の数を示す	数値	○	×	×
PGPSRESS(n)	総サンプル数	数値	○	×	×
PGPSRFLG(n)	フラグ(フェーズ識別) 128(X'80') : BTE (Begin_To_End) 64(X'40') : EXECUTION	数値	○	×	×
PGPSRTYP(n)	サブシステム・タイプ	文字	○	×	×
PGPSSMPN	サンプル情報の配列数 サンプル情報の配列数はz/OSのバージョンにより異なる	数値	○	×	×
PGPSSAMP(m)	実行・遅延要因毎の割合(%)	数値	○	×	×
PGPSSMPC(m)	実行・遅延要因毎のサンプル数	数値	○	×	×



(注1)PGPSSAMPとPGPSSMPCは配列変数であり、その配列数はPGPSSMPNで示されている。

複数のセクションが存在する場合は、PGPSSMPNの整数倍の配列が作成される。セクション数はR723CWMNで示されている。

実行・遅延項目の数はz/OSのバージョンにより異なる。詳細はSMFマニュアルのタイプ72サブタイプ3の「Work Manager/Resource Manager State Section」を参照。

(注2)PGPSSAMPやPGPSSMPCの配列には、セクションのR723RACT、R723RRDYの順に、セクションの最後までのサンプル値が格納される。例としてz/OS V2R1での実行・遅延要因を示す。

配列番号	フィールド名	内容
1	R723RACT	アクティブ状態
2	R723RRDY	レディ状態
3	R723RIDL	アイドル(活動停止)状態
4	R723RWLO	ロック待ち状態
5	R723RWIO	入出力処理待ち状態
6	R723RWCO	会話待ち状態
7	R723RWDS	分散要求の待機状態
8	R723RWSL	セッション確立待ち状態(ローカル)
9	R723RWSN	セッション確立待ち状態(ネットワーク)
10	R723RWSS	セッション確立待ち状態(システムブレックス)
11	R723RWTM	タイマー待ち状態
12	R723RWO	他のプロダクトの待ち状態
13	R723RWMS	識別されていないリソースの待ち状態
14	R723RSSL	システム内の他のコンポーネントで継続
15	R723RSSS	システムブレックス内の他のシステムのコンポーネントで継続
16	R723RSSN	ネットワーク内の他のコンポーネントで継続
17	R723RWST	SSLスレッド待ち状態
18	R723RWRT	通常のスレッド待ち状態
19	R723RWWR	ワークテーブル登録待ち状態
20	R723RAPP	アプリケーションがアクティブの状態
21	R723RWNL	ラッシュ待ち状態
22	R723RW01	リソースタイプ1の待ち状態
23	R723RW02	リソースタイプ2の待ち状態
24	R723RW03	リソースタイプ3の待ち状態
25	R723RW04	リソースタイプ4の待ち状態
26	R723RW05	リソースタイプ5の待ち状態
27	R723RW06	リソースタイプ6の待ち状態
28	R723RW07	リソースタイプ7の待ち状態
29	R723RW08	リソースタイプ8の待ち状態
30	R723RW09	リソースタイプ9の待ち状態
31	R723RW10	リソースタイプ10の待ち状態
32	R723RW11	リソースタイプ11の待ち状態
33	R723RW12	リソースタイプ12の待ち状態
34	R723RW13	リソースタイプ13の待ち状態
35	R723RW14	リソースタイプ14の待ち状態
36	R723RW15	リソースタイプ15の待ち状態
37	R723RBPM	バックファーブルミスによる入出力動作のサンプル数

※リソースタイプ1～15はサブシステムにより使用の有無や内容が異なる。

名前	説明	形式	メーク		
			I	F	H
PGPSWAP	スワップ回数	数値	○	×	×
PGPWSS	平均ワーキング・セット・サイズ (WSS)	数値	○	×	×
POLICYDT	ポリシーを有効にした日付 (YYDDD)	数値	○	×	×
POLICYNM	ポリシー名	文字	○	×	×
POLICYTM	ポリシーを有効にした時刻 (HHMM..SS)	数値	○	×	×
R723CADT	バッチジョブの資源待ち時間 (秒)	数値	○	×	×
R723CCVT	バッチジョブのJCL翻訳時間 (秒)	数値	○	×	×
R723CECA	C EC調整係数	数値	○	×	×
R723CFEA	外部エンクレーブのアクティブ時間 (秒)	数値	○	×	×
R723CICT	ページング以外のDASDのコネクト時間 (秒)	数値	○	×	×
R723CIDT	ページング以外のDASDのI/Oのディスクネクト時間 (秒)	数値	○	×	×
R723CIEA	独立エンクレーブのアクティブ時間 (秒)	数値	○	×	×
R723CIFA	zAAPサービス量	数値	○	×	×
R723CIFC	CPでのzAAPサービス量	数値	○	×	×
R723CIOT	DASDのIOSQ時間 (秒)	数値	○	×	×
R723CIQT	バッチジョブの資源待ち以外での待ち時間 (秒)	数値	○	×	×
R723CIRC	ページング以外のDASDのアクセス回数	数値	○	×	×
R723CIWT	ページング以外のDASDのI/Oの待ち時間 (秒)	数値	○	×	×
R723CLSC	このサービスクラスが最後にサービスした報告クラス名	文字	○	×	×
R723CPDP	使用中のリソースを早期に開放するため優先順位が高められたCPU時間 (秒)	数値	○	×	×
R723CQDT	バッチジョブの実行待ち時間 (秒)	数値	○	×	×
R723CRS1	報告クラス期間のフラグ情報	数値	○	×	×
R723CRTX	レスポンス時間分布テーブルへのインデックス	数値	○	×	×
R723CSAC	実行状態にある空間数	数値	○	×	×
R723CSPA	外部記憶からの共有ページイン数	数値	○	×	×
R723CSPE	拡張記憶からの共有ページイン数	数値	○	×	×
R723CSRS	総共有ページ常駐時間 (秒)	数値	○	×	×
R723CSUC	CPでのzIIPサービス量	数値	○	×	×
R723CSUP	zIIPサービス量	数値	○	×	×
R723CTSA	合計実行サンプル数	数値	○	×	×
R723CXEA	エキスポートエンクレーブのアクティブ時間 (秒)	数値	○	×	×
R723ECTC	実行優先順位を向上し実行させた時間 (秒)	数値	○	×	×
R723GGLT	リソース・グループのフラグ情報	数値	○	×	×
R723IFAT	zAAPプロセッサ使用時間 (秒)	数値	○	×	×
R723IFCT	CPでのzAAP時間 (秒)	数値	○	×	×
R723LPDP	ロック保持時間を短縮するために優先順位を上昇させて消費したCPU時間 (秒) ハイパーディスパッチ環境 (Hiperdispatch) のみ有効	数値	○	×	×
R723MERF	Enqueue ResidencyのCPUサービス係数	文字	○	×	×
R723MFLG	フラグ 128(X'80') : zAAP クロスオーバーの標識。 64(X'40') : zAAP 受け入れ優先順位の標識。 32(X'20') : zIIP 受け入れ優先順位の標識。 16(X'10') : HISMT サービスから戻される失敗。マルチスレッド化最大容量の分子値が無効。 8(X'08') : サービス・クラスが受け入れ優先順位処理に適格でないことを示す標識。 4(X'04') : テナント・レポート・クラスの標識。 2(X'02') : リソース・グループに関連付けられ、任意ゴールが割り当てられている サービス・クラスおよびテナント・レポート・クラスの期間が、ワークロード 管理から除外される。 1(X'01') : 預約済み。				
R723MSCF	フラグ 128(X'80') : レポート・クラスの標識。 64(X'40') : ワークロード活動データは利用不能。 32(X'20') : ポリシー・データは利用不能。 16(X'10') : 入出力遅延を含む実行速度。 8(X'08') : CPU 保護標識。 4(X'04') : ストレージ保護標識。 2(X'02') : 動的別名チューニング標識。 1(X'01') : 入出力優先度グループ HIGH の標識。				
R723NADJ	CPU速度の公称調整係数	数値	○	×	×
R723NFF1	zAAPの速度調整係数	数値	○	×	×
R723NFFS	zIIPの速度調整係数	数値	○	×	×
R723PLSC	この報告クラスを実行したサービスクラス名	文字	○	×	×
R723RTDC	インターバル中に中間点が変更された回数応答時間目標の場合は常にゼロ	数値	○	×	×
R723RTDM	中間点 (ミリ秒) 応答時間目標の場合は指定された目標値ベロシティ目標の場合は対象トランザクションの平均値	数値	○	×	×
R723RTDT	中間点が変更された日時 (TOD 形式)	数値	○	×	×

名前	説明	形式	メーカ		
			I	F	H
R723SAMP	合計実行サンプル数 この項目は次の合計値を示す。 合計使用サンプル数、合計遅延サンプル数、アイドル状態のサンプル数、その他の遅延サンプル数	数値	○	×	×
R723SCSD	S E R V E D サービスクラスの業務が実行した回数	数値	○	×	×
R723SCSN	S E R V E D サービスクラスの名前	文字	○	×	×
R723SPDP	W L M が割当てた優先順位よりも高い優先順位をスーパーバイザによって割当てられて消費した C P U 時間 (秒)	数値	○	×	×
R723TOTL	総サンプル数	数値	○	×	×
R723TPDP	ブロックされたワークロードの実行を助けるために優先順位を上昇させた C P U 時間 (秒)	数値	○	×	×
RESGRPMN	リソース・グループでの最低保障使用量 (C P U の秒当たりのサービスユニット量)	数値	○	×	×
RESGRPMX	リソース・グループでの最大許容使用量 (C P U の秒当たりのサービスユニット量)	数値	○	×	×
RESGRPNM	リソース・グループ名	数値	○	×	×
RESIDTM	常駐時間 (秒)	数値	○	×	×
RMFSUBID	サブタイプ・コード (= 3)	数値	○	×	×
SERVICE	総サービスユニット量	数値	○	×	×
SMF72RTN	応答時間分布セクションの数	数値	○	×	×
SMF72SSN	S E R V E D サービスクラスの数	数値	○	×	×
SRBCOEFF	プロセッサ (S R B) サービス定義定数	数値	○	×	×
SRBUNITS	総 S R B サービスユニット量	数値	○	×	×
SRVCLSNM	サービス/レポート・クラス名	文字	○	×	×
SRVCLSPG	サービスクラスのペリオッドの数 0 (ゼロ) : レポート・クラスを示す。ゼロ以外 : サービスクラスを示す。	数値	○	×	×
SRVDEFDT	サービス・デュエフィニッシュョンを作成した日付 (Y Y D D D)	数値	○	×	×
SRVDEFID	サービス・デュエフィニッシュョンを作成したユーザ ID	文字	○	×	×
SRVDEFNM	サービス・デュエフィニッシュョンの名前	文字	○	×	×
SRVDEFTM	サービス・デュエフィニッシュョンを作成した時刻 (H H M M . S S)	数値	○	×	×
SU_SEC	プロセッサ能力定数	数値	○	×	×
TRANSACT	処理したトランザクション数	数値	○	×	×
WKLGRPNM	ワークロード・グループ名	文字	○	×	×
WLMSAMP	W L M の総サンプリング回数	数値	○	×	×

次の変数はIBMシステムでマルチスレッド機能(SMT)を使用している際に有効です。

R723MCF	C P のスレッドキャパシティ値	数値	○	×	×
R723MCFI	I F A のスレッドキャパシティ値	数値	○	×	×
R723MCFS	I I P のスレッドキャパシティ値	数値	○	×	×

## レコードタイプ73-1（チャネル使用状況）

データ・ソース	RMF、PDL、SAR
内容	チャネル・バス状況を示す。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メカ		
			I	F	H
CHANNEL	チャネル番号	文字	○	○	○
CHANNELS	チャネルセット番号	文字	○	○	○
EMIFBUSY	P R / S M環境で E M I Fを使用している場合に、区画間で共用されたチャネルを使用した際のその区画での使用率を示す。この項目は、P A T H M O D E = 1の場合にのみ有効。	数値	○	×	×
EMIFMSGS	このソケットからの送出メッセージ数（該当区画） この項目は P A T H C P M F = 3の場合にのみ有効。	数値	○	×	×
EMIFUNIT	このソケットの転送ブロック長（バイト単位）（該当区画） この項目は P A T H C P M F = 3の場合にのみ有効。	数値	○	×	×
PATHBUSY	チャネルが使用状態であったサンプル数	数値	○	○	○
PATHCPMF	C P M F タイプ番号（I O S M F 7 3では欠損値）	数値	○	×	×
PATHDESC	チャネル制御型式名（BYTE, BLOCK, CNC, OSE など）	文字	○	×	×
PATHMODE	チャネルの接続モード 0：通常のチャネル 1：P R / S M環境で複数の区画間で共有されたチャネル	数値	○	×	×
PATHMSGS	このソケットからの送出メッセージ数（システム全体） この項目は P A T H C P M F = 3の場合にのみ有効。	数値	○	×	×
PATHTYPE	チャネル種別 B L : ブロック 多重 B Y : バイト多重 E S : E S接続	数値	○	×	×
PATHUNIT	このソケットの転送ブロック長（バイト単位）（システム全体） この項目は P A T H C P M F = 3の場合にのみ有効。	数値	○	×	×
PBUSBUSY	F I C O Nチャネルのバス使用率 この項目は P A T H C P M F = 2の場合にのみ有効。	数値	○	×	×
RMFSUBID	サブタイプ識別（= 1）	数値	○	○	○
SMF73EOC	実行された FICON コマンドモード操作数	数値	○	×	×
SMF73EOD	失敗した FICON コマンドモード操作数	数値	○	×	×
SMF73EOS	FICON コマンドモード操作総数	数値	○	×	×
SMF73ETC	実行された FICON トランスポートモード操作数	数値	○	×	×
SMF73ETD	失敗した FICON トランスポートモード操作数	数値	○	×	×
SMF73ETS	FICON トランスポートモード操作総数	数値	○	×	×
SMF73FG5	C P M F 妥当性検査フラグこの項目は P A T H C P M F = 2 の場合にのみ有効。	数値	○	×	×
SMF73PRU	L P A R 読み取りデータ単位カウントこの項目は P A T H C P M F = 2 の場合にのみ有効。	数値	○	×	×
SMF73PTI	区画のチャネル・バス測定インターバル（秒）	数値	○	×	×
SMF73PWU	L P A R 書き込みデータ単位カウントこの項目は P A T H C P M F = 2 の場合にのみ有効。	数値	○	×	×
SMF73TRU	合計読み取りデータ単位カウント この項目は P A T H C P M F = 2 の場合にのみ有効。	数値	○	×	×
SMF73TWU	合計書き込みデータ単位カウント この項目は P A T H C P M F = 2 の場合にのみ有効。	数値	○	×	×
SMF73US	データ単位のサイズ（バイト単位）一ワード5 この項目は P A T H C P M F = 2 & B I T 4 (SMF73FG5) = 1の場合にのみ有効。	数値	○	×	×

## レコードタイプ 7 3-2 (チャネル・パス構成情報)

データ・ソース	RMF、PDL、SAR
内容	チャネル・パスの構成情報を示す。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メータ		
			I	F	H
CHANNEL	チャネル番号	文字	○	○	○
CHANNELS	チャネルセット番号	文字	○	○	○
LOGPATH	論理制御装置の番号	文字	○	○	×
RMFSUBID	サブタイプ識別 (= 2)	数値	○	○	○

## レコードタイプ74-1（入出力装置の使用状況）

データ・ソース	RMF、PDL、SAR
内容	この情報は、入出力装置の使用状況を示すデータ項目であり、ディスク装置とテープ装置を対象とする。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メーク		
			I	F	H
CUBDLY%	制御装置が使用中のために遅延した時間が応答時間に占める割合 (%)	数値	○	×	×
CUBDLYTM	制御装置が使用中のために遅延した時間 (ミリ秒)	数値	○	×	×
CUNAME	制御装置名 OSのリリースに依存する。	文字	○	×	×
DEVADR	入出力装置のアドレス	文字	○	○	○
DEVADR4	入出力装置のアドレス (4桁)	文字	○	○	○
DEVALC%	インターバル中にこの装置が割り当てられていた割合 (%)	数値	○	○	×
DEVALCTM	そのインターバルにおける装置のアロケーション時間の累積値 (単位は秒)	数値	○	×	×
DEVCMRTM	コマンド起動時間 (ミリ秒)	数値	○	×	×
DEVCNNTM	コネクト時間 (ミリ秒) 富士通システムでは、MSP/EXで有効。	数値	○	○	×
DEVCNT%	コンテンツ時間が応答時間に占める割合 (%)	数値	○	×	×
DEVCNTTM	コンテンツ時間 (ミリ秒)	数値	○	○	×
DEVDISTM	ディスコネクト時間 (ミリ秒) 富士通システムでは、MSP/EXで有効。	数値	○	×	×
DEVGROUPTM	デバイス・グループ名	数値	○	×	×
DEVIOPTM	チャネル・バス待ち時間 (ミリ秒) 富士通システムでは、MSP/EXで有効。	数値	○	○	×
DEVMODE	仮想DASDの識別 0 : 通常 1 : 仮想DASD	数値	○	○	○
DEVMPNTM	そのインターバルにおける装置でのマウント待ち時間の累積値 (単位は秒)	数値	○	×	×
DEVNAME	入出力装置の型式名 '3380J'、'33902'などOSのリリースに依存する。	文字	○	×	×
DEVNAME9	入出力装置の装置記号名 (ニモニック)	数値	×	×	○
DEVPAVNX	PAV用に準備されたUCB(デバイス)数	数値	○	×	×
DEVPENTM	ペンドイング時間 (ミリ秒) 富士通システムでは、MSP/EXで有効。	数値	○	○	×
DEVQLEN	I/Oで待たされた要求の数	数値	○	○	○
DEVQUE%	アクセス待ち時間が応答時間に占める割合 (%)	数値	○	○	○
DEVQUETM	アクセス待ち時間 (ミリ秒)	数値	○	○	○
DEVRSPTM	応答時間 (ミリ秒)	数値	○	○	○
DEVRSV%	インターバル中にこの装置がリザーブされていた割合 (%)	数値	○	×	×
DEVSHARE	共用DASD識別 1 : 共用DASD	数値	○	○	○
DEVSRVVTM	サービス時間 (ミリ秒)	数値	○	○	○
DEVTPCD	入出力装置のタイプ・コード	数値	○	○	○
DEVTYPE	入出力装置のタイプ '3380'、'3390'など	文字	○	○	○
DPBDLYTM	ディレクター・ポート・ビジー時間 (ミリ秒)	数値	○	○	○
DVBBDLY%	デバイス待ち時間が応答時間に占める割合 (%)	数値	○	×	×
DVBBDLYTM	入出力装置が使用中のために遅延した時間 (ミリ秒) デバイス待ち時間と呼ぶ。	数値	○	×	×
GROUPNUM	この装置を使用するパフォーマンス・グループ番号	数値	○	×	×
IOCOUNT	入出力回数	数値	○	○	○
LOGPATH	論理制御装置の番号	文字	○	○	×
TAPMOUNT	テープのマウント回数	数値	○	×	×
TAPMPB1G	インターバル開始時にマウントペンドイング状態	数値	○	×	×
TAPMPEND	インターバル終了時にマウントペンドイング状態	数値	○	×	×

名前	説明	形式	メーカ		
			I	F	H
SMF74CNX	PAV 用制御判定フラグ 32 (X'20') : PAV の基本アクセス 2 (X'02') : Hyper PAV の基本デバイス	数値	○	×	×
SMF74IDT	入出力割込み遅延時間(ミリ秒)	数値	○	×	×
SMF74DTS	ビット 0 — SMF74DTS が有効 ビット 1 — SMF74DTS は無効 ビット 3 — ビット 4 は有効 ビット 4 — 構造システムで共有されている	数値	○	×	×
SMF74DTC	デバイス固有の I D 記号	数値	○	×	×
SMF74CU0	制御装置キュー時間(ミリ秒)	数値	○	×	×
SMF74SCS	サブチャネル・セット ID	数値	○	×	×
STGNAME	ストレージ・グループ名	文字	○	×	×
UCBTYPE	装置属性フラグ	数値	○	○	○
UNITSUB	入出力装置の種別 D A S D : ディスク装置 T A P E : テープ装置 U R : ユニットレコード	文字	○	○	○
VOLSER	装着された記録媒体のボリューム通番 実データでボリューム通番がゼロまたは空白の場合は、‘U N K N O W’ をセット。	文字	○	○	○

## 【解説】

ディスク・ボリュームの応答時間の内訳と各変数の関連は次のようにになっている。

従来形式(CMR無し)



CMR有り



**【注意】ディスク装置情報の一括処理**

MASK文のIOSUMオプションを使用することで、ディスク装置の情報を一括処理できます。この際に有効な変数(レコード固有項目)は次のようにになっています。この際、ディスク以外(UNITSUBが‘DASD’以外)の装置については、保証されていませんので注意して下さい。また、巨大なシステムでは、同一インターバル中に複数のタイプ74が出力される場合があります。

```
DEVADR = '0000'  
VOLSER = '*****'  
LOGPATH = '0000'  
DEVMODE = 0  
UNITSUB = 'DASD'  
IOCOUNT = 読み込まれたタイプ74で報告された全ディスク・ボリュームの総入出力回数  
DEVCNNTM= 読み込まれたタイプ74で報告された全ディスク・ボリュームの総コネクト時間
```

通常の処理形態に戻すにはMASK文のIOALLオプションを使用します。



テープ装置レコードはCPEDBAMS のインターバル変更に対応しておりませんので  
ご注意下さい。

## レコードタイプ 7 4-2 (XCF の使用状況)

データ・ソース	RMF
内容	<p>この情報は、モニタ3により書き出されるレコードでXCFの状況を示す。</p> <p>この情報は、次の3つに分類されており、変数SUBSUBIDで識別することができる。</p> <p>SUBSUBID 内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2 : システム・データ</li> <li>3 : パス・データ</li> <li>4 : メンバー・データ</li> </ul>

&lt;レコード固有項目：SUBSUBID=2&gt;

名前	説明	形式	メーク		
			I	F	H
BIGMSG	定義されているバッファ長よりも長いメッセージの数	数値	○	×	×
DIRECT	0 : インバウンド SYSNAMEのシステムからメッセージを受信 1 : アウトバウンド SYSNAMEのシステムへメッセージを送信 2 : システム内	数値	○	×	×
FITMSG	定義されているバッファ長にあったメッセージの数	数値	○	×	×
MSGLEN	トランスポート・クラスのメッセージ長	数値	○	×	×
NOBUFFER	バッファ不足になった回数	数値	○	×	×
NOPATH	パスが使用中のために待った回数	数値	○	×	×
OVERMSG	XCFが最適化したバッファ長を越えたメッセージの数	数値	○	×	×
PATHS	パスの数	数値	○	×	×
R742SSTF	状態フラグ（注）	数値	○	×	×
RMFSUBID	サブタイプ識別（=2）	数値	○	×	×
SMLMSG	定義されたバッファ長より短いメッセージの数	数値	○	×	×
SUBSUBID	XCFデータ識別（=2）	数値	○	×	×
SYSNAME	システム名	文字	○	×	×
TRANCLNM	トランスポート・クラス名	文字	○	×	×

&lt;レコード固有項目：SUBSUBID=3&gt;

名前	説明	形式	メーク		
			I	F	H
BUSY	バスビジーの回数	数値	○	×	×
DEVNUM	デバイス番号	文字	○	×	×
DIRECT	処理形態 0 : インバウンド・バス 1 : アウトバウンド・バス	数値	○	×	×
INLIMIT	限界値により拒絶されたインバウンド・メッセージ数	数値	○	×	×
NOTBUSY	メッセージ送信の際にバスが未使用であった回数	数値	○	×	×
OTHDVNUM	対象デバイス番号	文字	○	×	×
OTHNAME	対象システム名	文字	○	×	×
PATHIOTM	平均転送時間（マイクロ秒）	数値	○	×	×
PATHTYPE	バス種別 1 : CTC 3 : リスト・ストラクチャ	数値	○	×	×
QUEUE	アウトバウンド・メッセージが保留された数	数値	○	×	×
R742PSTF	状態フラグ（注）	数値	○	×	×
RESTARTS	リスタート数	数値	○	×	×
RMFSUBID	サブタイプ識別（=2）	数値	○	×	×
SIGNAL	送受信メッセージ数	数値	○	×	×
STRNAME1	XCFのストラクチャ名（前半15桁）	文字	○	×	×
STRNAME2	XCFのストラクチャ名（後続の1桁）	文字	○	×	×
SUBSUBID	XCFデータ識別（=3）	数値	○	×	×

&lt;レコード固有項目：S U B S U B I D = 4&gt;

名前	説明	形式	メータ		
			I	F	H
GROUP	グループ名	文字	○	×	×
MEMBER1	メンバー名（1）	文字	○	×	×
MEMBER2	メンバー名（2）	文字	○	×	×
R742MSTF	状態フラグ（注）	数値	○	×	×
RECEIVE	受信したメッセージ数	数値	○	×	×
RMFSUBID	サブタイプ識別（=2）	数値	○	○	○
SEND	送信したメッセージ数	数値	○	×	×
SUBSUBID	X C F データ識別（=4）	数値	○	×	×
SYSNAME	システム名	文字	○	×	×



(注)

このシンボルはCPEDBAMS プログラムでのインターバル統合に対応していません。  
インターバル統合するとそのインターバルで最初に読み込んだ状態フラグのみが報告されます。

## レコードタイプ 7 4-4 (結合機構の使用状況)

データ・ソース	RMF
内容	<p>この情報は、結合機構の使用状況を示すデータ項目であり、次の4つに分類される。</p> <p>S U B S U B I D 内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 : ローカルデータ</li> <li>3 : ストレージ状況</li> <li>5 : プロセッサ状況</li> <li>7 : ストラクチャ情報</li> </ul>

&lt;レコード固有項目 : S U B S U B I D = 1 &gt;

名前	説明	形式	メータ		
			I	F	H
CFNAME	結合機構 (C F) の名前	文字	○	×	×
CFSRVTM	合計サービス時間 (マイクロ秒) * 1	数値	○	×	×
PATHBUSY	パスが使用中のために失敗した回数	数値	○	×	×
PATHS	パスの数	数値	○	×	×
R744FLVL	C F レベル	数値	○	×	×
REQUEST	このシステムからの要求数	数値	○	×	×
SCHCON	サブチャネルのコンテンツ数	数値	○	×	×
SCHDEF	定義されているサブチャネルの数	数値	○	×	×
SCHUSE	サブチャネルの使用数	数値	○	×	×
SCHMAX	サブチャネルの使用可能数	数値	○	×	×
SUBSUBID	C F データ識別 (= 1)	数値	○	×	×
SYSNAME	システム名	文字	○	×	×
UNSUCCES	失敗した要求数	数値	○	×	×
RMFSUBID	サブタイプ識別 (= 4)	数値	○	○	○



\* 1 全ストラクチャの合計値

&lt;レコード固有項目 : S U B S U B I D = 3 &gt;

名前	説明	形式	メータ		
			I	F	H
CFSFREE	ストラクチャストレージの未使用量 (4 KB単位)	数値	○	×	×
CFSSIZE	ストラクチャストレージの大きさ (4 KB単位)	数値	○	×	×
CSFREE	コントロールストレージの未使用量 (4 KB単位)	数値	○	×	×
CSSIZE	コントロールストレージの大きさ (4 KB単位)	数値	○	×	×
DUMPFREE	ダンプスペースの未使用量 (4 KB単位)	数値	○	×	×
DUMPSIZE	ダンプスペースの大きさ (4 KB単位)	数値	○	×	×
SUBSUBID	C F データ識別 (= 3)	数値	○	×	×
RMFSUBID	サブタイプ識別 (= 4)	数値	○	○	○

&lt;レコード固有項目 : S U B S U B I D = 5 &gt;

名前	説明	形式	メータ		
			I	F	H
CPUBUSY	プロセッサ使用率 (%)	数値	○	×	×
CPUBSYTM	C P U 使用時間 (単位マイクロ秒) * 2	数値	○	×	×
CPUDURTM	C P U 使用時間と未使用時間の合計 (単位マイクロ秒) * 2	数値	○	×	×
CPUNUM	プロセッサの数	数値	○	×	×
SUBSUBID	C F データ識別 (= 5)	数値	○	×	×
RMFSUBID	サブタイプ識別 (= 4)	数値	○	×	×



\* 2 これらの変数は、使用されているCPU全体の値であるため、複数のCPUを使用している場合、RMFのインターバル時間よりも長くなる。

&lt;レコード固有項目 : S U B S U B I D = 7 &gt;

名前	説明	形式	メータ		
			I	F	H
R744QFLG	ステータスフラグ(注1)	数値	○	×	×
R744SARC	結合機構への非同期要求数	数値	○	×	×
R744SATM	非同期要求の合計サービス時間(マイクロ秒)	数値	○	×	×
R744SCN	ロック競合を検出した要求数(ロックストラクチャ)	数値	○	×	×
R744SCST	ピア完了待ちによる遅延時間の合計(マイクロ秒)	数値	○	×	×
R744SCTC	ピア完了待ちによる遅延要求数	数値	○	×	×
R744SCUE	使用エレメント数(リストストラクチャ)	数値	○	×	×
R744SDEC	ディレクトリエンティリ数(キャッシュストラクチャ)	数値	○	×	×
R744SDRC	ダンプ逐次化による遅延要求数	数値	○	×	×
R744SDTM	ダンプ逐次化による遅延時間の合計(マイクロ秒)	数値	○	×	×
R744SDEL	データエレメント数(キャッシュストラクチャ)	数値	○	×	×
R744SETM	ストラクチャ実行時間(マイクロ秒)(注3)	数値	○	×	×
R744SFON	ロック競合に失敗した要求数(ロックストラクチャ)	数値	○	×	×
R744SFLG	ストラクチャ状態フラグ	数値	○	×	×
R744SLEL	リストエントリの限界値	数値	○	×	×
R744SLEM	使用中のリストエントリ数	数値	○	×	×
R744SLTL	ロックテーブルエントリの限界値	数値	○	×	×
R744SLTM	使用中のロックテーブルエントリ数	数値	○	×	×
R744SMAE	最大エレメント数(リストストラクチャ)	数値	○	×	×
R744SMAS	ストラクチャの最大サイズ	数値	○	×	×
R744SMIS	ストラクチャの最小サイズ	数値	○	×	×
R744SNM1	ストラクチャ名(上位15文字)	数値	○	×	×
R744SNM2	ストラクチャ名(下位1文字)	数値	○	×	×
R744SPST	ピア・サブチャネル待ちによる遅延時間の合計(マイクロ秒)	数値	○	×	×
R744SPTC	ピア・サブチャネル待ちによる遅延要求数	数値	○	×	×
R744SQRC	サブチャネル待ちによる遅延要求数	数値	○	×	×
R744SQTM	サブチャネル待ちによる遅延時間の合計(マイクロ秒)	数値	○	×	×
R744SSIZ	ストラクチャに割り振られたサイズ(4KB単位)	数値	○	×	×
R744SSRC	結合機構への同期要求数	数値	○	×	×
R744SSTA	同期から非同期に変更された要求数	数値	○	×	×
R744SSTM	同期要求の合計サービス時間(マイクロ秒)	数値	○	×	×
R744STAC	ロック競合が発生した IXLLLOCK 要求数	数値	○	×	×
R744STRC	IXLLIST, IXLCACHE, IXLLOCK 要求数	数値	○	×	×
R744STYP	ストラクチャタイプ 1:リストストラクチャ 2:逐次化リストストラクチャ 3:ロックストラクチャ 4:キャッシュストラクチャ 5:不明	数値	○	×	×

名前	説明	形式	メーカ		
			I	F	H
SUBSUBID	C F データ識別 (= 7)	数値	○	×	×
RMFSUBID	サブタイプ識別 (= 4)	数値	○	○	○

以降はキャッシュ情報。複数のキャッシュデータセクションがある場合は、それらのセクション毎に報告される値の合計をセットする。

R744CCOC	キャストアウト数	数値	○	×	×
R744CDAC	現在のデータエレメント数	数値	○	×	×
R744CDEC	現在のディレクトリエントリ数	数値	○	×	×
R744CDER	ディレクトリエントリのリクーム数	数値	○	×	×
R744CRHC	リードヒット数 <sup>(注2)</sup>	数値	○	×	×
R744CWHO	ライト数（データは変更されていない）	数値	○	×	×
R744CWH1	ライト数（データが変更されている）	数値	○	×	×
R744CXCI	X I コンプリメント数	数値	○	×	×
R744CXDR	X I ディレクトリのリクーム数	数値	○	×	×
R744CXFW	X I ライト数	数値	○	×	×
R744CXNI	X I 名の無効化数	数値	○	×	×
R744CXRL	X I ローカルキャッシュベクタインデックスの置換数	数値	○	×	×



- (注1)R744QFLG が欠損値の場合、対応するストラクチャ情報が見付からなかったことを示す。
- (注2)R744CRHC が欠損値の場合、対応するキャッシュデータセクションが見付からなかったことを示す。
- (注3)R744FLVL > 14 の場合に有効。R744FLVL  $\leq$  14 の場合はNULL がセットされる。

## レコードタイプ74-5（キャッシュ情報）

データ・ソース	RMF
内容	キャッシュ・サブシステム装置活動状況を示す。 キャッシュ・サブシステムごとおよびこの制御装置に接続されたすべての装置ごとに1個のレコードが書き込まれます。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メータ		
			I	F	H
CACHEHIT	キャッシュヒット回数	数値	○	×	×
CACHEID	キャッシュ制御装置識別番号	数値	○	×	×
CACHEIO	キャッシュ経由の入出力アクセス回数	数値	○	×	×
CFWBYP	CFW モードでのキャッシュ回避のアクセス回数	数値	○	×	×
CFWCACHE	CFW キャッシュ要求数 (NWRIT の FAST 要求数)	数値	○	×	×
CFWSEQ	CFW 順次アクセスキャッシュ要求数 (SWRIT の FAST 要求数)	数値	○	×	×
CREAD	CFW リードアクセス回数	数値	○	×	×
CREADHIT	CFW リードヒット回数	数値	○	×	×
CWRIT	CFW ライトアクセス回数	数値	○	×	×
CWRITHIT	CFW ライトヒット回数	数値	○	×	×
DEVADR	装置番号(3桁)	数値	○	×	×
DEVADR4	装置番号(4桁)	数値	○	×	×
DFWBYP	DFW モードでのキャッシュ回避のアクセス回数	数値	○	×	×
DFWINH	キャッシュ禁止でのリードアクセス回数	数値	○	×	×
DSTAGE	デステージング回数	数値	○	×	×
NREAD	リードアクセス回数	数値	○	×	×
NREADHIT	リードヒット回数	数値	○	×	×
NSTAGE	ステージング回数	数値	○	×	×
NWRIT	ライトアクセス回数 (CFWCACHE 数を含む)	数値	○	×	×
NWRITHIT	ライトヒット回数	数値	○	×	×
RANKIDEN	RAID のランク番号	文字	○	×	×
R7451RRQ	RAID ランク読み取り要求数	数値	○	×	×
R7451RRT	RAID ランク読み取り総応答時間(ミリ秒)	数値	○	×	×
SELFDES1	制御装置の装置名や製造番号など(上位15桁)	文字	○	×	×
SELFDES2	制御装置の装置名や製造番号など(下位11桁)	文字	○	×	×
SREAD	順次リードアクセス回数	数値	○	×	×
SREADHIT	順次リードヒット回数	数値	○	×	×
SSTAGE	順次ステージング回数	数値	○	×	×
SWRIT	順次ライトアクセス回数 (CFWSEQ 数を含む)	数値	○	×	×
SWRITHIT	順次ライトヒット回数	数値	○	×	×
TOTALIO	入出力アクセス回数	数値	○	×	×
VOLSER	ボリューム識別記号	数値	○	×	×

## レコードタイプ 7 4-6 (HFS情報)

データ・ソース	R M F
内容	HFS 使用状況を示す。 この情報は、次の 2 つに分類されており、変数 HFSRECID で識別することができる。 HFSRECID 内容 1 グローバル情報 2 バッファ情報

&lt;レコード固有項目 : HFSRECID=1&gt;

名前	説明	形式	メー カ		
			I	F	H
VIRTUALM	最大仮想記憶容量 (MB)	数値	○	×	×
VIRTUALT	合計仮想記憶容量 (ページ)	数値	○	×	×
FIXEDMIN	最小固定量 (MB)	数値	○	×	×
FIXEDTTL	総固定量 (ページ)	数値	○	×	×
METAHIT	メタデータのヒット回数	数値	○	×	×
METAMIS	メタデータのミス回数	数値	○	×	×
FIRSTHIT	最初のページがヒットした回数	数値	○	×	×
FIRSTMIS	最初のページがミスした回数	数値	○	×	×
RETURNC1	リターンコード (R746LRC)	数値	○	×	×
RETURNC2	リターンコード (R746SRC)	数値	○	×	×
STATUSFG	フラグバイト (R746GSFL)	数値	○	×	×

&lt;レコード固有項目 : HFSRECID=2&gt;

名前	説明	形式	メー カ		
			I	F	H
BUFSIZE	バッファサイズ (ページ)	数値	○	×	×
SPACENUM	バッファプールのデータスペース数	数値	○	×	×
BPSIZE	バッファプールのサイズ (ページ)	数値	○	×	×
FIXBUFN	バッファプール内の固定バッファ数 (ページ)	数値	○	×	×
BUFFIXED	I / O 操作前にバッファが固定されていた回数	数値	○	×	×
BUFNOFIX	I / O 操作前にバッファが固定されていなかった回数	数値	○	×	×

## レコードタイプ 74-8 (ESS統計情報レコード)

データ・ソース	RMF
内容	エンタープライズ・ディスク・システム統計状況を示す。

&lt;レコード固有項目 : HFSRECID=1&gt;

名前	説明	形式	メータ		
			I	F	H
R748CAE	ABEND コード	数値	○	×	×
R748CINT	インターバル長 (秒)	数値	○	×	×
R748CI0C	IOS リターンコード	数値	○	×	×
R748CMDL	制御装置モデル	文字	○	×	×
R748CRTN	IDCSS01 リターンコード	数値	○	×	×
R748CSC	状態コード	数値	○	×	×
R748CSER	プライマリ制御装置の製造番号	文字	○	×	×
R748CTYP	制御装置タイプ	文字	○	×	×

(LINK STATISTICS SECTION より : セクション数だけ繰り返す)

SUBSUBID	セクション識別番号 (1)	数値	○	×	×
R748LAID	アダプター ID	数値	○	×	×
R748LERB	ECKD 読み取り活動 (128 KB 単位)	数値	○	×	×
R748LERO	ECKD 読み取り操作の数	数値	○	×	×
R748LERT	チャネルでの ECKD 読み取り活動の累算時間 (ミリ秒)	数値	○	×	×
R748LEWB	ECKD 書き込み活動 (128 KB 単位)	数値	○	×	×
R748LEWO	ECKD 書き込み操作の数	数値	○	×	×
R748LEWT	チャネルでの ECKD 書き込み活動の累算時間 (ミリ秒)	数値	○	×	×
R748LFLG	フラグ ビットセットされた場合の意味 0 : バイトの単位が確定できない。バイト値が誤り 1 : 時間の単位が確定できない。時間値が誤り	数値	○	×	×
R748LPRB	PPRC 受信活動 (128 KB 単位)	数値	○	×	×
R748LPRO	PPRC 受信操作回数	数値	○	×	×
R748LPRT	PPRC 受信活動の累算時間 (ミリ秒)	数値	○	×	×
R748LPSB	PPRC 送信活動 (128 KB 単位)	数値	○	×	×
R748LPSO	PPRC 送信操作回数	数値	○	×	×
R748LPST	PPRC 送信活動の累算時間 (ミリ秒)	数値	○	×	×
R748LSRB	SCSI 読み取り活動 (128 KB 単位)	数値	○	×	×
R748LSRO	SCSI 読み取り操作回数	数値	○	×	×
R748LSRT	チャネルでの SCSI 読み取り活動の累算時間 (ミリ秒)	数値	○	×	×
R748LSWB	SCSI 書き込み活動 (128 KB 単位)	数値	○	×	×
R748LSWO	SCSI 書き込み操作回数	数値	○	×	×
R748LSWT	チャネルでの SCSI 書き込み活動の累算時間 (ミリ秒)	数値	○	×	×
R748LTYP	リンク・タイプ 1 : ESCON 2 : ファイバー・チャネル 1 G ビット／秒 3 : ファイバー・チャネル 2 G ビット／秒 4 : ファイバー・チャネル 4 G ビット／秒 5 : ファイバー・チャネル 8 G ビット／秒 6 : ファイバー・チャネル 16 G ビット／秒 10 : ETHERNET 10 G ビット／秒	数値	○	×	×

(EXTENT POOL STATISTICS SECTION より : セクション数だけ繰り返す)

SUBSUBID	セクション識別番号 (2)	数値	○	×	×
R748XPID	エクステント・プール ID	数値	○	×	×
R748XPLT	エクステント・タイプ 4 : FIBRE 1GB 1 3 2 : CKD 1GB	数値	○	×	×
R748XRNA	エクステント・プール内で割り振り済みの実エクステント数	数値	○	×	×
R748XRNS	エクステント・プール内の実エクステント数	数値	○	×	×

(RANK STATISTICS SECTION より : セクション数だけ繰り返す)

SUBSUBID	セクション識別番号 (3)	数値	○	×	×
R748RAIX	ランク内の最初のアレイ・セクションに対する索引	数値	○	×	×
R748RBVR	ランク 1 2 8 KB 読み取り	数値	○	×	×
R748RBVW	ランク 1 2 8 KB 書き込み	数値	○	×	×
R748RCNT	ランク内のアレイのカウント	数値	○	×	×
R748RKRT	ランク読み取り応答時間 (16ミリ秒単位)	数値	○	×	×
R748RKWT	ランク書き込み応答時間 (16ミリ秒単位)	数値	○	×	×
R748RPNM	エクステント・プール番号	数値	○	×	×
R748RRID	ランク ID	数値	○	×	×
R748RROP	ランク読み取り操作回数	数値	○	×	×
R748RWOP	ランク書き込み操作回数	数値	○	×	×

(RANK ARRAY DATA SECTION より : セクション数だけ繰り返す)

SUBSUBID	セクション識別番号 (4)	数値	○	×	×
R748ACP	アレイ容量 (GB単位)	数値	○	×	×
R748AAID	ランク・アレイ ID	数値	○	×	×
R748ASP	アレイ速度 (1000 RPM単位)	数値	○	×	×
R748AWD	アレイ幅	数値	○	×	×
R748ARID	ランク ID	数値	○	×	×
R748ATYP	アレイ・タイプ 1 : RAID-5 2 : RAID-10 3 : RAID-6	数値	○	×	×

## レコードタイプ75（ページング・データセット状況）

データ・ソース	R M F、P D L
内容	ページング・データセット状況を示す。 この情報は I B M と富士通システムで有効である。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メータ		
			I	F	H
CUNAME	制御装置名 OSのリリースに依存する。	文字	○	×	×
DEVADR	入出力装置のアドレス	文字	○	○	×
DEVADR4	入出力装置のアドレス（4桁）	文字	○	○	×
DEVMODE	仮想D A S Dの識別 0：通常 1：仮想D A S D	数値	○	○	×
DEVNAME	装置型式名 '3 3 8 0 J'、'3 3 9 0 2'などOSのリリースに依存する。	文字	○	×	×
DEVSHARE	共用D A S D識別 1：共用D A S D	数値	○	○	×
DEVTYPECD	入出力装置のタイプコード	数値	○	○	×
DEVTYPE	入出力装置のタイプ	文字	○	○	×
PDSPAGE	転送したスロット数 但しSWAPデータセットの場合は12スロット単位の数	数値	○	○	×
PDSSRVTM	平均スロット転送時間（ミリ秒）または、平均サービス時間（ミリ秒） 但しSWAPデータセットの場合は12スロット当たりの転送時間（ミリ秒）	数値	○	○	×
PDSTYPE	ページ・データセットの種別 0：P L P A 1：コモン 2：D U P L E X 3：ローカル 4：S W A P 6：S C M（注）	数値	○	○	×
PDSVIO	V I O許可フラグ 1：V I Oページング処理可能	数値	○	○	×
SLOTALC	ページ・データセットの大きさ	数値	○	○	×
SLOTUSE	使用量	数値	○	○	×
SMF75SCS	サブチャネル・セット ID	数値	○	×	×
UCBTYPE	ページ・データセットが存在するディスク装置の装置属性	数値	○	○	×
VOLSER	ボリューム識別番号	文字	○	○	×



(注)

IBM z/OS V2R1 以降で出力されます。

## レコードタイプ 78-1 (チャネル・パス構成情報)

データ・ソース	R M F、P D L
内容	チャネル・パス構成情報を示す。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メーク		
			I	F	H
CHANNEL	チャネル番号	文字	○	○	×
LOGPATH	論理制御装置の番号	文字	○	○	×
PCUNAME1	制御装置名 1	文字	○	○	×
PCUNAME2	制御装置名 2	文字	○	○	×
PCUNAME3	制御装置名 3	文字	○	○	×
PCUNAME4	制御装置名 4	文字	○	○	×
PCUNUM	制御装置の数	数値	○	○	×
RMFSUBID	サブタイプ番号 (= 1)	数値	○	○	×

## レコードタイプ78-2（仮想記憶の使用状況）

データ・ソース	R M F、P D L
内容	<p>仮想記憶の使用状況を示す。</p> <p>この情報は I B M と富士通システムで有効である。</p> <p>この情報には、仮想空間の各領域についての次の項目が示される。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 領域の先頭アドレス</li> <li>・ 領域の大きさ</li> <li>・ 領域の中で、割り当てられている大きさ</li> <li>・ 領域の中で、使用されている大きさ</li> <li>・ 領域が不足したために他の領域を使用した大きさ</li> </ul>

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メーク		
			I	F	H
VSMCSA	C S A 領域の先頭アドレス	文字	○	○	×
VSMCSAA	C S A 領域のなかで割り当てられている大きさ (KB) I B M システムの場合には R U C S A を含む。	数値	○	○	×
VSMCSAF	C S A 領域のなかで未使用の大きさ (KB) I B M システムの場合には R U C S A を含む。	数値	○	×	×
VSMCOSAS	C S A 領域のサイズ (KB)	数値	○	○	×
VSMCSAU	C S A 領域のなかで使用中の大きさ (KB)	数値	○	×	×
VSMECSA	拡張 C S A 領域の先頭アドレス	文字	○	○	×
VSMECSAA	拡張 C S A 領域のなかで割り当てられている大きさ (KB) I B M システムの場合には拡張 R U C S A を含む。	数値	○	○	×
VSMECSAF	拡張 C S A 領域のなかで未使用の大きさ (KB) I B M システムの場合には拡張 R U C S A を含む。	数値	○	×	×
VSMECSAS	拡張 C S A 領域の大きさ (KB)	数値	○	○	×
VSMECSAU	拡張 C S A 領域のなかで使用中の大きさ (KB)	数値	○	×	×
VSMEFLPA	拡張 F L P A の先頭アドレス	文字	○	×	×
VSMEFLPS	拡張 F L P A の大きさ (KB)	数値	○	×	×
VSMEMLPA	拡張 M L P A の先頭アドレス	文字	○	×	×
VSMEMLPS	拡張 M L P A の大きさ (KB)	数値	○	×	×
VSMENUUC	拡張 ニュークリアスの先頭アドレス	文字	○	×	×
VSMENUCS	拡張 ニュークリアスの大きさ (KB)	数値	○	×	×
VSMEPLPA	拡張 P L P A の先頭アドレス	文字	○	○	×
VSMEPLPS	拡張 P L P A の大きさ (KB)	数値	○	○	×
VSMEPVTT	拡張 私有域の先頭アドレス	文字	○	○	×
VSMEPVTS	拡張 私有域の大きさ (KB)	数値	○	○	×
VSMERUC	拡張 R U C S A の先頭アドレス	文字	○	×	×
VSMERUCS	拡張 R U C S A の大きさ (KB)	数値	○	×	×
VSMESPIL	ESQA から ECSA へスビルした量 (KB)	数値	○	×	×
VSMESQA	拡張 S Q A 領域の先頭アドレス	文字	○	○	×
VSMESQAA	拡張 S Q A 領域のなかで割り当てられている大きさ (KB)	数値	○	○	×
VSMESQAF	拡張 S Q A 領域のなかで未使用の大きさ (KB)	数値	○	×	×
VSMESQAS	拡張 S Q A 領域の大きさ (KB)	数値	○	○	×
VSMESQAU	拡張 S Q A 領域のなかで使用中の大きさ (KB)	数値	○	×	×
VSMFLPA	F L P A 領域の先頭アドレス	文字	○	×	×
VSMFLPAS	F L P A 領域の大きさ (KB)	数値	○	×	×
VSMLAST	仮想空間の最終アドレス	文字	○	○	×
VSMMLPA	M L P A 領域の先頭アドレス	文字	○	×	×
VSMMLPAS	M L P A 領域の大きさ (KB)	数値	○	×	×
VSMNUC	ニューカリアス領域の先頭アドレス	文字	○	×	×
VSMNUCS	ニューカリアス領域の大きさ (KB)	数値	○	×	×
VSMPLPA	P L P A 領域の先頭アドレス	文字	○	○	×
VSMPLPAS	P L P A 領域の大きさ (KB)	数値	○	○	×
VSMPSA	P S A 領域の先頭アドレス	文字	○	○	×
VSMPSAS	P S A 領域の大きさ (KB)	数値	○	×	×

VSMPVT	私有域の先頭アドレス	文字	○	○	×
VSMPVTS	私有域の大きさ (KB)	数値	○	○	×
VSMRUC	R U C S A の先頭アドレス	文字	○	×	×
VSMRUCS	R U C S A の大きさ (KB)	数値	○	×	×
VSMRUFLG	フラグ 128(X'80') : 共通サービス域の制限付き使用 (RUCSA) が定義されている。	数値	○	×	×
VSMSPILL	SQA から CSA ヘスピルした量 (KB)	数値	○	×	×
VSMSP226	サブプール 226 の SQA サイズ (注1) (KB)	数値	○	×	×
VSMSP227	サブプール 227 の SQA サイズ (注1) (KB)	数値	○	×	×
VSMSP231	サブプール 231 の SQA サイズ (注1) (KB)	数値	○	×	×
VSMSP239	サブプール 239 の SQA サイズ (注1) (KB)	数値	○	×	×
VSMSP241	サブプール 241 の SQA サイズ (注1) (KB)	数値	○	×	×
VSMSP245	サブプール 245 の SQA サイズ (注1) (KB)	数値	○	×	×
VSMSQA	S Q A 領域の先頭アドレス	文字	○	○	×
VSMSQAA	S Q A 領域のなかで割り当てられている大きさ (KB)	数値	○	○	×
VSMSQAF	S Q A 領域のなかで未使用の大きさ (KB)	数値	○	×	×
VSMSQAS	S Q A 領域の大きさ (KB)	数値	○	○	×
VSMSQAU	S Q A 領域のなかで使用中の大きさ (KB)	数値	○	×	×
VSMSZKEY(1)	プロテクトキー 0 の CSA サイズ (注1) (KB)	数値	○	×	×
VSMSZKEY(2)	プロテクトキー 1 の CSA サイズ (注1) (KB)	数値	○	×	×
VSMSZKEY(3)	プロテクトキー 2 の CSA サイズ (注1) (KB)	数値	○	×	×
VSMSZKEY(4)	プロテクトキー 3 の CSA サイズ (注1) (KB)	数値	○	×	×
VSMSZKEY(5)	プロテクトキー 4 の CSA サイズ (注1) (KB)	数値	○	×	×
VSMSZKEY(6)	プロテクトキー 5 の CSA サイズ (注1) (KB)	数値	○	×	×
VSMSZKEY(7)	プロテクトキー 6 の CSA サイズ (注1) (KB)	数値	○	×	×
VSMSZKEY(8)	プロテクトキー 7 の CSA サイズ (注1) (KB)	数値	○	×	×
VSMSZKEY(9)	プロテクトキー 8 の CSA サイズ (注1) (KB)	数値	○	×	×
VSMSZKEYE(1)	プロテクトキー 0 の ECSA サイズ (注1) (KB)	数値	○	×	×
VSMSZKEYE(2)	プロテクトキー 1 の ECSA サイズ (注1) (KB)	数値	○	×	×
VSMSZKEYE(3)	プロテクトキー 2 の ECSA サイズ (注1) (KB)	数値	○	×	×
VSMSZKEYE(4)	プロテクトキー 3 の ECSA サイズ (注1) (KB)	数値	○	×	×
VSMSZKEYE(5)	プロテクトキー 4 の ECSA サイズ (注1) (KB)	数値	○	×	×
VSMSZKEYE(6)	プロテクトキー 5 の ECSA サイズ (注1) (KB)	数値	○	×	×
VSMSZKEYE(7)	プロテクトキー 6 の ECSA サイズ (注1) (KB)	数値	○	×	×
VSMSZKEYE(8)	プロテクトキー 7 の ECSA サイズ (注1) (KB)	数値	○	×	×
VSMSZKEYE(9)	プロテクトキー 8 の ECSA サイズ (注1) (KB)	数値	○	×	×



## (注1)

これらのシンボルは、CPEDBAMSプログラムで「COMPRESS YES(1)」を指定した圧縮に対応していません。「COMPRESS YES(1)」を指定して圧縮すると、CPEDBAMS プログラムはこれらのシンボルの値にゼロをセットして圧縮率を高めます。  
 これらのシンボルの値が必要な場合は「COMPRESS YES」と指定して圧縮してください。詳細は「ES/1 NEO MF-MAGIC 使用者の手引き」をご覧ください。

## レコードタイプ78-3（チャネル・バス構成情報）

データ・ソース	RMF
内容	チャネル・バス構成情報を示す。 このレコードは、3090やES/9000シリーズのプロセッサを使用している場合に出力される。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メータ		
			I	F	H
CHANNEL	チャネル番号	文字	○	×	×
LOGPATH	論理制御装置の番号	文字	○	×	×
R783AMGS	別名管理グループ名 (SuperPAV データのみ有効)	文字	○	×	×
PCUNAME1	制御装置名 1	文字	○	×	×
PCUNAME2	制御装置名 2	文字	○	×	×
PCUNAME3	制御装置名 3	文字	○	×	×
PCUNAME4	制御装置名 4	文字	○	×	×
PCUNUM	制御装置の数	数値	○	×	×
R783CUB	制御装置が使用中のため遅延された入出力要求数	数値	○	×	×
R783DPB	ディレクターポートが使用中のため遅延された入出力要求数	数値	○	×	×
R783PT	そのバスで正常終了した出力要求数	数値	○	×	×
RMFSUBID	サブタイプ番号 (=3)	数値	○	×	×

※DS8000 シリーズでは LSS(logical subsystem)と表現している。

## レコードタイプ 7 8-53 (HyperPAV/SuperPAV 情報)

データ・ソース	R M F
内容	HyperPAV/SuperPAV 情報を示す。 このレコードは、z/OS VIR8 以降で HyperPAV 機能を使用しているシステムで出力される。 z/OS V2.3 以降で SuperPAV が有効な場合は、SuperPAV 関連項目も出力される。 このレコードの変数を要求する際には MASK 文の OPTION 句に HYPER-PAV を指定する必要がある。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メー カ		
			I	F	H
R783HLCU	論理制御装置 (LCU※) の番号	文字	○	×	×
R783HCU	制御装置 (CU) の番号	文字	○	×	×
R783HNAI	HyperPAV 用のアリスが不足しているため入出力要求を開始できなかった回数	数値	○	×	×
R783HTIO	HyperPAV 入出力要求の合計数	数値	○	×	×
R783HAIU	HyperPAV 用のアリスを使用した論理制御装置当たりの最大数	数値	○	×	×
R783HCAD	HyperPAV 用のアリスを使用したディスク装置当たりの最大数	数値	○	×	×
R783HIQ	キューに入れられた入出力要求の最大数	数値	○	×	×
RMFSUBID	サブタイプ番号 (= 53)	数値	○	×	×
R783AMGS	別名管理グループ番号 (SuperPAV データのみ有効)	文字	○	×	×
R783XANC	別名が必要であった回数。 (SuperPAV データのみ有効)	数値	○	×	×
R783XAUC	別名が使用された回数。 (SuperPAV データのみ有効)	数値	○	×	×
R783XNHC	ホーム LCU で使用可能な別名がなかった回数 (SuperPAV データのみ有効)	数値	○	×	×
R783XABC	別名をピア LCU から借用した回数。 (SuperPAV データのみ有効)	数値	○	×	×
R783XCBG	ピア LCU から同時に借用された別名の数 (SuperPAV データのみ有効)	数値	○	×	×
R783XHBC	ピア LCU から同時に借用された別名の最大数 (SuperPAV データのみ有効)	数値	○	×	×
R783XALC	別名がピア LCU に貸し出された回数 (SuperPAV データのみ有効)	数値	○	×	×
R783XCCLC	ピア LCU に同時に貸し出された別名の数 (SuperPAV データのみ有効)	数値	○	×	×
R783XHLC	ピア LCU に同時に貸し出された別名の最大数 (SuperPAV データのみ有効)	数値	○	×	×
R783XNAG	ピア LCU で使用可能な別名がなかった回数 (SuperPAV データのみ有効)	数値	○	×	×
R783XCQD	キューに入れられた入出力の累積数 (SuperPAV データのみ有効)	数値	○	×	×
R783XCIU	使用された別名の累積数 (SuperPAV データのみ有効)	数値	○	×	×

※DS8000 シリーズでは LSS(logical subsystem)と表現している。

## 2.5 富士通システム固有情報

富士通システムのオンライン・サブシステムであるAIMに関する稼働状況、ディスクキャッシュ利用状況やAVM/EX環境での利用状況などをパフォーマンス計測ツールPDLで収集することができます。この中で、AIM関連情報については、FSP/XSPやMSPシステムで共通となります。これらのデータは、次のように分類されています。

レコードタイプ RMFRECID	サブタイプ SUBRECID	内 容	対象 OS			備考
			MSP	MSP-EX	XSP	
198	1	AIM メッセージ処理状況	○	○		
198	2	AIM エクステント排他状況	○	○	○	AIM V12/V20
198	3	AIMDTPF 状況	○	○	○	AIM V12/V20
198	4	AIMDTPF セッショングループ状況	○	○	○	AIM V12/V20
198	5	AIMVMQN/VSMQN 状況	○	○	○	AIM V12/V20
198	6	DCMS バッファごとの使用状況	○			
198	7	HLF バッファの個別情報	○			
198	10	DASD キャッシュ状況	○			
198	11	A キャッシュ状況 1(キャッシュ性能情報)	○			
198	12	A キャッシュ状況 2(RANK 性能情報)	○			
198	13	A キャッシュ状況 3(DM 性能情報)	○			
198	20	AVM 状況 1	○	○		
198	21	AVM 状況 2	○	○		
198	22	AVM 状況 3	○	○		
198	23	AVM 状況 (物理チャネル情報)	○		OPT1	
198	24	AVM 状況 (論理チャネル情報)	○		OPT1	
198	30	SSU 情報	○			
198	40	仮想記憶域の最大容量	○			
198	41	仮想記憶最大割当量情報	○		OPT1	
198	50	VTAM-G バッファ情報	○			
198	60	拡張物理チャネル情報	○	○	OPT1	
198	70	仮想記憶情報	○			
198	71	外部記憶情報	○			
198	72	DCMS バッファ毎の詳細情報	○			
198	73	VTAM-G バッファ利用状況	○			
198	80	JES バッファ情報	○			
198	81	JQE/JOE 情報	○			
198	82	スプール情報	○			
199	—	AIM システム稼働状況	○	○		

富士通システム固有データ群の記述形式は次のようになっています。

<ヘッダー部>

データ・ソース	レコードを作成したOSのコンポーネント名。
内容	レコードの作成タイミングや内容の概要説明。

<変数部>

変数部は、次の形式で説明されています。

名前	説明	形式	メーカ		
			I	F	H
RMFRECID	レコード番号	数値	○	○	○

- 名前 : 変数名。  
 説明 : 変数にセットされる内容の説明。  
 形式 : 変数にセットされる値の形式。  
 メーカ : 3文字が表示されます。IはIBM MVSシステム、Fは富士通MSPシステム、Hは日立VOS3システムに対応します。  
 その際、「○」の場合は有効を示し、「×」の場合は欠損値を示します。

## &lt;共通項目&gt;

名前	説明	形式	メー カ		
			I	F	H
MVSXAFG	M V S / X A モードフラグ 富士通システム固有情報の場合は、0（ゼロ）固定。	数値	○	○	○
RMFRECID	レコード番号	数値	○	○	○
STARTDAY	データ収集を開始した日付 (Y Y D D D)	数値	○	○	○
STARTTIME	データ収集を開始した時刻 (H H M M. S S)	数値	○	○	○
SUBRECID	サブタイプ識別	数値	○	○	○
SYSTEM	対象システムのシステム識別コード	文字	○	○	○

## レコードタイプ198-1 (AIMメッセージ処理状況)

データ・ソース	PDL
内容	AIMメッセージの処理状況を示す。 この情報は、オンライン・システムで処理されるトランザクションのレスポンス時間を示すデータ項目である。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メカ		
			I	F	H
MAXMSGCT	最大処理トランザクション数	数値	×	○	×
MAXMSGTM	最大処理トランザクション数を検出した時刻（通算秒数）	数値	×	○	×
MAXPROCS	最大トランザクションの処理時間（秒）	数値	×	○	×
MAXPROTM	最大処理時間を検出した時刻（通算秒数）	数値	×	○	×
MAXQUEUTM	最大処理待ちメッセージ数を検出した時刻（通算秒数）	数値	×	○	×
MAXQUEUE	最大処理待ちメッセージ数	数値	×	○	×
MAXTASKN	最大アクティブラスク数	数値	×	○	×
MAXTSKTM	最大アクティブラスク数を検出した時刻（通算秒数）	数値	×	○	×
MQNNAME	トランザクションのメッセージ待ちノード名	文字	×	○	×
PROCNAME	トランザクションの処理プロセッサ名	文字	×	○	×
PROCTIME	トランザクションの処理時間（秒）	数値	×	○	×
RESPONSE	トランザクションの応答時間（秒）	数値	×	○	×
SMQNNNAME	トランザクションのサブメッセージ待ちノード名	文字	×	○	×
SMQNNUM	トランザクションのサブメッセージ待ちノード番号	文字	×	○	×
SUBRECID	サブレコード番号（=1）	数値	×	○	×
TASKBSY1	トランザクション処理のタスク稼働率（%） 次の場合には補正された値が入ります。 ・タスク稼働率がマイナス → 0（補正值） ・タスク稼働率が100以上 → 100（補正值）	数値	×	○	×
TASKBUSY	トランザクション処理のタスク稼働率（%）	数値	×	○	×
TRANSACT	処理トランザクション数	数値	×	○	×
WAITCNT	処理待ちが発生していたトランザクション件数	数値	×	○	×
WAITTIME	トランザクションの処理待ち時間（秒）	数値	×	○	×

## 【解説】

処理トランザクションは、その処理を行うタスクとしてPROCNAME、MQNNAME およびSMQNNNAME(もしくはSMQN NUM)で識別される。トランザクションのレスポンス時間(RESPONSE)は、アプリケーション・プログラムの処理待ち時間(WAITTIME)と処理時間(PROCTIME)に分類される。

## レコードタイプ 198-2 (AIMエクステント排他状況)

データ・ソース	PDL
内容	AIMエクステント排他状況を示す。 この情報は、オンライン・システムで使用されるデータベースの使用状況を示すデータ項目である。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メーカ		
			I	F	H
DEADLOCK	データベースでのデッドロック発生回数	数値	×	○	×
DSN1	データベースのデータセット名(1)	文字	×	○	×
DSN2	データベースのデータセット名(2)	文字	×	○	×
EXCLREQ	データベースへの排他要求数	数値	×	○	×
EXCLWAIT	データベースでの排他待ち発生回数	数値	×	○	×
EXTENT	データベース内でのデータセット順序番号	数値	×	○	×
MAXEXCLU	最大排他待ち時間(ミリ秒)	数値	×	○	×
MAXEXCTM	最大排他待ち時間を検出した時刻(通算秒数)	数値	×	○	×
SCHMGRP	データベースのスキーマ・グループの名称	文字	×	○	×
SCHMNAME	データベースのスキーマ名称	文字	×	○	×
SUBRECID	サブレコード番号(=2)	数値	×	○	×
VOLSER	データベースのボリューム通番	文字	×	○	×
WAITTIME	データベースでの排他待ち時間(秒)	数値	×	○	×

## レコードタイプ198-3 (AIM DTPF状況)

データ・ソース	PDL
内容	AIM DTPF状況を示す。 この情報は、オンライン・システムで使用されるデータベースの使用状況を示すデータ項目である。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メカ		
			I	F	H
RCVDRCBS	受信作業域の総個数	数値	×	○	×
RCVMSG	相手システムより受信したメッセージ数	数値	×	○	×
RCVTIME	受信用作業域使用時間の平均値(秒)	数値	×	○	×
RCVUSED	使用中受信用作業域個数の平均値	数値	×	○	×
RCVUSUM	受信用作業域延べ使用個数の累計値	数値	×	○	×
SNDDRCBS	送信用作業域の総個数	数値	×	○	×
SNDMSG	相手システムへ送信したメッセージ数	数値	×	○	×
SNDSHRT	送信用作業域の不足回数	数値	×	○	×
SNDTIME	送信用作業域使用時間の平均値(秒)	数値	×	○	×
SNDUSED	使用中送信用作業域個数の平均値	数値	×	○	×
SNDUSUM	送信用作業域延べ使用個数の累計値	数値	×	○	×
SUBRECID	サブレコード番号(=3)	数値	×	○	×
SYSTEMID	結合システム名	文字	×	○	×
VWSBS	仮想ワークステーションの総個数	数値	×	○	×
VWSBSHRT	仮想ワークステーションの不足回数	数値	×	○	×
VWSBTIME	仮想ワークステーション使用時間(秒)	数値	×	○	×
VWSBUSED	使用中ワークステーションの数	数値	×	○	×
VWSBUSUM	仮想ワークステーション延べ使用個数の累計値	数値	×	○	×

## レコードタイプ 198-4 (AIM DTPF 詳細状況)

データ・ソース	PDL
内容	AIM DTPF 状況を示す。 この情報は、オンライン・システムで使用されるデータベースの使用状況を示すデータ項目である。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メーカ		
			I	F	H
RCVMSG	当該セッション・グループを使用して相手システムから受信したメッセージの数	数値	×	○	×
RESPONSE	送信時間(秒) この時間は送信待ち時間と送信処理時間の合計値を示す。	数値	×	○	×
SESSION	当該セッション・グループ内のセッション数	数値	×	○	×
SGPRID	セッション・グループ ID	文字	×	○	×
SGRPBUSY	セッション・グループの使用率 (%)	数値	×	○	×
SGRPQLEN	送信待ちメッセージの数	数値	×	○	×
SNDMSG	当該セッション・グループを使用して相手システムへ送信したメッセージの数	数値	×	○	×
SNDTIME	メッセージ送信処理時間(秒)	数値	×	○	×
SUBRECID	サブレコード番号 (= 4)	数値	×	○	×
SYSTEMID	結合システム名	文字	×	○	×
WAITTIME	送信待ち時間(秒)	数値	×	○	×

## レコードタイプ198-5 (AIM\_DTPFメッセージ送信処理状況)

データ・ソース	PDL
内容	AIM_DTPFメッセージ送信処理状況を示す。 この情報は、仮想MQN／仮想SMQNにおけるDTPFメッセージ送信の処理状況を示す。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メーカ		
			I	F	H
MQNNAME	仮想MQN名	文字	×	○	×
RESPONSE	仮想SMQNのメッセージ送信経過時間（秒） この時間は、送信待ち時間と送信処理時間の合計値を示す。	数値	×	○	×
SGPRID	使用セッション・グループID	文字	×	○	×
SMQNBUSY	仮想SMQNの使用率（%）	数値	×	○	×
SMQNNAME	グローバルSMQN名	文字	×	○	×
SMQNNUM	仮想SMQN通番	数値	×	○	×
SMQNQLEN	仮想SMQNの送信待ちメッセージの数	数値	×	○	×
SNDMSG	送信メッセージの数 この項目は、仮想MQN内の仮想SMQN宛に送信された送信メッセージの数を示し、正常終了しただけが含まれる。	数値	×	○	×
SNDTIME	仮想SMQNのメッセージ送信処理時間（秒）	数値	×	○	×
SUBRECID	サブレコード番号（=5）	数値	×	○	×
VSNDMSG	送信メッセージの数	数値	×	○	×
WAITTIME	仮想SMQNのメッセージ送信待ち時間（秒）	数値	×	○	×

## レコードタイプ 198-6 (DCMSバッファごとの使用状況)

データ・ソース	PDL
内容	DCMSバッファごとの使用状況を示す。 この情報は、DCMSバッファごとの使用状況を示すデータである。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メーク		
			I	F	H
DCMSBID	DCMSバッファの番号	数値	×	○	×
DCMSCUR	現バッファ数	数値	×	○	×
DCMSINI	バッファ初期値	数値	×	○	×
DCMSIZE	バッファサイズ (バイト)	数値	×	○	×
DCMSMAX	使用中の最大バッファ数	数値	×	○	×
DCMSMTM	使用中の最大バッファ数を記録した時刻 (通算秒数)	数値	×	○	×
DCMSSHT	バッファ不足回数の最大	数値	×	○	×
DCMSSTM	バッファ不足回数を記録した時刻 (通算秒数)	数値	×	○	×
DCMSTYP	DCMSバッファの種別 128 : CCB 64 : SPFMMAIN 32 : SPFDASD 16 : メモリ常駐バッファ 8 : DASDバッファ	数値	×	○	×

## レコードタイプ198-7 (H L Fバッファの個別情報)

データ・ソース	P D L
内容	H L Fバッファの個別情報を示す。 この情報は、H L Fバッファの使用状況を示すデータ項目である。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メーク		
			I	F	H
AIMDIRID	A I Mディレクトリ I D	文字	×	○	×
BUFLEN	バッファサイズ (バイト)	数值	×	○	×
BUFMAX	最大使用バッファ数	数值	×	○	×
BUFMAXTM	最大使用バッファ数を検出した時刻 (通算秒数)	数值	×	○	×
BUFNUM	バッファ数	数值	×	○	×
BUFSHT	最大バッファ枯渇回数	数值	×	○	×
BUFSHTTM	最大バッファ枯渇回数を検出した時刻 (通算秒数)	数值	×	○	×
HLFGRPNM	H L Fグループ名 (1 C 4-1 では空白)	文字	×	○	×
SISNAME	S I S名	文字	×	○	×

## レコードタイプ198-10 (DASDキャッシュ状況)

データ・ソース	PDL
内容	DASDキャッシュ状況を示す。 この情報は、ディスクキャッシュ・メモリの利用状況を示す。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メカ		
			I	F	H
AIMDIRID	AIMディレクトリID この項目は、リードとライトの両方を含み、トラック単位に計測される。このため、1回の入出力要求で複数のトラックをアクセスすると入出力要求数より多くなる。	文字	×	○	×
CACHECID	ディスクキャッシュ制御機構の識別子 (DCF識別子)	数値	×	○	×
CACHEDFW	DASDファーストライト回数	数値	×	○	×
CACHEDSN	データセット名 (1)	文字	×	○	×
CACHEDS1	データセット名 (2)	文字	×	○	×
CACHEDS2	データセット名 (3)	文字	×	○	×
CACHEECH	ディスクキャッシュ対象エクステントの終端アドレス形式はCCH。	文字	×	○	×
CACHEEXT	エクステント番号	数値	×	○	×
CACHEHIT	リードヒットした回数	数値	×	○	×
CACHEMIS	リードミスした回数	数値	×	○	×
CACHEMOD	ディスクキャッシュ対象エクステントのモード 0 : 高速書き込み機能有効、かつ、ブリフェッヂ機能有効 1 : 高速書き込み機能有効、かつ、ブリフェッヂ機能無効 2 : 高速書き込み機能無効、かつ、ブリフェッヂ機能有効 3 : 兩機能無効	数値	×	○	×
CACHEPRE	ブリフェッヂしたトラック数	数値	×	○	×
CACHEPRH	ブリフェッヂしたトラックでヒットした回数	数値	×	○	×
CACHEPRY	エクステントのプライオリティ 0 : プライオリティ・グループ 0 (常駐) 1 : プライオリティ・グループ 1 (非常駐)	数値	×	○	×
CACHESCH	ディスクキャッシュ対象エクステントの始端アドレス形式はCCH。	文字	×	○	×
CACHETHR	キャッシュバイパス・リードした回数	数値	×	○	×
CACHEVOL	ボリューム通番	文字	×	○	×
CACHEWBK	ライトバック回数	数値	×	○	×
CACHEWTH	ライトスルー回数	数値	×	○	×

## レコードタイプ198-11 (キャッシュ性能情報)

データ・ソース	PDL
内容	DASDキャッシュ状況を示す。 この情報は、ディスクキャッシュ・メモリの利用状況を示す。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メータ		
			I	F	H
ACACINTV	インターバル長(秒)	数値	×	○	×
ACACFCU	FCU識別子	数値	×	○	×
ACACTYP	データ種別(X'80':F6493,X'10':F6495)	数値	×	○	×
ACACHOST	ホストデバイスアドレス	文字	×	○	×
ACACADDR	装置番号	数値	×	○	×
ACACVOL	ボリューム通番	文字	×	○	×
ACACREAD	読み込みトラック数	数値	×	○	×
ACACRMIS	ミスした読み込みトラック数	数値	×	○	×
ACACWRIT	書き込みトラック数	数値	×	○	×
ACACWMIS	ミスした書き込みトラック数	数値	×	○	×
ACACPRES	先読みトラック数	数値	×	○	×
ACACPHIT	ヒットした先読みトラック数	数値	×	○	×
ACACPRDH	先読みされヒットした読み込みトラック数	数値	×	○	×
ACACPWTH	先読みされヒットした書き込みトラック数	数値	×	○	×

## レコードタイプ 198-12 (RANK性能情報)

データ・ソース	PDL
内容	RANK性能情報を示す。 この情報は、ディスクキャッシュ・メモリの利用状況を示す。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	マーク		
			I	F	H
ACACINTV	インターバル長 (秒)	数値	×	○	×
ACACFCU	FCU識別子	数値	×	○	×
ACACTYP	データ種別 (X'40':F6493)	数値	×	○	×
ACACHOST	ホストデバイスアドレス	文字	×	○	×
ACACPROC	トータルI/O処理時間 (秒)	数値	×	○	×

## レコードタイプ198-13 (DM性能情報)

データ・ソース	PDL
内容	DM性能情報を示す。 この情報は、ディスクキャッシュ・メモリの利用状況を示す。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	マーク		
			I	F	H
ACACINTV	インターバル長 (秒)	数値	×	○	×
ACACFCU	FCU識別子	数値	×	○	×
ACACTYP	データ種別 (X'08':F6495)	数値	×	○	×
ACACHOST	ホストデバイスアドレス	文字	×	○	×
ACACRSRV	トータル読み込みサービス時間 (秒)	数値	×	○	×
ACACWSRV	トータル書き込みサービス時間 (秒)	数値	×	○	×

## レコードタイプ 198-20 (AVM状況 1)

データ・ソース	PDL
内容	AVMの処理状況を示す。 この情報は、AVM環境下で動作している場合の利用状況を示す。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メータ		
			I	F	H
AVMCPUTM	AVMがゲストOSをディスパッチしていた累計時間(秒)	数値	×	○	×
AVMELAPS	ゲストOSが動作可能であった総時間(秒)	数値	×	○	×
AVMNAME	ゲストOSの名前	文字	×	○	×
SUBRECID	サブレコード番号(=20)	数値	×	○	×

## レコードタイプ 198-21 (AVM状況2)

データ・ソース	PDL
内容	AVM環境下でのゲストOSのCPU使用状況を示す。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メー カ		
			I	F	H
AVMNAME	ゲストOSの名前	文字	x	○	x
CPUBUSY	ゲストOSのCPU使用率 (%)	数値	x	○	x
CPUNUMBR	ゲストOSに割り当てられているプロセッサ数	数値	x	○	x
CPURAT10	ゲストOSに割り当てられているCPU配分率	数値	x	○	x
SUBRECID	サブレコード番号 (= 21)	数値	x	○	x

## レコードタイプ 198-22 (AVM状況3)

データ・ソース	PDL
内容	AVM環境下でのAVM自身の状況を示す。

<レコード固有項目>

名前	説明	形式	メータ		
			I	F	H
AVMRUNTM	AVM/EXの走行時間(秒)	文字	x	○	x
SUBRECID	サブレコード番号(=22)	数値	x	○	x

## レコードタイプ 198-23 (AVM 状況 (物理チャネル情報))

データ・ソース	PDL
内容	AVM環境下での物理チャネル情報を示す。

<レコード固有項目>

名前	説明	形式	メータ		
			I	F	H
AVMPCHBZ(n)	物理チャネル使用率 (%) nは最大256	数値	x	○	x
RMFSAMP	PDL レコード番号	数値	x	○	x

## レコードタイプ 198-24 (AVM状況 (論理チャネル情報))

データ・ソース	PDL
内容	AVM環境下での物理チャネル情報を示す。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メカ		
			I	F	H
AVMLCHBZ(n)	論理チャネル使用率 (%) n は最大 256	数値	×	○	×
AVMLCHPN(n)	論理チャネルに対応する物理チャネル番号 n は最大 256	数値	×	○	×
AVMLCHTP(n)	論理チャネルの型式コード n は最大 256	文字	×	○	×
AVMLCHTY(n)	論理チャネルの型式名 n は最大 256	文字	×	○	×
AVMNAME	AVMのゲストOS名	文字	×	○	×
RMFSAMP	PDL レコード番号	数値	×	○	×

## レコードタイプ 198-30 (SSU情報)

データ・ソース	PDL
内容	システム記憶の利用状況を示す。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メー カ		
			I	F	H
SSUSIZEP	SSU の物理サイズ (MB)	数値	×	○	×
SSUSIZE	SSU の論理サイズ (MB)	数値	×	○	×
SSUUSE	SSU の使用量 (MB)	数値	×	○	×
SSUUNUSE	SSU の未使用量 (MB)	数値	×	○	×
SSUOFFLN	SSU でオフラインとされている容量 (MB)	数値	×	○	×
SSUUSE%	SSU の使用率	数値	×	○	×

## レコードタイプ 198-40 (仮想記憶域の最大容量)

データ・ソース	PDL
内容	仮想記憶域の最大容量を示す。 この情報は、仮想記憶領域の最大容量を示すデータ項目である。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メーク		
			I	F	H
PDLCSAMX	C S A の最大ページ数	数值	×	○	×
PDLECSMX	E C S A の最大ページ数	数值	×	○	×
PDLERGMX	E R E G I O N の最大ページ数	数值	×	○	×
PDLESQMX	E S Q A の最大ページ数	数值	×	○	×
PDLFREMN	仮想記憶の最小未使用ページ数	数值	×	○	×
PDLFREMX	仮想記憶の最大未使用ページ数	数值	×	○	×
PDLREGMX	R E G I O N の最大ページ数	数值	×	○	×
PDLSQAMX	S Q A の最大ページ数	数值	×	○	×

## レコードタイプ198-41（仮想記憶最大割当量情報）

データ・ソース	PDL
内容	仮想記憶域の最大容量を示す。 この情報はMSP/EXのOPT1形式でMEMCMAXサンプラー指定時に有効。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メカ		
			I	F	H
CSA1PL	IPL後のCSAの最大ページ数	数値	×	○	×
CSA1PLD	IPL後のCSAの最大ページ数を検出した日付(CYYDDD)	数値	×	○	×
CSA1PLT	IPL後のCSAの最大ページ数を検出した時刻(通算秒数)	数値	×	○	×
CSAMAX	インターバル内でのCSAの最大ページ数	数値	×	○	×
CSAMAXD	インターバル内でのCSAの最大ページ数を検出した日付(CYYDDD)	数値	×	○	×
CSAMAXT	インターバル内でのCSAの最大ページ数を検出した時刻(通算秒数)	数値	×	○	×
CSASIZE	CSAの大きさ(ページ数)	数値	×	○	×
ECSA1PL	IPL後のECSAの最大ページ数	数値	×	○	×
ECSA1PLD	IPL後のECSAの最大ページ数を検出した日付(CYYDDD)	数値	×	○	×
ECSA1PLT	IPL後のECSAの最大ページ数を検出した時刻(通算秒数)	数値	×	○	×
ECSAMAX	インターバル内でのECSAの最大ページ数	数値	×	○	×
ECSAMAXD	インターバル内でのECSAの最大ページ数を検出した日付(CYYDDD)	数値	×	○	×
ECSAMAXT	インターバル内でのECSAの最大ページ数を検出した時刻(通算秒数)	数値	×	○	×
ECSASIZE	ECSAの大きさ(ページ数)	数値	×	○	×
ESQA1PL	IPL後のESQAの最大ページ数	数値	×	○	×
ESQA1PLD	IPL後のESQAの最大ページ数を検出した日付(CYYDDD)	数値	×	○	×
ESQA1PLT	IPL後のESQAの最大ページ数を検出した時刻(通算秒数)	数値	×	○	×
ESQAMAX	インターバル内でのESQAの最大ページ数	数値	×	○	×
ESQAMAXD	インターバル内でのESQAの最大ページ数を検出した日付(CYYDDD)	数値	×	○	×
ESQAMAXT	インターバル内でのESQAの最大ページ数を検出した時刻(通算秒数)	数値	×	○	×
ESQASIZE	ESQAの大きさ(ページ数)	数値	×	○	×
SQA1PL	IPL後のSQAの最大ページ数	数値	×	○	×
SQA1PLD	IPL後のSQAの最大ページ数を検出した日付(CYYDDD)	数値	×	○	×
SQA1PLT	IPL後のSQAの最大ページ数を検出した時刻(通算秒数)	数値	×	○	×
SQAMAX	インターバル内でのSQAの最大ページ数	数値	×	○	×
SQAMAXD	インターバル内でのSQAの最大ページ数を検出した日付(CYYDDD)	数値	×	○	×
SQAMAXT	インターバル内でのSQAの最大ページ数を検出した時刻(通算秒数)	数値	×	○	×
SQASIZE	SQAの大きさ(ページ数)	数値	×	○	×



## レコードタイプ198 サブタイプ41のSTARTIMEについて

このレコードの基となるPDLデータは、SMFの書き出し時刻を報告します。

CPESHELLプログラムでは、前出レコードとのインターバルの差分を算出し、STARTIMEに時刻をセットしています。

しかし先頭のレコードにおいては、インターバルの差分を算出することができない為、PDLデータに

記録されている時刻をセットしています。

その為、STARTIMEが次のレコードと重複する可能性があります。

## レコードタイプ 198-50 (VTAM-G バッファ情報)

データ・ソース	PDL
内容	VTAM-G バッファ情報を示す。 この情報は、VTAM-G が使用する 3 種類のバッファプール(AMBUF、FSBUF、IOBUF)の使用状況を示すデータ項目である。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メータ		
			I	F	H
AMBUFINI	AMBUF のバッファ数 (初期値)	数值	×	○	×
AMBUFMAX	AMBUF のバッファ数 (最大値)	数值	×	○	×
AMBUFNUM	AMBUF のバッファ数 (現在値)	数值	×	○	×
AMBUFUSE	AMBUF のバッファ数 (平均値)	数值	×	○	×
FSBUFINI	FSBUF のバッファ数 (初期値)	数值	×	○	×
FSBUFMAX	FSBUF のバッファ数 (最大値)	数值	×	○	×
FSBUFNUM	FSBUF のバッファ数 (現在値)	数值	×	○	×
FSBUFUSE	FSBUF のバッファ数 (平均値)	数值	×	○	×
IOBUFINI	IOBUF のバッファ数 (初期値)	数值	×	○	×
IOBUFMAX	IOBUF のバッファ数 (最大値)	数值	×	○	×
IOBUFNUM	IOBUF のバッファ数 (現在値)	数值	×	○	×
IOBUFUSE	IOBUF のバッファ数 (平均値)	数值	×	○	×

## レコードタイプ 198-60 (拡張物理チャネル情報)

データ・ソース	PDL
内容	拡張物理チャネルの使用状況を示す。 この情報は MSP-EX の OPT1 形式で CHANNELX サンプラーが指定されている場合、または XSP で I0X5 サンプラーが指定されている場合に有効。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メーク		
			I	F	H
DURATM	オンライン時間 (秒)	数値	×	○	×
CHANNEL	チャネル番号 (16進数: 00からFF)	文字	×	○	×
CHNLACTV	バスビジー時間 (秒)	数値	×	○	×
CHNLBUSY	動作時間 (秒)	数値	×	○	×
CHNLREAD	R E A D 処理数 (* 1)	数値	×	○	×
CHNLRMAX	R E A D 最大処理数 (* 1)	数値	×	○	×
CHNLTYPE	チャネルタイプ	文字	×	○	×
CHNLUNIT	データユニットサイズ (バイト)	数値	×	○	×
CHNWMAX	W R I T E 最大処理数 (* 1)	数値	×	○	×
CHNLWRTE	W R I T E 処理数 (* 1)	数値	×	○	×

CHNLUNIT がゼロの場合、\* 1 の変数は信用できない。

## レコードタイプ 198-70 (仮想記憶情報)

データ・ソース	PDL
内容	仮想記憶情報を示す。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メータ		
			I	F	H
EFLSQA	EFLSQA領域の使用量(平均)(KB)	数値	×	○	×
EFLSQAAS	EFLSQA領域を使用していた最大空間数	数値	×	○	×
EFLSQAN	EFLSQA領域の使用量(最小)(KB)	数値	×	○	×
EFLSQASZ	EFLSQA領域の大きさ(KB)	数値	×	○	×
EFLSQAX	EFLSQA領域の使用量(最大)(KB)	数値	×	○	×
EFSQA	EFSQA領域の使用量(平均)(KB)	数値	×	○	×
EFSQAN	EFSQA領域の使用量(最小)(KB)	数値	×	○	×
EFSQASZ	EFSQA領域の大きさ(KB)	数値	×	○	×
EFSQAX	EFSQA領域の使用量(最大)(KB)	数値	×	○	×
EPLPASZ	EPLPA領域の大きさ(KB)	数値	×	○	×
EPLSQA	EPLSQA領域の使用量(平均)(KB)	数値	×	○	×
EPLSQAAS	EPLSQA領域を使用していた最大空間数	数値	×	○	×
EPLSQAN	EPLSQA領域の使用量(最小)(KB)	数値	×	○	×
EPLSQASZ	EPLSQA領域の大きさ(KB)	数値	×	○	×
EPLSQAX	EPLSQA領域の使用量(最大)(KB)	数値	×	○	×
EPSQA	EPSQA領域の使用量(平均)(KB)	数値	×	○	×
EPSQAN	EPSQA領域の使用量(最小)(KB)	数値	×	○	×
EPSQASZ	EPSQA領域の大きさ(KB)	数値	×	○	×
EPSQAX	EPSQA領域の使用量(最大)(KB)	数値	×	○	×
EREGION	EREGION領域の使用量(平均)(KB)	数値	×	○	×
EREGNAS	EREGION領域を使用していた最大空間数	数値	×	○	×
EREGNN	EREGION領域の使用量(最小)(KB)	数値	×	○	×
EREGNSZ	EREGION領域の大きさ(KB)	数値	×	○	×
EREGNX	EREGION領域の使用量(最大)(KB)	数値	×	○	×
FLSQA	FLSQA領域の使用量(平均)(KB)	数値	×	○	×
FLSQAAS	FLSQA領域を使用していた最大空間数	数値	×	○	×
FLSQAN	FLSQA領域の使用量(最小)(KB)	数値	×	○	×
FLSQASZ	FLSQA領域の大きさ(KB)	数値	×	○	×
FLSQAX	FLSQA領域の使用量(最大)(KB)	数値	×	○	×
FSQA	FSQA領域の使用量(平均)(KB)	数値	×	○	×
FSQAN	FSQA領域の使用量(最小)(KB)	数値	×	○	×
FSQASZ	FSQA領域の大きさ(KB)	数値	×	○	×
FSQAX	FSQA領域の使用量(最大)(KB)	数値	×	○	×
PLPASZ	PLPA領域の大きさ(KB)	数値	×	○	×
PLSQA	PLSQA領域の使用量(平均)(KB)	数値	×	○	×
PLSQAAS	PLSQA領域を使用していた最大空間数	数値	×	○	×
PLSQAN	PLSQA領域の使用量(最小)(KB)	数値	×	○	×
PLSQASZ	PLSQA領域の大きさ(KB)	数値	×	○	×
PLSQAX	PLSQA領域の使用量(最大)(KB)	数値	×	○	×
PSQA	PSQA領域の使用量(平均)(KB)	数値	×	○	×
PSQAN	PSQA領域の使用量(最小)(KB)	数値	×	○	×
PSQASZ	PSQA領域の大きさ(KB)	数値	×	○	×
PSQAX	PSQA領域の使用量(最大)(KB)	数値	×	○	×
REGION	REGION領域の使用量(平均)(KB)	数値	×	○	×
REGNAS	REGION領域を使用していた最大空間数	数値	×	○	×
REGNN	REGION領域の使用量(最小)(KB)	数値	×	○	×
REGNSZ	REGION領域の大きさ(KB)	数値	×	○	×
REGNX	REGION領域の使用量(最大)(KB)	数値	×	○	×
SAMPLE	サンプル数	数値	×	○	×

## レコードタイプ198-71（外部記憶情報）

データ・ソース	PDL
内容	外部記憶情報を示す。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メカ		
			I	F	H
DURATM	インターバル時間（秒）	数値	x	○	×
EPSDEV	デバイスタイプコード	文字	x	○	×
EPS10CNT	アクセス総数	数値	x	○	×
EPSMAX	EPSの使用量（最大）（KB）	数値	x	○	×
EPSMIN	EPSの使用量（最小）（KB）	数値	x	○	×
EPSPAGE	転送ページ総数	数値	x	○	×
EPSRSPTM	平均アクセス時間（ミリ秒）	数値	x	○	×
EPSSAMP	サンプル数	数値	x	○	×
EPSSIZE	EPSの大きさ（KB）	数値	x	○	×
EPSTYPE	EPS種別（O：LPAEPS、その他：JOBEPS）	数値	x	○	×
EPSUSE	EPSの使用量（平均）（KB）	数値	x	○	×
EPSVOL	ボリュームの識別記号	文字	x	○	×

## レコードタイプ 198-72 (AIM DCMS バッファ毎の詳細情報)

データ・ソース	PDL
内容	AIM DCMS バッファ毎の詳細情報を示す。 この情報は、オンライン・システムで使用されるDCMSバッファの使用状況を示すデータ項目である。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メーク		
			I	F	H
BUFCUR	現在のバッファ数	数值	×	○	×
BUFGET	バッファ獲得回数	数值	×	○	×
BUFGETMX	バッファ獲得回数の最大	数值	×	○	×
BUFGETTM	最大値が検出された時刻 (1/100秒単位)	数值	×	○	×
BUFID	バッファ番号	数值	×	○	×
BUFINIT	バッファ数の初期値	数值	×	○	×
BUFSHR	バッファ枯渇回数	数值	×	○	×
BUFSHRMX	バッファ獲得回数 (最大)	数值	×	○	×
BUFSHRTM	最大値が検出された時刻 (1/100秒単位)	数值	×	○	×
BUFSIZE	バッファの大きさ (バイト)	数值	×	○	×
BUFST	バッファ状態 (128であればCCB情報)	数值	×	○	×
BUFUSE	使用中のバッファ数 (平均)	数值	×	○	×
BUFUSEMX	使用中のバッファ数 (最大)	数值	×	○	×
BUFUSETM	最大値が検出された時刻 (1/100秒単位)	数值	×	○	×
DURATM	サンプリング間隔 (ミリ秒)	数值	×	○	×
SAMPLE	サンプル数	数值	×	○	×

## レコードタイプ 198-73 (VTAM-G バッファ利用状況)

データ・ソース	PDL
内容	VTAM-G バッファの利用状況を示す。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メカ		
			I	F	H
AMBUFBMX	AMBUF の最大バッファ数	数値	×	○	×
AMBUFBUF	AMBUF の平均バッファ数	数値	×	○	×
AMBUFEMX	AMBUF の最大拡張ページ数	数値	×	○	×
AMBUFEPG	AMBUF の平均拡張ページ数	数値	×	○	×
AMBUFEXP	AMBUF の拡張ページ数	数値	×	○	×
AMBUFINI	AMBUF の基本バッファ数	数値	×	○	×
AMBUFUMX	AMBUF の最大使用バッファ数	数値	×	○	×
AMBUFUSE	AMBUF の平均使用バッファ数	数値	×	○	×
FSBUFBMX	FSBUF の最大バッファ数	数値	×	○	×
FSBUFBUF	FSBUF の平均バッファ数	数値	×	○	×
FSBUFEMX	FSBUF の最大拡張ページ数	数値	×	○	×
FSBUFEPG	FSBUF の平均拡張ページ数	数値	×	○	×
FSBUFEXP	FSBUF の拡張ページ数	数値	×	○	×
FSBUFINI	FSBUF の基本バッファ数	数値	×	○	×
FSBUFUMX	FSBUF の最大使用バッファ数	数値	×	○	×
FSBUFUSE	FSBUF の平均使用バッファ数	数値	×	○	×
IOBUFBMX	IOBUF の最大バッファ数	数値	×	○	×
IOBUFBUF	IOBUF の平均バッファ数	数値	×	○	×
IOBUFEMX	IOBUF の最大拡張ページ数	数値	×	○	×
IOBUFEPG	IOBUF の平均拡張ページ数	数値	×	○	×
IOBUFEXP	IOBUF の拡張ページ数	数値	×	○	×
IOBUFINI	IOBUF の基本バッファ数	数値	×	○	×
IOBUFUMX	IOBUF の最大使用バッファ数	数値	×	○	×
IOBUFUSE	IOBUF の平均使用バッファ数	数値	×	○	×
SAMPLE	サンプル数	数値	×	○	×

## レコードタイプ 198-80 (JES バッファ情報)

データ・ソース	PDL
内容	JES バッファ情報の利用状況を示す。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メカ		
			I	F	H
JESBLEN	JES バッファの大きさ	数値	×	○	×
JESBNUM	JES バッファ数	数値	×	○	×
DSNPRFX	DSNPRFX の指定値	数値	×	○	×
JESBENUM	拡張域の JES バッファ数	数値	×	○	×
CMBNUM	CMB の個数	数値	×	○	×
JESBUSE	JES バッファの使用個数	数値	×	○	×
JESBEUSE	拡張域の JES バッファの使用個数	数値	×	○	×
CMBLOST	CMB が獲得できなかった回数	数値	×	○	×
CMBUSE	使用している CMB の個数	数値	×	○	×

## レコードタイプ 198-81 (JQE/JOE 情報)

データ・ソース	PDL
内容	JQE/JOE 情報の利用状況を示す。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メカ		
			I	F	H
JQENUM	JQE の総数	数値	×	○	×
JOENUM	JOE の総数	数値	×	○	×
JQEOUT	出力キュー上の JQE の個数	数値	×	○	×
JQEINPUT	入力キュー上の JQE の個数	数値	×	○	×
JQEFREE	未使用の JQE の個数	数値	×	○	×
JOEWORK	ワーク JOE の個数	数値	×	○	×
JOEKPT	チェックポイント JOE の個数	数値	×	○	×
JOECHAR	キャラクタリストック JOE の個数	数値	×	○	×
JOEFREE	未使用の JOE の個数	数値	×	○	×

## レコードタイプ 198-82 (スプール情報)

データ・ソース	PDL
内容	スプール情報の利用状況を示す。

<レコード固有項目>

名前	説明	形式	メーク		
			I	F	H
SPOLSIZE	利用可能なトラックグループの総数	数値	x	○	x
SPOLUSE	使用中のトラックグループの総数	数値	x	○	x

## レコードタイプ199 (AIMシステム稼働状況)

データ・ソース	PDL
内容	AIMメッセージの処理状況を示す。 この情報は、AIMオンライン・システムの稼働状況を示すデータ項目である。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メカ		
			I	F	H
ACTIVETX	同時に実行されているタスクの数	数値	×	○	×
BOFACCN	BOFファイルへのアクセス回数	数値	×	○	×
BOFPROC	BOFファイルへの書き出しレコード数	数値	×	○	×
BOFPRTM	BOFファイルの応答時間（ミリ秒）	数値	×	○	×
BOFQLEN	BOFファイルでのアクセス待ち要求数	数値	×	○	×
BOFWTTM	BOFファイルでのアクセス待ち時間（ミリ秒）	数値	×	○	×
DCMSSHRT	DCMSバッファの枯渇回数	数値	×	○	×
DCMSUSE%	DCMSバッファの使用率	数値	×	○	×
DEADLOCK	データベースのデッドロック発生回数	数値	×	○	×
EXCLWAIT	データベースの排他要求数	数値	×	○	×
HLFACCN	HLFファイルへのアクセス回数	数値	×	○	×
HLFBPROC	HLFバッファへの書き出しレコード数	数値	×	○	×
HLFBQLEN	HLFバッファでのアクセス待ち要求数	数値	×	○	×
HLFBSHRT	HLFバッファの枯渇回数	数値	×	○	×
HLFBUSED	HLFバッファの使用率	数値	×	○	×
HLFBWTTM	HLFバッファのアクセス待ち時間（ミリ秒）	数値	×	○	×
HLFPROC	HLFファイルへの書き出しレコード数	数値	×	○	×
HLFPRTM	HLFファイルの応答時間（ミリ秒）	数値	×	○	×
HLFQLEN	HLFファイルでのアクセス待ち要求数	数値	×	○	×
HLFWTTM	HLFファイルでのアクセス待ち時間（ミリ秒）	数値	×	○	×
LRQBSHRT	L R Q B 枯渇回数	数値	×	○	×
LRQBSNUM	使用可能 L R Q B 数	数値	×	○	×
LRQBUSED	使用 L R Q B 数	数値	×	○	×
LRQBUSUM	使用した L R Q B の累積数	数値	×	○	×
PROCTIME	平均トランザクション処理時間（秒）	数値	×	○	×
RESPONSE	平均トランザクション応答時間（秒）	数値	×	○	×
SAMPLE	サンプリング回数	数値	×	○	×
TLFACCN	TLFファイルへのアクセス回数	数値	×	○	×
TLFPROC	TLFファイルへの書き出しレコード数	数値	×	○	×
TLFPRTM	TLFファイルの応答時間（ミリ秒）	数値	×	○	×
TLFQLEN	TLFファイルでのアクセス待ち要求数	数値	×	○	×
TLFWTTM	TLFファイルでのアクセス待ち時間（ミリ秒）	数値	×	○	×
TRANSACT	処理トランザクション数	数値	×	○	×
WAITCNT	処理待ちが発生していたトランザクション件数	数値	×	○	×
WAITTIME	平均トランザクション待ち時間（秒）	数値	×	○	×

## 2.6 日本電気ACOS-4

ES/1 NEO MF-ACOS-4を利用してACOS-4システムのシステム評価を行う際、ACOS-4システムで収集されたモニタリング情報を利用します。このモニタリング情報は、一定時間間隔ごとに収集されSMFファイルへ書き出されるレコードであり、その時間間隔(インターバル)内でのシステム資源の稼働状況を示しています。

ES/1 NEO MF-ACOS-4では、このモニタリング情報の解析を容易にするためにSMFレコードの形式などを意識することなくプログラム作成を行えるように工夫しています。先ず、システム評価を行うプログラムは全てSHELLプラットフォーム言語で開発されています。このプログラムのことをプロセジヤと呼びますが、このプロセジヤではSMFのレコード形式などを意識せずに処理を行っています。但し、今読み込んだSMFレコードがどのような情報を持っているものであるかは判断する必要があります。

プロセジヤの実行制御を行うCPESHELLプログラムは、プロセジヤがRMF文でSMFレコードを読み込む指示を行った際、実際にSMFレコードを読み込み、そのレコードの種別などを示す変数に値をセットします。また同時に、そのレコードに記録されている情報を変数群にセットします。プロセジヤは、それらの変数にセットされた値を基にシステム評価を行います。

CPESHELLプログラムとプロセジヤのインターフェースとなる、これらの変数名とセットされる値の意味は事前に定義されている必要があります。この資料では、これらの変数名とセットされる値の意味を規定します。

### SMFレコードの共通部

プロセジヤはRMF文を実行する度に、読み込まれたSMFレコードがどの様な情報を記録しているものであるかを判断する必要があります。このために、CPESHELLプログラムはRMF文が実行される度に下記の変数をセットします。プロセジヤはRMFRECIDやSUBRECIDなどの変数にセットされた値を検査し、読み込まれたSMFレコードで情報がセットされる変数の名前などを判断する必要があります。

## アカウンティング情報

レコードタイプ RMFRECID	サブタイプ SUBRECID	内容	備考
196	12	ジョブ実行	
196	13	ジョブステップ実行	
196	30	ATSSセッション情報	
196	140	ファイル使用状況	
196	143	VSASファイル使用状況	

稼働実績データ群の記述形式は次のようになっています。

## &lt;ヘッダー部&gt;

データ・ソース	レコードを作成したOSのコンポーネント名。
内容	レコードの作成タイミングや内容の概要説明。

## &lt;変数部&gt;

変数部は、次の形式で説明されています。

名前	説明	形式	OS種別		
			A	M	X
RMFRECID	レコード番号	数値	○	○	○

名前 : 変数名。

説明 : 変数にセットされる内容の説明。

形式 : 変数にセットされる値の形式。

メーカー : 3文字が表示されます。AはAVPシステム、MはMVPシステム、XはXVPシステムに対応します。  
その際、「○」の場合は有効を示し、「×」の場合は欠損値を示します。

## &lt;共通項目&gt;

名前	説明	形式	OS種別		
			A	M	X
RMFRECID	レコード番号(196固定)	数値	○	○	○
SUBRECID	サブタイプ識別番号	数値	○	○	○
STARTDAY	レコード出力の日付(YYDDD形式) 2000年以降の日付はCYYDDD形式で表す。	数値	○	○	○
STARTDAY	レコード出力の時刻(HHMM.SS形式)	数値	○	○	○
STARTIME	文字列の空白(定数)	文字	○	○	○
MVSXAEG	数値の0(定数)	数値	○	○	○

## レコードタイプ 196-12 (ジョブ実行情報)

データ・ソース	S M F
内容	ジョブ実行情報を示す。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	OS 種別		
			A	M	X
CPUTIME	ジョブの中央処理装置時間（秒）	数値	○	○	○
ELAPSTM	ジョブ経過時間（秒）	数値	○	○	○
INITDATE	アカウント開始日付（YYDDD形式）	数値	○	○	○
INITTIME	アカウント開始時刻（HHMM..SS形式）	数値	○	○	○
JOBCLASS	ジョブクラス	文字	○	○	○
JOBNAME	ジョブ名（先頭15バイトのみ使用）	文字	○	○	○
JOBNUM	ジョブ番号	数値	○	○	○
JOBRON	ジョブ生起番号	数値	○	○	○
JOBTYPE	サブシステム識別子の値により、次の文字列をセット 1 ----- B A T C H 2 ----- R J E 4 ----- V I S 6 ----- A T S S それ以外 ----- ???	文字	○	○	○
JOBTYPEC	サブシステム識別子	数値	○	○	○
LOADTM	ステップのローディング時間の総和（秒）	数値	○	○	○
RDERDATE	ジョブ受け入れ日付（YYDDD形式）	数値	○	○	○
RDERTIME	ジョブ受け入れ時刻（HHMM..SS形式）	数値	○	○	○
STEPNUM	実行総ステップ数	数値	○	○	○
STPELAPS	ステップ経過時間の総和（秒）	数値	○	○	○
TCBCMP	終了状態 A B E N D : 異常終了 N O R M A L : 正常終了（先頭1桁が「N」の場合）	文字	○	○	○
TCBCMPC	終了コードの下2桁（リターンコード）	数値	○	○	○
TCBCMPD	終了状態の詳細 終了結果、異常終了の要因、エラーの種類、異常発生時点と発生後の処理などが示される。この際、AからZもしくは0から9以外の文字があった場合、その文字を「.」に置き換える。詳細については、『ACOS-4 運用管理解説書』を参照。	文字	○	○	○

## レコードタイプ196-13（ジョブステップ実行情報）

データ・ソース	S MF
内容	ジョブ実行情報を示す。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	OS 種別		
			A	M	X
CPUTIME	ジョブステップ中央処理装置処理時間（秒）	数値	○	○	○
ELAPSTM	ジョブステップ経過時間（秒）	数値	○	○	○
EXPCNT	入出力回数を合計した値 利用者プログラムから実行された物理的な入出力回数であり、システムファイルへのアクセスやロード・モジュールのロード処理での回数は含まない。	数値	○	○	○
INITBKSS	要求ページングバッキングストアサイズ初期値（4 KB単位）	数値	○	○	○
INITDATE	アカウント開始日付（YYDDD形式）	数値	○	○	○
INITFIXS	要求固定化領域初期値（4 KB単位）	数値	○	○	○
INITMEMS	要求利用者記憶容量初期値（4 KB単位）	数値	○	○	○
INITTIME	アカウント開始時刻（HHMM.SS形式）	数値	○	○	○
JOBNAME	ジョブ名（先頭15バイトのみ使用）	文字	○	○	○
JOBNUM	ジョブ番号	数値	○	○	○
JOBRON	ジョブ生起番号	数値	○	○	○
JOBTYPE	サブシステム識別子の値により、次の文字列をセット 1 ----- B A T C H 2 ----- R J E 4 ----- V I S 6 ----- A T S S それ以外 ----- ???	文字	○	○	○
JOBTYPEC	サブシステム識別子	数値	○	○	○
LOADTM	ローディング時間（秒）	数値	○	○	○
MAXBKSS	ページングバッキングストアの最大使用サイズ（4 KB単位）	数値	○	○	○
MAXFIXS	最大固定化領域使用サイズ（4 KB単位）	数値	○	○	○
MAXMEMS	最大利用者記憶使用サイズ（4 KB単位）	数値	○	○	○
MEMSTAT	利用者記憶属性 S : S O C I A B L E U : U N S O C I A B L E	文字	○	○	○
MISSING	ミッシングページ回数	数値	○	○	○
PGMNAME	ロードモジュール名（先頭15バイトのみ使用）	文字	○	○	○
STEPNAME	ステップラベル	文字	○	○	○
STEPNUM	実行ステップ番号	数値	○	○	○
TCBCMP	終了状態 A B E N D : 異常終了 N O R M A L : 正常終了（先頭1桁が「N」の場合）	文字	○	○	○
TCBCMPC	終了コードの下2桁（リターンコード）	数値	○	○	○
TCBCMPD	終了状態の詳細 終了結果、異常終了の要因、エラーの種類、異常発生時点と発生後の処理などが示される。この際、AからZもしくは0から9以外の文字があった場合、その文字を「.」に置き換える。詳細については、『ACOS-4運用管理解説書』を参照。	文字	○	○	○

## レコードタイプ 196-30 (ATSSセッション課金情報)

データ・ソース	SMF
内容	ATSSセッションの課金情報を示す。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	OS 種別								
			A	M	X						
ACCTID	アカウントコード	文字	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>						
CMNDCNT	実行されたコマンド数	数値	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>						
CMNDCPU	コマンド制御で使用したCPU処理時間(秒)	数値	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>						
CPUTIME	コマンドまたは利用者プログラムが使用したCPU処理時間(秒)	数値	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>						
DOMAIN	ドメイン名	文字	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>						
ELAPSTM	セッション経過時間(秒)	数値	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>						
EXCPCNT	総入出力回数	数値	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>						
HGUPTM	セッションが回線と切り離されていた時間(秒)	数値	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>						
INITDATE	アカウント開始日付(YYYYDDD形式)	数値	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>						
INITTIME	アカウント開始時刻(HHMM.SS形式)	数値	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>						
JOBNAME	ジョブ名 ジョブ名はすべてシステムで統一されている。	文字	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>						
JOBNUM	J番号	文字	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>						
JOBRON	ジョブ生起番号	数値	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>						
MAXBKSS	ページキャッシングストアの最大使用サイズ(単位: 4Kバイト)	数値	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>						
MAXFIXS	最大固定化領域使用サイズ(単位: 4Kバイト)	数値	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>						
MAXMEMS	最大利用者記憶使用サイズ(単位: 4Kバイト)	数値	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>						
MISSING	ミッシングページ回数	数値	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>						
RECONNECT	再接続回数	数値	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>						
RESIDTM	常駐時間(秒)	数値	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>						
RESPTM	応答時間の総和(秒)	数値	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>						
SWAPCNT	スワッピング回数	数値	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>						
SWAPIN	スワッピンページ数	数値	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>						
SWAPOUT	スワップアウトページ数	数値	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>						
TCBCMP	セッション終了種別 NORMAL : 正常終了 ABEND : 異常終了	文字	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>						
TCBCMPC	セッション終了コード	数値	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>						
TCBCMPD	セッション終了状態  <table border="1"> <tr> <td>Bit 1</td> <td>Bit 2</td> <td>Bit 3</td> <td>Bit 4</td> <td>Bit 5</td> <td>Bit 6</td> </tr> </table> <p>Bit 1 - 終了結果 N (正常終了) A (異常終了) Bit 2 - 異常終了の要因 S (システム要因による) U (利用者要因による) O (操作員要因による) Bit 3 - エラーの種類 V (装置のエラー) F (ファイルのエラー) J (JCL のエラー) D (データのエラー) K (KJ コマンドまたはSD コマンドのパラメータ指定による) O (OW, HO, KO 及び MD コマンド(RJE の BO コマンド含む)による) L (回線/端末/全体障害) C (\$DIS コマンドによるセッションの切断) S (LO コマンドによるセッションの切断) T (RJE コマンド(センタダイレクトコマンド)による) X (サブシステムコントローラのアボート) Bit 4 - 異常発生時点と異常発生後の処理 O-4 (プロセスグループインシエーションの異常終了時の資源割り当てレベル) N (ジョブまたはステップが実行されなかった) C (要求はキャンセルされた) R (要求は再登録された) I (不完全なデリバリ出力) Bit 5, Bit 6 - 未使用(「.」が表示される)</p>	Bit 1	Bit 2	Bit 3	Bit 4	Bit 5	Bit 6	文字	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Bit 1	Bit 2	Bit 3	Bit 4	Bit 5	Bit 6						

TERMNAME	ジョブ入力端末名	文字	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
TGET	端末入力行数	数値	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
TPUT	端末出力回数	数値	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
TRANSACT	トランザクション回数	数値	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
USERID	利用者名	文字	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

[セッション経過時間の内訳]

ELAPSTM			
CPUTIME	CMNDCPU	HGUPTM	その他

## レコードタイプ 196-140 (ファイル使用状況)

データ・ソース	SMF
内容	ジョブやATSSセッションなどで使用されたVASSファイル以外のファイルのクローズ情報を示す。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	OS 種別		
			A	M	X
ACCTID	アカウントコード	文字	○	○	○
ALOCTRK	ファイルのデータエリアの大きさ CKDファイルの場合総トラック数を示す FBAファイルの場合総ブロック数を示す	数値	○	○	○
ALOCBLK	ファイル中の全ブロック数(待機結合編成に場合のみ有効)	数値	○	○	○
ASGNVOL	アサインされたボリューム数	数値	○	○	○
ASNIOC(n)	媒体毎の入出力回数(ディスク装置の場合のみ有効) (最大15媒体の入出力回数を格納する)	数値	○	○	○
ASNVOL(n)	媒体名 (最大15媒体の媒体名を格納する)	文字	○	○	○
BPB	BPBパラメータ値	数値	○	○	○
DDNAME	内部ファイル名	文字	○	○	○
DEVCLASS	装置クラス名(先頭の15バイトのみ使用)	文字	○	○	○
DSNAME1	外部ファイル名1	文字	○	○	○
DSNAME2	外部ファイル名2	文字	○	○	○
DSNAME3	外部ファイル名3	文字	○	○	○
DSORG	ファイル編成 128(X'80') : 索引順編成(ISEQ) 64(X'40') : 順編成(SEQ) 32(X'20') : 直編成(DIR) 8(X'08') : 待機結合編成(QUEUE) その他 : ファイル編成不明	数値	○	○	○
EXPCNT	総入出力回数	数値	○	○	○
EXTENT	総エクステント数	数値	○	○	○
FILEN VOL	アサインしたボリュームの中でファイルが存在するボリューム数	数値	○	○	○
JOBNAME	ジョブ名	文字	○	○	○
JOBRON	ジョブ生起番号	数値	○	○	○
PMD	ファイルの処理モード 29(X'1D') : INOUTPUT (IO) 28(X'1C') : INAPPEND (AP) 24(X'18') : UPDATE (UP) 16(X'10') : INPUT (IN) 5(X'05') : OUTPUT (OU) 4(X'04') : APPEND (AP)	数値	○	○	○
STEPNUM	ジョブステップ番号	数値	○	○	○
TEMPDSSW	ファイルの使用状態 144(X'90') : システム標準SY SOUT 136(X'88') : システム標準SY SIN 132(X'84') : 任意外部ファイル 128(X'80') : 非カタログファイル 64(X'40') : 一時ファイル 32(X'20') : カタログ登録ファイル 1(X'01') : ダミーファイル	数値	○	○	○
TERMNAME	ジョブ入力端末名	文字	○	○	○
UNIT	装置クラス識別子 FY : フロッピーディスク MT : 磁気テープ OD : 光ディスク MS/F : FBAディスク MS/E : 電子ディスク MS/V : EMUディスク MS/x : 磁気ディスク	文字	○	○	○
UNUSED	未使用領域の大きさ(出力系のみで有効)	数値	○	○	○
USERID	利用者名	文字	○	○	○
VOLCNT	最大処理ボリューム数	数値	○	○	○
VOLSEQ	マルチボリュームファイルのボリューム順次番号	数値	○	○	○

## レコードタイプ196-143 (VSASファイル使用状況)

データ・ソース	SMF
内容	ジョブやATSSセッションなどで使用されたVSASファイル以外のファイルのクローズ情報を示す。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	OS種別		
			A	M	X
ASGNVOL	アサインされたボリューム数	数値	○	○	○
ASNDEV(n)	装置属性 (最大15媒体の装置属性を格納する)	数値	○	○	○
ASNVL(n)	媒体名 (最大15媒体の媒体名を格納する)	文字	○	○	○
DATAREAD	データCIの読み込み回数	数値	○	○	○
DATAREQ	データCIの要求回数	数値	○	○	○
DATAWRIT	データCIの書き込み回数	数値	○	○	○
DDNAME	内部ファイル名	文字	○	○	○
DEADLOCK	SHELLVVIOL(デッドロック)の回数	数値	○	○	○
DSNAME1	ファイル名1	文字	○	○	○
DSNAME2	ファイル名2	文字	○	○	○
DSNAME3	ファイル名3	文字	○	○	○
DSORG	ファイル編成 136(X'88') : 二次索引 128(X'80') : 索引順編成 64(X'40') : 順編成 32(X'20') : 相対編成 16(X'10') : 乱編成	数値	○	○	○
DSORG1	挿入手法 5(X'05') : 副次格納方式 4(X'04') : NEXT_AVAIL方式 3(X'03') : 拡張再編成方式 2(X'02') : INVENTORY方式 0(X'00') : NONE	数値	○	○	○
EXCLWAIT	排他制御による待ち回数	数値	○	○	○
EXCPCNT	総入出力回数	数値	○	○	○
GDSREAD	GDSに該当CIは存在しなかった回数(データ)	数値	○	○	○
GDSREQ	GDSに対する検索回数(データ)	数値	○	○	○
GDSWRIT	GDSへの格納回数(データ)	数値	○	○	○
GDSIREAD	GDSに該当CIは存在しなかった回数(インデックス)	数値	○	○	○
GDSIREQ	GDSに対する検索回数(インデックス)	数値	○	○	○
GDSIWRIT	GDSへの格納回数(インデックス)	数値	○	○	○
INDXREAD	インデックスCIの読み込み回数	数値	○	○	○
INDXREQ	インデックスCIの要求回数	数値	○	○	○
INDXWRIT	インデックスCIの書き込み回数	数値	○	○	○
OVERFLW1	オーバーフローの回数1 索引順(拡張再編成)編成 : データCIの分割回数 索引順(副次格納)編成、乱編成 : オーバーフロー回数	数値	○	○	○
OVERFLW2	オーバーフローの回数2 索引順(拡張再編成)編成 : データCAの分割回数 乱編成 : オーナCIに入らなかったデータ件数	数値	○	○	○
OVERFLW3	オーバーフローの回数3 索引順(拡張再編成)編成 : インデックスCIの分割回数	数値	○	○	○
RECDDEL	削除レコードの件数	数値	○	○	○
RECDGET	入力レコードの件数	数値	○	○	○
RECDPTX	置換レコードの件数	数値	○	○	○
RECDPUT	追加レコードの件数	数値	○	○	○
TERMINAME	ジョブ入力端末名	文字	○	○	○
VSASTYPE	ファイル種別 'V' : VSASファイルを示す 'A' : ADBSファイルを示す 'R' : RICSファイルを示す	文字	○	○	○

## モニタリング情報

このモニタリング情報は、一定時間間隔ごとに収集されSMFファイルへ書き出されるレコードであり、その時間間隔(インターバル)内でのシステム資源の稼働状況を示しています。

レコードタイプ RMFRECID	サブタイプ SUBRECID	内容	備考
196	51	VISのジョブ情報	
196	52	VIS業務情報	
196	59	VISデータ通信情報	
196	110	CPU使用状況	
196	111	ディスク装置の使用状況	
196	121	ジョブスケジューリング情報	
196	122	VMMの動作状況	
196	123	VMMの動作状況	
196	171	DRMの概要情報	
196	172	DRMスワッピング情報	
196	173	DRM応答時間管理情報	
196	174	DRMスループット管理情報	
196	186	NPS情報	

<ヘッダー部>

データ・ソース	レコードを作成したOSのコンポーネント名。
内容	レコードの作成タイミングや内容の概要説明。

<変数部>

変数部は、次の形式で説明されています。

名前	説明	形式	OS種別		
			A	M	X
RMFRECID	レコード番号	数値	○	○	○

- 名前 : 変数名。  
 説明 : 変数にセットされる内容の説明。  
 形式 : 変数にセットされる値の形式。  
 メーカ : 3文字が表示されます。AはAVPシステム、MはMVPシステム、XはXVPシステムに対応します。  
 その際、「○」の場合は有効を示し、「×」の場合は欠損値を示します。

<共通項目>

名前	説明	形式	OS種別		
			A	M	X
DURATM	データ収集時間間隔(秒)	数値	○	○	○
RMFRECID	レコード番号(196固定)	数値	○	○	○
SUBRECID	サブタイプ識別番号	数値	○	○	○
STARTDAY	レコード出力の日付(YYDDD形式) 2000年以降の日付はCYYDDD形式で表す。	数値	○	○	○
STARTDAY	レコード出力の時刻(HHMM.SS形式)	数値	○	○	○
STARTIME	文字列の空白(定数)	文字	○	○	○
MVSXAFG	数値の0(定数)	数値	○	○	○
SYSTEM	数値の0(定数)	数値	○	○	○

### 日付と時刻の特殊処理

24時間のシステム運用を行っているお客様では、朝の8時頃が一日の始まりと考えられているところもあります。つまり、朝方の0時から7時過ぎまでは前日の業務であるとの認識です。この様なお客様でのシステム管理を容易にするために、CPESHELLプログラムがモニタリング情報の記録日付や時刻をSTARTDAYやSTARTIMEにセットする際に、特殊な処理を行っています。

この特殊処理のために¥TMEBASEと¥TMEBIASの2つの変数が使用されます。CPESHELLプログラムはモニタリング・レコードを処理する際、これらの2つの変数の値を検査し、特殊処理の必要性を判断します。¥TMEBASEの変数に文字列や数値の0から9959以外の値がセットされている場合、特殊処理は行われません。

特殊処理を行う際には、SMFレコードに記録されたレコード出力の時刻と¥TMEBASE変数の値を比較します。もし¥TMEBASE変数にセットされた時刻(HHMM)の方が大きい場合には、STARTIME変数にセットする時刻に¥TMEBIASにセットされた値を加算します。また同時に、STARTDAYにセットする日付を一日前の値にします。

¥TMEBIASには数値の2400から9959がセットされていることを期待しています。もし¥TMEBIASにそれ以外の値や文字列などがセットされている場合には、2400が指定されていたものとして処理を行います。

## レコードタイプ 196-51 (V I S ジョブ情報)

データ・ソース	S M F
内容	V I Sオンライン・システムのジョブ情報を示す。この情報はタスク名単位に処理される。但し、データ収集時間間隔もしくはジョブエントリ数がゼロのレコードについては、そのレコード全体の情報は無視される。また、トランザクション処理件数がゼロの場合も、そのタスク情報エントリの情報は無視される。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	OS 種別		
			A	M	X
CPUTIME	トランザクション当たりの平均プロセッサ使用時間（秒） 中央処理装置時間／トランザクション処理件数	数値	○	○	○
CTLWSS	コントロールメモリ・ワーキング・セット・サイズ（単位はKB）	数値	○	○	○
DURATM	データ収集時間間隔（秒）	数値	○	○	○
EXCPCNT	入出力回数	数値	○	○	○
JOBNAME	ジョブ名（M P J名） 先頭の15バイトのみ使用	文字	○	○	○
LASTFLAG	最終タスク識別 処理されるタスク情報エントリが、そのタスクが属するジョブの最後のタスクである場合、このL A S T F L A Gが1にセットされる。それ以外の場合には、L A S T F L A Gはゼロとなる。 一つのM P Jに複数のタスクが定義されている場合、プロセジャはこの変数を使用して最終のタスク情報が報告されたことを判定する。	数値	○	○	○
MISSING	ミッシングページ数	数値	○	○	○
RESPONSE	平均応答時間（秒） 処理時間／トランザクション処理件数	数値	○	○	○
TASKNAME	タスク名（T S C名）	文字	○	○	○
TRANSACT	トランザクション処理件数	数値	○	○	○
USERFIXD	最大固定化領域使用量（単位はKB）	数値	○	○	○
USERUSED	USERUSED	数値	○	○	○
USERWSS	ユーザメモリ・ワーキング・セット・サイズ（単位はKB）	数値	○	○	○
VISNUM	V I Sオカレンス番号	数値	○	○	○

## レコードタイプ 196-52 (VIS 業務情報)

データ・ソース	S M F
内容	VISオンライン・システムの業務情報を示す。 この情報は、VISオンライン・システムの業務（アプリケーションプログラム）単位に処理される。但し、データ収集時間間隔もしくは業務用エントリの数がゼロのレコードについては、そのレコード全体の情報は無視される。また、トランザクション処理件数がゼロの業務用エントリについても、その業務用エントリに記録された情報を無視される。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	OS 種別		
			A	M	X
CPUTIME	トランザクション当たりの平均プロセッサ使用時間（秒） 中央処理装置時間／トランザクション処理件数	数値	○	○	○
DURATM	データ収集時間間隔（秒）	数値	○	○	○
MESSAGE	端末向けに出力されたメッセージ数	数値	○	○	○
RESPONSE	平均応答時間（秒） 処理時間／トランザクション処理件数	数値	○	○	○
TBOCOUNT	業務内のトランザクション TBO 実行回数 VIS のリリースに依存し欠損値の場合もある。	数値	○	○	○
TERMINAL	当業務に接続（ログイン）されている端末数	数値	○	○	○
TRANSACT	トランザクション処理件数	数値	○	○	○
TRXNAME	業務名	文字	○	○	○
VISNUM	VISオカレンス番号	数値	○	○	○

## レコードタイプ 196-59 (V I Sデータ通信情報)

データ・ソース	SMF
内容	V I Sオンライン・システムのデータ通信情報を示す。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	OS 種別		
			A	M	X
DURATM	データ収集時間間隔（秒）	数値	○	○	○
EIBUFUSE	拡張 I B U F の最大使用数	数値	○	○	○
EOBUFUSE	拡張 O B U F の最大使用数	数値	○	○	○
IMFNUM	I M F レコード数 V I S のリリースに依存し欠損値の場合もある。	数値	○	○	○
IMFUSE	I M F 最大使用レコード数 V I S のリリースに依存し欠損値の場合もある。	数値	○	○	○
LSCBNUM	L S C B の個数 V I S のリリースに依存し欠損値の場合もある。	数値	○	○	○
LSCBQLEN	L S C B 待ちキュー長	数値	○	○	○
LSCBUSE	最大 L S C B 使用	数値	○	○	○
LSCBWTTM	最大 L S C B 待ち時間（秒）	数値	○	○	○
MISSING	ミッシング回数	数値	○	○	○
RIBUFNUM	常駐 I B U F の個数	数値	○	○	○
RIBUFUSE	常駐 I B U F の最大使用数	数値	○	○	○
ROBUFNUM	常駐 O B U F の個数	数値	○	○	○
ROBUFUSE	常駐 O B U F の最大使用数	数値	○	○	○
SIBUFNUM	非常駐 I B U F の個数	数値	○	○	○
SIBUFUSE	非常駐 I B U F の最大使用数	数値	○	○	○
SOBUFNUM	非常駐 O B U F の個数	数値	○	○	○
SOBUFUSE	非常駐 O B U F の最大使用数	数値	○	○	○
SPBNUM	S P B レコード数 V I S のリリースに依存し欠損値の場合もある。	数値	○	○	○
SPBUSE	S P B 最大使用レコード数 V I S のリリースに依存し欠損値の場合もある。	数値	○	○	○
SSCBNUM	S S C B の個数 V I S のリリースに依存し欠損値の場合もある。	数値	○	○	○
SSCBQLEN	S S C B 待ちキュー長	数値	○	○	○
SSCBUSE	最大 S S C B 使用	数値	○	○	○
SSCBWTTM	最大 S S C B 待ち時間（秒）	数値	○	○	○
TASKSOPQ	V I S タスク P = 0 処理待ちキュー長	数値	○	○	○
TASKMRPQ	V I S タスク P = 1 処理待ちキュー長	数値	○	○	○
TASKMSPQ	V I S タスク P = 2 処理待ちキュー長	数値	○	○	○
TASKVDPQ	V I S タスク P = 3 処理待ちキュー長	数値	○	○	○
TASKFCPQ	V I S タスク P = 4 処理待ちキュー長	数値	○	○	○
TASKDCPQ	V I S タスク P = 5 処理待ちキュー長	数値	○	○	○
VISNUM	V I S オカレンス番号	数値	○	○	○

## レコードタイプ 196-110 (CPU 使用状況)

データ・ソース	SMF
内容	CPU（中央処理装置）の使用状況を示す。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	OS 種別		
			A	M	X
CPUBUSY	プロセッサ使用率 (%) CPU空き時間を基に次式で算出する。 $\frac{(\text{CPU空き時間の合計}) * 100}{(\text{DURATM} * \text{CPUNUMBR})}$	数値	○	○	○
CPUNUMBR	プロセッサ数	数値	○	○	○
DURATM	データ収集時間間隔 (秒)	数値	○	○	○

## レコードタイプ 196-111 (ディスク使用状況)

データ・ソース	S M F
内容	磁気ディスク装置の使用状況を示す。 この情報は、磁気ディスク装置単位に処理される。 但し、総入出力回数もしくはサンプリング回数がゼロの装置エントリについては、その情報は無視される。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	OS 種別		
			A	M	X
BUSYSAMP	装置ビジー回数	数値	○	○	○
DEVFTRK	空きトラック数	数値	○	○	○
DEVNAME	装置識別名	文字	○	○	○
DEVQLEN	入出力待ちの個数	数値	○	○	○
DEVQUETM	アクセス待ち時間（ミリ秒）	数値	○	○	○
DEVRSPTM	応答時間（ミリ秒）	数値	○	○	○
DEVSEEK	総シーク距離	数値	○	○	○
DEVSRTTM	サービス時間（ミリ秒）	数値	○	○	○
DURATM	データ収集時間間隔（秒）	数値	○	○	○
IOCOUNT	総入出力回数	数値	○	○	○
SAMPLE	サンプリング回数	数値	○	○	○
UNITSUB	文字列の「D A S D」（定数）	文字	○	○	○
VOLSER	媒体名	文字	○	○	○

## レコードタイプ 196-121 (ジョブスケジューリング状況)

データ・ソース	S M F
内容	ジョブスケジューリング状況を示す。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	OS 種別		
			A	M	X
ATSSJOB	実行中の A T S S セッション数	数値	○	○	○
BKSTWAIT	バックイングストア待ちになったジョブ数	数値	○	○	○
DELWAIT	出力待ちデリバリ数	数値	○	○	○
DEVWAIT	装置待ちになったジョブ数	数値	○	○	○
DURATM	データ収集時間間隔 (秒)	数値	○	○	○
EXECUTE	実行中のジョブ数	数値	○	○	○
EXECWAIT	実行保留中のジョブ数	数値	○	○	○
FILEWAIT	ファイル待ちになったジョブ数	数値	○	○	○
JOBREAD	システムに投入されたジョブ数	数値	○	○	○
JOBRECOG	システムが認識しているジョブ数	数値	○	○	○
MANWAIT	装置回復の人手介入要求発生回数	数値	○	○	○
MAXMPL	システム最大ジョブ多重度	数値	○	○	○
MEDWAIT	媒体待ちになったジョブ数	数値	○	○	○
MEMWAIT	メモリ (記憶装置) 待ちになったジョブ数	数値	○	○	○
MOUTWAIT	媒体マウント要求発生回数	数値	○	○	○
OUTWAIT	出力待ちにあるジョブ数	数値	○	○	○
SCHDPEND	スケジュール保留中のジョブ数	数値	○	○	○
SCHDWAIT	スケジュール待ちのジョブ数	数値	○	○	○

## レコードタイプ 196-122/123 (VMM 使用状況)

データ・ソース	SMF
内容	VMM (仮想記憶管理) の使用状況を示す。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	OS 種別		
			A	M	X
ASYNCHRO	システム全体の非同期ページアウトしたページ数	数値	○	○	○
BKSTDNUM	ページングバックストアの装置台数	数値	○	○	○
BKSTFNUM	ページングバックストアのファイル数	数値	○	○	○
BKSTREAD	ページングバックストアの入力回数の合計	数値	○	○	○
BKSTSLOT	ページングバックストアの大きさ (スロット)	数値	○	○	○
BKSTWRT	ページングバックストアの出力回数の合計	数値	○	○	○
DURATM	データ収集時間間隔 (秒)	数値	○	○	○
MISSING	システム全体のミッシングページ回数	数値	○	○	○
MMSIZE	主記憶の大きさ (ページ)	数値	×	○	○
NUCLEUS	システムの固定部分の大きさ (ページ)	数値	○	○	○
PAGEIN	システム全体のページインしたページ数	数値	○	○	○
PAGEOUT	システム全体のページアウトしたページ数	数値	○	○	○
PAGESIZE	ページの大きさ (バイト数)	数値	○	○	○
RECLAIM	システム全体のページリクームしたページ数	数値	○	○	○
SASYNCHR	システムの非同期ページアウトしたページ数	数値	○	○	○
SMISSING	システムのミッシングページ数	数値	○	○	○
SPAGEIN	システムのページインしたページ数	数値	○	○	○
SPAGEOUT	システムのページアウトしたページ数	数値	○	○	○
SRECLAIM	システムのページリクームしたページ数	数値	○	○	○
SYSFIX	システムが使用している固定化ページ数	数値	○	○	○
SYSPAGIN	システムのミッシングページ数	数値	○	○	○
SYSSLOT	システムのスロット数	数値	○	○	○
SYSUSED	システムが使用しているページ化可能領域ページ数	数値	○	○	○
SWAPDNUM	スワッピングバックストアの装置台数	数値	○	○	○
SWAPFNUM	スワッピングバックストアのファイル数	数値	○	○	○
SWAPIN	スワッピンした回数	数値	○	○	○
SWAPOUT	スワッピングアウトした回数	数値	○	○	○
SWAPREAD	スワッピングバックストアの入力回数の合計	数値	○	○	○
SWAPSLOT	スワッピングバックストアの大きさ (スロット)	数値	○	○	○
SWAPUSED	スワッピングバックストアの使用スロット数	数値	○	○	○
SWAPWRT	スワッピングバックストアの出力回数の合計	数値	○	○	○
SWIPAGE	スワッピンしたページ数	数値	○	○	○
SWOPPAGE	スワッピングアウトしたページ数	数値	○	○	○
UNAVAIL	使用不可能なページ数	数値	○	○	○
USERFIX	利用者が使用している固定化ページ数	数値	○	○	○
USERSLOT	利用者の使用スロット数	数値	○	○	○
USERUSED	利用者が使用しているページ化可能領域ページ数	数値	○	○	○
USRPGIN	利用者のミッシングページ数	数値	○	○	○

## レコードタイプ 196-171 (DRM概要状況)

データ・ソース	SMF
内容	<p>DRM概要情報を示す。</p> <p>このレコードの処理では3種の情報を変数にセットする。それらは全般的情報、メイン別情報、応答クラス別情報の3つである。いずれの情報が変数にセットされたかを知るために、DRMRECIDの変数がセットされる。</p> <p>DRMRECID = 1 全般的情報      DRMRECID = 2 メイン別情報      DRMRECID = 3 応答クラス別情報</p>

## ■全般的情報 (DRMRECID = 1)

名前	説明	形式	OS種別		
			A	M	X
DURATM	データ収集時間間隔(秒)	数値	○	○	○
MEMMPL	平均主記憶多重度	数値	○	○	○
PAGEFLT	ページフルト回数	数値	○	○	○
READY	平均レディプロセス群数	数値	○	○	○
RESPMPL	平均レスポンス多重度	数値	○	○	○
RESPWKLD	平均レスポンス負荷レベル	数値	○	○	○

## ■メイン別情報 (DRMRECID = 2)

名前	説明	形式	OS種別		
			A	M	X
AVMEMMPL	平均主記憶多重度	数値	○	○	○
AVMEMSZ	平均主記憶量(ページ単位)	数値	○	○	○
CPUTIME	CPU時間(秒)	数値	○	○	○
DOMAIN	メイン名	文字	○	○	○
DURATM	データ収集時間間隔(秒)	数値	○	○	○
MXMEMMPL	短期主記憶多重度(最大値)	数値	○	○	○
MNMEMMPL	短期主記憶多重度(最小値)	数値	○	○	○
MNMEMSZ	短期主記憶量(最小値、ページ単位)	数値	○	○	○
MXMEMSZ	短期主記憶量(最大値、ページ単位)	数値	○	○	○
PAGEFLT	ページフルト回数	数値	○	○	○
SWAPOUT	スワップアウト回数	数値	○	○	○

## ■応答クラス別情報 (DRMRECID = 3)

名前	説明	形式	OS種別		
			A	M	X
DOMAIN	所属メイン名	文字	○	○	○
DURATM	データ収集時間間隔(秒)	数値	○	○	○
LEVEL	目標達成の厳しさの度合い	数値	○	○	○
RESPNAME	応答クラス名	文字	○	○	○
RESPONSE	トランザクションの平均応答時間(秒)	数値	○	○	○
RESPTYPE	応答クラスのタイプ 1 : TSS特殊型1 2 : TSS特殊型2 3 : TSS会話型 4 : TSS処理型 5 : VIS会話型 6 : VIS処理型 7 : バッチ優先型 8 : バッチ普通型	数値	○	○	○
TARGET	目標応答時間(秒)	数値	○	○	○
TRANSACT	トランザクション数	数値	○	○	○

## レコードタイプ 196-172 (DRMスワッピング情報)

データ・ソース	S M F
内容	DRMスワッピング情報を示す。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	OS 種別		
			A	M	X
ACTIVE	平均アクティブプロセス群数	数値	○	○	○
BLOCK	平均ブロックプロセス群数	数値	○	○	○
DURATM	データ収集時間間隔(秒)	数値	○	○	○
EXECUTE	実行中の平均スワッピング処理中プロセス群	数値	○	○	○
INITLOAD	平均初期ロード待ちプロセス群数	数値	○	○	○
LONGWAIT	平均ロングウェイトプロセス数	数値	○	○	○
LRUPAGE	LRUページの評価値	数値	○	○	○
NONEEXEC	未実行の平均スワッピング処理中プロセス群数	数値	○	○	○
PAGEBUFF	ページング用のバッファプール評価値	数値	○	○	○
PAGEREL	任意に切り出したページ数	数値	○	○	○
PAGESTEL	強制的に切り出したページ数	数値	○	○	○
PENDING	平均ペンドィングプロセス群数	数値	○	○	○
PENDL2	平均ペンドィングL2プロセス群数	数値	○	○	○
POOLSH1	プール不足発生回数(本体部)	数値	○	○	○
POOLSH2	プール不足発生回数(分散部)	数値	○	○	○
SWAPIN	平均スワッピング処理中のプロセス群数	数値	○	○	○
SWAPOUT	平均スワップアウト処理中のプロセス群数	数値	○	○	○
SWPIWAIT	平均スワッピング待ちプロセス群数	数値	○	○	○
THRASH	スラッシング発生回数	数値	○	○	○
WSSWAIT	平均ワーキングセット待ちプロセス群数	数値	○	○	○

## レコードタイプ196-173 (DRM応答時間管理情報)

データ・ソース	S M F
内容	DRM応答時間管理情報を示す。この情報は応答時間クラス単位に処理される。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	OS種別		
			A	M	X
DECREASE	目標が過達成のため応答クラスの優先度を下げた回数	数値	○	○	○
DOMAIN	所属ドメイン名	文字	○	○	○
DURATM	データ収集時間間隔(秒)	数値	○	○	○
GPVALUE	トランザクション終了時のGP値の平均	数値	○	○	○
INCREASE	目標が未達成のため応答クラスの優先度をあげた回数	数値	○	○	○
MEMWAIT%	主記憶待ち時間の比率(パーセント) この値は全トランザクションの経過時間に占める主記憶待ち時間の割合を示す。	数値	○	○	○
RESPNAME	応答クラス名	文字	○	○	○
RESPTYPE	応答クラスタイプ 1 : TSS特殊型1 2 : TSS特殊型2 3 : TSS会話型 4 : TSS処理型 5 : VIS会話型 6 : VIS処理型 7 : バッチ優先型 8 : バッチ普通型	数値	○	○	○
SLICEOUT	メモリタイムスライス切れの回数	数値	○	○	○
SWAPOUT	スワップアウト回数	数値	○	○	○

## レコードタイプ 196-174 (DRMスループット管理情報)

データ・ソース	S M F
内容	DRMスループット管理情報を示す。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	OS 種別		
			A	M	X
DISKSWAP	過負荷（ディスクアンバランス）解消のためのスワップアウト回数	数値	○	○	○
DISKUNBL	過負荷（ディスクアンバランス）が検出された回数	数値	○	○	○
DURATM	データ収集時間間隔（秒）	数値	○	○	○

## レコードタイプ196-186 (NPS情報)

データ・ソース	SMF
内容	NPS、端末制御装置や端末の稼働状況を示す。

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	OS種別		
			A	M	X
CRB	使用されたCRB数	数値	○	○	○
DURATM	データ収集時間間隔(秒)	数値	○	○	○
LUPPOOL	使用されたLUPPOOL数	数値	○	○	○
MAXCRB	最大使用CRB数	数値	○	○	○
MAXLUPOL	最大使用LUPOL数	数値	○	○	○
MAXREQB	最大使用REQB数	数値	○	○	○
MAXSBUF	最大使用SYSBUF数	数値	○	○	○
NODENAME	NPS大ノード名(最大8桁)	文字	○	○	○
NPSCPUBZ	CPU使用率(%)	数値	○	○	○
NPSDEVMNM	通信処理装置名(最大4桁)	文字	○	○	○
NPSMSG	NPS送受信メッセージ数	数値	○	○	○
NPSNEW	データモード 0:従来形式 1:拡張形式	数値	○	○	○
NPSSUBID	NPSデータ種別識別子 0:NPS情報 1:回線情報	数値	○	○	○
REQB	使用されたREQB数	数値	○	○	○
RTRAF1	REQBトラフィック開始値1到着回数	数値	○	○	○
STRAF1	SYSBUFトラフィック開始値1到着回数	数値	○	○	○
SYSBUF	使用されたSYSBUF数	数値	○	○	○

以下の項目は、シンボル名「NPSNEW」値が1(拡張形式)の場合のみ有効。

NPSMMBZ	メモリ未使用率(%)	数値	○	○	○
NPSMMSZ	実相メモリ量	数値	○	○	○

以下の項目は、シンボル名「NPSNEW」値が1、且つシンボル名「NPSSUBID」値が1(回線情報)の場合にのみ有効。

LNNNAME	回線名(最大8桁)	文字	○	○	○
LNRCVCH	受信文字数	数値	○	○	○
LNRCVMS	受信メッセージ数	数値	○	○	○
LNSNDCH	送信文字数	数値	○	○	○
LNSNDMS	送信メッセージ数	数値	○	○	○

## 2.7 日立SAR/D

<共通項目>

パフォーマンス計測ツールで収集されたデータ項目は、各レコードに出力されるが、そのレコードの共通項目として次の情報が出力される。

名前	説明	形式	メータ		
			I	F	H
MVSXAFG	X A モードフラグ	数値	×	×	○
RMFRECID	レコード番号	数値	×	×	○
STARTDAY	データ収集を開始した日付 (YYDDD)	数値	×	×	○
STARTTIME	データ収集を開始した時刻 (HHMM. SS)	数値	×	×	○
SYSTEM	対象システムのシステム識別コード	文字	×	×	○

## レコードタイプ 197-1 (プロセッサ情報)

データ・ソース	S A R / D
内容	D C P U, P R O C コマンド情報

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メー カ		
			I	F	H
ACPBUSY	アクセラレートプロセッサ使用率 (%) (注1)	数値	×	×	○
ACPFLAG	ACP フラグ : アクセラレートプロセッサ情報が有効であることを表示。	数値	×	×	○
ACPNUMBR	アクセラレートプロセッサの数 (#AP) (注1)	数値	×	×	○
ACPRMFTM	P R M F がこの区画に配分したアクセラレートプロセッサ能力 (%) (注1)	数値	×	×	○
CPUBUSY	プロセッサ使用率 (%) (注1)	数値	×	×	○
CPUNUMBR	プロセッサの数 (#CP) (注1)	数値	×	×	○
CPURSV%	キャパシティリザーブモデルのCPU能力率 (%) ゼロであった場合、キャパシティリザーブモデルでないことを意味する。	数値	×	×	○
DURATM	インターバル時間間隔 (秒)	数値	×	×	○
PRMFTIME	P R M F がこの区画に配分したプロセッサ能力 (%) (注1)	数値	×	×	○
SUBRECID	サブタイプの識別	数値	×	×	○
VPFLAG	V P フラグ : ベクトルプロセッサ情報が有効であることを表示	数値	×	×	○



(注1)

CPESHELL プログラムは特殊スイッチ ¥AP8000 の指定によって次のように動作します。¥AP8000=0 : CPU 関連のシンボルにACP 情報を合算して報告する。この場合、ACP 関連のシンボルは欠損値となる(省略値)。¥AP8000=1 : CPU(IP:命令プロセッサ)とACP(アクセラレートプロセッサ)を分けて報告する。

シンボル名	¥AP8000=0 (省略値)	¥AP8000=1
ACPBUSY	欠損値	ACP 使用率
ACPNUMBR	欠損値	ACP 台数
ACPRMFTM	欠損値	ACP 配分率
CPUBUSY	CPU と ACP の平均使用率	CPU 使用率
CPUNUMBER	CPU と ACP の合計台数	CPU 台数
PRMFTIME	CPU と ACP の平均配分率	CPU 配分率



(注)

これらのシンボルはCPEDBAMS プログラムでのインターバル統合に対応していません。

## レコードタイプ 197-2 (プロセッサ情報)

データ・ソース	SAR/D
内容	D CPUコマンド、D CPU, EXコマンド情報

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メーク		
			I	F	H
ACPFLAG	ACP フラグ : アクセラレートプロセッサ情報が有効であることを表示。	数値	x	x	○
ACPMODE	ジョブがACP (アクセラレートプロセッサ) を使用するか否かを示す。 0 : ACPを使用しない (CPUのみ使用) 1 : ACPのみを使用する 2 : CPUとACPの両方を使用する	数値	x	x	○
ACPUSE%	アクセラレートプロセッサ使用率 (%) (注1) (注2)	数値	x	x	○
CPUUSE%	ジョブがCPUを使用していた比率。 (%) (注1)	数値	x	x	○
CPUWAIT%	ジョブが実行可能状態でCPUの使用を待たされていた比率。 (%)	数値	x	x	○
JOBNAME	ジョブ名	文字	x	x	○
OTHER%	ジョブがウェイトしていた比率。 (%)	数値	x	x	○
SSNAME	ジョブ種別	文字	x	x	○
STEPNAME	ジョブステップ名	文字	x	x	○
SUBRECID	サブタイプの識別	数値	x	x	○
SWAPOUT%	ジョブがスワップアウトされていた比率。 (%)	数値	x	x	○
VPFLAG	VP フラグ : ベクトルプロセッサ情報が有効であることを表示	数値	x	x	○



(注1)

CPESHELL プログラムは特殊スイッチ ¥AP8000 の指定によって次のように動作します。  
 ¥AP8000=0 CPU 関連のシンボルにACP 情報を合算して報告する。この場合、ACP 関連のシンボルは欠損値となる(省略値)。  
 ¥AP8000=1 : CPU(IP:命令プロセッサ)とACP(アクセラレートプロセッサ)を分けて報告する。

シンボル名	¥AP8000=0 (省略値)	¥AP8000=1
ACPUSE% CPUUSE%	欠損値 CPU と ACP の平均使用率	ACP 使用率 CPU 使用率

(注2)

このシンボルは、D CPU, EX コマンドのデータの場合に出力する。



(注)

これらのシンボルはCPEDBAMS プログラムでのインターバル統合に対応していません。

## レコードタイプ197-3（主記憶情報）

データ・ソース	S A R / D
内容	D P A G E, EXコマンド情報

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メーカ		
			I	F	H
COMMON	共通域のページ数。	数値	×	×	○
FREE	未使用ページ数。	数値	×	×	○
LSQA	L S Q A の使用するページ数。	数値	×	×	○
NUCLEUS	ニュークリアス領域のページ数。 (実ページ数を固定化する C S A, F L P A, ページ不可能 B L D L テーブル領域を含む。)	数値	×	×	○
PAGEFIX	ユーザリージョン、ページ可能システム共通領域にページ固定されたページ数。	数値	×	×	○
PAGES	ジョブのワーキング・セット・サイズ。 (ジョブに割当てられている実ページ数。ただし、L S Q A で使用するページ数は含まない。)	数値	×	×	○
SQA	S Q A の使用するページ数。	数値	×	×	○
SUBRECID	サブタイプの識別	数値	×	×	○



(注)

これらのシンボルはCPEDBAMS プログラムでのインターバル統合に対応していません。

## レコードタイプ 197-4 (ページング情報)

データ・ソース	S A R / D
内容	D PAGEコマンド情報

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メーカ		
			I	F	H
JOBNAME	ジョブ名	文字	x	x	○
PAGEIN	各ジョブの1秒あたりのページイン要求ページ数。	数値	x	x	○
PAGEOUT	各ジョブの1秒あたりのページアウト要求ページ数。	数値	x	x	○
PAGERECD	各ジョブの1秒あたりのページリクレーム要求ページ数。	数値	x	x	○
PAGES	ジョブのワーキング・セット・サイズ。 (LSQAで使用するページ数は含まない。)	数値	x	x	○
SSNAME	パフォーマンス計測ツールの名前	文字	x	x	○
STEPNAME	ジョブステップ名	文字	x	x	○
SUBRECID	サブタイプの識別	数値	x	x	○



(注)

これらのシンボルはCPEDBAMS プログラムでのインターバル統合に対応していません。

## レコードタイプ197-5（ページング情報）

データ・ソース	S A R / D
内容	D PAGEコマンド情報

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メーク		
			I	F	H
PAGEIN	システム全体の1秒あたりのページイン要求ページ数。	数値	×	×	○
PAGEOUT	システム全体の1秒あたりのページアウト要求ページ数。	数値	×	×	○
PAGEREC	システム全体の1秒あたりのページリクレーム要求ページ数。	数値	×	×	○
SUBRECID	サブタイプの識別	数値	×	×	○



(注)

これらのシンボルはCPEDBAMS プログラムでのインターバル統合に対応していません。

## レコードタイプ 197-6 (仮想記憶域情報)

データ・ソース	S A R / D
内容	D V S M, U S E D コマンド情報

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メータ		
			I	F	H
CSAALOC	16M未満のコモン・サービス・エリアで使用されている総ページ数。	数値	×	×	○
CSACLK	16M未満のコモン・サービス・エリアの IPL 時からの最大使用率を計測した時刻 (HH:MM:SS)。	文字	×	×	○
CSADTE	16M未満のコモン・サービス・エリアの IPL 時からの最大使用率を計測した日付 (YY. MM. DD)。	文字	×	×	○
CSAFREE	16M未満のコモン・サービス・エリアの未使用総ページ数。	数値	×	×	○
CSAOVER	16M未満のコモン・サービス・エリアからオーバーフローしている総バイト数。	数値	×	×	○
CSAPER1	16M未満のコモン・サービス・エリアの平均使用率 (%)。	数値	×	×	○
CSAPER2	16M未満のコモン・サービス・エリアの IPL 時からの最大使用率 (%)。	数値	×	×	○
CSAUSED	16M未満のコモン・サービス・エリアにおける未使用総バイト数。CSAFREE のバイト換算をするほかに、CSAALOC 内の未使用バイト数を含む。	数値	×	×	○
ECSAALOC	16M以上の拡張コモン・サービス・エリアで使用されている総ページ数。	数値	×	×	○
ECSACLK	16M以上の拡張コモン・サービス・エリアの IPL 時からの最大使用率を計測した時刻 (HH:MM:SS)。	文字	×	×	○
ECSADTE	16M以上の拡張コモン・サービス・エリアの IPL 時からの最大使用率を計測した日付 (YY. MM. DD)。	文字	×	×	○
ECSAFREE	16M以上の拡張コモン・サービス・エリアの未使用総ページ数。	数値	×	×	○
ECSAOVER	16M以上の拡張コモン・サービス・エリアからオーバーフローしている総バイト数。	数値	×	×	○
ECSAPER1	16M以上の拡張コモン・サービス・エリアの平均使用率 (%)。	数値	×	×	○
ECSAPER2	16M以上の拡張コモン・サービス・エリアの IPL 時からの最大使用率 (%)。	数値	×	×	○
ECSAUSED	16M以上の拡張コモン・サービス・エリアにおける未使用総バイト数。ECSAFREE のバイト換算をするほかに、ECSAALOC 内の未使用バイト数を含む。	数値	×	×	○
ESQAALOC	16M以上の拡張 SQA で使用されている総ページ数。	数値	×	×	○
ESQACLK	16M以上の拡張 SQA の IPL 時からの最大使用率を計測した時刻 (HH:MM:SS)。	文字	×	×	○
ESQADTE	16M以上の拡張 SQA の IPL 時からの最大使用率を計測した日付 (YY. MM. DD)。	文字	×	×	○
ESQAFREE	16M以上の拡張 SQA 未使用総ページ数。	数値	×	×	○
ESQAOVER	16M以上の拡張 SQA からオーバーフローしている総バイト数。	数値	×	×	○
ESQAPER1	16M以上の拡張 SQA の平均使用率 (%)。	数値	×	×	○
ESQAPER2	16M以上の拡張 SQA の IPL 時からの最大使用率 (%)。	数値	×	×	○
ESQAUSED	16M以上の拡張 SQA における未使用総バイト数。ESQAFREE のバイト換算をするほかに、ESQAALOC 内の未使用バイト数を含む。	数値	×	×	○
SQAALOC	16M未満の SQA で使用されている総ページ数。	数値	×	×	○
SQACLK	16M未満の SQA の IPL 時からの最大使用率を計測した時刻 (HH:MM:SS)。	文字	×	×	○
SQADTE	16M未満の SQA の IPL 時からの最大使用率を計測した日付 (YY. MM. DD)。	文字	×	×	○
SQAFREE	16M未満の SQA 未使用総ページ数。	数値	×	×	○
SQAOVER	16M未満の SQA からオーバーフローしている総バイト数。	数値	×	×	○
SQAPER1	16M未満の SQA の平均使用率 (%)。	数値	×	×	○
SQAPER2	16M未満の SQA の IPL 時からの最大使用率 (%)。	数値	×	×	○
SQAUUSED	16M未満の SQA における未使用総バイト数。SQAFREE のバイト換算をするほかに、SQAALOC 内の未使用バイト数を含む。	数値	×	×	○
SUBRECID	サブタイプの識別	数値	×	×	○



(注)

これらのシンボルはCPEDBAMS プログラムでのインターバル統合に対応していません。

## レコードタイプ197-7（ドメイン情報）

データ・ソース	S A R／D
内容	D R C M, D O M A I Nコマンド情報

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メーク		
			I	F	H
DOMAIN	ドメイン番号	数値	×	×	○
MPL	平均多重度	数値	×	×	○
NONEswap	実記憶内のスワッピング不可能なユーザ数。	数値	×	×	○
SUBRECID	サブタイプの識別	数値	×	×	○



(注)

これらのシンボルはCPEDBAMS プログラムでのインターバル統合に対応していません。

## レコードタイプ 197-8 (チャネル情報)

データ・ソース	S A R / D
内容	D I O, A L L コマンド情報

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メータ		
			I	F	H
CHANNEL	チャネル・バス ID	文字	x	x	○
PATHBUSY	チャネル使用率 (%)	数値	x	x	○
SUBRECID	サブタイプの識別	数値	x	x	○



(注)  
これらのシンボルはCPEDBAMS プログラムでのインターバル統合に対応していません。



(注)  
AP10000環境で収集されたデータでは、このレコードは作成されません。

## レコードタイプ197-9（入出力装置情報）

データ・ソース	S A R／D
内容	D I O, A L Lコマンド情報

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メーク		
			I	F	H
DDNAME	ジョブのDD名またはシリンド範囲。	文字	×	×	○
DEVADR	装置記号名	文字	×	×	○
DEVBUSY	デバイスビジー率 (%)	数値	×	×	○
FIRST	各装置の最初のジョブである事を示す。	数値	×	×	○
JOBBUSY	ジョブがディスク・ボリュームを使用した割合。 (%)	数値	×	×	○
JOBNAME	ジョブ名	文字	×	×	○
SSNAME	パフォーマンス計測ツールの名前	文字	×	×	○
STEPNAME	ジョブステップ名	文字	×	×	○
SUBRECID	サブタイプの識別	数値	×	×	○
VOLSER	ボリューム通し番号	文字	×	×	○



(注)

これらのシンボルはCPEDBAMS プログラムでのインターバル統合に対応していません。

## レコードタイプ 197-10 (サマリーデータ)

データ・ソース	S A R / D
内容	S A R / D サマリーデータ

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メーク		
			I	F	H
ACPBUSY	アクセラレートプロセッサ使用率 (%) (注1)	数値	×	×	○
ACPFLAG	A C P フラグ : アクセラレートプロセッサ情報が有効であることを表示。	数値	×	×	○
ACPNUMBR	アクセラレートプロセッサの数 (#AC) (注1)	数値	×	×	○
ACPRMFTM	P R M F がこの区画に配分したアクセラレートプロセッサ能力 (%) (注1)	数値	×	×	○
COMMON	共通域のページ数	数値	×	×	○
CPUBUSY	プロセッサ使用率 (%) (注1)	数値	×	×	○
CPUNUMBR	プロセッサの数 (#CP) (注1)	数値	×	×	○
CPURSV%	キャパシティリザーブモデルのC P U 能力率 (%) ゼロであった場合、キャパシティリザーブモデルでないことを意味する。	数値	×	×	○
CPUUSE%	ジョブがC P U を使用していた比率 (%)	数値	×	×	○
CSAALOC	1 6 M 未満のコモン・サービス・エリアで使用されている総ページ数。	数値	×	×	○
CSAFREE	1 6 M 未満のコモン・サービス・エリアの未使用総ページ数。	数値	×	×	○
CSAOVER	1 6 M 未満のコモン・サービス・エリアからオーバーフローしている総バイト数。	数値	×	×	○
CSAUSED	1 6 M 未満のコモン・サービス・エリアで使用されている総バイト数。C S A F R E E のバイト換算をするほかに、C S A A L O C 内の未使用バイト数を含む。	数値	×	×	○
DURATM	インターバル時間間隔 (秒)	数値	×	×	○
ECSAALOC	1 6 M 以上の拡張コモン・サービス・エリアで使用されている総ページ数。	数値	×	×	○
ECSAFREE	1 6 M 以上の拡張コモン・サービス・エリアの未使用総ページ数。	数値	×	×	○
ECSAOVER	1 6 M 以上の拡張コモン・サービス・エリアからオーバーフローしている総バイト数。	数値	×	×	○
ECSAUSED	1 6 M 以上の拡張コモン・サービス・エリアで使用されている総バイト数。E C S A F R E E のバイト換算をするほかに、E C S A A L O C 内の未使用バイト数を含む。	数値	×	×	○
ESFLAG	E S フラグ : 拡張記憶情報が有効であることを表示。	数値	×	×	○
ESQAALOC	1 6 M 以上の拡張S Q A で使用されている総ページ数。	数値	×	×	○
ESQAFREE	1 6 M 以上の拡張S Q A 未使用総ページ数。	数値	×	×	○
ESQAOVER	1 6 M 以上の拡張S Q A からオーバーフローしている総バイト数。	数値	×	×	○
ESQAUSED	1 6 M 未満のS Q A で使用されている総バイト数。S Q A F R E E のバイト換算をするほかに、S Q A A L O C 内の未使用バイト数を含む。	数値	×	×	○
FREE	未使用ページ数	数値	×	×	○
LSQA	L S Q A に使用するページ数	数値	×	×	○
MPL	平均多重度	数値	×	×	○
NONEswap	実記憶内のスワッピング不可能なユーザ数。	数値	×	×	○
NUCLEUS	ニュークリアス領域のページ数	数値	×	×	○
PAGEFIX	ユーザリージョン、ページ可能システム共通領域にページ固定されたページ数。	数値	×	×	○
PAGEIN	各ジョブの1秒あたりのページイン要求ページ数。	数値	×	×	○
PAGEOUT	各ジョブの1秒あたりのページアウト要求ページ数。	数値	×	×	○
PAGEREC	各ジョブの1秒あたりのページリクレーム要求ページ数。	数値	×	×	○
PAGES	ジョブのワーキング・セット・サイズ。 (L S Q A で使用するページ数は含まない。)	数値	×	×	○
PRMFTIME	P R M F がこの区画に配分したプロセッサ能力 (%) (注1)	数値	×	×	○
SQA	S Q A の使用するページ数。C S A 領域に割当てられたS Q A の使用するページを含む。	数値	×	×	○
SQAALOC	1 6 M 未満のS Q A で使用されている総ページ数。	数値	×	×	○
SQAFREE	1 6 M 未満のS Q A 未使用総ページ数。	数値	×	×	○
SQAOVER	1 6 M 未満のS Q A からオーバーフローしている総バイト数。	数値	×	×	○
SQAUSED	1 6 M 未満のS Q A で使用されている総バイト数。S Q A F R E E のバイト換算をするほかに、S Q A A L O C 内の未使用バイト数を含む。	数値	×	×	○
SUBRECID	サブタイプの識別	数値	×	×	○
VPFLAG	V P フラグ : ベクトルプロセッサ情報が有効であることを表示	数値	×	×	○



(注1)

CPESHELL プログラムは特殊スイッチ ¥AP8000 の指定によって次のように動作します。  
¥AP8000=0 : CPU 関連のシンボルにACP 情報を合算して報告する。この場合、ACP 関連のシンボルは欠損値となる(省略値)。  
¥AP8000=1 : CPU(IP:命令プロセッサ)とACP(アクセラレートプロセッサ)を分けて報告する。

シンボル名	¥AP8000=0 (省略値)	¥AP8000=1
ACPBUSY	欠損値	ACP 使用率
ACPNUMBR	欠損値	ACP 台数
ACPRMFTM	欠損値	ACP 配分率
CPUBUSY	CPU と ACP の平均使用率	CPU 使用率
CPUNUMBER	CPU と ACP の合計台数	CPU 台数
PRMFTIME	CPU と ACP の平均配分率	CPU 配分率



(注)

これらのシンボルはCPEDBAMS プログラムでのインターバル統合に対応していません。

## レコードタイプ 197-13 (TPROXおよびLPROC情報)

データ・ソース	SAR/D
内容	D CPU, TPROXおよびLPROCコマンド情報

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メーカ		
			I	F	H
SUBRECID	サブタイプの識別	数値	x	x	○

【物理プロセッサ情報】					
ACPMODE	プロセッサ種別 0 : CPU (IP:命令プロセッサ) 1 : ACP (アクセラレートプロセッサ)	数値	x	x	○
DURATM	TPROC計測時間 (秒数)	数値	x	x	○
LPARNUM	定義されているLPAR数	数値	x	x	○
LPARSCH	この物理プロセッサのスケジュールモード	文字	x	x	○
LPARGRP	この物理プロセッサのグループ記号 常に空白となる。	文字	x	x	○
SUBSUBID	レコード識別番号 (1固定)	数値	x	x	○
TPROC	この物理プロセッサの番号	数値	x	x	○
TPROCBSY	この物理プロセッサの使用率 (小数部無し)	数値	x	x	○
TPROCRSV	キャパシティリザーブモデルの物理CPU能力率 (%) 常にゼロとなる。	数値	x	x	○
TPROCSEC	この物理プロセッサの動作時間 (秒数)	数値	x	x	○

【論理プロセッサ情報】					
ACPMODE	プロセッサ種別 0 : CPU (IP命令プロセッサ) 1 : ACP (アクセラレートプロセッサ)	数値	x	x	○
DURATM	LPROC計測時間 (秒数)	数値	x	x	○
LPARNUM	定義されているLPAR数	数値	x	x	○
LPARNUMB	このLPARの識別番号	数値	x	x	○
LPROC	この論理プロセッサの番号	数値	x	x	○
LPROCBSY	この論理プロセッサの使用率 (小数部無し)	数値	x	x	○
LPROCSEC	この論理プロセッサの動作時間(秒数)	数値	x	x	○
SUBSUBID	レコード識別番号 (2固定)	数値	x	x	○



CPESHELL プログラムは特殊スイッチ￥AP8000 の指定によって次のように動作します。  
 ￥AP8000=0:全てのプロセッサ情報をシンボルにセットする(省略値)。  
 ￥AP8000=1:アクセラレートプロセッサ(ACPMODE=1)の情報は読み飛ばし、シンボルに値をセットしない。



(注)  
 これらのシンボルはCPEDBAMS プログラムでのインターバル統合に対応していません。

## レコードタイプ197-14 (TPROCおよびLPROC情報)

データ・ソース	SAR/D
内容	D CPU, TPROCおよびLPROCコマンド情報

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メーカ		
			I	F	H
SUBRECID	サブタイプの識別	数値	x	x	○

【物理プロセッサ情報】					
ACPMODE	プロセッサ種別 0 : CPU (IP:命令プロセッサ) 1 : ACP (アクセラレートプロセッサ)	数値	x	x	○
DURATM	TPROC計測時間 (秒数)	数値	x	x	○
LPARNUM	定義されているLPAR数	数値	x	x	○
LPARSCH	この物理プロセッサのスケジュールモード	文字	x	x	○
LPARGRP	この物理プロセッサのグループ記号	文字	x	x	○
SUBSUBID	レコード識別番号 (1固定)	数値	x	x	○
TPROC	この物理プロセッサの番号	数値	x	x	○
TPROCBSY	この物理プロセッサの使用率 (小数部無し)	数値	x	x	○
TPROCRSV	キャパシティリザーブモデルの物理CPU能力率 (%) ゼロであった場合、キャパシティリザーブモデルでないことを意味する。	数値	x	x	○
TPROCSEC	この物理プロセッサの動作時間 (秒数)	数値	x	x	○

【論理プロセッサ情報】					
ACPMODE	プロセッサ種別 0 : CPU (IP命令プロセッサ) 1 : ACP (アクセラレートプロセッサ)	数値	x	x	○
DURATM	LPROC計測時間 (秒数)	数値	x	x	○
LPARNUM	定義されているLPAR数	数値	x	x	○
LPARNUMB	このLPARの識別番号	数値	x	x	○
LPROC	この論理プロセッサの番号	数値	x	x	○
LPROCBSY	この論理プロセッサの使用率 (小数部無し)	数値	x	x	○
LPROCSEC	この論理プロセッサの動作時間(秒数)	数値	x	x	○
SUBSUBID	レコード識別番号 (2固定)	数値	x	x	○



CPESHELL プログラムは特殊スイッチ￥AP8000 の指定によって次のように動作します。  
 ￥AP8000=0:全てのプロセッサ情報をシンボルにセットする(省略値)。  
 ￥AP8000=1:アクセラレートプロセッサ(ACPMODE=1)の情報は読み飛ばし、シンボルに値をセットしない。



(注)  
 これらのシンボルはCPEDBAMS プログラムでのインターバル統合に対応していません。

## レコードタイプ 197-18 (CPM情報)

データ・ソース	S A R / D
内容	D I O, CPMコマンド情報

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メーク		
			I	F	H
BUSY	チャネル使用率	数値	×	×	○
CHANNEL	チャネル番号	文字	×	×	○
IOSECS	測定時間内のチャネル稼働時間（秒）	数値	×	×	○
IOTIME	サンプリング時間内の測定時間（秒）	数値	×	×	○



(注)

これらのシンボルはCPEDBAMS プログラムでのインターバル統合に対応していません。

## レコードタイプ197-19（記憶プール情報）

データ・ソース	S A R／D
内容	D I S M R, P O O Lコマンド情報

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メーカ		
			I	F	H
HSSARCHI	自動アーカイブされたデータセット数	数値	×	×	○
HSSRECAL	自動リコールされたデータセット数	数値	×	×	○
POOLATTR	記憶プールの属性	文字	×	×	○
POOLNAME	記憶プール名	文字	×	×	○
SESPACE	記憶プールの使用済みスペース量（バイト）	数値	×	×	○
TTLSPACE	記憶プールのスペース量（バイト）	数値	×	×	○
TTLSPUNT	記憶プールのスペース単位（G／Kなど）	数値	×	×	○
USEDRATE	記憶プールの使用率	数値	×	×	○
USESPUNT	記憶プールの使用済みスペース単位（G／Kなど）	数値	×	×	○



(注)

これらのシンボルはCPEDBAMS プログラムでのインターバル統合に対応していません。

## レコードタイプ 197-20 (外部記憶情報)

データ・ソース	S A R / D
内容	D A S M, D S コマンド情報

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メーカ		
			I	F	H
DEVADR	装置記号名	文字	×	×	○
PDSNAME	データセット名	文字	×	×	○
PDSTYPE	データセット種類 PLPA : PLPA ページデータセット COMMON : コモンページデータセット DUPLEX : デュプレックスページデータセット LDUPLEX : ローカルデュプレックスページデータセット LOCAL : ローカルページデータセット ESWAP : 拡張スワップデータセット SWAP : スワップデータセット	文字	×	×	○
SLOTALC	データセットの容量 (スロット)	数値	×	×	○
SLOTBAD	データセット内のページ入出力エラーが発生した不良スロット数	数値	×	×	○
SLOTBUST	1回の入出力動作でページインページアウトするページ数 PDSTYPE が SWAP または ESWAP の場合、空白となる	数値	×	×	○
SLOTDEPT	データセットへの入出力を待たされているページ数	数値	×	×	○
SLOTRATE	1秒当たりのページインページアウトするページ数	数値	×	×	○
SLOTUSED	データセットの使用率 (%)	数値	×	×	○
SUBRECID	サブタイプの識別	数値	×	×	○
VOLSER	ボリューム通し番号	数値	×	×	○



(注)

これらのシンボルはCPEDBAMS プログラムでのインターバル統合に対応していません。

## レコードタイプ197-21（スワップ情報）

データ・ソース	SAR/D
内容	D SWAPコマンド情報

&lt;レコード固有項目&gt;

名前	説明	形式	メーカ		
			I	F	H
SAMPTIME	サンプリング時間	数値	x	x	○
SINTCNT	サンプリング時間内のスワップアウト回数	数値	x	x	○
SIPLCNT	IPL 時からのスワップアウト回数（累積値）	数値	x	x	○
SUBRECID	サブタイプの識別	数値	x	x	○
SWAPRSN	<p>スワップ要因</p> <p>02 : FRAME STORTAGE 実記憶不足によってスワップアウトをした。</p> <p>03 : FIXED SHORTAGE 実記憶上のほとんどのページが固定されたことによってスワップアウトをした。</p> <p>04 : JOB SWAP ジョブをスワッピンできるだけの余裕を実記憶に作るためにスワップアウトをした。</p> <p>05 : EXCHANGE SWAP サービス制御、およびスループット制御によってスワップアウトをした。</p> <p>06 : LOGICAL SWAP TSS ジョブが端末入出力完了待ちになった時点で実記憶に十分余裕があったため、デマンドスワッピング機能によってロジカルなスワップアウトをした。</p> <p>07 : PHYSICAL SWAP TSS ジョブが端末入出力完了待ちになったためにロジカルなスワップアウト状態にしたあと、実記憶の不足が生じたためスワップアウトをした。</p> <p>08 : LONG WAIT VOS3/ES1 の場合： WAIT マクロ (LONG=YES) 、STIMER マクロ (500 ミリ秒以上の WAIT オペランド指定) によってジョブが長時間ウェイト状態になった、または TSS ジョブが端末入出力完了待ちとなったためスワップアウトをした。ただし、TSS ジョブを端末入出力完了待ちによってスワップアウトするのは、実記憶が不足している場合、または OPT パラメタでデマンドスワッピング機能が指定されていなかった場合である。 VOS3/US、VOS3/LS、VOS3/FS、または VOS3/AS の場合： WAIT マクロ (LONG=YES) 、STIMER マクロ (500 ミリ秒以上の WAIT オペランド指定) によってジョブが長時間ウェイト状態になった、または TSS ジョブが端末入出力完了待ちとなったためスワップアウトをした。ただし、スワップアウトするのは、実記憶が不足している場合、または OPT パラメタでデマンドスワッピング機能が指定されていなかった場合である。</p> <p>20 : LONG WAIT-L VOS3/US、VOS3/LS、VOS3/FS、または VOS3/AS の場合： WAIT マacro (LONG=YES) 、STIMER マacro (500 ミリ秒以上の WAIT オペランド指定) によってジョブが長時間ウェイト状態になったとき、実記憶に十分余裕があったため、デマンドスワッピング機能によってロジカルなスワップアウトをした。</p> <p>21 : LONG WAIT-P VOS3/US、VOS3/LS、VOS3/FS、または VOS3/AS の場合： WAIT マacro (LONG=YES) 、STIMER マacro (500 ミリ秒以上の WAIT オペランド指定) によってジョブが長時間ウェイト状態になったためにロジカルなスワップアウト状態にしたあと、実記憶の不足が生じたためスワップアウトをした。</p> <p>09 : DETECTED WAIT VOS3/ES1 の場合： ジョブが長時間ウェイト状態であったためスワップアウトをした。 VOS3/US、VOS3/LS、VOS3/FS、または VOS3/AS の場合： ジョブが長時間ウェイト状態であったためスワップアウトをした。ただし、スワップアウトするのは実記憶が不足している場合、または OPT パラメタで長時間ウェイト状態のジョブに対するデマンドスワッピング機能が指定されていなかった場合である。</p> <p>22 : DETECTED WAIT-L VOS3/US、VOS3/LS、VOS3/FS、または VOS3/AS の場合： ジョブが長時間ウェイト状態であったとき、実記憶に十分余裕があったため、デマンドスワッピング機能によってロジカルなスワップアウトをした。</p> <p>23 : DETECTED WAIT-P VOS3/US、VOS3/LS、VOS3/FS、または VOS3/AS の場合： ジョブが長時間ウェイト状態であったためにロジカルなスワップアウト状態にしたあとに、実記憶の不足が生じたためスワップアウトをした。</p> <p>16 : REQUEST SWAP システムがスワップアウト要求に基づきスワップアウトをした。</p> <p>18 : UNILATERAL SWAP 多重度制御で多重度が最大多重度を超えていたため、スワップアウトをした。</p> <p>17 : TOTAL 上記スワップアウトの合計。</p>	数値	x	x	○



(注)

これらのシンボルはCPEDBAMS プログラムでのインターバル統合に対応していません。